

自己点検・評価報告書

令和8年8月

福岡県立大学

**公立大学法人福岡県立大学
令和7年度 事業に関する説明**

戦略的・意欲的な取組み

実施事項	年度の実施状況
(1)時代の変化に対応した「学生ファースト」の教育の推進	魅力的で質の高い教育課程の編成では、DP・CPの検討、基盤教育・全学横断型教育の検証、社会人やシニア向けの学習・研修プログラム提供について、予定通り計画を進めた。主体的・協調的に行動できる力を養う教育の推進のためのアクティブ・ラーニングの推進および充実についても計画通り実施した。学生の学修支援と生活支援では、附属図書館における本館のラーニング・コモンズの運用を4月から開始し、学修支援のためのアカデミック・スキル講座を開講した。
(2)「データ駆動型アプローチ」による地域共生社会や高度福祉社会の実現に寄与する研究の推進	第4期中期計画に基づき、地域および関係機関との連携のもと、「データ駆動型アプローチ」による研究を推進した。 研究支援として、研究奨励交付金による支援、科研費申請に向けた研修会・個別相談、研究倫理および研究費の適正使用に関する研修を実施した。 データ駆動型研究については、福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究により、KDBシステムを活用した分析を継続し、保健・医療・福祉分野における地域課題の把握と解決に資する研究を推進した。また、研究成果4件について、県内保険者向けオンデマンド研修として配信し、成果還元を行った。なお、本共同研究は令和7年度をもって契約期間の最終年度を迎えたが、令和8年度以降も継続予定である。 さらに、重点領域研究および地域志向型研究(COC研究)を通じて地域課題に対応した研究を展開するとともに、成果報告会や機関リポジトリを通じた研究成果の発信を行った。国際研究交流や海外研修等も実施し、国際的な研究活動を推進した。
(3)地域の幅広い世代や多様な人々が学べる「全世代型キャンパス」の推進	地域教育支援機構の下、「全世代型キャンパス」の具体化に向けた取組みを継続した。学内で実施している各世代の学びの場に資する事業等の整理に取組んだ。その結果、出生・幼児期(キャンパス赤ちゃん教室、幼児・保育実習)、学童期(キャンパススクール[不登校ひきこもりサポートセンター]、教育心理相談室、地域教育支援)、高校生(大学授業参観、単位認定協定)、大学生、成人期(リカレント教育、看護師特定行為研修、リスキリング教育、公開講座)、高齢期(筑豊市民大学、科目等履修生)のそれぞれで実施している学びに関する事業をまとめ、イメージ図(一覧図)を作成することができた。今後は、作成した一覧図をもとに各取組内容についての詳細情報を追記して「全世代型キャンパス」のリーフレットを完成させるとともに、周知方法について検討する予定である。

I 教育に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1. 高度福祉社会の実現に力を発揮できる人材の育成 保健・医療・福祉の専門職として、関連する分野に関する幅広い視野や国際的な感覚を併せ持ち、他の専門職と協働して、保健・医療・福祉の現場で中核となって高度福祉社会の実現に力を発揮できる人材を育成する。また、DEIAの理念に基づいた教育を推進し、複雑化・複合化するニーズに対応した多様な教育課程の編成に取り組む。あわせて、予測困難な時代に社会で活躍するために必要な資質・能力として、自ら課題を発見し、主体的に考え、他と連携しながら多様な知を持ち寄り、新たな発想をもって解決に向けて行動できる力を養う教育を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)魅力的で質の高い教育課程の編成【1】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 本学への社会的要請の状況や教育内容・成果に着目しながら、ディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）について検討し、質の高い学部教育課程を編成する。	DP・CPの検討	社会的要請状況、教育成果に着目しながら、DP・CPの検討を毎年度行い、卒業要件、履修基準、専門科目の履修方法の見直しを行う。	卒業要件、履修基準、専門科目の履修方法の見直しを視野に、両学部・学科でDP・CPについて検討する。	人間社会学部では、各コースでDP・CPの検討を継続している。 看護学部では、教務部会を中心としてDP・CPの検討を継続している。	B	人間社会学部ではDP・CPの関係について検討したが、急ぎ見直す必要はないとの結論に達した。DP・CPについては、今後も検討を続ける。 看護学部では、教員を対象に新カリキュラムの教育効果についてアンケート調査を実施した。本調査結果を踏まえ、今後もDP・CPの見直しについて検討を続ける。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 複雑化・複合化する社会のニーズに対応した魅力的な教育課程を編成するために基盤教育、全学横断型教育等の見直しを行う。	基盤教育、全学横断型教育の検証と見直し	基盤教育(科目、卒業要件単位数)及び全学横断型教育のカリキュラムについて、令和7年度までに見直しを行う。令和9年度までに改編案を策定し、令和10年度から実施と検証を行う。	令和5年度に整えた体制により、基盤教育及び全学横断型教育のカリキュラムの見直しのための検討を継続する。	見直しを行うカリキュラムやプログラムについて、担当者において検討を行った。	B	令和5年度に整えた体制により、基盤教育及び全学横断型教育のカリキュラムの見直しのための検討を継続する。
ウ. 「全世代型キャンパス」の推進の一環として、社会人のリスキリング・キャリアアップやシニアの生涯学習に役立つ多様な学習・研修プログラムを編成し、提供する。	社会人やシニア向けの学習・研修プログラム提供	令和8年度までに、学習・研修プログラムを作成する。令和9年度から募集開始。毎年度プログラムを実施する。	令和6年度に引き続き、大学のカリキュラムを踏まえた社会人やシニア向けプログラムの検討を継続する。	基盤教育センターおよび両学部において検討を行い、試行的な「全世代型キャンパス」推進の取り組みとして、①学生向けのゲストスピーカーによる授業(12/1、8「公開講座国際協力の今を知る」)および②学内で開催された学会基調講演(12/20「地域共生社会を拓く～神奈川県障害福祉行政に関わって見えてきたもの～」)を地域にも公開して実施した。	B	引き続き、大学のカリキュラムを踏まえた社会人やシニア向けのプログラムの検討を継続する。
			「全世代型キャンパス」推進に関する協定に基づき、「筑豊市民大学」の継続的な運営支援を行うとともに、生涯学習に役立つ学習プログラムについて、地域のニーズを踏まえて、その在り方について検討する。	「全世代型キャンパス」推進に関する協定に基づき、令和7年度『筑豊市民大学』を本学において開講し、本学による運営支援のもと、教養講座(7回)、ヘルシーエイジング分科会(8回)、歴史を辿る会(7回)、中高年里山歩き分科会(1回)の計4分科会および全体講演会1回を実施した。これにより、達成目標である令和9年度以降の募集・実施について、昨年度に引き続き前倒しで取り組むことができた。	B	「全世代型キャンパス」推進に関する協定に基づき、「筑豊市民大学」の継続的な運営支援を行うとともに、生涯学習に役立つ学習プログラムについて、地域のニーズを踏まえて、その在り方について検討する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)高度福祉社会の実現に力を発揮する人材育成のための専門教育の推進【2】	中期目標である「年2回以上」のICT研修実施に対し、令和7年度は3回の研修・研修参加を行い、目標を上回る実績を達成した。また、学生、教育委員会及び外部専門家との連携のもと、学校現場のICT活用を踏まえた教員養成の充実につなげた。					
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 地域社会・社会福祉・心理・教育等の現場で他の専門職と協働しながら中核的な役割を果たす人材を育成するため、人間社会学部における専門教育を充実させる。	(人間社会学部 地域社会コース)学校現場のICTにあわせた実習指導の見直し・実施	教職課程内で、ICT研修を年2回以上実施する。	教職課程関係教員を対象に、年2回以上のICT研修を実施する。	小中高校で活用が進む授業支援プラットフォーム「ロイロノート・スクール」の活用に関する研修会を、教育ICTコンサルタントを招いて実施し、社会・公民・情報の教科担当教員及び学生が受講した(4月23日)。本研修を受講し、教育実習でロイロノートを活用した学生による模擬授業を同教員及び学生が参観し、教育現場におけるICT活用について情報交換を行った(7月28日)。 田川市教育委員会主催「令和7年度 田川市主体的な学びに向かう授業づくり研修会【教育DX】第3回」に教員が参加し、教材作成において学校現場で活用されているCanvaについて意見交換を行った(11月10日)。	A	教職課程関係教員を対象に、年2回以上のICT研修を実施する。
	(人間社会学部 社会福祉コース)実習指導体制のICT化	令和7年度までにICT化の方法を検討し、令和8年度に実施する。その後、令和11年度まで教育効果の検証を行う。	ICTを用いた実習指導体制を整備する。	「ソーシャルワーク実習支援システム」(富士フイルムシステムサービス株式会社)の利用契約を締結した(8月6日)。システムに搭載する内容について社会福祉コース担当者会議で検討し、業者との打ち合わせを経て、利用マニュアルを作成した。 また、実習先の実習指導者向け説明会を開催した(11月5日)。12月からシステムの利用を開始し、ICTを用いた実習指導体制の下でソーシャルワーク実習A(2～3月)を実施した。	B	ICTを用いた実習指導体制を整備する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
	(人間社会学部 こと もコース) 実習を中心とするカリ キュラムの検証・ 充実	令和7年度開始となる 改正した実習及び、実 習指導のカリキュラムを 実施し、検証を行う。	令和6年度の準備を踏まえ、 令和7年度より改正した実 習及び実習指導を実施し、 検証を行う。	令和6年度に検討した実習 関連科目の指導内容を踏ま え、保育実習指導Ⅰ及び幼 稚園教育実習事前事後指導 を実施した。また、令和8年 2～3月には保育実習Ⅰ(施設) を実施した。各実習及び実 習関連科目については、こ れまで情報共有を進めてお り、今後は検証を行う予定 である。	B	実習及び実習指導の実施結 果を踏まえ、情報共有と検 証を行い、カリキュラムの充 実に資する検討を行う。
	(人間社会学部 心 理コース) 公認心理師カリキュ ラム改定への対応	令和7年度に示される予 定のカリキュラム改定に基 づく教育課程を改定通知が 届いた翌年度までに構築・ 開始する。	令和7年度に示される予 定の公認心理師カリキュラ ム改定に基づき、教育課程 の再構築を行う。	厚生労働省公認心理師制 度推進室及び一般社団法人 日本公認心理師養成機関連 盟の動向及び通知を定期的 に確認した。第18回研修 会(「公認心理師養成課程6 年間の総括と展望」)に参 加した(10月5日)。また、 公認心理師カリキュラム検 討資料となる令和7年度障 害者総合福祉推進事業「公 認心理師の役割と養成の在 り方等に関する調査研究」 (厚生労働省補助事業)の 調査に、公認心理師養成機 関として回答した。	B	令和7年度中にカリキュラ ム改定が示されなかったた め、公認心理師養成に関す る動向を継続的に把握し、 関連通知や資料を定期的に 確認する。改正案の公表に 備えて、科目配置や実習体 制を検討する。また、養成 機関連盟等の研修会・情報 交換会への参加を継続し、 外部動向を踏まえた教育内 容を検討する。
	(人間社会学部 総 合人間社会コース) プログラムの再編	令和7年度まで検討し、 令和8年度に再編したプロ グラムを開始する。	令和6年度の検討を踏まえ、 プログラムの再編案を検討 する。	現状では別個に運用されて いる総合人間社会コースの 2プログラム(データサイエ ンス、キャリアマネジメント) について、プログラム再編 による一体的な運用を見据 え、両プログラムを希望す る学生に対して関連科目の 履修を相互に推奨すること を確認した。あわせて、推 奨科目の選定を行い、次年 度の学生便覧において当該 科目を推奨科目として明示 した。	B	両プログラムの一体的な運 用に向けて、科目の検証を 行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 保健・医療・教育等の現場で他の専門職と協働しながら中核的な役割を果たす人材を育成するため、看護学部における専門教育を充実させる。	(看護学部)カリキュラムの検証と見直し	新カリキュラム完全移行の令和7年度に、最終学年である4年次生のプログラムを実施・検証し、以降毎年度、検証と見直しを行う。	3年次前期に行われる演習科目について、4月～5月に実施する科目、6月～7月に実施する科目と時期で区分し、終了時に技術テストを行った。この取り組みが後期の実習の準備へと効果的につながった。ただし、時間割にゆとりが少ないため、令和7年度は科目の組み方や技術テストの時期・内容について検討する。	新カリキュラムで取り入れた、演習の組み立て・横断科目の運用・新規カリキュラムを中心に、教員へのアンケート調査を実施した。演習科目では2コマから4コマ続きの時間割となり、学生の集中力などの課題がみられたため、次年度は時間割の組み方を再検討する。 また、文科省から提示された、看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和6年度版に適応できるよう、WGを中心に現行の各科目の学習到達度を確認し、一覧表に整理した。学習到達度が低い科目や今後の課題についてディスカッションし、共通理解を深めることができた。	B	新カリキュラムの講義・演習・実習について検証し、引き続き見直しを行う。また、看護学教育モデル・コア・カリキュラムを基に、学習到達度の把握を行い、授業内容の改善を行っていく。
	(看護学部)看護実践力向上のための演習・実習科目の充実	令和7年度までにSP(模擬患者)参加型教育の検討と導入を行い、以降毎年度、検証と見直しを行う。	昨年度より小児看護学演習及び精神看護学演習で実施しているSP参加型教育を基に、他大学での実施状況を参考に、新たな導入の方法について検討する。	基礎的な看護技術の演習へのSP参加型教育の導入に向けて、資料の収集と検討を実施した。 また、筑豊市民大学の担当者と進め方について検討し、少人数の技術練習を模擬患者参加で実施した(2月18日)。模擬患者より、実施時間・依頼の時期・交通費など、具体的な話を聞くことができた。	B	SP導入と活用について、引き続き検証と見直しを行う。
		デジタル学習コンテンツを導入し、毎年度検証と見直しを行う。	令和7年度はDXワーキンググループを教務部会から独立させ、1年生から4年生まで継続して活用できる事例の作成や、新たな運用方法について検討する。	定期的な機器の点検と整備、学習コンテンツの事例の作成や運用方法の検討を実施した。また、物品の管理方法への提案や、Microsoft Teamsの使い方やAI技術の活用方法などを含めた研修会の開催が行われた(3月25日)。		学習コンテンツの活用やDX全般の活用について、引き続き検証と見直しを行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ. 社会福祉・心理臨床・子ども教育の現場でリーダーシップを発揮し中核的かつ革新的な役割を果たす人材を育成するため、人間社会学研究科における専門教育を充実させる。	(人間社会学研究科 社会福祉)カリキュラムの見直しと検証	令和8年度までにカリキュラムを見直し、令和9年度から新たなカリキュラムを実施する。その後、令和11年度まで教育効果の検証を行う。	令和6年度に改訂したフィールドワーク記録様式の本格的な導入を開始する。併せて、学生ニーズに対応して設置した新規科目を令和7年度より開講する。	フィールドワークの新しい記録様式の運用を開始した。 また、新規科目「医療ソーシャルワーク研究A」「医療ソーシャルワーク研究B」を開講した。さらに、令和9年度からの新カリキュラム実施に向け、社会人学生のニーズ調査及び現行カリキュラムの見直しに着手した。	B	現行カリキュラムの検証・見直しを行い、令和9年度からの実施に向けた新カリキュラムの策定を進める。
	(人間社会学研究科 心理臨床)公認心理師カリキュラム改定への対応	令和7年度に示される予定のカリキュラム改定に基づき、臨床心理士資格にも対応した教育課程を改定通知が届いた翌年度までに構築・開始する。	令和7年度に示される予定の公認心理師カリキュラム改定に基づき、臨床心理士資格にも対応した教育課程の準備を行う。	令和6年度に引き続き、厚生労働省公認心理師制度推進室や一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟の動向や通知を定期的に確認している。また、10月5日に開催された第18回研修会(「公認心理師養成課程6年間の総括と展望」)に参加した。 さらに、公認心理師カリキュラム検討資料となる令和7年度障害者総合福祉推進事業「公認心理師の役割と養成の在り方等に関する調査研究」(厚生労働省補助事業)について、公認心理師養成機関として調査への回答を行った。	B	令和7年度中に公認心理師カリキュラム改定が示されなかったため、厚生労働省による公認心理師養成に関する動向を継続的に把握し、関連通知や資料を定期的に確認する。改正案の公表に備えて、科目配置や実習体制の見直しを事前に検討し、迅速に対応できる体制を整える。また、養成機関連盟等の研修会・情報交換会への参加を継続し、外部動向を踏まえた教育内容の改善を図る。
	(人間社会学研究科 子ども教育)社会人学生への教育方法の検証と見直し	多様な経歴をもつ社会人学生の教育方法についてさらに改善するため、令和6年度から実施する新カリキュラムにもとづく教育方法を検討し、令和8年度以降検証と見直しを行う。	多様な経歴をもつ社会人学生の教育方法について改善を行った令和6年度からの新カリキュラムを引き続き実施する。	令和6年度からの新カリキュラムを実施し、社会人学生がより履修しやすい授業運営とするため、全科目についてメディア授業の実施状況を確認した。その結果、メディア授業科目のうち、これまでメディア授業非対応であった授業回についても、可能な回は令和8年度よりメディア対応とする方針とした。	B	令和6年度に開始した新カリキュラムに基づき、多様な経歴をもつ社会人学生の教育方法について、実施状況を継続的に把握するとともに、教育方法の検証と見直しを行う。
エ. 保健・医療・教育等の現場でリーダーシップを発揮し中核的かつ革新的な役割を果たす人材を育成するため、看護学研究科における専門教育を充実させる。	(看護学研究科)カリキュラムの検証と見直し	カリキュラムの検証と見直しを毎年度行う。	令和7年度は助産コース、研究コースとともに新カリキュラムとなるため、各コースの授業内容と実施状況について自己点検するとともに、授業評価アンケート等を通して検討を行う。	カリキュラムについて学生からの評価を得るために、大学院FD部会が行っている大学生活の満足度調査に加えて、授業評価アンケートを研究科委員会主体で実施した。科目担当者が改善案について検討を行った。	B	授業内容と実施状況について、引き続き検討を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(3)主体的・協動的に行動できる力を養う教育の推進【3】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
複雑化・複合化する社会のニーズを捉え、自ら課題を発見して主体的に考えるとともに、他者と協働してその解決に向けて行動できる力を養うためにアクティブ・ラーニングを推進し、充実させる。	アクティブ・ラーニングの推進および充実	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目の割合：毎年度60%以上。	アクティブ・ラーニングの効果を検証し、その成果を授業方法の改善に反映させるとともに、学生が主体的・能動的に学ぶことができる教育環境を整備する。	アクティブ・ラーニングの効果を検証するため、授業評価アンケート等を用いて、学修プロセスや認識の把握を行っている。その結果、教員の実施意図と学生の認識との間に乖離がみられることが確認されており、効果検証を行う上での前提条件に関わる課題として整理している。 対応として、アクティブ・ラーニングの定義や目的、学修プロセスの示し方について再整理を行うとともに、FD研修を通じて教員間での共通理解を図っている。 また、効果検証にあたっては、短期的には学修プロセスの把握を行い、中期的にはGPS-Academic等を学修への関与や主体性を把握するための指標として位置づけ、段階的な検証が可能となる教育環境の整備を進めている。 達成目標：アクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目の割合：72.1%。	B	本研修の成果を踏まえ、既存の取組を基盤としつつ、以下の観点からアクティブ・ラーニングの更なる高度化を図る。 ・アクティブ・ラーニングを具体的な授業設計へと展開する取組 ・アクティブ・ラーニングのカリキュラム全体を見通した体系的な設計の推進 ・継続的かつ段階的なFDの実施体制の充実 ・学生の学修実感と結びついた教育環境向上の推進

項目別の状況（中期計画項目）	
2. 教育の実施体制等の充実 アセスメント・プランに基づく学修成果の把握・検証や効果的なFD（ファカルティ・ディベロップメント）等、教育改善のための組織的な活動を推進し、多様なメディアを活用した教育の充実を含めて全学的な教育の質を向上させる。また、他の大学、研究機関、企業・団体等との連携を通じて、提供する教育の幅を広げ、教育内容を充実させる。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)学修成果の検証【4】	本学が推奨する国家試験対策講座の受講や模擬試験への受験を促し、模擬試験結果を教員が把握することなどにより、学生ごとに丁寧な指導を行った結果、目標を上回って達成することができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. アセスメント・プランに基づき、各種データ（授業評価アンケート、成績評価アンケート、DPアンケート、成績分布調査、就職率調査、国家試験合格率）を分析して学修成果の検証を行う。また、検証結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。	アセスメント・プランに基づく学修成果の検証	毎年度実施し、検証の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。	アセスメント・プランに基づき、令和6年度における学修成果を検証し、学位プログラムDPLレビューを作成のうえ、公表する。	教務・共通教育部会において、令和6年度のDPアンケート、授業評価アンケート、成績評価アンケートおよび受講者と成績分布について結果分析を行った。これらの結果をもとに、学修成果を検証し、学位プログラムDPLレビューを作成のうえ公表した。	B	新アセスメント・プランに基づき、令和7年度における学修成果を検証し、学位プログラムレビューを作成のうえ、公表する。
	学生による授業評価（授業評価アンケートにおける学修到達目標に対する達成度）	毎年度全学平均3.0以上（4段階評定）	SD・FD部会において、令和7年度前期・後期授業評価アンケートの実施と結果分析を行う。	前期及び後期授業評価アンケートを実施した。 学生による授業評価（授業評価アンケートにおける学修到達目標に対する達成度）：全学平均／4.0	B	SD・FD部会において、令和8年度前期・後期授業評価アンケートの実施と結果分析を行う。
	DP到達度（卒業時に実施するDPアンケート）	毎年度全学平均4.0以上（5段階評定）	教務・共通教育部会において、令和5年度卒業時アンケートの結果分析を行う。また、SD・FD部会において、令和6年度卒業時アンケートを実施する。	教務・共通教育部会において、令和6年度卒業時アンケート結果の分析を行った。 また、学部SD・FD部会において、令和7年度卒業時アンケートを実施した。 DP達成度（卒業時アンケート）：4.6	B	教務・共通教育部会において、令和8年度卒業時アンケートの結果分析を行う。また、SD・FD部会において、令和8年度卒業時アンケートを実施する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
	国家試験合格率	毎年度以下の合格率を達成 ・看護師95%以上 ・保健師90%以上 ・助産師95%以上 ・社会福祉士 65%以上 ・精神保健福祉士 70%以上	学部において、国家資格等合格率の把握を実施する。	令和7年度国家試験合格率 ・看護師 97.7% ・保健師 92.9% ・助産師 100% ・社会福祉士 93.9% ・精神保健福祉士 100%	A	学部において、国家資格等合格率の把握を実施する。
イ. より適切かつ効果的な学修成果の検証のため、アセスメント・プランの改善を行う。	アセスメント・プランの改善	令和8年度までにアセスメント・プランを改善する。その後、新たなアセスメント・プランを用いて学修成果の検証を行う。	現アセスメント・プラン及び実施体制について、改善を要する点等を把握する。	アセスメント・プランの見直しを行った。併せて、学位プログラムDPLレビューの内容も見直しを行った。 見直し後の新アセスメント・プランについて、大学改革セミナーにて周知を行った。	B	新アセスメントプランに基づき、入学時・在学時・卒業時・卒業後における学修成果等を把握・検証を行う。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)教育活動の改善・向上【5】	実施事項:イ 教育活動の改善・向上を目的としたSD・FDセミナーについては、教職員対象が7回、職員対象が4回と達成目標を上回る回数を実施した。開催にあたっては、実施時期や実施方法などを工夫し、積極的に情報提供を行った。その結果、今年度は教職員のSD・FD参加率100%を達成し、教育の質向上に対する組織的な取組をより一層推進することができた。 SD・FDセミナーの内容としては、昨年度に引き続き、アクティブラーニング研修会やGPS-Academic報告会を継続的に実施することで、教員の教育力向上や授業改善の意識向上へつながった。また、大学改革セミナーにて全国学生調査、認証評価、ガバナンスコード等に関する情報共有を通して、学生の学修成果の可視化や内部質保証、組織的な大学運営の重要性などについて教職員間で共通理解を深める機会となった。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア.各種データ(授業評価アンケート、成績評価アンケート、DPアンケート、成績分布調査、就職率調査、国家試験合格率)の分析による学修成果の検証を通じて明らかになった教育方法・内容の課題について、学内の関連部局等(学部・学科・コース、学部教務部会、教務・共通教育部会、教務入試委員会等)で検討し、改善に向けた取組を実施する。また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。	教育方法・内容の改善・向上	学修成果の検証に基づき、学部・学科・コースにおいて毎年度1回以上、改善する。	各種データの分析による学修成果の検証を通じて明らかになった教育方法・内容の課題について、学内の関連部局等で検討し、改善に向けた取組を実施する。また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムDPLレビューにまとめ、公表する。	教務・共通教育部会においてDPアンケート、成績評価アンケート、受講者数及び成績結果状況の分析(令和6年度分のデータ)を行った。これらの結果をもとに、各学科・コース等において教育活動の成果を検証し、教育方法・内容の改善・向上の方策を検討した。 また、その内容をまとめ、授業実施評価レポートを作成した。以上の検討の過程と取組の結果をもとに学位プログラムDPLレビューを作成・公表した。	B	各種データの分析による学修成果の検証を通じて明らかになった教育方法・内容の課題について、学内の関連部局等で検討し、改善に向けた取組を実施する。また、それらの検討の過程と取組の結果を学位プログラムレビューにまとめ、公表する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. SD(スタッフ・ディベ ロップメント)・FDセミ ナーを実施し、教育活 動を改善・向上させ る。	SD・FDセミナー の開催	毎年度1回以上開 催	SD・FDセミナーを年1回以上開催す る。	・教職員対象のSD・FDセミナー:7回 「第1回大学改革セミナー(11月5日)」、 「第2回大学改革セミナー(2月4日)」、 「GPS-Academic結果報告会(2月4 日)」、「アクティブラーニング研修会(3 月6日)」、「人権・同和問題職員研修 (前期・後期)(7月7日、8日・1月8日、 20日)」、「人権研修会(2月16日)」、 「個人情報保護研修(2月10日～3月19 日・動画配信)」 ・職員対象のSDセミナー:4回 「会計研修(4月、8月、2月)」、「公立大 学協会システムによる研修(通年・動画 配信)」、「職員人事方針に係る説明会 (8月22日、25日)」、「理事長との懇談 会(12月23日)」	A	次年度も引き続き、教育活動の 改善向上を目指し、教育の質保証 に関する動向等を踏まえながら、 本学の教職員のニーズに即した FD・SDセミナーを企画・実施する。
			FDセミナーを年1回以上開催する。	SD・FD部会と大学院FD部会の共催 によるFDセミナーを3月6日に開催し た。	B	FDセミナーを年1回以上開催す る。
	SD・FDセミナー への教職員参 加率	毎年度85%(1回以 上参加の教職員割 合)	SD・FDセミナー開催時期・実施方法 の検討と開催時の教職員への呼びか けを促す。	教職員が参加しやすいよう、開催時 期や受講方法(対面、オンライン、オン デマンド等)を含む研修環境について SD・FD部会内で検討・調整を行った。 開催にあたっては、メールやチラシ等 により参加を促す案内を実施した。 1回以上参加の教職員割合:100% (118名) *対象者118名(休職者、管理職除 く)	A	次年度も引き続き、教職員が参 加しやすい時期・形態となるよう、 部会内で検討を行うとともに、開催 時の教職員への周知を強化し、セ ミナーへの参加をより一層促進さ せる。
			教職員に対してFDセミナー開催時に 参加を促す。	FDセミナー参加を促す案内を3回 行った。	B	教職員に対してFDセミナー開催 時に参加を促す。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(3)他機関と連携した教育の充実【6】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 保健・医療・福祉系の高度専門職を育成するという観点から、地域の保健・医療・福祉機関等と連携して実習教育や学外教育を実施する。	実習教育・学外教育の実施と見直し	実習教育・学外教育の内容と方法を毎年度検証し、必要に応じて見直しを行う。	他機関と連携して実習教育や学外教育を実施する。	【人間社会学部】 社会福祉コースでは、社会福祉協議会等の各種機関・施設との連携のもと、実習を実施した。 こどもコースは、公・私立保育所等において実習を行った。 心理コースでは、田川・宗像の児童相談所等において実習を実施した。 地域社会コースでは、教職課程において、公立中学・高等学校での教育実習や、社会福祉施設での介護等体験を実施した。 「体育Ⅰ」「社会的養護Ⅰ」「社会調査実習Ⅰ」等の授業では、各種施設との協力のもと学外教育を行った。 令和6年度の検証結果に基づき、令和7年度入学生の心理実習Ⅰ～Ⅲの履修条件を変更し、心理実習ⅢをⅢA・ⅢBに分割した。	B	他機関と連携した実習教育・学外教育を継続して実施するとともに、実施状況の把握と検証を行う。
			効果的な実習教育を実施するために臨床教授制を継続して実施し、実習施設との連携をはかる。 また、実習成果について、年度末の実習指導者連絡会を開催し、情報を共有してさらなる教育の充実を行う。	【看護学部】 臨床教授の候補者を、称号付与規程に基づき審査し、8施設、28名に付与した（教授6名・准教授13名・講師9名）。 実習指導者連絡会は令和8年3月6日に実施した。19の施設から29名の臨床指導者が参加された。終了後のアンケートでは、学生の傾向や学生の学びを知ることができ、参考になった等、概ね好評だった。	B	臨床教授制を継続して実施し、実習施設との連携をはかる。また、年度末の実習指導者連絡会を開催し、情報の共有と施設側のニーズの把握を行い、教育の充実をはかる。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. ケアリングアイランド大学コンソーシアムの参加大学との連携をより一層進め、教育内容を充実させる。また、大学コンソーシアム構築・運用の実績とノウハウを生かし、新たな価値に基づく連合大学院構想を推進する。	ケアリングアイランド大学コンソーシアムにおける教育の充実	コンソーシアム参加大学との協議を毎年度行い、令和11年度までに教育内容を充実させる。	ケアリングアイランド大学コンソーシアムの参加大学との連携をより一層進め、教育内容を充実させる。	令和7年度コンソーシアム連携推進会議を6月26日、10月21日、3月30日の3回開催し、3月30日に会員校の学長懇談会を開催した。	B	連携推進会議、学長懇談会を継続して実施するとともに、コンソーシアム共同授業(災害看護学)のコンテンツの新規作成を図る。
	連合大学院構想の推進	連合大学院設置の検討を令和8年度までに開始し、令和11年度までに設置構想を作成する。	昨年度議論されてきた新しい価値をもとにした連合大学院構想について、引き続き検討する予定である。	「One Health」をキーワードとして、引き続き情報収集を行っている。国際フォーラムに参加し、気候変動時代における都市と生命の共存に向けたワンヘルス・アプローチについて示唆を得る。	B	One Healthについて、行政等の取り組み、連携、社会・環境システムに関する基礎資料や情報収集を行う。また生態系や統合的健康という視点からの保健、環境、都市、教育部門について検討する。
ウ. 高大連携事業として高校生に対して大学の授業を開放する。また、高校生へのアンケートを通して授業の質を向上させる。	ウ 高校生に対する授業の開放	高校生に対して大学の授業を毎年度開放し、アンケート結果に基づき必要に応じて授業内容や方法を改善する。	高大連携事業協定締結校の生徒を科目履修生として受け入れる。 高等学校のニーズに基づく出前講義を実施する。 FD活動の推進事業として実施している授業参観に高校生の受け入れを行う。	科目履修生の受け入れ 0名 ・出前講義 実施件数: 14件 受講者総数: 353名 実施後アンケート 回収数: 344名 「とても分かりやすい: 273名(79.3%)」 「わかりやすい: 71名(20.6%)」 ・授業参観ウィーク(案内送付: 18校) 参加校: 3校 参加人数: 23名(受講科目数: 16科目)	B	科目履修生の受け入れについては、生徒がより履修しやすい集中講義やオンデマンドの科目の履修を協定締結校に働きかけるなどにより、受講生の増加を図る。 出前講義については、ホームページで情報提供を行うとともに、各校のニーズに応じた対応を図る。 授業参観ウィークについては、高校生が参加しやすい時期に開催するよう日程調整し、対象校には早期に案内を行う。

項目別の状況（中期計画項目）
3. 教育の国際化の推進 国際的な視野を持ち、異文化や多様な価値観を尊重しながら、他者と協働することができる人材を育成するため、国外の大学等との連携により、多様な交流活動等を通じて国際化に対応した教育を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1) 国際交流事業の推進【7】	新たに、韓国・東国大学校WISEキャンパスと交流協定を締結した。交換留学（今年度は受入れのみであった）、イギリス海外語学実習、韓国短期研修の実施に加え、オンラインを利用して本学学生と海外の学生の交流する機会を提供した。南京師範大学とは両大学の学生がzoomを利用してディスカッションを行い、イギリスのオックスフォード・ブルックス大学日本語学科との学生交流も行い、達成目標を上回った。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
国際交流センターを中心に事業を充実させ、国外の大学等と連携し、留学生の派遣と受入れを推進する。	留学生（派遣・受入）数	毎年度延30名以上（受入数15名程度、派遣数15名程度（オンラインも含む））	協定校との交換留学や海外短期派遣研修、オンラインを利用した交流等を実施する。 令和6年度に交流を深めてきた韓国の東国大学校との協定締結に向けた取組を進める。	受入数 33名 （交換留学：韓国・大邱韓医大学校2名、威徳大学校 1名、中国・南京師範大学 3名、南京師範大学オンライン交流イベント：9名、オックスフォードブルックス大学オンライン日英バーチャル交流18名） 派遣数 37名 （交換留学：中国・韓国とも0名、海外語学実習：イギリス 13名、南京師範大学オンライン交流イベント：5名、韓国短期研修：6名、オックスフォードブルックス大学オンライン日英バーチャル交流13名）	A	協定校との交換留学や海外短期派遣研修、オンラインを利用した交流等を実施する。

項目別の状況（中期計画項目）	
4. 意欲ある学生の確保 効果的・戦略的な募集広報活動を展開するとともに、入学者選抜方法の検討・見直し・検証を行い、DEIAの理念に基づいて大学が求める資質・能力を持ち、学ぶ意欲の高い多様な学生を確保する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)入学者選抜の実施と検証【8】	実施事項 ア： 【学部】 令和7年度のオープンキャンパスは例年人気の高い模擬授業や個別相談を充実させた。さらに、前年度の課題を踏まえ、予想参加者数に応じた会場の割り当てや、遠方からの参加者が希望のイベントに参加できるよう事前予約制を導入するなどの準備を行った。当日は当日受付枠が早々に埋まり参加を諦めざるを得ない参加者もいたが、柔軟に対応し可能な限り希望するイベントに参加していただけるよう努めた。これらの取り組みが評価され、参加者アンケートの良好評価（全体）99.1%という高い評価を得ることができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 受験者確保及び定員充足のための効果的な広報活動を検討し、目的及び対象者に応じた戦略的な募集広報活動を通じて、志願倍率や定員充足率を維持・向上させる。	志願倍率＜全学(学部)の志願倍率(一般入試)＞	毎年度3.2倍以上	【学部】 目標とする志願倍率を達成するため、戦略的な募集広報活動を実施する。	【学部】 高校訪問・入試説明会は64件、オープンキャンパスは1回(8月2日)実施した。 今年度実施する入試概要・募集要項を公開した。 全学(学部)の志願倍率(一般入試)は3.9倍だった。	B	【学部】 目標とする志願倍率を達成するため、戦略的な募集広報活動を実施する。
	定員充足率＜大学院各研究科＞	毎年度100%	両研究科とも定員充足率100%を達成する。	【大学院】 令和8年度の入学者は、人間社会学研究科10名、看護学研究科で11名であった。その結果、両研究科の定員充足率は、人間社会研究科106.7%(収容定員30名、在籍32名)、看護学研究科108.3%(収容定員24名、在籍26名)となった。	B	両研究科とも定員充足率100%を達成する。
	オープンキャンパス参加者アンケート	毎年度良好評価90%以上	【学部】 オープンキャンパスにおいて参加者アンケートを実施する。	【学部】 8月2日に開催したオープンキャンパスの参加者アンケートで、良好評価(全体)は99.1%だった。	A	【学部】 オープンキャンパスにおいて参加者アンケートを実施する。
イ. 選抜方法の検討と改善のため、入学選抜方法や入学選抜時の成績と入学後の成績推移の関係等に関する分析を行う。	入学者の成績の分析	毎年度実施	令和7年度入学生の入学後の成績推移と入学選抜方法及び入学試験の成績との関係について分析を行う。	令和7年度入学者の入試時と1年次後期終了時の成績を比較し、入学選抜方法及び入学試験との関係について分析を行った。	B	令和8年度入学生の入学後の成績推移と入学選抜方法及び入学試験の成績との関係について分析を行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ. 学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)の評価に基づき、意欲の高い多様な学生を確保するため、選抜方法の検討と見直しを行う。	学部入試科目の見直し	令和6年度に実施する入学者選抜から実施	令和5年度に見直した入試科目に基づいて引き続き適切に入学者選抜を実施する。	令和5年度に見直した内容に基づいて適切に入学者選抜を実施した。	B	令和5年度に見直した入試科目に基づいて引き続き適切に入学者選抜を実施する。
	DEIAの理念に基づいた学部入試の選抜方法の見直し	令和8年度まで検討を行い、令和9年度以降に見直しを実施	学部入試の選抜方法について検討する。	各学科で総合型選抜導入について検討を行った。	B	学部入試の選抜方法について検討する。
	学部入試の選抜方法と試験内容の見直し	以下について、令和8年度まで検討を行い、令和9年度以降に実施する入学者選抜から見直した選抜方法・内容で実施 ・各入試選抜の定員比率 ・選抜方法 ・試験内容	各学科の各種選抜方法の受験状況と入学後のGPAを踏まえ、入試選抜の定員比率、選抜方法、試験内容について検討する。	看護学部においては学校推薦型選抜で英語科目を令和8年度から外すことを決定した。人間社会学部においても検討を行った。また、各入試の選抜方法、試験内容についても検討を行った。	B	各学部学科における各種入試の選抜方法、試験内容およびその定員比率等についてを引き続き検討する。
	大学院入試選抜の見直し	以下について、令和6年度まで検討を行い、令和7年度以降に見直しを実施 ・入試選抜実施時期 ・入試科目	令和6年度に検討・実施した入試選抜方法を、引き続き実施しながら見直しを行う。	両研究科において令和6年度までに検討した内容に基づいて実施した。また、見直しについては、看護学研究科において受験生が多かったA日程の入試方法について検討を行った。	B	令和6年度に検討・実施した入試選抜時期や方法を引き続き実施しながら、見直しを行う。

項目別の状況（中期計画項目）	
5. 学生支援の充実 多様なニーズを持つ学生が主体的に学修を行い、健康で充実した学生生活を送るため、学修・学生生活支援体制の充実・強化を図るとともに、経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援を行う。また、学生の職業観の醸成に向け、県内の産業界等との連携を強化することで、学生の意向に沿った進路の実現に資するキャリア支援を充実させる。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)学生の学修支援と生活支援【9】	附属図書館本館1階の無線LANアクセス環境を備えたスペースを活用し、ラーニング・コモンズを整備するとともに、令和7年4月から運用を開始した。また、アカデミック・スキルに関するミニ講義を実施するなど、主体的な学修を促進する取組を行った。さらに、本館および分館のラーニング・コモンズに大型ディスプレイ等を設置するとともに、情報処理教室の機器更新にあわせ、9月に本館2階閲覧室および分館ラーニング・コモンズに同仕様の端末PCおよびプリンタを各1台設置し、ICT環境の充実を図った。これにより、附属図書館における学修ラウンジとICT環境整備に関する目標を、令和8年度の予定より前倒しで達成した。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 学生の自主的学修を促すための環境整備を実施する。ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進するため、情報基盤整備を行う。	附属図書館における学修ラウンジとICT環境整備	令和8年度までに実施	令和7年度に附属図書館本館1階に設置するラーニング・コモンズを運用を開始し、充実を図る。	附属図書館本館1階に設置したラーニング・コモンズの運用を4月から開始した。さらに、学習支援機能の充実を図るため、ラーニング・コモンズにおいてアカデミック・スキルに関するミニ講義を2月から開始した。	A	令和7年度から運用を開始した附属図書館本館1階のラーニング・コモンズの運用状況を確認し、課題の把握と改善に取り組む。
	情報処理教室の機器更新	令和8年度までに実施	令和7年度中に情報処理教室1～3の機器を更新する。	9月に情報処理教室1～3の機器を更新し、運用を開始した。	B	令和7年度に更新した情報処理教室1、2及び3の機器の運用状況を確認し、課題の把握と改善に取り組む。
	オンライン学修プラットフォームの改善	令和8年度までに実施	令和8年度に導入予定の新教務システムにおける、オンライン学修プラットフォームの改善案を検討する。	令和8年度の新教務システム導入に向けて準備を進め、利用方法に関する説明会を学生向けに12月、教員向けに1月に実施した。新システムでは、学修履歴の一元管理および可視化により学修状況を把握できる環境を整えるとともに、eラーニング機能を活用した学修支援環境を整備し、教務情報と学修支援機能を一体的に活用できるようになり、利便性が向上した。	B	令和8年度から新教務システムのオンライン学修プラットフォームを導入・運用し、その活用の定着と改善を図る。
	学内情報ネットワークの更新	令和10年度までに実施	令和9年度に予定されている学内情報ネットワーク(学内LAN)の次期更新に向けて、課題を整理する。	学内情報ネットワーク(学内LAN)の次期更新に向けて、課題を整理した。	B	令和9年度に予定されている学内情報ネットワーク(学内LAN)の次期更新に向け、更新計画を策定する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 配慮を必要とする学生の支援を行う。学生総合支援センターの機能を充実させる。	学生支援体制の充実	令和7年度まで検討し、令和8年度以降実施	配慮申請への支援決定を実施するとともに、支援体制の充実を図るための改善方法を検討する。	延べ38件の配慮を決定した。 支援体制の充実については、昨年度の現状把握と課題整理を踏まえ、支援の有効性について学生に定期的な確認を行うことで、センターによるより効果的な調整を図ることとした。	B	配慮申請への支援決定を行うとともに、支援体制の充実を図る改善を実施する。
ウ. 経済的に修学が困難な学生に対する適切な支援のため、外部資金等を活用した本学独自の支援を継続する。	外部資金等を活用した本学独自の支援の継続	毎年度実施	国の修学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、本学独自の授業料減免制度及び分納制度を実施する。 また、真島・市場特別奨学金や日本学生支援機構等、外部資金等を活用した支援策を実施する。	修学支援制度に基づく入学金減免及び授業料減免(前期・後期)、大学独自の授業料減免及び分納制度(前期・後期)を実施した。 「真島・市場特別奨学金」による支援は、申請2名、貸付2名。 「和田紘子奨学基金」による支援は、申請4名、給付2名。	B	国の修学支援新制度に基づく授業料減免制度を実施するとともに、本学独自の授業料減免制度及び分納制度を実施する。 また、真島・市場特別奨学金や日本学生支援機構等、外部資金等を活用した支援策を実施する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)キャリア支援【10】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
学生の希望や資質に沿った進路実現に向け、就職・進学支援体制を充実させる。県内の産業界や病院・施設等と連携し、継続的・効果的なインターンシップや情報収集等を推進する。課外活動等を対象に含めた学生への評価・表彰制度を充実させる。	オンラインを利用した就職支援の実施	毎年度実施	学生支援班、キャリア相談室で実施する。	オンラインの求人プラットフォームキャリアタスUCによる求人・インターンシップ情報等の提供、Zoomを用いたキャリア相談を実施した。	B	学生支援班、キャリア相談室で実施する。
	効果的なインターンシップの実施	毎年度実施	正課科目「プレ・インターンシップ」は授業担当者、正課外のインターンシップは学生支援班において実施する。	「プレ・インターンシップ」では受入先体験を実施した(10か所17人、8～9月)。正課外の業務体験、短・中期インターンシップは、インターンシップ推進協議会等と連携して実施した(16か所25人:8～9月、4か所6人:12月～令和8年2月)。	B	正課科目「プレ・インターンシップ」は授業担当者、正課外のインターンシップは学生支援班において実施する。
	就職率(就職者数/就職希望者数)	毎年度95%以上	学生の学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で就職支援を実施する。内定状況等の全体把握は学生支援班で行う。	大学全体:96.9% 人間社会学部:95.2% 看護学部:100% (令和8年3月末時点)	B	学生の学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で就職支援を実施する。内定状況等の全体把握は学生支援班で行う。
	企業等に対するアンケート調査等	毎年度実施	進路・生活支援部会で調査内容の検討及び分析を行う(発送等は学生支援班)。	令和6年度卒業生の就職先174か所に対して、11月にアンケートを実施した。アンケートの回答数は63(回答率は36.2%)であった。	B	進路・生活支援部会で調査内容の検討及び分析を行う(発送等は学生支援班)。
	学内就職説明会、キャリア支援講座の開催	毎年度20回以上	各学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で企画実施する。	学内就職説明会・キャリア支援講座:69回	B	各学科・コース、学生支援班、キャリア相談室で企画実施する。
	学生への評価・表彰制度の充実	令和7年度まで検討し、令和8年度以降実施	進路・生活支援部会で、対象とする活動、実施手続等を検討する。	進路・生活支援部会で検討し、成績優秀者以外の実績があった学生について、表彰者推薦手順の見直しを行った。	B	見直した制度に基づき、制度の運用を実施する。

Ⅱ 研究に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1. 地域共生社会や高度福祉社会の実現に寄与する研究の推進 本学の特色を生かして、地域社会の課題、ニーズに対応した研究に意欲的に取り組む。特に、地域共生社会や高度福祉社会の実現に貢献するため、データ駆動型アプローチを用いて保健・医療・福祉の発展に役立つ研究を重点的に行う。データサイエンスの手法を駆使し、急速な情報化に伴って蓄積された膨大なデータから有益な情報を抽出し、データ分析を展開する。これらの研究成果を広く社会に発表し、社会に還元する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)地域の課題解決と保健・医療・福祉の発展に寄与する研究の推進【11】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 地域・文化の振興、地域の課題解決に寄与する研究を推進する。	地域・文化の振興、地域の課題解決に寄与する研究プロジェクトの実施	毎年度3件以上	重点領域研究とプロジェクト研究：COC研究を公募する。 附属研究所大学ウェブサイト重点領域研究の進捗状況に関する情報発信を定期的に行う。 研究奨励交付金附属研究所重点領域研究及びプロジェクト研究：COC研究に対して、研究促進のため共同研究室を提供する。	重点領域研究とCOC研究を公募し、重点領域研究2件、COC研究2件を採択した。 令和7年度に採択された重点領域研究成果を附属研究所ホームページへ公開した。 令和7年度の共同研究室の利用を開始した。	B	重点領域研究とプロジェクト研究：COC研究を公募する。 附属研究所大学ウェブサイト重点領域研究の進捗状況に関する情報発信を定期的に行う。 研究奨励交付金附属研究所重点領域研究及びプロジェクト研究：COC研究に対して、研究促進のため共同研究室を提供する。
イ. 保健・医療・福祉の発展に寄与するデータサイエンス研究を推進する。	保健・医療・福祉の発展に寄与するデータサイエンス研究の実施	毎年度2件以上	福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業による国保データベース(KDB)システムの研究の募集枠を設ける。	国保データベース(KDB)システムを活用したデータサイエンス研究の募集をし5件を採択した。	B	福岡県国民健康保険団体連合会との共同研究事業の協定を更新させた。教員データベース(KDB)システムの研究の募集を呼びかけ、データサイエンス研究を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)本学の特色を生かした研究成果の発表と社会への還元【12】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 本学の研究成果を成果報告会やウェブサイト等を通じて積極的に発表する。	本学の特色を生かした研究成果報告会での発表件数	毎年度7件以上	本学の特色を生かした研究成果報告会を実施する。	令和8年3月2日に附属研究所研究奨励交付金事業の成果報告会(7件)を実施した。	B	本学の特色を生かした研究成果報告会を実施する。
	附属研究所ウェブサイト上での本学の特色を生かした研究成果の発表	毎年度更新	附属研究所ウェブサイト上での本学の特色を生かした研究成果の発表を掲載する。	令和7年度の研究奨励交付金に採択された重点領域研究の進捗状況を本学ウェブサイトの附属研究所のページに掲載した。	B	本学ウェブサイトの附属研究所のページに、特色を生かした研究成果を掲載する。
イ. 本学の研究成果を広く社会に還元するため、オープンアクセス形式の公表を推進する。	機関リポジトリによるオープンアクセス形式の成果公表	毎年度20件以上	本学の研究成果を機関リポジトリに収録し、公表する。	福岡県立大学人間社会学部紀要の25件、福岡県立大学看護学部紀要の6件、福岡県立大学心理臨床研究の4件、福岡県立大学附属研究所報告書の11件、以上46件を機関リポジトリに登録し、公表した。	B	本学の研究成果を機関リポジトリに登録し、公表する。

項目別の状況（中期計画項目）
2. 研究支援体制の強化と外部研究資金の獲得拡大 研究活動を更に活性化させるため、教員の研究意欲及び研究水準の向上等に繋がる支援体制を一層充実させるとともに、他の大学、企業、研究機関等との連携を強化し、外部研究資金の獲得を拡大する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)教員の研究意欲及び研究水準を向上させるための研究支援体制の充実・強化【13】	研究奨励交付金の助成枠の見直しについて、若手奨励研究の助成枠を達成目標を前倒しして見直し、若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進した。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 附属研究所による多様な研究支援を行う。DEIAの理念に基づき、多様な人材がその個性を生かし、活躍できる研究環境作りに取り組む。	附属研究所による研究支援	毎年度研究奨励交付金等による研究支援10名以上	附属研究所運営部会を中心に取り組み研究奨励交付金の公募を行う。	附属研究所運営部会を中心に取り組み、令和7年度研究奨励交付金より9件（32名）の研究を支援した。	B	附属研究所運営部会を中心に取り組み研究奨励交付金の公募を引き続き行う。
	若手研究者をはじめとする多様な人材が活躍できる研究環境作り	令和8年度までに研究奨励交付金の助成枠の見直し	研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図る。若手研究者の研究環境整備を支援する取り組みを推進する。	科研費申請のための研修会にて科研費基盤研究C・若手研究の採択者によるプレゼンテーションを7月30日に実施した。 さらに若手研究者をはじめとする学内研究者を対象とした研究支援セミナー（個別相談）を8月8日に実施した（参加者は4名）。 研究奨励交付金における若手奨励研究の助成枠を見直し、令和7年度に1件あたりの助成額を20万円から40万円へ引き上げ、採択件数を従来の6件から5件へ変更した。これにより、助成総額を120万円から200万円へ拡充した。	A	研究活動を更に活性化させるため、研究支援体制の充実・強化を図るため、若手研究の研究環境整備をさらに推進させる。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 研究倫理や不正防止等に関する研修プログラムを実施し、研究者の倫理的な行動や研究水準の向上を促進する。	研究倫理・不正行為防止研修の受講率	毎年度100%	①研究倫理・不正行為防止研修を実施する。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催する。 ③研究倫理部会委員の学外研修を行う。	①研究倫理・不正行為防止研修を実施した。 ②研究費の適正使用に関する説明会を開催した。 ③学外研修に参加した。	B	引き続き計画通りの取組を行う。
	学術成果件数	毎年度100件以上 (うち、査読付き論文又は学術書50件以上)	年度末に学術成果件数の調査予定。	学術成果件数(査読付き論文又は学術書、その他の論文等):96件(うち、査読付き論文又は学術書53件)	B	令和8年度も年度末に学術成果件数の調査予定している。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)他の教育・研究機関等との連携強化と外部研究資金の獲得拡大【14】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 他の教育・研究機関等と地域社会の課題やニーズに対応した共同研究を推進するため、本学研究者の研究シーズを積極的に公表する。	附属研究所ウェブサイト上での研究シーズの公表	毎年度更新	地域社会のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを推進するために本学ウェブサイト上に研究シーズ集を掲載する。	附属研究所WEBページ上の「研究シーズ集」の更新をした。	B	地域社会のニーズと本学の研究シーズとのマッチングを推進するために本学ウェブサイト上に研究シーズ集を掲載させ、共同研究等促進させる。
イ. 他の教育・研究機関等と研究に関する連携を円滑にするための仕組みを整備する。	共同研究取扱規則や受託研究取扱規則等の見直し	令和8年度までに見直し	他の教育・研究機関等と研究に関する連携を円滑にするための仕組みを整備するため部会で検討する。	共同研究取扱規則や受託研究取扱規則等の検討を行った。 また、外部との共同研究を1件締結した。	B	他の教育・研究機関等と研究に関する連携を円滑にするための仕組みを整備するための検討を実施した。R7年度の共同研究の事例を基に部会でも検討する。
ウ. 外部研究資金の募集情報を積極的に収集し、それを学内で共有し、外部研究資金への応募を促進するための研修会を実施する。	外部研究資金獲得に向けた研修会	毎年度1回以上	外部研究資金獲得のための研修会を実施する。	科研費申請のための研修会を会場への対面参加に加えて、リアルタイムでのオンライン参加、録画の事後視聴での参加ができる形式で7月30日に実施した。	B	外部研究資金獲得のための研修会を実施し、リアルタイムでおよび事後視聴ができるようにする。
	外部研究資金獲得件数(継続を含む)	毎年度30件以上	若手研究者に対して、科研費申請書の添削・相談を行う。	若手研究者の研究相談、添削4件及び獲得件数:31件(3月末時点)	B	若手研究者に対して、科研費申請書の添削・相談を行う。
	外部研究資金応募件数(新規分)	毎年度50件以上	外部研究資金への申請を募集する。	外部研究資金応募件数(新規分):65件(3月末時点)	B	外部研究資金への申請を募集する。

項目別の状況（中期計画項目）
3. 国際的な学術交流と共同研究の推進 国際的な共通課題の解決に寄与するため、海外の大学や研究機関との学術交流と共同研究を一層推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)海外の大学等の研究者との学術交流の推進【15】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 海外の研究者との国際共同研究や海外研修を推進する。	国際共同研究	毎年度1件以上	国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究に国際研究の応募枠を設ける。	国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究に国際研究の募集枠を設け公募し、1件を採択した。	B	国際共同研究を推進するために、プロジェクト研究に国際研究の応募枠を設け、研究促進の支援を行う。
	海外研修	毎年度3名以上	海外研修希望者を募集する。	人間社会学部教員6名の応募があり研修を行った。	B	海外研修希望者を募集する。
イ. 国際学術誌への論文投稿を推進する。	研究奨励交付金による国際学術論文投稿助成枠	毎年度2件以上	研究奨励交付金（研究論文出版補助）にて国際学術論文投稿助成枠を設ける。	研究奨励交付金（研究論文出版補助）の2件の募集を行った。	B	研究奨励交付金（研究論文出版補助）にて国際学術論文投稿助成枠を設け、海外論文への投稿を促進する。

Ⅲ 地域貢献に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1. 生涯を通じた多様な学びの場の提供と地域の保健・福祉等の向上の推進 大学が有する人的・物的資源や教育研究成果を生かして、保健・医療・福祉人材のキャリアアップに資する教育プログラムなど、生涯を通じた多様な学びのニーズに応える機会を提供するとともに、地域の団体に対し、本学の資源を学びの場として活用する機会を提供し、地域の学習コミュニティの形成を支援し、「全世代型キャンパス」に向けた取組を積極的に行う。また、地域における知の拠点としての役割を踏まえ、県の各種施策や自治体、企業等との連携を深め、不登校対策をはじめとする地域教育活動の支援や保健・福祉の向上等に繋がる取組を積極的に推進し、地域社会の発展に貢献する。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)県民への多様な学習機会の提供【16】	公開講座は学内公募を行い、保健・福祉・教育・心理・看護のテーマで附属研究所を中心に講座を実施した。公開講座ⅠからⅤの5講座を開催した。参加者数(実人数)340名の参加をえており、生涯を通じた多様な学びのニーズに応えることができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修を実施する。	リカレント教育や研修の実施回数	毎年度3回以上	【公共社会学科】 自治体と協働で実施する社会調査実習・演習において、行政職員などに学びなおしの機会を提供する。	【公共社会学科】 2024年度および2025年度社会調査実習の受講生が、調査結果を、それぞれ、10月30日の「令和7年度第2回後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会」、および、2026年3月20日の公開講座「日本とネパールの比較からみえた最近の若者」で発表し、行政職員や市民への学びなおしの機会を提供した。	B	【公共社会学科】 自治体と協働で実施する社会調査実習・演習において、行政職員などに学びなおしの機会を提供する。
			【社会福祉学科】 リカレントセミナーを実施する。	【社会福祉学科】 12月20日に「地域共生社会を拓く」をテーマにリカレントセミナーを実施した。参加者は合計158名(学部生120名、大学院生2名、卒業生・社会人36名)であった。	B	リカレントセミナーを実施する。
			【人間形成学科 こどもコース】 ホームカミングデーを実施する。	【人間形成学科 こどもコース】 第4回こどもコースホームカミングデーを「すべての子どもが共に育つ『インクルーシブ保育』の実践」をテーマに7月12日に開催した。参加者は合計66名(学部生47名、大学院生3名、卒業生・一般16名)であった。	B	今年度も7月にホームカミングデーを実施する予定である。
			【人間社会学研究科 心理臨床コース】 心理臨床研究会を年6回開催する。	【人間社会学研究科 心理臨床コース】 第1回：7月12日、第2回：8月7日、第3回：9月7日、第4回：12月21日、第5回：2月1日、第6回：2月23日に開催した。第2回は附属研究所「公開講座Ⅲ」として開催。参加者は合計204名であった。	B	【人間社会学研究科 心理臨床コース】 心理臨床研究会を年3回開催する。 定例型(年6回20時間以上)から、ワークショップ型研修会(1回5時間以上)に変更する。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
			【看護学科】 リカレント教育部会において、各部門（看護師、保健師、助産師、養護教諭）と協働しリカレント教育等を企画・実施する。	【看護学科】 看護師部門のリカレント研修を7月17日（参加者81名）、2月6日（参加者68名）、2月20日（コンソーシアム共催：参加者21名）に実施した。 保健師部門のリカレント研修を9月17日（参加者42名）、11月18日（参加者23名）、2月27日（参加者27名）、3月6日（参加者25名）に実施した。 助産師部門のリカレント研修を8月28日（参加者64名）に実施した。 養護教諭部門のリカレント研修を3月7日（参加者20名）に実施した。	B	各部門（看護師、保健師、助産師、養護教諭）のリカレント研修に取り組むとともに、リカレント教育における外部機関との連携について検討を継続する。
イ. 生涯を通じた多様な学びのニーズに応えるため、附属研究所等による公開講座等を実施する。	公開講座やセミナー等の実施回数	毎年度3回以上	公開講座の企画・運営には附属研究所公開講座小部会で取り組み、附属研究所を中心とした公開講座を実施予定。また公開講座企画の学内公募も行う。 保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施する。	公開講座ⅠからⅤの5講座を開催した。 公開講座Ⅰ「別室登校について考える」（全2回）、第1回は講義10月21日に開催。参加者数36名、オンデマンド配信延べ視聴回数293回。第2回パネルディスカッション11月11日に開催。参加者数30名、オンデマンド配信延べ視聴回数281回。 公開講座Ⅱ「在宅緩和ケアと人生会議～ガンで他界した息子の看取りを経験して～」10月4日開催。参加者数116名。12月26日まで動画配信を行った。 公開講座Ⅲ「ペアレントトレーニングを応用した特別支援教育スキルアップワークショップ「マインドフルネス講座」」を8月7日に開催し、参加者数は対面50名、オンデマンド14名。 公開講座Ⅳ「認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり」11月15日開催。参加者数29名。 公開講座Ⅴ「健診ひろめ隊養成講座」（全3回）第1回は9月6日開催。参加者数6名。第2回は11月15日開催。参加者数9名。第3回は1月24日開催。参加者数6名。 不登校支援フォーラム「別室登校について考える」を3月5日に開催。参加者数58名、オンデマンド配信延べ視聴回数281回	A	附属研究所公開講座小部会で、公開講座の企画・運営について検討する。附属研究所を中心とした公開講座も1講座設け、実施予定とする。今年度も、公開講座企画は、学内公募を行う。 保健・福祉・教育・心理等のテーマでセミナーやフォーラムを実施についても検討する。
ウ. 地域の学習コミュニティの形成を支援するため、地域の団体が、本学の資源を学びの場として活用しやすい仕組みを構築する。	地域の団体が、本学の資源を学びの場として活用しやすい仕組みの検討と実施	令和7年度までに実施	地域関連機関と連携・協力して地域の課題解決に向けての合同研修会の実施。	地域の団体が本学の人的・教育的資源を学びの場として活用しやすい仕組みづくりの一環として、田川市および田川医師会との共催により、「ケアカフェたがわ事業（合同研修会）」を7月17日および2月6日に実施した。参加者数はそれぞれ82名、68名であり、行政・医師会・本学が連携して、地域に開かれた学習機会を提供した。	B	地域関連機関と連携・協力して地域の課題解決に向けての合同研修会を実施する予定である。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
エ. 地域教育支援機構の機能を強化し、機構の下で「全世代型キャンパス」の具体化に向けた各年代の学びの場に資する事業等を体系的に整理するとともに、「全世代型キャンパス」について県民に周知する。	地域教育支援機構の機能強化	令和6年度までに実施	引き続き運営体制の強化に取り組む。	現行の運営体制(不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献ボランティア支援センター)を確認した。	B	現行の体制を維持しながら、学内のリカレント教育を担当する教員と連携できるよう運営体制の強化を進める。
	「全世代型キャンパス」の具体化に向けた体系的整理	令和8年度までに実施	地域教育支援機構と各学部のリカレント教育担当者との協働体制に向けた準備に取り組む。	大学が主催する地域住民を対象とした教育やリカレント教育について一覧図にまとめ、整理した。	B	一覧図をもとに、各取組内容についての詳細情報を追記していく予定である。
	「全世代型キャンパス」の周知	令和8年度までに実施	リーフレットを作成・配布するとともに、その内容を大学ウェブサイトに掲載する。	具体的内容や配布先について検討した。	B	具体的内容や配布先について引き続き検討する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)地域社会の発展に貢献する取組【17】	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける小中高生への学習支援活動については、120名の登録者があり、県大子どもサポーターとしてキャンパススクールでの学習支援活動を積極的に推進することができた。 また、センター利用者（センター等の利用者や研修等の参加者）の満足度については、2回の講座（研修・フォーラム）ともに達成目標を上回ることができた。（公開講座84.5%、フォーラム97.8%）。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談支援や県大子どもサポーター、キャンパススクール等による不登校対策を中心とした地域の教育活動を支援する取組を積極的に推進する。	小中高生への学習支援活動	毎年度学習支援活動登録者50名以上	キャンパスキッズ、キャンパススクールなどの取り組みを通じて、学習支援を行う。	現在、教員、県大子どもサポーターとともに学習支援に取り組んでいる。 120名（登録者）の県大子どもサポーターがキャンパススクールで学習支援を実施した。	A	キャンパスキッズ、キャンパススクールなどの取り組みを通じて、学習支援を行う。
	利用者（センター等の利用者や研修等の参加者）満足度	満足度70%以上	別室登校の概要に関する公開講座、フォーラムを実施する。また、相談支援や県大子どもサポーターとの協働の下、必要な教育活動に取り組む。	公開講座を、「別室登校について考える」をテーマとし2回対面にて開催した。また、公開講座の様子を、12月～3月末まで、期間限定でオンデマンド配信を実施した。フォーラムについては同テーマにて3月5日に開催。公開講座と同様に、3月末までオンデマンド配信を実施。公開講座のテーマをさらに深めることを目的に実施し、好評であった。 サポートセンターのキャンパススクールを利用している生徒を対象に日帰り野外体験キャンプを10月18日に実施。また、サポートセンターの個別活動および、県内の教育支援センターや適応指導教室を利用している児童生徒を対象とした日帰り野外体験を10月4日に実施した。どちらのキャンプも、アンケート調査の結果では「満足」が100%となった。	A	不登校やひきこもりに関する公開講座、フォーラムを実施する。 また、相談支援や県大子どもサポーターとの協働の下、必要な教育活動に取り組む。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
イ. 不登校・ひきこもりサポートセンターの認知度向上のため、県内の学校等にセンターの周知を行う。	利用者(センター等の利用者や研修等の参加者)満足度	満足度70%以上	メンタルヘルスや不登校に関する公開講座、フォーラムについて、県内の学校等に周知し参加を募る。	公開講座の周知を通じて、センターの周知も図る。公開講座については、「別室登校について考える」というテーマで2回開催した。また、公開講座の様子を、12月～3月末まで、期間限定でオンデマンド配信を実施し、結果、「満足」が84.5%となった。 フォーラムについては同テーマにて3月5日に開催した。公開講座と同様に、3月末までオンデマンド配信を実施し、97.8%が「満足」という結果になった。公開講座とフォーラム開催の周知活動として、大学ウェブサイトやチラシなどを活用した。	A	不登校やひきこもりに関する公開講座、フォーラムについて、県内の学校や関係機関に周知し参加を募る。
	不登校・ひきこもりサポートセンターの周知	毎年度実施	大学ウェブサイトを用いて広報を行う。地域からの要請に応じて、視察の受け入れを行う。	大学ウェブサイトを通じた広報活動に取り組んでいる。 また、教員スタッフによるメディア対応や地方議会の視察を受け入れを行った。	B	ホームページを用いて広報を行う。地域からの要請に応じて、視察の受け入れを行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ. 社会貢献・ボランティア支援センターにおいて、地域からの依頼に応える学生ボランティアの派遣やボランティアサークル活動の支援を行い、地域の保健・福祉の向上等に繋がる取組を積極的に推進する。	利用者（センター等の利用者や研修等の参加者）満足度	満足度70%以上	学生のボランティアコーディネート及び支援を実施するとともに、学生を対象としたボランティア研修を実施する。	外部団体の登録件数は281件となり、155件のボランティア依頼情報を学生に提供し、延べ1234名の学生が活動に参加した。延べ653名の学生相談に応じた。 学生を対象としたボランティア研修を実施した。5月28日に白杖・車いす体験研修(3名参加)を実施し、12月17日に認知症サポーター養成研修(10名参加)を実施した。	B	引き続き学生のボランティアコーディネート及び支援を実施するとともに、学生を対象としたボランティア研修を実施する。 外部機関等との連携を促進し、新たなボランティア活動の機会開拓を促進する。
エ. 心理教育相談室において、地域住民等を対象とした相談や支援する取組を推進する。			地域住民等を対象とした相談や支援を行う。	臨床心理面接を実施した。 公開講座「マインドフルネス」を実施した(8月7日:64名参加)。 「お父さんとお母さんの学習室」:春季コース(4~7月:10回)を開催し、3名が参加した。秋季コース(10~2月:10回)を開催し、1名が参加した。前年度秋季参加者の6か月フォロー(7月)と今年度春季参加者の3ヶ月フォロー(10月)を実施し、各3名が参加した。今年度春季参加者の6か月フォロー(3月)を実施し、2名が参加した。	B	地域住民等を対象とした相談や支援を行う。

Ⅳ 業務運営及び財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）	
1. 戦略的な大学運営の推進 社会の課題に的確に対応するため、理事長のリーダーシップの下、大学の教育研究組織、経営状況等を検証・改善しつつ、大学の特色を生かし、価値の向上に繋げる戦略的・機動的な運営、人材の確保・育成を行うとともに、意欲的に他の大学等と連携し、多様な教育研究を効果的に推進する。併せて、社会的信頼性を確保するために、公立大学ガバナンス・コードの基本原則に沿った大学運営体制の構築を目指すとともに、業務の執行における法令遵守及び効率性の確保並びに内部統制の整備及び内部統制システムの継続的な見直しを行うことにより、ガバナンスを強化し、コンプライアンスを徹底するとともに、リスク管理の実効性を高める。	

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)大学の教育研究組織、経営状況等の検証・改善【18】	旧生涯福祉研究センターについては、建物の老朽化により内部の床が抜けるなど立ち入りが危険な状態にあったが、解体に多額の費用を要することなどから立入禁止措置をとったまま10年以上未利用の状態が続いていた。一方、不登校・ひきこもりサポートセンターについては、現在の施設が中高生の不登校対応向けの施設構造（教室形式）となっており、小学生の不登校が急増する中、小学生の不登校対策に必要な施設等が不足していたことから、小学生の不登校に特化した施設整備が求められていた。 この課題の解消を図るため、福岡県と協議を重ねてきたが、令和7年度に福岡県の支援を得て、不登校・ひきこもりサポートセンターの増築を前提とした建物解体に着手することとなった。 このように、本学の長年の懸案を解消するとともに、本学の強みである不登校・ひきこもりサポートセンターの機能強化を図ることにより、本学ハード資源の有効活用が図られることとなった。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
社会の課題に的確に対応するため、学内組織や学内資源の配分について検証を行う。また、第4期中期計画の執行に必要な組織体制を検討し、必要に応じ、見直し等を実施する。	学内組織や学内資源の配分の検証、検討及び見直し	令和7年度までに検証・検討を行い、必要に応じて速やかに見直しを行う。	以下の課題解決に向け、引き続き、改革推進委員会作業部会において検討を行う。 1 旧生涯福祉研究センター（遊休土地）の有効活用 2 不登校・ひきこもりサポートセンターの機能強化	1 旧生涯福祉研究センターについて建物の解体工事に着手した。 2 解体後の施設について、福岡県と協議した。	A	1・2 旧生涯福祉研究センター跡地に不登校・ひきこもりサポートセンターの別館を建設し、ハード面の充実を図る。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(2)戦略的・機動的な運営に必要な人材の確保・育成【19】	急速な少子化に伴い18歳人口が減少する中、本学の使命、目的を達成するためには、教員と主に職員の能力の発揮が必要であり、専門的人材の確保とともに、現在の職員の資質向上が欠かせないことから、“求める職員像”、“キャリアパス”、“具体的な人事方針”からなる、「公立大学法人福岡県立大学職員人事方針」を目標よりも早期に策定することができた。 さらに、職員人事方針を実効性のあるものにするため、対象職員に対する説明会を実施するとともに、人事異動等に対する職員の意見や資質向上のための職員研修の要望など様々な意見を聞き取った結果、当該方針について、職員の理解を深めることができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 教員の個人業績評価システムを検証し、改善に向けた検討を行う。	教員個人業績評価システムの検証及び改善に向けた検討の実施	令和7年度までに検証を行い、必要に応じて令和8年度に改正	達成目標を前倒しして令和6年度中に改正を終えたが、さらに必要に応じて新制度について周知する。	令和7年度採用の教員に対し、個別に制度の周知を行った。	B	令和8年度に実施する令和7年度の教員個人業績評価から新制度となるため、新制度の定着を図るとともに、必要に応じて更なる改善に向けた検証を行う。
イ. 大学運営の専門的人材を確保するため、新規採用や職員配置等の職員人事方針を策定する。	職員人事方針の策定	令和8年度末までに策定	職員人事方針策定の検討を行う。	令和7年8月に「公立大学法人福岡県立大学職員人事方針」を策定し、対象職員に対する説明会を令和7年8月22日及び8月25日に実施し、内容に関する周知を行った。 また、説明会後に実施したアンケートで要望があった職員研修を令和7年12月23日に実施した。	A	新規採用職員のオリエンテーションで周知する等、令和7年度に策定した職員人事方針の定着を図る。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(3)ガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底及びリスク管理【20】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 理事長と学長の責務・役割を明確にする。	法人規程等について、点検を行い、理事長と学長の役割を明確化し、必要に応じた規程等の改正	令和7年度までに点検、改正	必要に応じて改正を行う。	全ての法人規程等について点検を行い、理事長と学長の役割の明確化のために必要な改正を行った。	B	規程等の改正により明確になった理事長と学長の役割を、各業務の中で浸透させていく。
イ. 法令遵守等の徹底及び意識醸成に係る啓発及び研修等を実施する。	啓発、研修の実施(人権、LGBT等)	毎年度1回以上	法令遵守等の徹底については、随時県からの通知文を部局長会議で報告し教授会等で周知を行う。 研修会を開催する。	法令遵守等の徹底については、随時県からの通知文を部局長会議で報告し、教授会等で周知を行った。 田川郡人権・同和対策推進協議会主催の研修に参加 前期研修: 令和7年7月7日、7月8日 後期研修: 令和8年1月8日、1月20日 人権委員会主催の人権研修: 令和8年2月16日実施	B	引き続き、法令遵守等の徹底及び研修を実施していく。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ.学内の防災、防犯、情報セキュリティ等の危機管理について、検証・改善を行う。	危機管理マニュアル等の点検と見直し	毎年度1回以上	福岡県立大学危機管理基本マニュアル等について点検と見直しを行う。	福岡県立大学危機管理基本マニュアルについて、11月25日に改正を行った。	B	引き続き、危機管理マニュアル等の点検を行い、必要な見直しを行う。
	防災訓練、防犯講習会、情報セキュリティ講習会の実施	毎年度各1回以上	防災訓練(学生寮合同消防訓練・学内消防訓練)、防犯講習会及び情報セキュリティ講習会を開催する。	防災訓練 学生寮合同消防訓練(5月28日実施) 学内消防訓練(11月11日実施) 防犯講習会 ＜新入生対象＞(4月9日実施) ※薬物乱用防止講習会をあわせて実施。 ＜2年生対象＞(4月4日実施) 情報セキュリティ講習会 情報セキュリティ講習会について、3月30日に開催した。	B	引き続き、防災訓練、講習会等を行う。

項目別の状況（中期計画項目）
2. 業務の効率化及び財政基盤の強化 思い切った業務の見直しやデジタル化を進め、生産性向上、業務の変革に繋げることにより、経費の抑制を図る。また、付加価値の高い教育研究サービスを提供するため、適切な料金の設定、外部資金の獲得等を行うとともに、大学の多様な人的・物的資源を活用して自己収入を確保する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)業務の見直しやデジタル化による経費の抑制【21】	・新教務システム 従前の教務システム(CARE教務)は、導入から約20年が経過し、システム自体の陳腐化(機能が低い、使い勝手が悪い等)が見られたことから、令和4年度からワーキンググループを立ち上げ、既存システムのリプレースの検討を行ってきた。複数の教務システムから、本学に合ったシステム選定、必要なカスタマイズ、学内調整やシステム導入業者と構築に係る協議を行い、目標よりも早い、令和8年度から新システムを稼働させることができた。これにより、教職員の業務効率化及び学生の利便向上を図ることができた。 ・庶務事務システム(しょむナビ) 従来、手作業(紙処理)を行っていた、服務管理(勤怠、年休取得等)及び出張命令について、業務の効率化等を図るため、令和5年度からシステムの導入検討を開始した。本学に合ったシステム選定、必要なカスタマイズ、学内調整やシステム導入業者と構築に係る協議を行い、達成目標よりも早い、令和7年4月に一部機能(出勤管理、服務管理)の運用を開始、令和7年10月に出張命令の機能を追加し、本格稼働させた。これにより、書類作成時間の削減、エラーチェック機能による申請誤り及びエラーチェック作業の減少等、業務の効率化を図ることができた。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 費用対効果を主眼に更なる業務のデジタル化等の可能性を検討する。	既存業務のシステム導入及び既存システムのリプレースの検討	令和8年度までに検討を完了する。	新教務システムの令和8年度の導入に向けて、システム導入業者と構築に係る協議を行う。	新教務システムの令和8年4月からの稼働に向け、システム導入業者と構築に係る細部の協議・検討を行った。 12月に学生向け説明会、1月に教員向け説明会を行った。 令和7年度末までにシステム構築作業を完了した。	A	新教務システムの安定運用を行う。
イ. 業務の見直し、アウトソーシング等を行い、経費を抑制する。	既存業務の見直し及び設備更新の実施	令和8年度までに検討を行い、順次実施する。	令和7年度のできるだけ早い時期に出張システムの運用を開始する。	出勤登録・服務管理・出張機能を備えた庶務事務システムを導入し、事務手続きの電子化を行った。	A	導入したシステムの改修を行い、作動にかかる時間を短縮する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果					
(2)財政基盤の強化 【22】						
実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 科学研究費の応募を積極的に促すための説明会等の開催、本学研究者の専門分野等を積極的に発信することにより、科学研究費、受託研究費等を積極的に獲得する。	外部資金(科研費、受託研究、寄付金等)獲得額	毎年度5千万円以上	外部資金を5千万円以上獲得する。	外部資金獲得金額 42,436千円	C	引き続き、外部資金を5千万円以上獲得する。
	科研費応募説明会の開催	毎年度1回以上	令和8年度科研費応募説明会を実施する。	令和7年7月30日に説明会を実施した。	B	科研費応募説明会を実施する。
	本学研究者の専門分野等の活動、紹介について、ウェブサイト等での広報の実施	毎年度1回以上	大学ウェブサイト内に各学部毎に教員紹介のページを設けて、いつでも本学研究者の専門分野等について確認できる体制を整える。	大学ウェブサイト内に各学部毎に教員紹介のページを設け、本学研究者の専門分野等について確認できるよう掲載している。	B	大学ウェブサイト内の教員紹介のページについて更新を行い、最新の情報を発信する。
イ. 学内施設等の外部への貸し出し等を積極的に行うとともに、寄宿舍使用料等の適正な設定について、必要に応じ見直しを行う。	施設貸出について、ウェブサイト等を活用した、広報の実施	毎年度1回以上	利用者からの意見を聞く仕組みをつくり、ウェブサイトへの反映を検討する。	利用者からの意見を聞くために、ウェブサイトへ総務財務班のメールアドレスを記載した。 また、毎年度当初に大学HPの「新着情報」に「施設貸出のご案内」を掲載することとし、併せて「地域の方へ」のページに施設貸出に係るリンクを設けた。	B	引き続き、ウェブサイトを活用した施設貸出の広報を行うとともに、利用者からの意見が寄せられた場合は真摯に対応していく。
	寄宿舍使用料等の見直しを検討し、必要に応じて適宜実施	令和7年度までに検討を行い、必要に応じて速やかに見直しを行う。	寄宿舍使用料等の見直しを行う。 学内施設の利用料金について、収集した情報を基に適正な設定価格を検討する。	寄宿舍使用料について検討を行い、令和8年4月に使用料改定を実施した。 なお、学内施設の利用料金について、他大学、近隣施設等の利用料金と本学の利用料金を比較検討した結果、適正な料金であり見直しは行わないこととした。	B	引き続き、物価情勢や地域の状況について情報収集を行い、適正な料金設定を行っていく。

V 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

項目別の状況（中期計画項目）
1. 自己点検・評価 内部質保証システムを機能させ、適正に自己点検・評価を行うとともに、第4期中期計画の達成に向け、適切に進捗管理を行う。また、その評価結果及び第三者評価の結果を活用し、教育研究及び大学運営の改善、充実を推進する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)内部質保証システムの充実・強化【23】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ア. 内部質保証に関する部局間の役割分担や連携方法をより明確にするとともに、学内で保有する各種データや調査結果等を必要に応じて随時共有・活用できるOODAループの仕組みを作ることにより、内部質保証システムを効果的に運用する。	各種データ等の共有・活用の仕組みの構築	令和8年度末までにデータ等を共有・活用する仕組みを構築し、令和9年度から試行運用を開始する。	内部質保証に関する部局間の役割分担や連携方法についての現状と課題を整理する。また、その結果をもとに学内で保有する各種データの共有・活用の仕組みのあり方を検討する。	学内で保有するデータの種類・内容と保有部局を把握するため、調査項目等の検討を行った。また、内部質保証に関するWebセミナー（7月11日）に参加し、内部質保証の方法や視点について情報収集を行った。一般財団法人大学教育質保証・評価センター主催の第2回質保証研究会（12月24日）に参加した。以上を踏まえて、データ共有・活用の仕組みについて検討中である。	B	学内で保有するデータ等を共有・活用する仕組みを構築する。
イ. 第4期中期計画の達成に向け、体制を整備するとともに、適切に進捗管理を行う。	第4期中期計画の達成に向けた体制整備と進捗管理	令和6年度中に体制を整備し、毎年度1回以上進捗管理を行う。	第4期中期計画の達成に向け、令和7年度の進捗管理を行う。	令和7年度の進捗状況管理のため、9月3日および12月16日、2月17日にIRサイクル総合会議を開催した。	B	引き続き計画通りの取組を行う。

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
ウ. 大学運営に関わる各種事項について現状を把握したうえで継続的に自己点検・評価を行い、結果を公表する。また、令和10年度に大学機関別認証評価を受審し、結果を公表することにより、第4期中期計画期間中の自己評価及び外部評価結果を学内で共有する。以上の評価結果から今後の課題を検討し、経営陣を含めた学内組織全体で大学運営を改善する。	アニュアルレポート発行	毎年度1回	令和6年度アニュアルレポートを発行する。	令和6年度アニュアルレポートを3月に発行した。	B	令和7年度アニュアルレポートを発行する。
	自己点検・評価セミナーの開催	毎年度1回以上・自己点検・評価に関する学内セミナーの開催	自己点検・評価に関する学内セミナーを開催する。	全国学生調査、ガバナンスコード、認証評価ロードマップに関して第1回大学改革セミナーを実施した(11月5日)。法人評価委員会視察、新アセスメント・プランに関して第2回大学改革セミナーを実施した(2月4日)。	B	自己点検・評価に関する学内セミナーを開催する。

項目別の状況（中期計画項目）
2. 情報公開・情報発信 大学情報を積極的に公開し、公立大学法人としての説明責任を果たすとともに、大学の活動状況を効果的に情報発信してプレゼンスを向上させ、県民及びステークホルダーの理解・支持を獲得する。

実施事項	年度の特に優れた実績や成果
(1)積極的な情報公開及び情報発信の実施【24】	

実施事項の内容	評価指標	達成目標	令和7年度の課題・取組予定	年度の評価指標の達成状況等	自己評価	次年度の課題・取組予定
教育、研究、地域貢献、業務運営及び財務内容、自己点検・評価に関する大学情報を積極的に公開し、公立大学法人としての説明責任を果たすと同時に、地域社会にとって有益な情報を積極的に発信することにより、県民やステークホルダーの理解・支持を得よう努める。	ウェブサイト等における大学情報の公開及び県民・ステークホルダー向けの情報発信	毎年度50回以上	地域社会にとって有益な情報について公開する。	大学ウェブサイト内において、イベント11件、お知らせ39件、公告28件、入試21件、その他3件 計102件(令和8年3月末時点)の情報更新および掲載を行った。	B	ウェブサイト等における大学情報の公開及び県民・ステークホルダー向けの情報発信を積極的に行う。

特記事項

【今年度実績】

- ①令和7年8月に学校法人嶋田学園飯塚高等学校と連携教育に関する協定を締結し、本学の授業を履修することで事前修得単位として認定する仕組みを整えた。
- ②令和7年度から授業『One Health』をフルオンデマンド形式にて新規開講し、291名の学生が履修した。
- ③令和7年度福岡県ワンヘルス教育実証事業に参加し、授業実践等の効果を検証した。
- ④附属図書館本館に整備したラーニング・コモنزの運用を開始するとともに、空調やICT環境の充実を図り、学修環境整備に関する目標を前倒しで達成した。
- ⑤福岡県国民健康保険団体連合会とのデータ分析に関する共同研究事業について、令和5年度から令和7年度までの3年間にわたる研究成果が評価され、事業期間が令和10年度まで延長されることとなった。
- ⑥不登校の子どもたちが心の癒しや安らぎを得られることを目的に、令和8年2月18日13:30～14:30（場所：ラーニングコモنز）にてドッグセラピーを実施することができた（参加人数：小学生3名、中学生3名、保護者2名、学部生2名）。

2025（令和 7）年度

教育・研究・社会貢献活動一覧

福岡県立大学

【 凡 例 】

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、２０２５（令和７）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、２０２６（令和８）年３月の時点で、１人あたり２頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己ＰＲとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去３年間分を記載している＜２０２３（令和５）年度～２０２５（令和７）年度＞。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、２０２５（令和７）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、２０２５（令和７）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、２０２５（令和７）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として２０２５（令和７）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、２０２５（令和７）年度の状態を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、２０２５（令和７）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けの場合はここに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、２０２５（令和７）年度の状態を記載している。

<目 次>

【掲載順】

両学部、各センターともに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

〈人間社会学部〉

1 教授	池田	孝博	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 教授	石崎	龍二	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3 教授	岩橋	宗哉	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
4 教授	上野	行良	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
5 教授	岡本	雅享	・・・・・・・・・・・・・・・・	10
6 教授	小嶋	秀幹	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
7 教授	佐野	麻由子	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
8 教授	杉野	寿子	・・・・・・・・・・・・・・・・	18
9 教授	Stuart	Gale	・・・・・・・・・・・・・・・・	21
10 教授	住友	雄資	・・・・・・・・・・・・・・・・	24
11 教授	堤	圭史郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	26
12 教授	藤澤	健一	・・・・・・・・・・・・・・・・	29
13 教授	本郷	秀和	・・・・・・・・・・・・・・・・	31
14 教授	村山	浩一郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	34
15 教授	森脇	敦史	・・・・・・・・・・・・・・・・	37
16 教授	吉岡	和子	・・・・・・・・・・・・・・・・	39
17 准教授	池	志保	・・・・・・・・・・・・・・・・	42
18 准教授	伊勢	慎	・・・・・・・・・・・・・・・・	45
19 准教授	井上	奈美子	・・・・・・・・・・・・・・・・	48
20 准教授	奥村	賢一	・・・・・・・・・・・・・・・・	50
21 准教授	河本	恵美	・・・・・・・・・・・・・・・・	53
22 准教授	河野	高志	・・・・・・・・・・・・・・・・	55
23 准教授	小山	憲一郎	・・・・・・・・・・・・・・・・	57
24 准教授	坂無	淳	・・・・・・・・・・・・・・・・	60
25 准教授	柴田	雅博	・・・・・・・・・・・・・・・・	63
26 准教授	田尾	真一	・・・・・・・・・・・・・・・・	65
27 准教授	寺島	正博	・・・・・・・・・・・・・・・・	67
28 准教授	董	秋艶	・・・・・・・・・・・・・・・・	70
29 准教授	中村	晋介	・・・・・・・・・・・・・・・・	72

30 准教授	松岡	佐智	・ ・ ・ ・ ・	74
31 准教授	麦島	剛	・ ・ ・ ・ ・	76
32 准教授	鷺野	彰子	・ ・ ・ ・ ・	79
33 講師	黒川	すみれ	・ ・ ・ ・ ・	82
34 講師	小林	亮太	・ ・ ・ ・ ・	85
35 講師	櫻井	晋伍	・ ・ ・ ・ ・	87
36 講師	菅原	航平	・ ・ ・ ・ ・	89
37 講師	畑	香理	・ ・ ・ ・ ・	92
38 講師	宮原	和沙	・ ・ ・ ・ ・	95
39 助教	岡本	浩美	・ ・ ・ ・ ・	98
40 助教	古賀	なな子	・ ・ ・ ・ ・	100
41 助教	二見	妙子	・ ・ ・ ・ ・	103
42 助手	佐藤	繁美	・ ・ ・ ・ ・	106

〈看護学部〉

1 教授	石田	智恵美	・ ・ ・ ・ ・	108
2 教授	江上	千代美	・ ・ ・ ・ ・	110
3 教授	尾形	由起子	・ ・ ・ ・ ・	113
4 教授	杉浦	和子	・ ・ ・ ・ ・	116
5 教授	田吹	香子	・ ・ ・ ・ ・	120
6 教授	波止	千恵	・ ・ ・ ・ ・	122
7 教授	福田	和美	・ ・ ・ ・ ・	124
8 教授	松浦	賢長	・ ・ ・ ・ ・	127
9 教授	村方	多鶴子	・ ・ ・ ・ ・	130
10 准教授	加藤	法子	・ ・ ・ ・ ・	132
11 准教授	四戸	智昭	・ ・ ・ ・ ・	134
12 准教授	田中	美樹	・ ・ ・ ・ ・	136
13 准教授	富崎	ゆかり	・ ・ ・ ・ ・	139
14 准教授	中井	裕子	・ ・ ・ ・ ・	141
15 准教授	原田	直樹	・ ・ ・ ・ ・	143
16 准教授	三浦	由紀子	・ ・ ・ ・ ・	146
17 准教授	山下	清香	・ ・ ・ ・ ・	149
18 准教授	山田	美幸	・ ・ ・ ・ ・	152
19 准教授	吉田	静	・ ・ ・ ・ ・	154
20 講師	於久	比呂美	・ ・ ・ ・ ・	157

21 講師	小野	順子	・ ・ ・ ・ ・	159
22 講師	梶原	由紀子	・ ・ ・ ・ ・	162
23 講師	小出	昭太郎	・ ・ ・ ・ ・	165
24 講師	塩田	昇	・ ・ ・ ・ ・	167
25 講師	手島	聖子	・ ・ ・ ・ ・	169
26 講師	野田	優子	・ ・ ・ ・ ・	171
27 講師	藤野	靖博	・ ・ ・ ・ ・	173
28 講師	宮本	いずみ	・ ・ ・ ・ ・	175
29 講師	村田	和子	・ ・ ・ ・ ・	178
30 講師	安永	薫梨	・ ・ ・ ・ ・	180
31 助教	猪狩	崇	・ ・ ・ ・ ・	182
32 助教	植田	愛	・ ・ ・ ・ ・	184
33 助教	江崎	千尋	・ ・ ・ ・ ・	186
34 助教	笹山	万紗代	・ ・ ・ ・ ・	188
35 助教	清水	夏子	・ ・ ・ ・ ・	189
36 助教	新	友子	・ ・ ・ ・ ・	191
37 助教	田原	千晶	・ ・ ・ ・ ・	193
38 助教	中村	美穂子	・ ・ ・ ・ ・	195
39 助教	平塚	淳子	・ ・ ・ ・ ・	198
40 助教	廣瀬	理絵	・ ・ ・ ・ ・	200
41 助教	松山	美幸	・ ・ ・ ・ ・	202
42 助教	村上	香織	・ ・ ・ ・ ・	204
43 助教	山口	馨子	・ ・ ・ ・ ・	207
44 助教	吉田	麻美	・ ・ ・ ・ ・	209
45 助手	石田	祐子	・ ・ ・ ・ ・	212
46 助手	大場	美緒	・ ・ ・ ・ ・	214

〈基盤教育センター〉

46 教授	芋川	浩	・ ・ ・ ・ ・	216
-------	----	---	-----------	-----

〈看護実践教育センター〉

47 助教	佐多	愛子	・ ・ ・ ・ ・	219
48 助手	深津	紘一	・ ・ ・ ・ ・	221

人間社会学部／こどもコース	職名	教授	氏名	池田孝博
---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了（体育学修士）、應義塾中等部（教諭）、佐賀短期大学（准教授）を経て、2009.4 本学着任 2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了（博士（スポーツ健康科学）） 2017.4 福岡県立大学大学院人間社会科学研究科子ども教育専攻 特別研究担当教員 2023.10 鹿屋体育大学連携大学院 客員教授
 発育発達学、体育・スポーツ測定評価学、スポーツ統計学

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 池田孝博・伊勢慎・原友紀，卒業生との連携による保育者養成校におけるキャリア支援の実践．福岡県立大学人間社会学部紀要，34(2)：115-124.
- 池田孝博・中原雄一・青柳領，KDB システムのレセプト情報に関する性差および地域差 ―福岡市・北九州市および筑豊地域の比較―．福岡県立大学人間社会学部紀要，34(1)：135-146，2025.
- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第1報）―業務内容の現状分析―．福岡県立大学看護学部紀要，20：9-20，2023.
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博，入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働（第2報）―協働の現状と課題―．福岡県立大学看護学部紀要，20：21-32，2023.
- 井手裕子・伊勢慎・池田孝博，保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：17-33，2023.
- 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博，新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：85-93，2023.
- 池田孝博，福岡県立大学生ドイツ派遣に関わる事前調査報告．福岡県立大学人間社会学部紀要：31(2)：95-107，2023.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 池田孝博・青柳領，剣道のスコア分析に基づく年代・ポジションと試合内容の関連．日本武道学会第58回大会（法政大学），2025.
- 池田孝博・中原雄一・青柳領，福岡県 KDB システムのレセプト件数・医療費における特徴的属性．九州体育・スポーツ学会第74回大会（佐賀大学），2025.
- 池田孝博・中原雄一・青柳領，福岡県 KDB システムのレセプト件数・医療費の加齢変化および関連要因：福岡市・北九州市・筑豊地域の 2022 年度のデータから．日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会（日本体育大学），2025.
- 池田孝博・前田英樹，スポーツサーフェイスについて考える：剣道場を事例として．九州体育・スポーツ学会第73回大会（長崎大学），2024.
- 池田孝博・中原雄一，福岡県 KDB システム・データのレセプト分析に基づく子どもの疾病の特徴：

福岡市・北九州市および筑豊地域の比較から. 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会 (福岡大学), 2024.

- ・ 池田孝博, 大学生の中高時代の部活動経験とスポーツの重要度の関連. 九州体育・スポーツ学会第 72 回大会 (J:COM ホルトホール大分), 2023.
- ・ 池田孝博, 英国及び米国の剣道実践者による稽古環境のサーフェイスに関する評価. 日本武道学会第 56 回大会 (大阪教育大学), 2023.
- ・ Ikeda, T., An investigation into the effect of play upon the development of social skills and engagement in physical activity among Japanese children aged 10–12. 28th Congress of the European College of sport science (ECSS), 2023.
- ・ Ikeda, T. and Aoyagi, O., Investigating the motivational factors and preferences affecting attitudes toward physical activity and physical education among South Korean and Japanese children in late childhood. Korean Conference of Growth and Development (Chosun University), 2023. Invited Lecture

③過去の主要業績

- ・ 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領, 剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連. 武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement 5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

5. 所属学会

日本体育・スポーツ・健康学会, 日本発育発達学会, 日本武道学会 (理事、九州支部・支部長), 日本武道学会剣道分科会, 九州体育・スポーツ学会, The European College of sport science (ECSS : ヨーロッパスポーツ科学会), 韓国発育発達学会 (理事)

6. 担当授業科目

<学 部> 健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期, 体育Ⅰ・1単位・2年・通年, 体育Ⅱ・1単位・3年・通年, 幼児と健康・2単位・3年・前期、保育内容の指導法・健康・2単位・3年・後期, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

<大学院> 教育課題研究 B・2単位・1年・後期, 子ども教育研究法Ⅰ・2単位・1・2年・前期, 子ども教育研究法Ⅱ・2単位・1・2年・後期, 特別研究Ⅰ・Ⅱ・4単位・1-2年, 地域教育課題演習・1単位・2年・前期, 子ども教育実践実習Ⅰ・1単位・1年・後期, 子ども教育実践実習Ⅱ・1単位・2年・前期

10. 今年度の自己評価

教育においては、保育者養成の専門教育において、学外授業を取り入れた教育実践を行った。研究においては大学が協定している福岡県 KDB システムのデータを活用した研究成果を日本体育・スポーツ・健康学会、九州体育・スポーツ学会において公表した。

人間社会学部／ 総合人間社会コース・地域社会コース	職名	教授	氏名	石崎 龍二
------------------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然および社会における複雑現象を対象に、数理モデルに基づくシミュレーションと統計解析を行っています。特に、非平衡系に現れるカオスや散逸構造の統計的性質について、理論および数値の両面から研究を進めています。博士（理学）の学位を取得しており、主な研究テーマとして、①非定常時系列における異常検知の手法開発、②カオスや乱流における拡散現象の解析、③物理学の視点・手法を用いた経済現象の解明に取り組んでいます。非線形科学の観点から、大規模・高次元データの統計解析を取り入れ、高度な数理モデルの構築と新たな統計的手法の開発を行い、その成果を社会科学への応用へと展開することを目指しています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 石崎龍二 「国保データベース（KDB）を用いた生活習慣病関連医療費の地域差分析—福岡県における9年間（2016～2024年度）の医療費からみた地域差指数（RDI）—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第34巻第2号, pp. 65-76, 福岡県立大学, 2026年3月.
- ・ 石崎龍二, 寺島正博, 廣田久美子 「福祉施設における支援機器・介護ロボット・情報システム導入実態と開発ニーズ—介護イノベーションに向けた包括的実証調査—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第34巻第1号, pp. 1-16, 福岡県立大学, 2025年10月.
- ・ 寺島正博, 廣田久美子, 石崎龍二 「特別支援学校高等部における情報教育と就職支援の実態に関する調査研究 —全国質問紙調査の結果から—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第34巻第1号, pp. 57-68, 福岡県立大学, 2025年10月.
- ・ 石崎龍二, 藤澤健一, 佐藤繁美 「情報通信技術を活用した教育実践の問題意識を育む—教職課程における運営の工夫—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第34巻第1号, pp. 101-108, 福岡県立大学, 2025年10月.
- ・ Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, “Exploring the Self-Exciting Dynamics of Financial Time Series: Modeling Extreme Fluctuations with the Hawkes Process”, Journal of the Physical Society of Japan, Vol. 94, 044801, 2025.
- ・ 石崎龍二 「国保データベース（KDB）システムの特定健康診査データに基づく地域差分析—2022（令和4）年度の福岡県市区町村を対象として—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第33巻第2号, pp. 125-136, 福岡県立大学, 2025年3月.
- ・ 寺島正博, 廣田久美子, 石崎龍二 「特例子会社における障害者支援 ICT システムの現状と課題—全国アンケート調査による管理者と一般職員の認識の違いを中心に—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第33巻第2号, pp. 33-40, 福岡県立大学, 2025年3月.
- ・ Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, Kazuhiro Fukushima, “Time series analysis and stochastic processes modeling using explosive eruption data from Japan’s Sakurajima volcano”, Physica A: Statistical Mechanics and its Applications, Vol. 659, 130313, 2025.
- ・ 石崎龍二 「国保データベース（KDB）システムを活用した疾病別医療費の地域差分析—2022（令和4）年度の福岡県市区町村を対象として—」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第33巻第1号, pp. 95-105, 福岡県立大学, 2024年10月.

- Ryuji Ishizaki, Masayoshi Inoue, “Short-term Kullback-Leibler divergence analysis to extract unstable periods in financial time series”, *Evolutionary and Institutional Economics Review*, Vol. 21, pp.227-236, 2024.
- 石崎龍二, 寺島正博, 廣田久美子「高齢者通所介護事業所における福祉関連機器・用具の現状と課題ーA 県における質問紙調査によるニーズと課題の分析ー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 32 巻第 2 号, pp. 71-83, 福岡県立大学, 2024 年 3 月.
- 藤澤健一, 石崎龍二, 佐藤繁美「教育委員会との連携を通じた教育方法と情報通信技術にかかわる学生支援」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 32 巻 2 号, pp. 97-104, 福岡県立大学, 2024 年 3 月.
- 石崎龍二「福岡県立大学人間社会学部における「プログラミング概論」の教育効果（2022 年度）ー Python と JavaScript の基礎的なスキル習得と授業形式の比較ー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 32 巻第 1 号, pp. 21-35, 福岡県立大学, 2023 年 10 月.
- 藤澤健一, 石崎龍二, 佐藤繁美「教育方法と情報通信技術にかかわる教員養成の取り組みー教職課程コアカリキュラムと本学における実践ー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 32 巻第 1 号, pp. 109-118, 福岡県立大学, 2023 年 10 月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 石崎龍二, 井上政義「金融時系列の大変動に対する自己励起型モデルによる連鎖構造と混乱期挙動」日本物理学会 2026 年春季大会（オンライン開催）, 2026 年 3 月.
- 石崎龍二, 井上政義, 福島和洋「火山噴火および火山性地震活動の自己励起・相互励起構造」日本物理学会 2026 年春季大会（オンライン開催）, 2026 年 3 月.
- 石崎龍二「生活習慣病医療費の地域分布にみる分布特性と生成構造」第 5 回計算社会科学大会（クリエート浜松）, 2026 年 3 月.
- 石崎龍二, 井上政義, 福島和洋「複数火山における火山活動の自己励起性の比較解析」第 131 回日本物理学会九州支部例会（崇城大学）, 2025 年 12 月.
- 石崎龍二「生活習慣病医療費の地域差にみる分布特性と変動構造」2025 年度 MIMS 現象数理学研究拠点共同研究集会「社会物理学とその周辺」（対面とオンライン開催）, 2025 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義, 福島和洋, “Application of Self-Exciting Point Process Models to Multiple Volcanoes”, *Dynamics Days Kagoshima 2025*（鹿児島大学）, 2025 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義「金融時系列における自己励起型モデルを用いた混乱期の異常検知」MIMS 現象数理学研究拠点 共同研究集会「Data-driven mathematical Sciences: 経済物理学とその周辺」2025（対面とオンライン開催）, 2025 年 9 月.
- 石崎龍二, 井上政義, 福島和洋「火山噴火と火山性地震の自己励起点過程に基づく確率過程モデル解析」日本物理学会第 80 回年次大会（2025 年）（広島大学）, 2025 年 9 月.

③過去の主要業績

- 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998 年.
- Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, *Progress of Theoretical Physics*, Vol. 85 No. 5, pp. 1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金・基盤研究 (C) (研究代表者)、研究課題名「非定常時系列に対する異常判別・検知のための時系列解析法の開発と実証」(課題番号: 23K04290)、交付金額: 3, 250 千円、2023 年度～2025 年度.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会 (APS)、日本心理学会、日本公衆衛生学会、計算社会科学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、数学概論・2 単位・1 年・前期、情報科学・2 単位・1 年・後期、情報数学・2 単位・2 年・前期、プログラミング概論・2 単位・2 年・後期、データ処理とデータ解析 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期、データ処理とデータ解析 II・1 単位・3 年・後期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期、教育方法と情報技術・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

公益財団法人飯塚研究開発機構 筑豊地域医療・福祉関連支援委員会委員
田川市図書館協議会委員
一般財団法人田川広域観光協会役員

8. 学外講義・講演

「地域医療費の実態：福岡県内市区町村の疾病別医療費の比較と分析 (2016～2024 年度)」福岡県国民健康保険団体連合会と福岡県立大学によるデータ分析共同研究事業に関する研修会 オンデマンド (録画) 配信 (令和 8 年 2 月 2 日～令和 8 年 2 月 27 日)

9. 附属研究所の活動等

令和 7 年度研究奨励交付金データサイエンス研究「国保データベース (KDB) システムのデータに基づく疾病別医療費および特定健診の地域差分析」研究代表者

10. 今年度の自己評価

教育面では、全学横断型教育プログラム「データサイエンス・プログラム」において、教育内容の見直しと質の向上に取り組みました。研究面では、本学と福岡県国民健康保険団体連合会との業務協定に基づき、大規模データである KDB システムを活用したデータ分析を行いました。単年度データから複数年度データへと分析を発展させ、その成果を研究論文として発表しました。これらの取り組みにより、教育内容の改善と研究の深化の両面で一定の成果を得ることができたと考えています。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	教授	氏名	岩橋宗哉
---------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。教育学修士。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

(1) 主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。対象関係論的な観点から治療関係の中でクライアントの内的世界と転移を理解し、それをもとに治療的な関わりや理解の伝え方を検討することに最も関心がある。(2) 古事記や夏目漱石後期3部作などを神話や文芸作品を対象に精神分析的な観点からの検討を行なっている。また登場人物や作者の病跡学的な研究も行なっている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 岩橋宗哉『『行人』における漱石の探求と中断—男性が女性に与えた損傷への罪悪感とその回避を巡って—』日本病跡学雑誌 第110号 2025年12月
- ・ 岩橋宗哉『『彼岸過迄』の二人の主人公』日本病跡学雑誌 第106号 2023年12月
- <分担執筆>
- ・ 春日由美・五十嵐亮編「現場で役立つ教育相談入門」第12章第3節成人期の心理的不適応、第13章第1節心理療法の学派と心理療法. 2023年11月

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ シンポジウム「漱石の文学研究とパトグラフィとサルトグラフィ」
岩橋宗哉『『彼岸過迄』の二人の主人公』第70回 日本病跡学会総会 大阪 2023年7月
- <翻訳>
- ・ M.ホジャット・A.モイヤー「友人関係の心理学」 第12章 友人関係における侵害、赦し、報復
金子書房.東京.2024年2月

② 過去の主要業績

- ・ 岩橋宗哉『『彼岸過迄』須永の<内へとぐろを捲き込む性質>について：対象関係論の観点から』日本病跡学雑誌 第101号 2021年6月
- ・ 岩橋宗哉「対象との同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へ—よい対象との失われた共通基盤を求めて—」 福岡県立大学心理臨床研究 第7巻 2015年3月
- ・ 岩橋宗哉「『対象喪失』とその乗り越えに向かう神話としての古事記上巻（I）—「不在の現実」についての「見るな」の禁止から「居場所」の形成へ—」 福岡県立大学心理臨床研究 第5巻 2013年3月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会、日本病跡学会

6. 担当授業科目

(学部) 心理学的支援法・2単位・2年・後期、心理実習Ⅰ・1単位・通年、臨床心理学概論・2単位・3年・前期、心理演習・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、心理実習Ⅱ・1単位・3～4年、心理実習Ⅲ・1単位・3～4年、教育相談・2単位・4年・前期、卒業論文・6単位・4年・通年、(大学院) 臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年、臨床心理面接特論・2単位・1年2年・前期、臨床心理学特論・4単位・1年・通年(後期担当)、臨床心理実習・1単位・2年・通年、心理実践実習A・10単位・1～2年・通年、心理実践実習B・2単位・1～2年・通年、特別研究Ⅰ・4単位・1年・通年、特別研究Ⅱ・4単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・久留米大学病院精神神経科附属カウンセリングセンター 臨床心理士
- ・福岡県臨床心理士会 代議員
- ・田川市教育支援委員会 委員長
- ・日本病跡学会 理事

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

心理教育相談室 相談室委員

10. 今年度の自己評価

研究については、「＜行人＞における漱石の探求と中断―男性が女性に与えた損傷への罪悪感とその回避を巡って―」を日本病跡学会にて発表した。教育については、例年通り、講義・演習・実習を担当し、6名の卒業論文と1名の修士論文の指導を行なった。大学院の臨床指導であるスーパービジョンを今年度も数多く行なった。社会貢献では例年通り、久留米大学病院カウンセリングセンター臨床心理士、田川市教育支援委員会委員長等の心理臨床に関わる仕事に加えて、昨年度からの日本病跡学会理事を継続した。

今年度もこれまでと同様に活動できた。

人間社会学部	職名	教授	氏名	上野行良
--------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

(最終学歴：東京都立大学人文科学研究科博士課程心理学専攻単位取得退学 学位：文学修士)

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 上野行良 (2025)「わかりやすく伝えようプレゼンテーション」(「レポートの書き方入門'25」福岡県立大学)
- ・
- ・

② その他最近の業績

〈雑誌〉

- ・ 上野行良 (2023)「つらいなと思ったとき」医療労働, 664.
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 上野行良 (2006)「感情心理学」(山岡重行編著『サイコナビ 心理学案内』ブレーン出版)
- ・ 上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006)「非行の抑制要因と促進要因-福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書 V. 25.
- ・ 上野行良 (2003)「ユーモアの心理学—人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会、日本教育心理学会、日本グループダイナミックス学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

対人心理学・2単位・1年・前期、心理学概論・2単位・1年・前期、人格心理学・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、心理学研究法・2単位・2年・後期、演習（人間形成学科）・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、特別研究・4単位・修士1～2年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

国立病院機構九州グループ、国立病院機構岡山医療センター、小倉医師会、九州管区警察局、大分県警など

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

令和7年度は学部長としての職務と役割を優先しつつ、教育活動に影響が及ばないよう努めました。そのため、研究および社会貢献については最小限の取り組みとなりました。

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	岡本雅享
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies)でVisiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。2012年度から明治学院大学国際平和研究所（PRIME）研究員。

1989 年以来、在日コリアンを中心とするマイノリティ・ライツの研究・活動に従事してきた。国連 ECOSOC NGO での 3 年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。2000 年代後半から、明治以降の Nation Building の中で非ヤマト世界と位置付けられてきた出身地の出雲や東北のエミシ、南九州のクマソ＝ハヤトなどの視点から、同質社会幻想で覆われてきた日本人（国籍者）の内なる多様性を解き明かし、日本人意識の脱構築（マジョリティ意識の転換）とマイノリティ・ライツの保障による多文化主義の構築にかかる研究を試みている。また日系移民を通してみるハワイ社会の多様性、新たな原住民（先住民族）の承認や民族語の復権・維持を図る台湾、日本と同様、移民の増大に伴い、多文化社会へ移行しつつある韓国などの研究者との交流も続けてきている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ オカモト 마사タカ, 우에무라 히데아키, 구보 마코토, 박김 우기, 박군애 저자(글)・박용구, 문명재, 김경희, 김경옥, 오성숙, 이권희 번역『マイノリティ 권리—국제 규준의 형성과 일본의 과제』제이앤씨, 2026 年 02 월
- ・ Okamoto Masataka, The Hidden Diversity of the Japanese People: Deconstructing Japan's Nation Building Process, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 34 卷 1・2 号、2025 年 10 月、2026 年 3 月
岡本雅享・上村英明・窪誠・朴金優綺・朴君愛『マイノリティ・ライツ—国際規準の形成と日本の課題』現代人文社、2024 年 3 月（共著）
- ・ 岡本雅享「일본 Nation Building 의 탈구축—비(非) 야마토 민족 서발턴의 주체화 시도에 주목하면서」『일본연구（日本研究）』第 98 号、2023 年 12 月

②その他最近の業績

- ・ 岡本雅享「台湾における民族政策の現状と展望」中央大学政策文化総合研究所「ユーラシア諸国における政治変動と文化動態に関する比較研究」プロジェクト・チーム研究会「現代ユーラシアにおける政治変動と先住民族・少数民族の文化」招聘発表、2026 年 3 月 3 日、東京
- ・ 「マイノリティ・ライツと戦後日本の外国人政策」明治学院大学国際平和研究所主催国際シンポジウム「『マイノリティ・ライツ』とは何か」招聘講演、2026 年 2 月 21 日、東京
- ・ 岡本雅享編『福岡県内外の外国籍住民と多文化施策に関する調査』（2024 年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書）2025 年 3 月

- ・ 岡本雅享「日本のネーション・ビルディングで隠された多様性」韓国外国語大学校日本研究所第4回国際シンポジウム招聘講演、2023年6月10日、ソウル

③過去の主要業績

- ・ 『越境する出雲学ー浮かび上がるもう一つの日本』筑摩選書、2022年（単著）
- ・ 『民族の創出』岩波書店、2014年（単著）
- ・ 『中国の少数民族教育と言語政策』増補改訂版、社会評論社、2008年（単著）

3. 外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究C）「台湾の民主主義路線と民族政策ー大陸中国との差異化を図る中で」
2024～2028年、350万円、研究代表者

4. 受賞

5. 所属学会

日本平和学会、日本社会学会、移民政策学会、エミシ学会

6. 担当授業科目

政治学・2単位・1年・前期、国際政治学・2単位・1年・後期、多文化社会論・2単位・2年・前期、
東アジア関係史・2単位・2年・後期、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・
通年、社会調査実習・4単位・通年

7. 社会貢献活動

川崎町総合計画及び川崎町総合戦略推進委員会 委員長
田川市経営評価改革推進委員会 委員長
飯塚研究開発機構 理事

8. 学外講義・講演

岡本雅享「出雲を原郷とする人たち」くにたまの会総会記念講演会、出雲大社、2025年9月4日

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

研究代表者となった5年間の科学研究費補助金（基盤研究C）では台日原住民族国際フォーラムで発表（台北、2025年8月）、花蓮・台東県の原住民族実験小学校（6民族、6校）の訪問調査を行うなど、外部資金による研究活動を推進した。著書『マイノリティ・ライツ』が韓国で翻訳・出版され、明治学院大学、中央大学の研究所から講演に招かれるなど、国内外の学術活動に貢献した。

人間社会学部／心理コース	職名	教授	氏名	小嶋秀幹
--------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防教育に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法、教材開発に興味を持っている。近年は、演劇やゲームによる啓発教材作成に取り組み、福岡県内の自殺対策研修会等で実践している。その他、勤労者の精神保健、依存の心理、児童・思春期の精神保健（不登校・ひきこもり、自傷、虐待）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

保有学位：博士（医学）

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 矢野誉佳, 小嶋秀幹：介護施設職員の私的自己意識と自己調整学習, ワーク・ライフ・バランスの関連. 厚生の指標 ; 73 (3) : 1-6, 2026.
- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復の道筋を考えるすごろくゲームの開発、福岡県立大学心理臨床研究 17 ; 19 - 27, 2025.
- ・ 守口典行, 吉岡和子, 小嶋秀幹：老年期男性における年齢に応じた心理的適応方略の変化—国立大学農学部卒業者・国家公務員（農学系）退職者を対象にした調査、臨床心理学 24 (2) ; 224-234, 2024.
- ・ 小嶋秀幹：共生社会を考えるカードゲーム「色んな人の気持ち (somebody's feelings)」開発の試み. 福岡県立大学心理臨床研究 16 ; 17 - 25, 2024.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復までの道筋を考えるためのすごろくゲームの開発. 第 31 回日本産業精神保健学会（北九州）、2024 年.

② 過去の主要業績

- ・ 小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—. 自殺予防と危機介入 34 (1) ; 41-47, 2014.
- ・ 小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセスインタビュー内容の質的分析—. 日本社会精神医学会雑誌 22 (2) ; 92 - 105, 2013.
- ・ 小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—. 自殺予防と危機介入 32 (1) : 68-71, 2012.

<教材開発>

- ・ 小嶋秀幹：共生社会を考える (somebody's feelings) のブラウザゲーム教材. 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究助成成果物、2025 年. (<https://www.mediaimpact.co.jp/feelings/>)
- ・ 小嶋秀幹：うつ病になった勤労者の回復の道筋を考えるオンラインすごろく. 公益財団法人科学技術融合振興財団 2021 年度研究助成成果物、2024 年. (<https://www.mediaimpact.co.jp/hukushoku/>)
- ・ 小嶋秀幹：色んな人の気持ち (somebody's feelings) のカードゲーム教材. 公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究助成成果物、2024 年.

<その他>

- ・ 「北九州市職員の心の健康づくりのための計画（第四期）」評価及び「北九州市職員の健康づくりのための計画（第一期）」に向けて」調査報告書. 2025 年.
- ・ 医療観察法精神鑑定書 3 件、2025 年.

3. 外部研究資金

- ・ コミュニケーションロボットを使用した体験的なうつ病教育教材の開発と効果検証. 科学研究費基盤研究（C）、2024～2026 年、研究代表者、403 万円
小嶋秀幹：共生社会を考えるゲーム「色んな人の気持ち・somebody's feelings」の更なる実装化を目的とした研究. 中山隼雄財団委託研究、2024～2025 年、200 万
- ・ 小嶋秀幹、吉岡和子、古賀なな子：不登校傾向の児童生徒および支援者に対する、AI 技術を使用した個別最適なコミュニケーション支援方法の開発. 三菱総研 DCS 共同研究、2026 年、研究代表者、415,800 円

4. 受賞

- ・ 令和 7 年度精神保健福祉事業功労者福岡県知事表彰、2025 年 11 月 11 日

5. 所属学会

九州精神神経学会評議員・編集委員、日本精神神経学会精神科専門医

日本精神神経学会、日本臨床心理士会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本司法精神医学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、九州精神神経学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>精神保健学・2 単位・1 年・前期、不登校ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期（分担）、医学概論（人体の構造と機能および疾病）・2 単位・1 年・後期、心理実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、精神保健学Ⅰ・2 単位・2 年・前期、精神保健学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、公認心理師の職責・2 単位・2 年・後期（分担）、心理実習Ⅲ・1 単位・3-4 年・通年、演習・2 単位・3 年・通年、精神医学Ⅰ（精神疾患とその治療Ⅰ）・2 単位・3 年・前期、精神医学Ⅱ（精神疾患とその治療Ⅱ）・2 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年、知的障害者の心理・生理・病理・1 単位・1 年・後期集中（分担）

<大学院>臨床心理基礎実習 B・1 単位・1 年・通年、心理実践実習 A・10 単位・1-2 年・通年、心理実践実習 B・2 単位・1-2 年・通年、特別研究Ⅰ・4 単位・1 年・通年、保健医療分野における理論と支援の展開・2 単位・1 年・前期、臨床心理基礎実習 A・1 単位・1 年・前期、産業・労働分野に関する理論と支援の展開・2 単位・1 年・後期、特別研究Ⅱ・4 単位・2 年・通年

7. 社会貢献活動

福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員長、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、北九州市立「学びの多様化学校」の設置にかかる検討会議議長、北九州いのちの電話理事、嘱託産業医（北九州市、田川市）、嘱託医（ホームレス自立支援センター北九州、田川児童相談所）、産業医科大学医学部非常勤講師、措置入院鑑定医、心神喪失等医療観察法判定医

8. 学外講義・講演

- ・北九州市職員の心の健康づくりのための計画（第四期）の評価、北九州市衛生管理者研修、5月
- ・北九州市 飲酒運転撲滅に向け9月中にも新対策をまとめ公表へ、NHK 北九州、9月
- ・共生社会を考えるゲームのグループワーク、福岡県立大学心理臨床研究会、9月
- ・学生のメンタルヘルス、福岡県看護教員研修会、9月
- ・ストレスと心の健康、須恵高校模擬授業、11月
- ・大学生の心の危機、福岡教育大学自殺対策研修会、11月
- ・精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話相談員研修会、11月、12月
- ・みんなで守ろう心の健康、鞆ヶ谷市民センター研修会（北九州市）、1月
- ・介護職員に求められるゲートキーパーの役割、中間市介護福祉課自殺対策研修会、2月
- ・うつ病の理解とその対応、嘉麻市自殺対策研修会、3月
- ・様々な生きづらさについて考える、北九州市自殺対策研修会、3月

9. 附属研究所の活動等

なし。

10. 令和7年度の自己評価

科研費の助成を受け、コミュニケーションロボットを使用したうつ病教育教材の開発を継続中である。中山隼雄財団委託研究助成により、共生社会を考えるブラウザゲーム教材を開発した。三菱総研DCS社との共同研究で、不登校傾向の児童生徒および支援者に対する、AI技術を使用した個別最適なコミュニケーション支援方法の開発に着手した。

人間社会学部／公共学科・地域社会コース	職名	教授	氏名	佐野麻由子
---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、開発。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパールをフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会学的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、ネパールにおける「失われた女性たち（男児選好による女兒の中絶、少女売買、女兒の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- Mayuko, Sano, Saraswoti, Bharati, & Stuart, Gale. (2026). A study on the current status of traditional gender norms in Nepal Focusing on Menstrual Norms. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, 34(2),1-24.
- Mayuko, Sano. (2025). Nepal's transitional development and son preference. *Nepal Sociological Journal* (1), 35-59. (<https://www.nepjol.info/index.php/nsj/article/view/81094>)
- Mayuko, Sano, Saraswoti, Bharati, & Stuart, Gale. (2025). A study on the current status of traditional gender norms in Nepal as interpreted through the cultural practice of Pativrataa. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, 34(1), 17-34.
- 佐野麻由子, 2024, 「政界再編、汚職問題に揺れたダハール政権」『2024 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所, IDE-JETRO アジア経済研究所,497-520.
- 佐野麻由子, 2023, 「途上社会の貧困, 開発, 公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『改訂版国際社会学』, 有斐閣, 167-183 (2015年第一刷発行).
- 佐野麻由子, 2023, 「ネパールにおける「開発社会学」「開発の社会学」の輪郭」『ソシオサイエンス』29 (1) , 78-97.
- 佐野麻由子, 2023, 「資源エネルギー開発としての炭鉱——旧産炭地田川から見た日本の「発展」と「開発」経験」佐藤寛編著『戦後日本の開発経験：高度成長の礎となった「炭鉱・農村・公衆衛生」』, 明石書店, 80-100.
- 佐野麻由子・滝村卓司, 2023, 「開発社会学の視点で見る戦後の石炭産業」佐藤寛編著『戦後日本の開発経験：高度成長の礎となった「炭鉱・農村・公衆衛生」』, 明石書店, 20-43.
- 佐野麻由子, 2023, 「ダハール政権の劇的誕生で幕を下ろした選挙の年」『2023 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所, IDE-JETRO アジア経済研究所,503-526.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Mayuko SANO “Preliminary Considerations for a Comparative Study of Women's Impurity in Nepal and Japan” NSA International Conference on Building an Inclusive and Resilient Nepal’ Sociological Debate, Hetauda, Nepal 2025/12/19
- 堤圭史郎・佐野麻由子・黒川すみれ「「公共」を冠する葛藤と向き合う：福岡県立大学人間社会学部公共社会学科のあゆみ」第97回日本社会学会大会，京都産業大学，2024年11月9日
- Mayuko SANO “Nepal’s Transitional Development and Son Preference’s Future” NSA International Conference 2023 International Conference on Good Governance and Social Transformation in Nepal, Pokhara, Nepal 2023/9/3

② 過去の主要業績

- 佐野麻由子，2022，「第5次デウバ政権，連立諸党との調整が難航」『2022 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所，IDE-JETRO アジア経済研究所，491-514.
- 佐野麻由子，2022，「解説 2010～2019年のネパール：連邦民主共和生移行後の転換期」『バンドル版アジア動向年報 2010—2019 ネパール編』IDE-JETRO アジア経済研究所，IDE-JETRO アジア経済研究所，1-5.
- 佐野麻由子，2022，「男児選好にみるネパール家族の変容」田村慶子・佐野麻由子編著，『変容するアジアの家族：シンガポール，台湾，ネパール，スリランカの現場から』明石書店。
佐野麻由子，2021，「新型コロナウイルス禍での与党ネパール共産党の分裂と議会解散」『2021 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所，IDE-JETRO アジア経済研究所版，492-514.
- 佐野麻由子，2020，「統合が進まない政府与党，国境をめぐるインドとの軋轢」『2020 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所，IDE-JETRO アジア経済研究所版，498-520.
- 佐野麻由子，2019，「議席の3分の2に迫る第2次オリ政権の発足」『2019 アジア動向年報』IDE-JETRO アジア経済研究所，IDE-JETRO アジア経済研究所版，518-540.
- 佐野麻由子，2018，「「それでも息子が欲しい」？—ネパールにみる過渡期的発展と男児選好の未来」山田真茂留編著『グローバル現代社会論』，文眞堂，137-153.
- 佐野麻由子，2012，「開発・発展におけるジェンダーと公正——潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは——教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院，240-258.

3. 外部研究資金

佐野麻由子（研究代表者）

研究期間（年度）2024 – 2026

審査区分小区分 80030:ジェンダー関連

「男児選好の構造的要因の分析：階層の再編における機会構造と生き方の幅」

4. 受賞

無し

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会、国際ジェンダー学会

6. 担当授業科目

社会学概論・2単位・1年・後期、国際社会学 A・2単位・2年・前期、国際社会学 B・2単位・2年・後期、国際協力論・2単位・1年・後期、NPO 論・2単位・3年生・前期、公共社会学研究 I II・2単位・3年・前後期、卒業論文・6単位・4年・通年。

7. 社会貢献活動

田川市協働事業提案制度審査会委員長（2025 年）

田川市産業振興会議・実務者責任者会議部会員（2025 年）

添田町総合戦略検証委員会委員長（2025 年）

添田町総合計画策定委員会委員長（2025 年）

国際開発学会賞選考委員会委員（2025 年）

8. 学外講義・講演

佐野麻由子，「地域社会学－発見、分析、提言－を実践的に学ぼう」，令和年度田川飛翔塾，2025 年 8 月 18 日，いいかね Palette.

9. 附属研究所の活動等

10. 令和 7 年度の自己評価

研究においては国際共同研究の業績をあげることができた。教育においても社会調査実習でネパールの大学と共同研究を実施し、実績をあげることができた。社会貢献活動については、特別講師等として地域の中学生や高校生の教育に貢献を果たすことができた。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	教授	氏名	杉野 寿子
--------------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外のさまざまな場所・地域で、困難な状況で生活をされている人々と多く出会い、交流しながらソーシャルワーク実践をしてきました。それらの出会いから「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワーク実践に関する研究を行っています。近年深い関心を持っているのは、保育者のソーシャルワーク実践に関する研究です。本学では、子どもとその家庭の背景をふまえ、地域での子育て支援を重視できる保育者を養成しています。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・菅原航平・三浦由紀子・杉野寿子「医療絵本の臨床活用に関する一考察：保育学生と看護学生が協同制作した絵本を用いた試み」福岡県立大学人間社会学部紀要第 34 巻第 2 号，2026 年
- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・菅原航平・杉野寿子「保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第33巻第2号，2025年
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第3報－協働のためのコンピテンシー－」福岡県立大学看護学部紀要第22巻，2025年
- ・ 杉野寿子・牧海月「保育所等における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援」保育ソーシャルワーク学研究第9号，2023年12月
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第1報－業務内容の現状分析－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年
- ・ 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・杉野寿子・池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第2報－協働の現状と課題－」福岡県立大学看護学部紀要第20巻，2023年
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・中原雄一・池田孝博「新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感」福岡県立大学人間社会学部紀要第31巻2号，2023年

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 菅原航平・田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・三浦由紀子・杉野寿子「学生による発達を踏まえた医療絵本の制作：保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の制作過程の検討」日本発達心理学会第37回大会ポスター発表，2026年
- ・ 田中美樹・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子・古野憲司「療養中のこどもの” ころの準備” を支え

るための絵本プロジェクト」第33回日本外来小児科学会（岐阜）2024年

- ・ 稲葉美由紀・杉野寿子・西垣千春「国際ソーシャルワークと社会発アプローチ持続可能な共生社会の実現に向けてー」日本社会福祉学会第71回秋季大会特定課題セッションⅢ，2023年
- ・ 横尾美智代・櫛直美・杉野寿子「医学部医学科を除く大学・短期大学の研究倫理審査委員会の状況に関する研究」日本生命倫理学会ポスター発表，2023年
- ・ 杉野寿子・牧海月「保育所における外国にルーツのある子どもとその家庭への支援ー保育者へのアンケートとインタビュー調査よりー」日本保育ソーシャルワーク学会第8回研究大会口頭発表，2023年

③過去の主要業績

- ・ 杉野寿子・吉田茂・佐藤陽子「保育者のソーシャルワークの意識に関する研究：意識調査からみた保育者の認識と実践の関係」保育ソーシャルワーク学研究第5号，2019年
- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取組みからー」地域福祉サイエンス第3号，2016年
- ・ 杉野寿子「ヨルダンにおける障害に関する意識調査ー近年の意識傾向を探るー」社会福祉科学研究第4号，2015年

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会
- ・ 日本ソーシャルワーカー協会

6. 担当授業科目

〈学部〉

社会福祉（2単位・1年後期）、社会的養護Ⅰ（2単位・2年前期）、子ども家庭支援論（2単位・2年後期）、子育て支援（1単位・4年前期）、社会福祉Ⅱ（2単位・4年後期）、保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）、保育実習指導Ⅱ-B（2単位・3年後期）、保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）、保育実習Ⅱ-B（2単位・3年後期）、演習（2単位・3年通年）、卒業論文（6単位・4年通年）

〈大学院〉

子どもソーシャルワーク研究（2単位・前期）、子どもソーシャルワーク実践研究（2単位・後期）、教育課題研究B（2単位・後期）、子ども教育実践実習Ⅱ（1単位・前期）、子ども教育実践

実習Ⅰ（1単位・後期）地域教育課題演習（2単位・前期）、特別研究（4単位・1～2年）

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市子どもの権利救済委員会委員長
- ・ 香春町子ども・子育て会議会長
- ・ みやこ町子ども・子育て会議会長
- ・ 福岡県教育振興審議会社会教育部会委員
- ・ 福岡県教育振興審議会学校教育部会委員
- ・ 行橋市保育園整備等検討委員会委員
- ・ 京築教育事務所発達障がい児等教育継続支援事業巡回相談員
- ・ 築上郡教育支援委員会主催教育相談・教育診断委員
- ・ 福岡県幼児教育アドバイザー

8. 学外講義・講演

- ・ 北九州市保育士等キャリアアップ研修（基礎）「保護者支援・子育て支援」講師
- ・ 北九州市子育て支援員研修「地域保育コース 地域型保育（基本研修）」講師
- ・ 吉富町こどもまんなか研修（保育士研修）「保護者に対する相談援助の方法と技術」講師
- ・ 保育園職員研修「安心できる保育と、支え合えるチームづくり」講師
- ・ 保育園職員研修「こどもの権利を考えよう」講師

9. 附属研究所の活動等

2025年度研究奨励交付金（COC研究）「療養中の子どもの“心の準備”を支えるための絵本プロジェクト」（研究代表者）

10. 令和7年度の自己評価

- ・ 保育士養成において実践現場への理解を深めるため、実務家を招いた授業や学外学習を全科目に導入しました。学生から好評を得ただけでなく、地域の実践家とのネットワークも広がり、今後の教育研究にとって大きな成果となりました。
- ・ 看護学部と人間社会学部こどもコースの学生及び教員をメンバーとする医療絵本作成のプロジェクトを立ち上げ活動することにより、学部を超えた相互学習の場を提供することができ、今後の多職種連携における課題を検討する機会にもなりました。

人間社会学部／基盤教育センター	職名	教授	氏名	Stuart Gale
-----------------	----	----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he came to Japan in the spring of 1993 to pursue a career in teaching. He returned to the UK to study for a Master's degree in English language teaching at The University of London, passing with a distinction grade in 2002, and has since taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined Fukuoka Prefectural University as a full-time faculty member in the spring of 2007 and was awarded a professorship in 2018. He teaches a variety of English-language and liberal arts subjects in FPU's General Education Center within the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.

Stuart Gale's research activities encompass three main areas of enquiry, the first concerning the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from designing courses in pursuit of this objective, he has also authored the textbooks *Provoke a Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) and *Japan Goes Global! Thinking Critically about Japanese Popular Culture* (2018). His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification. The results of this research have been incorporated into the academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012) and FPU's virtual learning website. Stuart Gale was invited to present on the subjects of teaching academic writing and the enhancement of critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012 and 2013, and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014. His third and final area of research concerns the development of study-abroad and online exchange programmes and the facilitation of intercultural communicative competence.

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- Mayuko, Sano, Saraswoti, Bharati, & Stuart, Gale. (Oct., 2025). A study on the current status of traditional gender norms in Nepal as interpreted through the cultural practice of Pativrataa. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, 34(1), 17-34.
- Mayuko, Sano, Saraswoti, Bharati, & Stuart, Gale. (Mar., 2026). A study on the current status of traditional gender norms in Nepal Focusing on Menstrual Norms. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, 34(2), 1-24.
-

② その他最近の業績

<学会発表>

-
-
-

③ 過去の主要業績

- Gale, S. (Feb., 2019). Putting the critical cat among the patriotic pigeons: guiding principles for the teaching of critical thinking as a precursor to critical writing in the Japanese EFL classroom. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.
- Gale, S. (Sept., 2019). Evaluating a university preparation course for a short-term study abroad program in terms of its ability to alleviate student anxiety prior to departure. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 1, pp. 1-25.
- Gale, S. (Feb., 2020). Addressing a supposed deficiency: a critical thinking and process-writing methodology for Japanese EFL. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 28, No. 2, pp. 19-40.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Japan Association of Language Teachers (Fukuoka Chapter, Critical Thinking Special Interest Group);
Asia TEFL

6. 担当授業科目

リーディング・ライティング上級(1)・1単位・1年・前期

リーディング・ライティング上級(2)・1単位・1年・後期

スピーキング・リスニング上級(1)・1単位・1年・前期

スピーキング・リスニング上級(2)・1単位・1年・後期

総合英語上級(1)・1単位・2年・前期

総合英語上級(2)・1単位・2年・後期

英語購読Ⅰ・1単位・3年・前期

英語購読Ⅱ・1単位・3年・後期

海外語学実習事前指導・1単位・1~4年・後期

海外語学実習・1単位・1~4年・後期

Introduction to Studying in English・1単位・1~2年・前期

Advanced English Achievement・1単位・3~4年・後期

グローバル社会論(補助)・1単位・1~4年・後期

Postgraduate Presentation Skills Development in English・1単位・大学院生・後期

7. 社会貢献活動

Stuart Gale hosts bi-monthly, two-hour discussion group meetings at the university. These meetings run all year round—even when university classes are not in session—and are attended by high school English teachers, business leaders and other local citizens. The meetings are designed to facilitate the further development of their English-language and critical thinking skills in a relaxed and stimulating academic environment.

8. 学外講義・講演

【6月9日】出前講義・入試説明会等

電気ビルみらいホール

福岡市中央区渡辺通 2-1-82 電気ビル共創館 3 階

9. 附属研究所の活動等

As the head of Fukuoka Prefectural University's International Exchange Committee (国際交流推進部会長), Stuart Gale is the de facto head of the International Exchange Center (国際交流センター) and, by extension, a member of the Affiliated Research Center's management committee (附属研究所運営部会).

10. 令和7年度の自己評価

Despite his research activities being curtailed by his extensive teaching and administrative duties at Fukuoka Prefectural University, in the Reiwa 7 academic year, Stuart Gale oversaw every facet of the university's 2-week study abroad programme to the UK; provided a combined total of 48 classroom hours to a combined total of approximately 30 local citizens; oversaw in conjunction with other International Committee members (1) the running of online exchange events and programmes with universities in China and the United Kingdom, and (2) the ratification of a new partner relationship with a university in South Korea.

人間社会学部／社会福祉学科	職名	教授	氏名	住友 雄資
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると，わが国には300万人を超える精神障害者がいます．精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので，大多数は地域で生活しています．しかし，差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は，地域で生活しづらい状況が続いています．そこで，ソーシャルワークの視点から，精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています．そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で，両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています．またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので，その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています．

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<書評>

- ・ 住友雄資（2026）「書評 帯木蓬生『ほんとうの会議 ネガティブ・ケイパビリティ実践法』講談社」『福岡県立大学人間社会学部紀要』34(2)，147-152.
- ・ 住友雄資（2025）「書評 狩野俊介・野村照幸編著『危機がチャンスに変わるクライシス・プラン入門』中央法規出版」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33(2)，151-158.
- ・ 住友雄資（2024）「書評 波名城翔『自殺者を減らす！ ゲートキーパーとしての生き方』新評論」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33(1)，107-112.

③過去の主要業績

- ・ 住友雄資（2007）『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版．（単著）
- ・ 住友雄資（2001）『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版．（単著）
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会 査読委員
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

教養演習・2単位・1年・前期, 精神保健福祉の原理Ⅱ・2単位・2年・後期, 精神保健福祉制度論・2単位・3年・後期, ソーシャルワークの理論と方法F・2単位・3年・後期, 福祉経営論・2単位・3年・後期.

(大学院)

社会福祉研究法・2単位・前期, 質的研究法・1単位・前期, 精神保健福祉研究A・2単位・前期, 精神保健福祉研究B・2単位・後期, 特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

梅光学院高校 出前講義「社会福祉学入門ーソーシャルワーカーの援助ー」(2025年5月29日)
福岡県立嘉穂東高校 出前講義「社会福祉士の仕事」(2026年3月18日)

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

学部の授業では、テキストを基礎としつつ詳細な資料集を作成・活用し、具体例で解説するために新聞記事や視聴覚教材等を用いた。そのことにより学生の理解度が高まったと考える。大学院では、詳細なレジュメを作成・活用して講義すると同時に、論文読解や研究法に関する演習を行い、修士論文執筆のための道筋を示して大学院生の教育・研究に寄与したと考える。

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	堤 圭史郎
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008 年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。2009 年、博士（文学）を取得。2010 年 4 月より本学に着任。2011 年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第 7 回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014 年、「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」により、一般社団法人社会調査協会から第 4 回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、生活困窮者支援と地域社会の関係、生活困窮者支援モデルに関する研究などを行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 堤圭史郎,2026,「ベンジャミン・シーボーム・ラウントリー『貧乏研究』」貧困研究会編『貧困研究ブックガイド』,18-21.
- ・ 堤圭史郎,2026,「上野英信『追われゆく坑夫たち』」貧困研究会編『貧困研究ブックガイド』,66-69.
- ・ 堤圭史郎,2025,「第 8 章 階級・階層と教育・健康」福祉臨床シリーズ編集委員会編／杉座秀親・石川雅典・菊池真弓責任編集『新・社会福祉士シリーズ 3 社会学と社会システム [第 2 版]』,105-130.
- ・ 堤圭史郎・相川陽一,2024,「小規模非合併農協による地域生活文化圏の形成と課題—主に下郷農業協同組合の歴史と実践に基づいて」西村雄郎・岩崎信彦編著『地方社会の危機に抗する<地域生活文化圏>の形成と展開』東信堂: 754-791.
- ・ Tsutsumi,K.(2024). Process of Social Acceptance of Facilities for the Poor. Institute of Social Theory and Dynamics. *Social Theory and Dynamics*,5, 70-86.
- ・ Tsutsumi,K.(2023). The Past and Present Homeless Issues in Japan. Aoki H and Ishioka T (Eds.). *The Bottom Worker in East Asia: Composition and Transformation Under Neoliberal Globalization (Studies in Critical Social Sciences, 262)*. Netherlands: Brill, 230-256.
- ・ 堤圭史郎,2023,「ホームレス化をヘッジする—ある支援付き住宅の取り組み」『社会分析』50: 73-90.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 堤圭史郎・佐野麻由子・黒川すみれ,「『公共』を冠する葛藤と向き合う—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科のあゆみ」, 第 97 回日本社会学会大会, 京都産業大学, 2024 年 11 月 9 日.
- ・ 堤圭史郎,「ホームレス問題における認識と制度化—都市住民に着目して」, 第 96 回日本社会学会大会, 立正大学, 2023 年 10 月 9 日.
- ・ 堤圭史郎,「ホームレス問題と『地域共生社会』—貧者の施設の受容過程」, 西日本社会学会第 81 回大会, 熊本大学, 2023 年 5 月 21 日.

<シンポジウム>

- ・ 西日本社会学会第 82 回大会シンポジウム「就労をめぐる不安定さと困難」(登壇者: 打越正行・金本佑太・二階堂裕子。コメンテーター: 王美玲・堤圭史郎), 久留米大学, 2024 年 5 月 25 日.

<研究報告書>

- ・ 堤圭史郎, 編, 2024, 『田川市における学校再編と部活動の地域移行—教員の経験と評価（2023 年度福岡県立大学人間社会学部公共社会学科社会調査実習調査報告書）』.
- ・ 堤圭史郎, 2023, 「第 3 章 経済・就労の状況」福岡県『令和 5 年年度隣保館人権課題把握調査報告書』: 406-458.
- ・ 特定非営利活動法人抱樸, 2023, 『支援付き住宅の複合モデル「プラザ抱樸」の拡充と整備事業 事業評価報告書』. (第 I 章 3 節、第 II 章、第 V 章、第 VI 章 2 節を執筆)

<書評・エッセイ等>

- ・ 堤圭史郎, 2026, 「『貧困研究ブックガイド』という経験」『貧困研究会ニュースレター』 3, 2-3.
- ・ 堤圭史郎, 2025, 「『地域の自画像』と地域社会学 ——報告『地域と産業：炭鉱研究の窓から見る移動社会』をふりかえる」『地域社会学会ジャーナル』 22: 17-21.
- ・ 堤圭史郎, 2025, 「書評 武田尚子著『市場都市イギリス・ヨークの近現代——市場再編と貧困地域』」『地域社会学会年報』 37: 131-132.
- ・ 堤圭史郎, 2025, 「書評 山本努・吉川由彩編著『入門・社会学』シリーズ 1 入門・社会学 現代的課題との関わりで』」『西日本社会学会年報』 23: 119-120.
- ・ 堤圭史郎, 2024, 「川口泰司著『寝た子』はネットで起こされる!?—ネット人権侵害と部落差別』」福岡県人権研究所『リベラシオン』 193: 104-108.

<一般誌論稿等>

- ・ 堤圭史郎, 2024, 「貧困のリアリティを社会に育む」『2023 年度ヒューマンアルカディア特別展集 Vol.2 第 56 回特別展 SDGs—持続可能な開発目標と人権』福岡県人権啓発情報センター: 45-6.
- ・ 堤圭史郎, 2024, 「貧困」『2023 年度ヒューマンアルカディア特別展集 Vol.2 第 56 回特別展 SDGs—持続可能な開発目標と人権』福岡県人権啓発情報センター: 55.

③過去の主要業績

- ・ 堤圭史郎, 2019, 「貧者の施設と地域社会—施設コンフリクトと『良好な関係』」『理論と動態』 12: 78-94.
- ・ 奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.
- ・ 青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」、5 章「家族規範とホームレス—扶助か桎梏か」(妻木進吾と共著)を執筆)

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究C), 「参加包摂型社会の諸類型: 多様化する生活困窮者支援の射程と課題」, 課題番号 24K05287, 2024~27 年度, 3,380 千円, 研究代表者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

関西社会学会（専門委員）、地域社会学会、西日本社会学会（監査）、日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会（理事）、日本都市社会学会（理事）、貧困研究会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、社会学A・2単位・1年・前期、社会学B・2単位・1年・後期、社会病理学・2単位・2年・前期、社会調査実習Ⅰ・2単位・2年・前期、社会調査実習Ⅱ・2単位・2年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期、社会変動と社会問題・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、日本事情B・オムニバス・留学生・前期、ハイリスク支援論・オムニバス・看護学部・前期、研究倫理・オムニバス・大学院・通年、地域問題研究・2単位・大学院・前期、地域問題演習・2単位・大学院・後期、特別研究Ⅰ・4単位・大学院・通年、特別研究Ⅱ・4単位・大学院・通年、フィールドワーク・2単位・大学院・通年

7. 社会貢献活動

【自治体等の委員】飯塚市人権問題市民意識調査検討会議・委員、川崎町地域公共交通会議・副会長、香春町地域公共交通会議・委員、添田町子ども・子育て会議・会長、添田町地域公共交通会議・副会長、田川市社会教育委員の会議・副会長、田川市地域公共交通会議・副会長、福岡県人権啓発情報センター企画委員会・委員、福智町地域公共交通会議・委員、等

【学会、地域貢献】一般社団法人日本伴走型支援協会・伴走型支援研究会・委員、特定非営利活動法人くまもと相談所・評価アドバイザー、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究員／『理論と動態』編集委員、日本社会分析学会理事／『社会分析』編集委員長、日本都市社会学会理事／『日本都市社会学会年報』編集委員長、貧困研究会『貧困研究』編集委員

8. 学外講義・講演

- ・ 「九州部落解放・人権大学」講座にて講師（生活困窮問題と人権），福岡県自治研修センター，2025年9月20日。
- ・ 熊本学園大学附属社会福祉研究所 2025（令和7）年度第2回研究会にて講師（ホームレス問題の展開と生活困窮者支援），熊本学園大学新1号館132教室，2025年10月17日。

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和7年度の自己評価

日々の教育活動では、学生が学んだ知識を活用し、社会的諸問題を地に足をつけて社会科学的に考え、読んで書く経験を積むサポートに務め、自分自身で主体的に学び続けられる基盤となる力を学生が身につけられるよう心がけています。反省と併せ一定の手応えを感じているところでございます。

今年度は教科書や解説を執筆する機会に恵まれました。学外では生活困窮者支援団体の事業への研究協力を行うとともに、学術雑誌の編集に携わる機会が増えた年度でした。引き続き、研鑽に励みたいと思います。

人間社会学部／地域社会コース	職名	教授	氏名	藤澤健一
----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学を専攻しています。教育行政・制度・政策の観点から、師範学校史、教員養成史、教員研修史、教員団体・組織史を考察しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 共編著『史料 近代沖縄教育史—喜舎場英勝の生きた世界』不二出版、2025 年 12 月

②その他最近の業績

- ・ 「近代沖縄における女性教員政策史—沖縄県女教員研究会の役職者への登用をめぐる」(単著) 沖縄文化協会『沖縄文化』第 53 巻第 1 号(第 125 号)、2023 年 1 月、22—41 頁 (査読あり)
- ・ 「近代沖縄における生活扶助を通じた教員の組織化過程—教員互助会の設置と運営」(単著) 法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』第 51 号、2024 年 3 月 (査読あり)
- ・ 論評: 布村育子・広田照幸「一九五〇年代前半の日教組における平和教育—その模索と頓挫」日本教育史研究会『日本教育史研究』第 43 号、2024 年 8 月、36—44 頁

③過去の主要業績

- ・ 編著『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014 年 3 月
- ・ 編著『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領下へ』不二出版、2016 年 10 月

3. 外部研究資金

研究代表者: 科学研究費基盤研究 (C)「近代沖縄における学齢児童の貧困施策分析の新機軸」(2025～2029 年度)

4. 受賞

該当なし。

5. 所属学会

日本教育制度学会会員、日本教育政策学会理事、日本教育行政学会会員、日本教育学会会員 日本教育史研究会会員

6. 担当授業科目

教育学概論 B・2 単位・1 年前期、教師論・2 単位・1 年後期、教育史・2 単位・2 年前期、学校インターンシップ・2 単位・3 年、教育実習事前事後指導・2 単位・3 年後期から 4 年前期、中学校教育実習・4 単位・4 年、高校教育実習・4 単位・4 年、教職実践演習・2 単位・4 年後期、公共社会学

研究Ⅰ・2単位・3年前期、公共社会学研究Ⅱ・2単位・3年後期、卒業研究・4年・6単位、教育課題研究A・2単位、地域教育課題研究・2単位、学校教育歴史研究・2単位、学校教育理論研究・2単位、子ども教育実践実習Ⅰ、Ⅱ・各1単位、特別研究Ⅰ、Ⅱ・各4単位

7. 社会貢献活動

田川市奨学生選考委員会委員長、田川市教育事務点検評価委員会委員長、添田町教育委員会事務点検評価委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

研究奨励交付金（横断型教育プログラム開発研究）「高大接続を踏まえたデータサイエンス・プログラムのICT教育の推進」

10. 令和7年度の自己評価

研究活動は研究代表として受領した科研費5ヶ年計画の初年度にかかわる調査研究に着手した。教育活動は教職課程の運営を中心に学生支援に従事した。いずれもおおむね順調に進行した。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究テーマとして、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービス（特に NPO 法人が提供するサービスと経営、2)高齢者の権利擁護（例：介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等）、3)高齢者ソーシャルワーク（サービス開発の推進方法や管理運営等）、6)ソーシャルワーク教育（海外含む）、7)介護人材確保に関するものなどがあります。また、福祉事業を行う法人での実務経験（相談・介護・経営）や各種審議会等の経験もあるため、研究成果と経験を生かした授業ができればと思います。博士（社会福祉学）。

2. 研究業績〈過去3年〉

① 最近の著書・論文等

- 1) 本郷秀和・田中将太・梶原浩介,「介護系 NPO における制度外サービス開発のポイントを探るー過去調査と2法人の事例検討を通じてー」(株)北陸社,『地域ケアリング』Vol.25 No.5, (株)北陸社,2023.4.
- 2) 本郷秀和・梶原浩介・畑香理・大場敬太,「イタリア ボローニャにおける社会的協同組合の状況」(株)北陸社,『地域ケアリング』Vol.26 No.4,2024. (株)北陸社,2024.3.
- 3) 本郷秀和・梶原浩介,「介護系NPOにおける制度外サービスの開発プロセスに関する研究」『日本の地域福祉』第37巻,日本地域福祉学会,2024.3.
- 4) 本郷秀和・畑香理・梶原浩介,「ソーシャルワーカー養成教育を巡る状況①<イタリア編>」,『地域ケアリング』Vol.26.No.4,2024. (株)北陸社、2024.7.
- 5) 大場敬太・本郷秀和,「児童虐待の動向にみる基本的課題と方向性ー養護者による児童虐待を巡る若干の考察ー」福岡県立大学人間社会学部,『福岡県立大学 人間社会学部 紀要』第33巻第1号, 2024.9.
- 6) 本郷秀和(研究代表)ほか7名,「地域包括ケアシステムの推進に伴う介護系NPOの役割とソーシャルワーク」, 2019-2023年度、科学研究費補助金【基盤研究C】最終報告書,2025.3. ※(科研費研究報告書)
- 7) 本郷秀和「第9章 社会的協同組合:Societa Dolce(ソシエタ・ドルチェ)」,梶原浩介(研究代表),「地域共生社会の推進に伴う家族会の役割とソーシャルワーク」,2025.3.(※2019-2023年度 科研費報告書)
- 8) 本郷秀和「介護系NPOによる制度外サービスを巡る変化と課題ー過去3回の全国調査の比較検討を通じてー」(株)北陸社,「地域ケアリング」Vol.27.No.12.2025.9.
- 9) 畑香理・河野高志・本郷秀和,「福岡県の後期高齢者医療における総医療費に影響を与える要因の検討ー国保データベースを用いた分析からー」,(一財)厚生労働協会「厚生生の指標」第72巻第14号,2025.12.
- 10) 本郷秀和「高齢者虐待」,山縣文治・岡田忠克・鶴浦直子編著,『新版よくわかるシリーズ 社会福祉』,ミネルヴァ書房.2026.3.

② その他最近の業績

- 1) 本郷秀和,【書評】「竹本与志人著『認知症のある人への経済支援ー介護支援専門員への期待ー』」日本社会福祉学会『社会福祉学』第64巻第2号,2023.9.
- 2) 福岡県立大学社会福祉学会 シンポジウム「ソーシャルワークの実践から価値を問い直す」コーディネーター(会場:福岡県立大学)2023.12.9.
- 3) 末永卓也・本郷秀和,「精神科等医療機関による精神障害者の復職支援に関する実態と意識」,第31回日

本産業精神保健学会ポスター報告(会場:産業医科大学 ラマツィーニホール).2024.6

- 4) 本郷秀和,「高齢者介護サービスを実施する NPO 法人の変化とソーシャルワークー日本における過去 3 回の全国調査の比較検討を通じて-」, 中国社会学会社会福祉研究専門委員会 2024 年 東アジアフォーラム 報告(会場:中華人民共和国・福建省 厦門大学),2024.12. ※招待報告
- 5) 日本社会福祉学会九州地域ブロック研究大会「福祉人材を巡る動向と課題」、シンポジスト(会場:鹿児島国際大学) 2024.12.21
- 6) 藤永海里・本郷秀和,「児童発達支援センターが特別支援学校に行う情報提供の現状と課題に関する研究」,日本社会福祉学会九州部会第 65 回研究大会(会場:鹿児島国際大学).2024.12.
- 7) 本郷秀和・楊慧敏, 日本社会福祉学会「日中韓 3 か国における学術交流報告ー中国社会学会社会福祉研究専門委員会 2024 年度 東アジアフォーラムに参加して-」「日本社会福祉学会 学会ニュース」第 98 号,2025.2.
- 8) 梶原浩介・本郷秀和,「ひきこもり家族会の組織化に関する研究ー発想から立ち上げまでのプロセスに焦点をあてて-」, 日本社会福祉学会九州部会第 66 回研究大会(会場:別府大学),2025.12.
- 9) 本郷秀和・KON Yonju,「日中韓の学術交流の覚書に基づく韓国社会福祉学会への参加報告」, 一般社団法人日本社会福祉学会(広報委員会)「日本社会福祉学会 学会ニュース」第 101 号,2026.2.

③ 過去の主要業績

- ・ 本郷秀和,『高齢者虐待と介護支援専門員』,中央法規、2020 年 3 月.

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

1) 日本社会福祉学会(副会長・ソーシャルケアサービス連絡協議会担当委員他)、九州地域ブロック運営委員、機関誌「九州社会福祉学」査読・編集委員)、2) 日本地域福祉学会、3) 日本介護福祉学会、4) 日本高齢者虐待防止学会、5) 日本社会福祉士会、6) 福岡県立大学社会福祉学会(副会長)。

6. 担当授業科目

〈学部〉「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」(2 単位・1 年後期)、「ソーシャルワーク演習 A」(1 単位・1 年後期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(3 単位・2 年通年)、「ソーシャルワークの理論と方法 B」(2 単位・2 年前期)、「高齢者福祉論」(2 単位・2 年前期)、「ソーシャルワーク演習 C」(1 単位・2 年前期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」(3 単位・3 年通年)、「ソーシャルワーク実習」(4 単位・3 年通年)、「社会福祉学演習」(4 単位・3 年通年)、「ソーシャルワーク演習 D」(1 単位・3 年後期)、「福祉専門職特講 A」(2 単位・3 年後期・オムニバス)、「卒業論文」(6 単位・4 年通年)、「福祉専門職特講 B」(2 単位・4 年前期・オムニバス)。

〈大学院〉「特別研究Ⅰ」(2 単位・1 年通年)、「高齢者福祉研究Ⅰ」(2 単位・1 年前期)、「量的研究法」(1

単位・1年前期)、「高齢者福祉研究Ⅱ」(2 単位・1 年後期)、「フィールドワーク」(2 単位・1 年後期)、「特別研究Ⅱ」(2 単位・2 年通年)

7. 社会貢献活動

1)福岡県社会福祉審議会 審議委員(老人福祉専門分科会会長・地域福祉支援計画専門分科会会長). 2)福岡県身体拘束ゼロ作戦推進会議委員長. 3)福岡県人権施策推進講話会専門部会委員. 4)福岡県国保連介護給付費等審査委員会副会長(審査部会長・介護サービス苦情処理委員). 5)福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会委員. 6)福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会委員(兼苦情処理委員). 7)嘉麻市地域福祉計画策定委員会委員. 8)嘉麻市社会福祉協議会 地域福祉権利擁護事業運営審議会委員・権利擁護支援運営委員会委員. 9)宗像市介護保険運営協議会委員. 10)田川市地域包括ケアシステム推進協議会認知症支援部会委員. 10)川崎町 地域包括支援センター運営協議会会長. 11)福岡県ひきこもり対策連絡調整会議会長. 12)大野城市 介護保険運営協議会会長・地域密着型サービス運営委員会会長・地域包括支援センター運営協議会会長. 13)福岡県精神保健福祉センター 福岡県ひきこもり対策連絡調整会議委員長. 14)令和7年度 福岡県社会福祉士会 研究誌 論文査読委員. 15) 日本社会福祉学会 副会長(国際学術交流促進委員会 委員長). 16) 日本社会福祉学会秋季大会 国際学術シンポジウム責任者. 17) 日本社会福祉学会 九州地域ブロック発行「九州社会福祉学」編集・査読委員. 18)長野大学 研究等不正に係る調査委員会委員. 19)鹿児島国際大学大学院 博士学位請求論文外部審査委員. 20) 中間市介護保険運営協議会委員. 21)福岡県介護実習・普及センター事業等 企画書選定委員会委員. 22)福岡県社会福祉協議会介護人材センター研修事業推進委員会副会長. 23)NPO 法人 地域たすけあいの会 理事他.

8. 学外講義・講演等

- ・令和7年度 福岡県人権相談従事者研修「福祉相談と記録」(福岡県主催)講師(6月17日)
- ・社会福祉法人慈愛会 職員研修「介護サービスと記録」講師(8月29日)
- ・福岡県国保連 介護給付費審査会研修(9月24日)「大卒の介護・看護人材確保のポイントを探る」講師
- ・福岡県介護福祉士会研修「介護サービスと苦情」講師(3月7日)他.

9. 附属研究所の活動等

1)福岡県立大学 不登校・ひきこもりサポートセンター長. 2)附属研究所調整部会 委員. 3)附属研究所 公開講座小部会. 4)IR推進室会議. 5)IRサイクル総合会議. 6)博士課程設置検討委員会. 7)配慮を要する学生支援(学生総合支援センター運営部会関係). 8)福岡県立大学社会福祉学会副会長.

10. 本年度の自己評価

教育面では、テキストの内容以外にも、実務家教員としての経験と必要な知識も学生に伝える重要性を認識できたと思う反面、伝え方が難しい部分もあったと思う。研究面では、基本的な研究方法を理解したうえで、きめ細かい継続的な研究指導及び研究に取り組む必要があると感じている。社会貢献面では、自らの学習・研究成果を地域にフィードバックできるよう取り組む必要があると意識している。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	教授	氏名	村山浩一郎
----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」で、取得学位は社会学修士です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、専門機関や行政と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、①地域住民を主体とする様々な地域福祉活動の実際と、それを支援する社会福祉協議会の役割について、②地域生活課題を解決するための包括的な支援体制と、それを整備する行政の役割や地域福祉計画の策定方法などについて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村山浩一郎「市町村における福祉計画の総合化の実際と今後の課題―大牟田市と福智町を事例として―」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第33巻第2号, 2025年3月
- ・ 村山浩一郎『地域共生社会の実現に向けた地域福祉計画の策定方法に関する研究』日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究C 課題番号19K02217）報告書, 2025年3月

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ （学会発表）村山浩一郎「市町村における福祉計画の総合化の実際と今後の展望―大牟田市と福智町を事例として」日本社会福祉学会九州地域ブロック第65回研究大会 第2分科会, 2024年12月

③過去の主要業績

- ・ 村山浩一郎「第9章 地域福祉」, 鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』, 講談社, 2023年2月
- ・ 村山浩一郎「包括的な支援体制をどう捉えるか」, 社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会・専門委員会（委員長：村山浩一郎）『社会福祉協議会と包括的な支援体制～これからの福岡県内社協に必要な視点・求められる役割』, 社会福祉法人福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会・専門委員会, 2023年1月
- ・ 村山浩一郎「地域福祉計画策定ガイドラインにおける策定方法の変化―新旧ガイドラインの比較より」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第29巻第1号, 2020年10月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会（九州地域ブロック運営委員），日本地域福祉学会（地方委員），日本社会学会，福祉社会学会，リハビリテーション連携科学学会，日本福祉教育・ボランティア学習学会

6. 担当授業科目

＜学部＞ 社会福祉学概論Ⅰ（2単位・1年・前期），ソーシャルワーク演習B（2単位・2年・通年），ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2単位・2年・通年），ソーシャルワーク実習A（2単位・2年・後期），地域福祉論Ⅰ（2単位・2年・後期），社会福祉学演習（2単位・3年・通年），ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（1単位・3年・通年），ソーシャルワーク実習B（4単位・3年・通年），地域福祉論Ⅱ（2単位・3年・前期），ソーシャルワーク演習D（1単位・3年・後期），卒業論文（6単位・4年・通年）

＜大学院＞ 特別研究Ⅰ（4単位・1年・通年），研究倫理（1単位・1年・通年），フィールドワーク（2単位・1～2年・通年），地域福祉研究A（2単位・1～2年・前期），地域福祉研究B（2単位・1～2年・後期），特別研究Ⅱ（4単位・2年・通年）

7. 社会貢献活動

- ・ 芦屋町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・ 遠賀町地域福祉計画推進委員会 委員長
- ・ 大牟田市健康福祉推進会議 会長
- ・ 川崎町地域福祉計画策定委員会 委員長
- ・ 苅田町地域福祉推進委員会 委員長
- ・ 北九州市地域福祉計画策定懇話会 座長
- ・ 北九州市社会福祉審議会 地域支援専門分科会 会長
- ・ 北九州市地域福祉振興協会 副会長
- ・ 北九州市社会福祉協議会 総合企画委員会 委員長（兼アドバイザー）
- ・ 北九州市手をつなぐ育成会 運営協議会 座長
- ・ 鞍手町社会福祉協議会 第3期鞍手町地域福祉活動計画策定委員会 委員長
- ・ 小竹町地域福祉計画策定委員会 委員長
- ・ 篠栗町福祉総合計画策定審議会 委員長
- ・ 志免町社会福祉協議会 ボランティア育成・福祉団体等助成金配分審査会 会長
- ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会・保健（予防）・生活支援部会 部会長
- ・ 田川市地域福祉計画推進会議 会長
- ・ 福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会 委員長
- ・ 福智町地域福祉計画・地域福祉活動計画 アドバイザー
- ・ 福津市福祉施策策定審議会 会長
- ・ 水巻町福祉施策推進協議会 会長
- ・ みやこ町地域福祉総合計画審議会 会長
- ・ 宗像市保健福祉審議会 委員長
- ・ 行橋市みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進委員会 委員長（兼実務者会議座長）
- ・ 行橋市成年後見制度利用促進委員会 委員長

8. 学外講義・講演

- ・大野城市南地区コミュニティ運営協議会 第24回南地区コミュニティ福祉交流の集い 講師
- ・春日市 重層の支援体制整備事業に関する研修 講師
- ・北九州市戸畑区社会福祉協議会 現任福祉協力員研修 講師
- ・北九州市社会福祉協議会 校（地）区社会福祉協議会 新任役員研修 講師
- ・北九州市社会福祉協議会 地域支援コーディネーター連絡会 講師
- ・北九州市社会福祉協議会 第65回大都市社会福祉施設協議会（北九州市大会）第1分科会「大都市における社会福祉施設の地域における公益的な取組」 助言者
- ・北九州市立高校 高校訪問
- ・水巻町社会福祉協議会 市民後見人・法人後見従業者養成講座 講師
- ・みやこ町 生活支援体制整備事業に関する研修 講師

9. 附属研究所の活動等

- ・附属研究所重点領域研究「生活習慣病の重症化によるCKD(慢性腎臓病)のリスクアセスメント」(研究代表者：尾形由起子)、研究分担者

10. 令和7年度の自己評価

今年度も福岡県内の市町村福祉計画の策定・推進や社会福祉協議会の活動に数多く参画し、専門を活かした社会貢献活動を行うことができた。そして、このような社会貢献活動から得られた知識や経験、ネットワークを学部の実習教育や就職活動支援、大学院での研究指導などに活かすことができた。また、市町村福祉計画の研究など社会貢献活動を活かした研究活動をさらに深めることができたが、成果の発表には至らなかったもので、この点は次年度以降の課題としたい。

その他、今年度で開講3年目となる大学院人間社会学研究科教養科目「研究倫理」（教員6名によるオムニバス授業で、メディア授業と対面個別指導の組み合わせ）の主担当を務め、「研究倫理」を大学院教育に定着させることができた。研究科のほとんどの大学院生が同科目を履修しており、多くの大学院生を研究倫理審査の受審につなげることができた。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇敦史
------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達をもたらす問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考察している。また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景、司法審査の正当化根拠についても研究を進めている。

学位：修士（法学）

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 君塚正臣・森脇敦史（編）『ベーシックテキスト憲法 第4版』法律文化社、2023年9月
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年
- ・ 森脇敦史「キャス・サンスティン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾・山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法学の群像 理論家編』255～274頁、尚学社、2010年1月
- ・ 森脇敦史「ヒューゴ・ブラック 歴史は繰り返すか？」山本龍彦・大林啓吾（編）『アメリカ憲法の群像 裁判官編』145～170頁、尚学社、2020年6月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会

6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、憲法・2単位・1年・後期、入門・数字で見る日本社会・2単位・1年・後期、社会人基礎力演習・1単位・2年・前期、現代社会論C（情報社会と法）・2単位・2年・後期、問題解決演習・1単位・2年・後期、法律学概論Ⅰ・2単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・前期、法律学概論Ⅱ・2単位・3年・後期、個人情報法制・2単位・後期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・後期、卒業論文・6単位・通年、日本事情B（分担）・2単位・留学生・前期、日本事情A（分担）・2単位・留学生・後期

7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員（会長）
田川市公平委員会委員（委員長）
築上町個人情報保護審査会委員（会長）
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
川崎町情報公開・個人情報保護・行政不服審査会委員
古賀市情報公開・個人情報保護審議会委員（会長）
古賀市行政不服審査会委員（会長）
玄界環境組合情報公開・個人情報保護審議会委員
粕屋北部消防本部行政不服審議会委員
粕屋北部消防本部情報公開・個人情報保護審議会委員
香春町政治倫理審査会委員
田川市立病院倫理委員会委員

8. 学外講義・講演

「第2期トランプ政権の半年間 アメリカの政治～共和党と民主党の実情～」筑豊市民大学（令和7年7月20日）

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

教育については、コメントシートにより学生の理解度を随時把握しながら、授業内で復習を兼ねたまとめを採り入れることで、学習効果の定着を図ることができた。研究については、十分に進められたとは言い難く、来年度に向けて計画的に調査等を行う。社会貢献については、地方公共団体の審議会等への運営参加を通じて、専門家としての知見を活用した貢献を実施できた。

人間社会学部／ 人間形成学科・心理コース	職名	教授	氏名	吉岡和子
-------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学し、2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を授与されました。臨床心理士として、医療機関（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任しました。

主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方②アサーショントレーニング・プログラムの実践③心理アセスメントを用いた本人や家族への心理的援助に関する研究です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ <著書>
 - ・マハザド・ホジャット アン・モイヤー（編）吉岡和子・田中健夫・細川理香・仲嶺実甫子・中園照美・吉田加代子・真崎由美子・岩橋宗哉・児玉恵美・富田真弓（訳）宮崎弦太（解題）（2024）『友人関係の心理学：生涯にわたる多様な友情の考察』金子書房
 - ・吉岡和子（2023）春日由美・五十嵐 亮編（2023）『現場で役立つ教育相談入門：子どもたちの幸せのために』第4章 第3節／第12章 第1節，4節 北樹出版
- ・ <論文>
 - ・杉本頼己・内野志織・仲本紀代子・吉岡和子（2026）「発達障害児の保護者に対する情緒的支援に焦点づけたグループ活動の実践：親グループ“だんだん”の経験を通して」『福岡県立大学心理臨床研究』18, 43-57.
 - ・吉岡和子（2025）「高校生におけるスクールカーストと学校適応感との関連に関する縦断的検討」についてのコメント『青年心理学研究』37, 85-89.（依頼）
 - ・佐野麻由子・吉岡和子（2025）「社会変動期にあるネパールの若年層の抑うつや自殺の増加と階層差の関連：日本との比較から(1)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33, 99-112.
 - ・守口典行・吉岡和子・小嶋秀幹（2024）「老年期男性における年齢に応じた心理的適応方略の変化：国立大学農学部卒業者・国家公務員（農学系）退職者を対象にした調査」『臨床心理学』24, 224-234.（査読有）
- ・水島侑子・吉岡和子（2024）「対人的動機および非主張的な自己表現と精神的健康の関連について」『福岡県立大学心理臨床研究』16,3-15.

②その他最近の業績

- ・吉岡和子（2024）「人生の転機における友人関係」特集：転機の心理学「こころ」のための専門メディア 金子書房

③過去の主要業績

- ・ <著書>
 - ・高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床，現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.
 - ・吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出版.

- ・ <論文>
 - ・ 吉岡和子 (2007)「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24 (6), 723-728.
 - ・ 吉岡和子 (2002)「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13, 13-30.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本青年心理学会 日本心理臨床学会（代議員） 日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会（常任理事） 日本パーソナリティ心理学会 日本精神分析学会 九州心理学会（理事）

6. 担当授業科目

<学部>心理実習Ⅰ・1単位・2年・通年（共同）、心理学的支援法・2単位・2年・後期（共同）、公認心理師の職責・2単位・2年・後期（分担）、心理実習Ⅱ・1単位・2年・前期（共同）、心理演習・2単位・3年・後期（共同）、心理実習Ⅲ-A・1単位・3年後期（共同）、家族心理学（社会・集団・家族心理学）・2単位・4年・前期、教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期（分担）、心理実習Ⅲ-B・1単位・4年前期（共同）、演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践・2単位・1・2年・前期、臨床心理基礎実習A・1単位・1年・前期（共同）、臨床心理基礎実習B・1単位・1年・通年（共同）、臨床心理査定演習Ⅱ・2単位・1年・後期、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）・10単位・1・2年・通年（共同）、臨床心理実習Ⅱ・1単位・2年・通年（共同）、心理実践実習B・2単位・1・2年・通年（共同）、心理療法特論・2単位・2年前期（分担）特別研究Ⅰ・2単位・1年・通年、特別研究Ⅱ・2単位・2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長
- ・ 福岡県臨床心理士会・福岡県公認心理師会連絡協議会 事務局長
- ・ 日本ロールシャッハ学会 常任理事／機関誌編集委員会委員長
- ・ 一般社団法人 日本臨床心理士会 代議員／理事
- ・ 一般社団法人 日本心理臨床学会 代議員
- ・ 九州心理学会 理事
- ・ NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室 理事／相談員
- ・ 九州大学総合臨床心理センター 面接指導員
- ・ 福岡女学院大学大学院 心理査定委託相談員
- ・ 西九州大学臨床心理相談センター 研究員
- ・ 飯塚市男女共同参画推進委員会 副会長

8. 学外講義・講演

- ・NPO 法人九州大学こころとそだちの相談室「心理アセスメント集中講義」7月13日
- ・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」8月29日
- ・福岡県市町村研修所「カウンセリング・マインド養成研修」9月1日、2日
- ・西部療育センター職員研修「ペアレントトレーニングを通じた家族の子育て支援」10月31日
- ・北九州LD等発達障害親の会すばる 勉強会 11月30日
- ・他大学との交流を通して学ぶ合同研修会「ロールシャッハ」12月6日

9. 附属研究所の活動等

<心理教育相談室>

- ・相談室室長、紀要部会、福岡県立大学心理臨床研究会の企画と運営
- ・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）の企画と運営

<人間社会学部紀要>

- ・査読担当

<令和7年度研究奨励交付金事業>

- ・プロジェクト研究：国際研究「社会変動期にあるネパールの若年層の抑うつや自殺の増加と階層差の関連：日本との比較から（共同 研究代表者）」

10. 令和7年度の自己評価

研究：学会誌のコメント論文1本と紀要2本を執筆した。教育：臨床心理士・公認心理師養成を中心に取り組んだ。学会活動：日本ロールシャッハ学会の機関誌編集委員長として第29巻を刊行した。また、日本臨床心理士会の理事も務めた。社会貢献：例年の活動に加えて、専門職向けの研修講師を担当した。以上、学内運営も含めて、2025年度の活動は充実したものであったと評価する。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	准教授	氏名	池 志保
---------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014 年より福岡県立大学人間社会学部および人間社会科学研究科専任講師、2019 年より専任准教授として大学教育に従事しています。研究では「臨床及び発達における創造性」を柱とし、1. 創造性に関する個人と環境との発達の相互交流、2. 創造性とパーソナリティとの関連を主な研究テーマとしています。心理臨床のフィールドは医療及び教育です。病院臨床では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院にて非常勤心理職として兼業に従事しています。教育臨床では福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、本学学生相談室にて学生相談員・学生相談室部会長を兼任してきました。その他、西南学院大学大学院非常勤講師（2016 年度集中「発達心理学特論」）、九州歯科大学口腔保健学科非常勤講師（2018 年度より現在まで。前期「総合医科学」）など。2007 年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士・日本精神分析学会認定心理療法士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・ <著書>

Martin Goßmann, Andrea Harms(Herausgeber), Shelley Doctors, Roger Fire, Jackie Gotthold, Hana Grinberg, Amy Joelson, Shiho Ike, Karin J. Lebersorger, Thomas A. Kohut, Amanda Kottler, Frank M. Lachmann, Karin J. Lebersorger, Jane Lewis, Joseph D. Lichtenberg, Krise und Kreativität. BRANDES & APSEL, 2019.

・ <論文>

井上奈美子・池志保（共著）大学1・2年生のためのインターンシップがもたらす教育効果。福岡県立大学人間社会学部紀要，第30巻第1号，2021.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 池志保（企画・司会者・話題提供者）・森さち子（話題提供者：慶應義塾大学）・小泉誠（話題提供者：甲子園大学）・山崎篤（指定討論者：JPS 精神分析的療法家センター）。「子どもとの臨床実践 間主観的交流を捉える精神分析のすすめ」日本精神分析学会第71回大会教育研修セミナー，2025.
- ・ 永田悠芽（司会者：上町カウンセリングオフィス）・平野直己（司会者：北海道教育大学）・生地新（主旨説明：まめの木クリニック）・木部則雄（演者：こども・思春期メンタルクリニック/白百合女子大学 発達心理学科）・平井正三（演者：御池心理療法センター/サポチル）・藤森 旭人（演者：Tavistock and Portman NHS Foundation Trust）・池志保（演者）・日下紀子（まとめ：ノートルダム清心女子大学/関西心理センター）・生地新（まとめ）。「子どもの精神分析の現状と未来 一次世代の担い手をどう育てるか？」日本精神分析学会第71回大会子ども青年臨床企画，2025.
- ・ 小泉誠（企画者・司会者：甲子園大学）・宮本淳（話題提供者：愛知医科大学）・池志保（話題提供者）・荻野基介（話題提供者：垂水病院）・安村直己（指定討論者：甲子園大学）「間主観的自己心理学入門 ② ～希望を取り戻す精神分析～」日本心理臨床学会第44回大会自主シンポジウム，2025.

- ・ 池志保（司会者）日本精神分析学会第 71 回大会「研修症例 3」, 2025.

③過去の主要業績

- ・ <著書>
池志保（共著）「8 章 2 節タイプ分けと得点化—類型論と特性論」「10 章 3 節心の状態を判断する—心理アセスメント過程—」「あなたも実感 No.19」「こんなところに No.20」,『自ら実感する心理学—こんなところに心理学』土肥伊都子編著, 保育出版社, 2016
- ・ <学会発表>
Presenters: Jacqueline Gotthold, Amy Lebersonger, Karin Lebersorger, Shiho Ike, Martin Gossmann & Koichi Togashi. Politics Enters the Therapy Playroom: From Anna Freud to Ornstein to... 41st IAPSP Annual International Pre-Conference, Vienna, 2018.
- ・ 池志保（企画・司会者・話題提供者）・森さち子（話題提供者：慶應義塾大学）・小泉誠（話題提供者：甲子園大学）・Greg Kolodziejczak（話題提供者：アメリカ・プライベートオフィス）・山崎篤（指定討論者：JPS 精神分析的精神療法家センター）.「間主観性理論と発達臨床」日本精神分析学会第 70 回大会教育研修セミナー, 2024.
- ・ 小泉誠（企画者・話題提供者：甲子園大学）・池志保（司会者）・宮本淳（話題提供者：愛知医科大学）・荻野基介（話題提供者：垂水病院）・井ノ崎敦子（話題提供者：徳島大学）・角田豊（指定討論者：京都連合教職員大学院/京都産業大学）「間主観的自己心理学入門①」日本心理臨床学会第 43 回大会自主シンポジウム, 2024.
- ・ <コラム>
池志保（単独）先人に訊ねる日本の心理臨床学史：北山修先生に訊く，一般社団法人心理臨床学会「日本心理臨床学会 40 周年記念誌—その歴史と記録—」, 2022.
- ・ <講演記録（日本語訳）>
トーマス・A・コフート（海外招聘講師），翻訳者：池志保（翻訳監修）・外山敬・西山豪. 精神分析と語られない歴史—なぜ精神分析家は文化を無視できないのか—, 精神分析研究 66 (4), pp.413-421, 2022.

3. 外部研究資金

- ・ 日本精神分析学会 2021 年度国際交流委員会助成金採択, トーマス・A・コフート海外招聘プロジェクト「精神分析と語られない歴史—なぜ精神分析家は文化を無視できないのか—」（企画者・申請者：池志保）JAPSP 海外招聘講演会.
- ・ 日本心理臨床学会 2022 年度国際交流助事業助成（国際学会発表）採択, “The Ambiguity of Living Creativity as an Artist and the Therapist’s Selfobject Functions” 開催地：アメリカ合衆国（ワシントン D.C.） 43rd Annual IAPSP Conference in Washington, DC（研究代表者：池志保）.
- ・ Shiho Ike, IAPSP Early Career Professional Scholarship, \$750.00 for expenses related to attending the conference, an additional \$500.00 travel costs and complimentary registration for any virtual conference etc., from October 1st, 2023 to October 1st, 2024.

4. 受賞

2023 IAPSP Early Career Professional Award

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会、IAPSP (International Association for Psychoanalytic Self Psychology)、IARPP (The International Association for Relational Psychoanalysis and Psychotherapy) (各正会員)

【その他の研究会】NAPI 精神分析的間主観性研究グループ、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会、JAPSP 日本精神分析的自己心理学研究会 (各正会員)

6. 担当授業科目

【学部】発達心理学 I-A (2 単位・前期)、発達心理学 I-B (2 単位・前期)、発達心理学 II (2 単位・後期)、心理的アセスメント (2 単位・後期)、心理実習 I (1 単位・通年)、心理実習 II (1 単位・前期)、心理実習 III (1 単位・後期)、公認心理師の職責 (2 単位・後期)、演習 (2 単位・通年)、卒業論文 (6 単位・通年)

【大学院】発達心理学特論 (2 単位・前期)、臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) (2 単位・前期)、臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) (2 単位・前期)、臨床心理基礎実習 A (1 単位・前期)、臨床実践実習 B (2 単位・通年)、臨床心理実習 I (心理実践実習 A) (10 単位・通年)、臨床心理実習 II (1 単位・通年)、研究倫理 (1 単位・通年)

7. 社会貢献活動

【役員】

日本心理臨床学会国際交流委員会委員 (2024 年度より現在)、日本精神分析学会運営委員 (2024 年度より現在)、NAPI 精神分析的間主観性研究グループ運営委員 (2019 年度より現在)、日本精神分析学会認定福岡精神分析研究会運営委員 (2022 年度より現在)

【査読】

心理臨床学研究

8. 学外講義・講演

・ウィニコット・フォーラム 2025「ウィニコットが目指したもの」指定討論者、大阪大学中之島センター (2025 年 11 月 23 日)

・福岡精神分析研究会系統講義「精神分析における実証研究の展開と展望」講師 (2025 年 9 月 6 日)

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 相談室委員

10. 令和 7 年度の自己評価

学ぶことの楽しみが得られるような授業作りを心がけた。学会では日本精神分析学会や日本心理臨床学会国際交流委員会で運営に携わりながら、学内に留まらず日本全体や国際的な視点において社会貢献に邁進したと考えている。今後も努力していきたい。

人間社会学部／人間形成学科・ こどもコース	職名	准教授	氏名	伊勢 慎
--------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

岡山大学大学院教育学研究科学学校教育専攻幼児教育講座修了、修士（教育学）。広島大学大学院教育学研究科教育人間科学専攻（博士課程）単位取得満期退学。岡山大学在学中に、保育士資格、幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭二種免許状を取得。

修了後、保育士として保育園で3年間働き、現在は現場での経験を生かし授業や研究を進めています。特に保育実習Ⅰ（保育所）を担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、指導案等の書き方などの指導に力を入れています。

主な研究分野は、保育学、幼児教育学です。近年では、保育者の前向きな働き方（職場環境等含む）に着目した研究を中心に行っており、研究の成果を生かし、保育所、幼稚園等での園内研修やその他の研修も行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 池田孝博、伊勢慎、原友紀「卒業生との連携による保育者養成校におけるキャリア支援の実践」、福岡県立大学人間社会学部紀要第34巻2号、2026
- ・ 高口知浩、伊勢慎、井手裕子「早期離職保育士への復職支援に関する質的研究」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第33巻2号、2025
- ・ 伊勢慎、小山憲一郎：「保育士の勤務継続を支える要因尺度作成に関する研究」、保育学研究、第61巻第2号、2023

井手裕子、伊勢慎、池田孝博「保育者の困り感への対応における知識・技術獲得の現状と課題 - 課題解決のための情報収集とソーシャルスキルに着目して -」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第31巻2号、2023

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 伊勢慎、高口知浩、井手裕子「アフターコロナにおける幼稚園・こども園が地域に対して果たす役割とは」日本保育学会第78回大会、2025
- ・ 高口知浩、伊勢慎、井手裕子「ネガティブな保育報道が保育士に与える影響 - 離職を決意した0歳児担任の語りから -」日本保育学会第78回大会、2025
- ・ 井手裕子、伊勢慎、高口知浩「猛暑による環境の変化と保育現場の対応 - 保育教諭へのインタビュー調査より -」日本保育学会第78回大会、2025

伊勢慎、高口知浩、井手裕子、森下直美「地域と交流を図るための保育者の初めの第一歩 - 何に困って何を得たのか? -」日本乳幼児教育学会第35回大会、2025

森下直美、伊勢慎「幼稚園における集団保育の難しさに直面して - 園長と幼稚園教諭へのインタビューを通して -」日本乳幼児教育学会第35回大会、2025

高口知浩、伊勢慎、井手裕子「ネガティブな保育報道が保育士に与える影響 (2) - 充実保育士は報道をどう捉えるのか -」日本乳幼児教育学会第35回大会、2025

伊勢慎、菅原航平、井手裕子、青木哲、伊藤恵里子、北野幸子「気候変動下の保育環境の工夫～暑熱環境と向き合う日々～」日本乳幼児教育学会第35回大会シンポジウム、2025

原口直美、伊勢慎「集団保育における個と集団の育ちの両立を志向する保育者の課題と介入方法の検討」日本保育者養成教育学会第9回研究大会、2025

伊勢慎、小山憲一郎、中原雄一「アフターコロナにおける幼稚園4歳児が地域を活性化する町探検実践の試行」日本乳幼児教育学会第34回大会、2024

中原雄一、伊勢慎、小山憲一郎「コロナ禍後における保育士の精神的健康度とその要因」日本乳幼児教育学会第34回大会、2024

伊勢慎、高口知浩、井手裕子「Trial of Urban revitalization Starting with Regional Exchange in Japanese Kindergarten」国際幼児教育学会第45回大会、2024

小山憲一郎、伊勢慎、中原雄一「コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして働き続けた保育士を心理的に支えたものに関する検討」第65回日本心身医学会総会、2024

高口知浩、伊勢慎「園を辞めたが保育を辞めなかった保育士から探るやりがいー離職を経験した3年目保育士の語りからー」日本子ども社会学会第30回大会、2024

③過去の主要業績

- ・ 中坪史典、山下文一、松井剛太、伊藤嘉余子、立花直樹、伊勢慎、その他：『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』（第1部⑤労働環境）、ミネルヴァ書房、2021
- ・ 伊勢慎「私立保育園保育士の長期勤務要因に関する研究」、国際幼児教育研究第26巻、2019
- ・ 中坪史典、境愛一郎、濱名潔、保木井啓史、伊勢慎、サトウタツヤ、安田裕子『質的アプローチが拓く「協働型」園内研修をデザインする 保育者が育ち合うツールとしてのKJ法とTEM』、ミネルヴァ書房、2018

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本保育学会、国際幼児教育学会（理事）、日本子ども社会学会、日本質的心理学会、日本乳幼児教育学会（年次大会実行委員）、日本混合研究法学会

6. 担当授業科目

（学部）

保育者論・2単位・1年・後期、保育内容総論・2単位・2年・前期、保育カリキュラム論・2単位・2年・後期、保育実習指導Ⅰ・2単位・2～3年・通年、演習・2単位・3年・後期・通年、保育実習Ⅰ・4単位・3年・前期、乳児保育Ⅱ・2単位・3年・前期、保育方法論・2単位・3年・後期、保育実習指導Ⅱ-A・1単位・3年・後期、保育実習Ⅱ-A・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、保育内容演習・2単位・4年・後

期

(大学院)

教育課題研究 A・2 単位・修士 1 年・前期、子ども教育カリキュラム研究・2 単位・修士 1 年・前期、子ども教育実践方法研究・2 単位・修士 1 年・後期、特別研究Ⅱ・4 単位・修士 2 年・通年

7. 社会貢献活動

香春町教育委員会評価委員委員長、国際幼児教育学会理事、北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員、添田町公の施設指定管理者候補者選定委員会委員長

8. 学外講義・講演

熊毛地区保育連合会職員研修会講師、北九州市保育士研修「領域・言葉」講師、ECEQ 公開保育研修園アドバイザー

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

教育・授業においては、概ね良好な授業評価をいただいております、これからも保育士として必要なスキルや保育所での実習に関する内容を丁寧に指導していきたい。しかし、授業時間外での学習時間が相対的に短い授業もあり、課題を安易に増やすのではなく、学生がより学びたい、深めたいというテーマを提示し促していきたい。研究においては、地域の中の保育施設の役割の再定義について試みたい。また、引き続き保育者の前向きな継続支援についても研究を進めていき、保育士不足の社会的な課題にアプローチしていきたい。

人間社会学部／ 人間社会学科・総合コース	職名	准教授	氏名	井上奈美子
-------------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ①キャリア形成、人的資源管理、リーダーシップ、女性活躍推進、男女共同参画、若年者雇用
- ②企業・団体と連携したインターンシップおよび課題解決型演習（PBL）を通じたキャリア教育の開発に取り組んでいる。特に対話的プロセスを重視し、初年次から社会接続を意識した教育を導入し、学生が社会課題を自ら発見し、解決に向けて実践する教育を体系的に展開している。
企業・行政との連携プログラムの開発を通じて、組織における人材育成やマネジメントの視点を取り入れ、学生の意思決定力や課題解決力を育成している。さらに、九州地域において行政ビッグデータ分析や企業価値の発見に取り組む実践型教育を推進し、地域課題の解決と人材育成を両立している。今後は、これらの成果を基盤に、産学官連携による人材育成モデルの高度化と、人的資源開発の知見を活かした教育プログラムの体系化を目指す。
学位：経済学博士（九州大学大学院）

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 地域型インターンシップにおける初年次学生と受入組織の相互成長の実証分析：キャリア形成と人的資源管理の視点から 福岡県立大学紀要
- ・ 大学1年次から3年次までの段階的キャリア開発プログラムの設計 福岡県立大学紀要
- ・ 地方大学における地域連携インターンシップ教育プログラムの開発 福岡県立大学紀要

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 「大学生が抱く将来のライフ・キャリア・イメージとキャリア教育の課題」日本ビジネス実務学会、2025年
- ・ 「学内グループ学習とインターンシップ連動学習の創造性の比較」、日本ビジネス実務学会、全国研究大会、2023年
- ・ 「地域インターンシップにおける初年次学生と受入組織の相互成長の実証分析—キャリア形成および人的資源管理の視点から」、日本キャリア教育学会研究大会、2025年

② 過去の主要業績

- ・ 食品専門高校における弁当メニュー開発と道の駅での販売体験プログラムが生徒に与えた影響
- ・ Effect of Pre-and Post-internship Trainings for Freshmen and Sophomores in University Using the Lego Serious Play Method
- ・ 大学1・2年生のためのインターンシップがもたらす教育的効果

3. 外部研究資金

科研費，基盤C「人口減少と地域の女性就業・女性活躍に関する研究」 2023～2027年度

4. 受賞

日本ビジネス実務学会第 33 回全国大会発表の部 学会奨励賞「150 社の採用コミュニケーションに関するヒアリング調査報告」所属（お茶の水女子大学）

5. 所属学会

・日本ビジネス実務学会会員（九州四国ブロック幹事）・九州経済学会 ・日本キャリア教育学会 ・日本創造学会 ・日本工学教育学会

6. 担当授業科目

情報と職業（1 単位・2 年前期）、社会人基礎力演習（2 単位・1～2 年前期）、教養演習（2 単位・1 年前期）、プレインターンシップ（1 単位・1 年前期）、ライフキャリア論（2 単位・1～4 年前期）、キャリア教育論（2 単位・3 年前期）、人的資源管理論（2 単位・2 年前期）、組織マネジメント（2 単位・3 年前期）、問題解決演習（2 単位・2～3 年後期）、グローバル社会論（2 単位・2 年後期）、日本事情（2 単位・後期）、卒業論文（通年）、学内業界研究会（年 1 回）

7. 社会貢献活動

田川市男女共同参画推進協議審議会 会長（審議会、女性リーダー育成研修講師、男女共同参画市民意識調査など）、飯塚市資産等報告書審査会 委員

田川市男女共同参画に関する市民意識調査監修、男女共同参画に関する事業所アンケート監修
日本経営者協会参与、特定非営利法人久留米 10 万人女子会フォーラムアドバイザー

8. 学外講義・講演

九州産業大学非常勤講師（九州企業事情、企業経営）

高校生向けキャリア講話（キャリア）

企業の人事教育（管理職研修、若年者定着研修、女性リーダー育成他）

企業や行政機関のパワハラ・セクハラ研修、田川市女性リーダー研修

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学公開講座パワハラ・セクハラ講演

10. 令和 7 年度の自己評価

本年度は、キャリア教育および人的資源管理の視点に基づき、初年次から段階的に展開する教育プログラムの高度化を推進し、企業・行政と連携したインターンシップおよび課題解決型演習（PBL）を通じて学生の実践的能力の育成に成果を上げた。研究面では、地域型インターンシップにおける学生と受入組織の相互成長に関する実証研究を進展させ、キャリア形成と人的資源管理を統合した分析視点の深化を図るとともに、学会発表を通じて成果を発信した。社会貢献においては、自治体の男女共同参画施策や企業研修への参画を通じて地域における人材育成と組織開発に寄与した。今後は、これらの教育・研究・社会貢献を一層体系的に連動させ、産学官連携による人材育成モデルの高度化と理論的枠組みの構築を推進する。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
-----------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程修了。博士（社会福祉学）。

主な研究テーマは以下の三点です。一点目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。不登校をはじめとする種々の教育課題を改善していくため、スクールソーシャルワーカーに求められる専門的役割や機能について実証研究を中心に行っています。二点目は、「児童虐待防止に向けた家族支援に関する研究」です。児童虐待を早期発見・未然防止していくための家族支援に関する具体的方法について研究を行っています。三点目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。知的障害・発達障害（児）者の地域生活の充実に向け、地域の有機的ネットワークを活用した社会資源の開発・開拓および障害特性に対応したソーシャルワーク実践を研究しています

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 奥村賢一（2025）「全国実態調査からみる学校ソーシャルワーク実践の現状と課題ー子どもの権利保障に向けたスクールソーシャルワーカーの専門的役割ー」『学校ソーシャルワーク研究』（20），. 36-51.
- ・ 奥村賢一（2023）「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程・実習プログラムの変遷と展開課題ー福岡県立大学における教育実践報告からの検討ー」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32(1), 143-154.
- ・ 奥村賢一（2023）「障害者権利条約第24条「教育」の改善勧告（総括所見）を受けてー日本の特別支援教育とインクルーシブ教育システムの課題ー」公益社団法人日本知的障害者福祉協会『障害福祉研究さぼーと』70（2）38-44.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 奥村賢一（2026）「子どもたちの未来を地域で支える包括的支援ースクールソーシャルワーカーの視点からー」基調講演，日本ソーシャルワーク学会ソーシャルワークコラボ in 愛知，日本福祉大学.
- ・ 奥村賢一（2025）「The role of school social workers in creating attractive and welcoming schools」
4th Asia Network of School Social Work International Conference (Singapore, National University of Singapore), (ポスター発表)
- ・ 奥村賢一（2025）「【学校×福祉】連携のパラドックスーソーシャルワークの視点からー」基調講演，日本学校教育相談学会広島支部研究会，広島大学.

③過去の主要業績

- ・ 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーのしごとースクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版.
- ・ 奥村賢一（2009）「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関するー考察ーパワー交

相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻.

- ・ 奥村賢一 (2009)「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察ー軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻, 第1号.

3. 外部研究資金

科学研究費(基盤研究C)「スクールソーシャルワーカーの初任者研修プログラムの開発に関する研究」
364万円, 2025年度～2029年度.

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

【学部】不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年、子ども家庭福祉論A・2単位・2年・前期、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年、ソーシャルワーク実習A・2単位・2年・後期、ソーシャルワーク実習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年・通年、ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位・3年～4年・通年、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、子ども家庭福祉論B・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、福祉専門職特講A・2単位・3年～4年・後期

【大学院】特別研究Ⅰ・4単位・1年、特別研究Ⅱ・4単位・2年、子ども家庭福祉研究A・2単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉研究B・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

日本学校ソーシャルワーク学会・代表理事

一般社団法人福岡県スクールソーシャルワーカー協会・会長

福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会・委員

文部科学省「心理・福祉分野に強みを持つ養護教諭の養成・育成プログラム開発事業」有識者委員会・委員

文部科学省児童生徒の自殺予防に向けた早期対応に係るガイドライン(仮称)の検討ワーキンググループ・委員

文部科学省令和6年度いじめ対策・不登校支援等推進事業「心理・福祉に関する教職員向けの研修

プログラムの開発に関する調査研究」運営協議会・委員
日本ソーシャルワーク学会学会賞選考委員会・委員
福岡市こども・子育て審議会・委員
福岡市社会的養育あり方検討会・委員
福岡市多様な学び検討会議・副委員長
福岡市いじめ防止対策推進委員会・委員
大牟田市いじめ防止対策委員会 委員長
香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長
田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
宗像市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
宗像市子どもの権利救済会議・委員
福津市こどもの国推進協議会・委員
福岡県警察本部少年課・専門アドバイザー

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

10. 令和7年度の自己評価

教育活動では、スクールソーシャルワーク教育課程の実習プログラムの充実に向け、新たな実習先の開拓を行った。研究活動では、複数の自治体で取り組む不登校予防プロジェクトの研究成果について、シンガポールで開催されたスクールソーシャルワークのアジア大会（4th Asia Network of School Social Work International Conference 2026）でポスター発表を行った。学内運営では、学務部会員として社会福祉コース新設科目の設置および社会人大学院生の履修ニーズに沿った授業日程の調整等に取り組んだ。社会貢献活動では、国や自治体のスクールソーシャルワーカー及び子ども家庭福祉に関連する事業等のスーパーバイザー並びに委員を務めた。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	河本 恵美
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、海事英語及び海事英語教育である。研究内容は、海難事故報告書や管制官の発信データを収集し、母語に干渉された英語の誤用表現を分析している。また、海上交通における海難事故や海上での被害を防止するために、日本と韓国間 による海事英語や海事文化の比較研究も行い、日韓海上交通管制官の外国船への対応を文化面 からも検証している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ “The Effectiveness of Maritime English Learning Program: An Investigation of Misused Expressions and First-Language Interference among Japanese Vessel Traffic Operators” (単著) 『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University (2023 年 3 月 31 日)
- ・ (教育実践報告) 2022 年度社会福祉学科における福祉英語の取り組み—講義内容と効果的な学習法—, 福岡県立大学人間社会学部紀要 第 32 巻 第 1 号 pp. 131-142. (2023 年 10 月 1 日)

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ <博士論文> A Comparative Study of Maritime Cultures: A Study of the Actions and Procedures of Vessel Traffic Service Officers in Japan and Korea (2017 年 3 月)
- ・ "A Comparative Study of the Actions and Procedures of Korean and Japanese Vessel Traffic Service Officers" (共著) 『Journal of World Ocean Development』 published by World Ocean Development Institute at Korea Maritime and Ocean University, Vol. 26. pp. 200-227. (2017)
- ・ “A Comparative Study of Communication Styles: A Study of the Differences and Similarities of Communication Patterns in Japan and Korea”, 北九州市立大学大学院社会システム研究科『社会システム研究』第 16 号 (2018)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

・ 社会言語科学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、リーディング・ライティング中級(1)・1単位・1年・前期、総合英語初級(1)・1単位・2年・前期、総合英語(2)・1単位・2年・前期、英語講読Ⅰ・1単位・3年・前期、日本事情Ⅱ・2単位・留学生・前期、リーディング・ライティング中級(2)・1単位・1年・後期、総合英語初級(2)・1単位・2年・後期、総合英語中級(2)・1単位・2年・後期、英語講読Ⅱ・1単位・3年・後期、日本事情Ⅰ・2単位・留学生・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

R7年度の教育活動は、R5年度に英語科目が新カリキュラムに変更となり、3年間で円滑に新カリキュラムへ移行ができた。また、国際交流部会員として留学生履修科目「日本事情Ⅰ,Ⅱ」の科目代表を務め、留学生が有意義に受講できるよう学生支援班の職員と協力し、支援を行った。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	河野 高志
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006 年 3 月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012 年 3 月京都府立大学大学院公共政策学研究科福祉社会学専攻博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学（現：神戸親和大学）の非常勤講師を経て、2012 年 10 月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①多分野のソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討、②地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因の分析、③地域共生社会におけるソーシャルワーク実践の効果の検討、④ソーシャルワーク実践に活用するコンピュータ支援ツールの開発、⑤国保データベース（KDB）を活用した福岡県の医療費と介護費に関する分析、を行ってきました。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 河野高志（2026）「福岡県における後期高齢者の医療費に関連する要因の検討 - KDB を用いた令和 5 年度のデータ分析から -」『福岡県立大学人間社会学部紀要 34（2）』、pp. 107-113.
- ・ 河野高志（2025）「地域共生社会の実現に向けたソーシャルワーカー活用の効果 - 重層的支援体制整備事業の進捗状況と関連職種の取り組みに着目して -」『社会福祉学』66（1）、pp. 125-135.
- ・ 河野高志・山本大輔（2024）「ソーシャルワーク実践支援ツール『e スキャナー』によるアセスメントの意義 - 介護予防デイサービス事業所での調査を通して -」『ソーシャルワーク支援研究』1、pp. 21-32.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 河野高志・畑香理・本郷秀和（2025）「福岡県の後期高齢者医療における総医療費に影響を与える要因 - 国保データベース（KDB）を用いた分析 -」日本社会福祉学会第 73 回秋季大会、同志社大学、2025 年 10 月 5 日
- ・ 山本大輔・河野高志（2023）「ソーシャルワーク実践におけるアセスメントについての研究 - アセスメント支援ツール『e スキャナー』の試行と検討を通じて -」日本ソーシャルワーク学会 第 40 回大会、東北福祉大学、2023 年 7 月 8 日

③過去の主要業績

- ・ 河野高志（2021）『ソーシャルワークとしてのケアマネジメントの概念と展開 - 地域包括ケアシステムにみるミクロからマクロの実践 -』株式会社みらい
- ・ 河野高志（2021）「地域包括ケアシステムの構築における課題と進捗状況の検討 - 地域包括支援センターの全国調査を通して -」『社会福祉学』62（2）、pp. 76-90.
- ・ 河野高志（2019）「地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因」『社会福祉学』60（1）、pp. 63-74.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

6. 担当授業科目

《学部》

「社会福祉学概論Ⅱ」(2単位・1年・後期)、「ソーシャルワーク演習A」(1単位・1年・後期)、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法A」(2単位・2年・前期)、「ソーシャルワーク実習A」(2単位・2年・後期)、「社会福祉学演習」(2単位・3年・通年)、「ソーシャルワークの理論と方法D」(2単位・3年・前期)、「ソーシャルワーク演習C」(1単位・3年・前期)、「ソーシャルワーク演習D」(1単位・3年・後期)、「福祉専門職特講A」(3年・2単位・後期)、「卒業論文」(6単位・4年・通年)、「精神保健福祉援助実習」(5単位・4年・通年)、「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年)

《大学院》

「特別研究Ⅰ」(4単位・1年・通年)、「フィールドワーク」(2単位・1年・通年)、「ソーシャルワーク研究A」(2単位・1～2年・前期)、「ソーシャルワーク研究B」(2単位・1～2年・後期)、「特別研究Ⅱ」(4単位・2年・通年)

7. 社会貢献活動

直轄地区居住支援協議会 委員

一般社団法人日本社会福祉学会 第8期代議員

嘉麻市男女共同参画審議会 会長

直方市障がい者差別解消調整委員会 委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

教育においては、学生に分かりやすく授業を展開することを心がけたことが授業評価アンケートでも一定の評価を得ることに繋がったため、継続して取り組んでいきたい。研究は、KDBを活用した医療費・介護費の分析をすすめ、成果を公表することができたが、研究自体はまだ途中であるので引き続き分析をすすめたい。管理運営については、教学マネジメントの推進に取り組み、一定の成果を学内で共有することができた。社会貢献活動では、審議会で会長職を務めるなどしてきたが、今後も積極的に役割を果たしていきたい。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	准教授	氏名	小山憲一郎
---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2013 年 3 月鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を修了。摂食障害患者の知能に関する研究を行い、学位（博士（医学））を取得。2015 年 10 月に本学に着任しました。現在は、マインドフルネスとセルフコンパッションを中心に、ネガティブな感情の受容を促す心理療法を用いたストレス関連疾患の治療に関する研究を行っています。特に肥満症に対してマインドフルネスを用いた治療の効果やオベスティ・スティグマについての研究に参加しており、2020 年に Mindfulness Based Eating Awareness Training (MB-EAT) の Qualified Instructor を取得しました。公認心理師・臨床心理士です。また、ゼミ生の学会発表、論文執筆・投稿を積極的にサポートしています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

Appetite rumination: Validation of a hierarchical structure and its cognitive–emotional pathways to maladaptive eating. Ken Ichiro Koyama, Keizaburo Ogata. *Journal of Clinical and Basic Psychosomatics*, In printing.

- ・ ポジティブな映像と抑うつ音楽の関係フレームづけに関する心理学的実験 高倉雄大・小山憲一郎 福岡県立大学心理臨床研究, 17 巻 2025 3 月
- ・ 減量のための集団療法にマインドフルネスを使用した経験と今後の可能性について 小山憲一郎 日本心療内科学会誌 Vol. 28, No.3, 2024,23-30.
- ・ マインドフルネスを用いた肥満症治療はリバウンドを防止できるか？ 野崎剛弘・小山憲一郎・横山寛明・西原智恵・小牧元・須藤信行 日本心療内科学会誌 Vol. 28, No.3, 2024,38-45.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ マインドフルネスは衝動性を直接的に緩和することを介して食行動を改善する・MB-EAT に関する基礎研究：Appetite Rumination Scale の作成・小山憲一郎 2026 年 3 月 第 12 回日本マインドフルネス学会
- ・ 地方自治体職員に対するマインドフルネス及び動機づけ面接を用いた短期集団介入の効果の検討 村田尚行 小山憲一郎 2026 年 3 月 第 12 回日本マインドフルネス学会
- ・ 獲得的レジリエンスを向上させる心理学的要素の検討—既存の心理学的構成概念による心理的柔軟性の再構成という視点から 牟田朱里、小山憲一郎 第 12 回日本マインドフルネス学会

③過去の主要業績

- ・ The relationship between premorbid intelligence and symptoms of severe anorexia nervosa restricting type. Keizaburo Ogata , Ken Ichiro Koyama, Takamasa Fukumoto, Suguru Kawazu, Mihoko Kawamoto, Eriko Yamaguchi, Yuuki Fuku, Marie Amitani, Haruka Amitani, Ken Ichiro Sagiyama, Akio Inui, Akihiro Asakawa. *Int J Med Sci.* 2021 Feb 4;18(7):1566-1569. doi: 10.7150/ijms.53907.

- Case Report: The Effectiveness of Cognitive Behavioral Therapy with Mindfulness and an Internet Intervention for Obesity: A case series. Keizaburo Ogata, Ken Ichiro Koyama, Marie Amitani, Haruka Amitani, Akio Inui (2018) *Frontiers / Nutrition*
Good appearance of food gives an appetizing impression and increases cerebral blood flow of frontal pole in healthy subjects.
Ken Ichiro Koyama, Haruka Amitani, Ryo Adachi, Toshiki Morimoto, Megumi Kido, Yuka Taruno, Keizaburo Ogata, Marie Amitani, Akihiro Asakawa, Akio Inui
International journal of food sciences and nutrition 67(1) 35-9 2016 年
- Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain. Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshihiro Nakahara, Haruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui, *Nutrition* ;28:1132-1136. 2012 (学位論文)

3. 外部研究資金

科研費 オベシティスティグマの多施設実態調査・肥満に対する差別的感情が診療に及ぼす影響-
2023-2026 分担研究者
科研費 アフターコロナ時代における保育士の新しいメンタルヘルス対策の実行手法の検討
2021-2024 分担研究者
科研費 マインドフルネス食観トレーニングに関する基礎研究 研究代表者 2021-2025

4. 受賞

5. 所属学会

日本マインドフルネス学会 日本心身医学会 日本認知療法・認知行動療法学会 日本肥満症治療学会 西日本肥満研究会 など

6. 担当授業科目

健康・医療心理学 障害者・障害児心理学 臨床心理学特論など

7. 社会貢献活動

Journal of Clinical and Basic Psychosomatics Special Issue “**Psychosomatic and Psychological Perspectives on Clinical Obesity**” Guest Editor
日本肥満症治療学会メンタル行動医学部会 委員 同委員会 オベシティ・スティグマ小部会委員
査読：Bio Psychosocial Medicine, Review Editor on the Editorial Board of Eating Behavior (specialty section of Frontiers in Psychology and Frontiers in Nutrition)

8. 学外講義・講演

筑豊市民大学教養講座 2026 年 1 月 25 日 つき合いにくい感情と上手につきあうための
マインドフルネス講座

第 46 回日本肥満学会／第 43 回日本肥満症治療学会学術集会 シンポジウム：肥満症および摂食障害
治療におけるマインドフルネスの実践

第 43 回肥満症治療学会 行動医学講習会「マインドフルネスがもたらす肥満症治療への効果 ―体験
的理解のすすめ―」

9. 附属研究所の活動等

ペアレント・トレーニングを応用した特別支援教育スキルアップ ワークショップ「マインドフルネ
ス」講座 講師 主催 福岡県立大学大学院心理教育相談室 令和 7 年度福岡県立大学公開講座 III
助成・共催 田川市・福岡県立大学包括連携協定に基づく事業

10. 令和 7 年度の自己評価

既卒生の学会発表の支援、自身の研究（学会発表、国際誌への論文投稿）、国際誌の査読、ゲストエデ
ィター、学外の講演活動など多角的かつ精力的に活動できました。

人間社会学部／地域社会コース・総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	坂無 淳
--------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は社会学とジェンダー研究です。現在の具体的な研究テーマとしては、1つめに高等教育と専門職におけるジェンダー平等についてです。研究者など複数の専門職を取り上げ、キャリア各段階でのジェンダー差やワーク・ライフ・バランスについて研究しています。2つめに、コミュニティと子育てについてです。日本の子育ての事例やイギリスでのコミュニティ開発についても研究をしています。3つめに、大学教育における学生の主体的な参加を促す技法についてです。これまで学生が実際にデータを集め分析する科目を教えてきました。他科目でもファシリテーションなどの手法を取り入れています。取得学位（修士（文学））。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 坂無淳，2025，「定年期以降の人間関係——ジェンダー差と社会化の観点から」櫻井義秀・清水香基編著『東アジアのアクティブ・エイジング——サードエイジを生きる』北海道大学出版会，195-215.
- ・ 河野銀子・大濱慶子・坂無淳・後藤みな・イプトナー・カロリン・鈴木宏昭・ミラー・ジェリー，2024，「女子の理系進路選択事情——中国・シンガポール・ドイツ・アメリカ調査から」『ポリモルフィア』9：50-8.
- ・ 坂無淳，2024，「公的統計からみる日本の専門職と性別職域分離」『福岡県立大学人間社会学部紀要』32(2)：31-41.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 坂無淳，2025，「定年期以降の男性の近隣関係と年齢，自治会活動の関連」北海道社会学会第73回大会（於札幌大谷大学），6月21日.
- ・ 坂無淳，2023，「シンガポールの高大接続の特徴と女性のSTEM専攻——学生・卒業生・大学教員へのインタビュー調査から」課題研究発表：女子の理系進路選択拡大に向けたSTEM分野の高大接続，日本科学教育学会第47回年会（於愛媛大学），9月18日.
- ・ 〈報告書・書評・評論・エッセイ〉
坂無淳 編，2025，『社会調査実習報告書2024 福岡県内の自治体における男女共同参画の推進に関する調査——田川市・飯塚市での行政・団体への調査から』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.
坂無淳，2024，「書評 北海道ジェンダー研究会編『ジェンダーで読み解く北海道社会——大地から未来を切り拓く女性たち』」『現代社会学研究』37：87-90.
坂無淳，2023，『高等教育におけるジェンダー・バランスの不均衡とその是正に関する実証研究』2018-2022年度科学研究費補助金研究成果報告書（18K12939），福岡県立大学.

③過去の主要業績

- ・ Bolton, Matthew, 2018, *How to Resist: Turn Protest to Power*, London: Bloomsbury Publishing. (藤井敦史・大川恵子・坂無淳・走井洋一・松井真理子訳, 2020, 『社会はこうやって変える!——コミュニティ・オーガナイズング入門』法律文化社。) 翻訳担当: 第4章, 第6章, 第7章
- ・ 坂無淳, 2015, 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論』65(4): 592-610.
- ・ 坂無淳, 2014, 「都市における保育の共同——埼玉県新座団地の共同保育の事例から」『立教大学コミュニティ福祉研究所紀要』2: 61-80.

3. 外部研究資金

科研費, 基盤C (研究代表者), 現代日本の専門職化と性別職域分離に関する社会学的研究, 4420千円, 2023~2027年度

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本社会学会, 日本ジェンダー学会, 日本教育社会学会, 北海道社会学会, 西日本社会学会, ISA (International Sociological Association), RC32 Women, Gender, and Society, RC04 Sociology of Education

6. 担当授業科目

データ分析の基礎・2単位・1年・前期, 教養演習・1単位・1年・前期, 統計学・2単位・1年・後期, 社会統計学Ⅰ・2単位・2年・前期, 社会統計学Ⅱ・2単位・2年・後期, ジェンダー論・2単位・3年・前期, 公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ・各1単位・3年・前後期, 社会福祉学演習・2単位・3年・通年, 演習・2単位・3年・通年, 卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

飯塚市男女共同参画推進委員会委員・会長

福岡県福智町男女共同参画審議会委員

田川市男女共同参画センター運営委員・ゆめっせフェスタ実行委員

福岡県男女共同参画センターあすばる「高校生×ジェンダー平等ワークショップ」アドバイザー

GEAHSS (人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会) 調査委員会・委員長

西日本社会学会『西日本社会学会年報』編集委員

8. 学外講義・講演

- ・坂無淳，2025，「世界における日本のジェンダーギャップの状況と課題」あすばる高校生×ジェンダー平等ワークショップミニ講座，主催 福岡県男女共同参画センターあすばる（於クローバープラザ），8月4日．
- ・坂無淳，2025，「男性からみた男女共同参画——男らしさが意識、維持され、変化する時」令和7年度行政職員のための男女共同参画セミナー，主催 福岡県男女共同参画センターあすばる（オンライン），5月30日．
- ・坂無淳・高本友紀，2025，「スペシャル対談——みんなが生きやすい社会を未来へつなぐ。」福智町『広報ふくち』2025年3月号，231：12-3．

9. 附属研究所の活動等

該当なし

10. 令和7年度の自己評価

教育では、データ分析、ジェンダー論に関する講義において、新しい内容を加えるなどの改善を行い、ゼミや演習では学生自身が自身のテーマについて自身で調査や研究を行うことができるよう指導を行った。研究では、研究代表である科研費の研究において調査を行うことができたほか、他大学の研究者との共同研究を継続して行っている。社会貢献では、福岡県内の自治体の男女共同参画に関する委員や、高校生、自治体職員などへの講演やアドバイザーの機会を得て、地域や行政の方々と情報交換することができた。

人間社会学部／総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	柴田 雅博
------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999 年九州大学大学院システム情報科学研究科修士課程を修了、2005 年同大学大学院同研究科博士後期課程を単位取得退学。2005 年博士(工学)取得。財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012 年フェリス学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015 年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特に WWW 上にある膨大なテキストデータを利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。そのほか、情報教育、プログラミング教育に関する研究も行っている。

本学では情報学教育を中心として、教育プログラム「データサイエンス・プログラム」に携わっている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 柴田雅博，増満誠，中本亮「受講者の視点を踏まえた効果的なオンライン授業の検討」，福岡県立大学人間社会学部紀要，Vol.31, No.2 （2023.3）。
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果（2023 年度）」，福岡県立大学人間社会学部紀要，Vol.32, No.2 （2024.3）。
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果（2023 年度）」，福岡県立大学人間社会学部紀要，Vol.34, No.1 （2025.10）。
- ・ 柴田雅博「福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果（2023 年度）」，福岡県立大学人間社会学部紀要，Vol.34, No.2 （2026.3）。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 大久保淳子，森久美子，柴田雅博，坂無淳「情報活用能力育成の現状と課題 ―プログラミング教育を視点とした就学前段階からの体系的なカリキュラム編成について―」，日本乳幼児教育学会第 33 回大会（2023.12）。

③過去の主要業績

- ・ 柴田雅博，富浦洋一，田中省作：「Web 上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援」，情報処理学会論文誌，Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- ・ 柴田雅博，富浦洋一，西口友美：「雑談自由対話を実現するための WWW 上の文書からの妥当な候補文選択手法」，人工知能学会論文誌，Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- ・ M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: "Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English", Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

情報処理学会，電子情報通信学会，人工知能学会，言語処理学会，日本情報教育学会

6. 担当授業科目

「教養演習」(1単位) 1年・前期，「情報処理の基礎と演習」(2単位) 1年・前期，「情報処理応用演習」(1単位) 1年・後期，「Web デザイン演習」(1単位) 2年・前期，「情報ネットワーク論」(2単位) 2年・前期，「情報ネットワーク演習」(1単位) 2年・後期，「データベース論」(2単位) 2年・後期，「マルチメディア論」(2単位) 2年・後期，「グローバル社会論」(2単位) 2年・後期（オムニバス），「プログラミング演習」(1単位) 3年・前期，「情報検索システム論」(2単位) 3年・後期，「情報と職業」(1単位) 3年・前期（教職科目）

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

令和 7 年度研究奨励交付金（横断型教育プログラム開発研究）「高大接続を踏まえたデータサイエンス・プログラムの ICT 教育の推進」研究分担者

10. 令和 7 年度の自己評価

昨年度に続き、新科目「マルチメディア論」「情報ネットワーク演習」「情報と職業」に対して授業内容のブラッシュアップを行いました。「情報ネットワーク論」を前期科目に変更したため、それに伴う授業内容の再検討を行いました。

また、情報処理教室の機器更新に伴い、システム設定や導入アプリの再検討を行いました。

数理・データサイエンス・AI リテラシーレベルの認定に伴う情報教育への充実にも努めています。

人間社会学部／ 公共社会学科・地域社会コース	職名	准教授	氏名	田尾 真一
---------------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県北九州市出身。2010年 京都大学経済学部卒業（学士（経済学）取得）、2012年 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了（修士（経済学）取得）、2015年 同博士後期課程修了（博士（経済学）取得）。2015年 山口県の徳山大学（現・周南公立大学）に着任し、10年間の勤務を経て、2025年 本学に着任。主に経済学系の講義を担当する。

研究分野は財政学・地方財政論・政府間財政関係論。特に財政調整制度（日本でいう地方交付税交付金制度）に関心があり、各自治体の財政需要に見合った財源をいかに保障すべきか、政府間財政移転の望ましい制度のあり方について、他国（特にドイツ）の制度なども参考にしながら研究している。また、自治体財政の現状を把握することで、各自治体の抱える財政問題の明確化や、今後の持続可能な財政運営のあり方について模索することにも関心がある。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 田尾真一，2024，「山口県和木町における議会町づくり懇談会の取り組み」『周南公立大学論叢』（6），pp.27-32.
- ・ 田尾真一・鈴木力，2023，「周南市における介護労働者の労働・生活実態の解明」『周南公立大学 総合研究所 紀要』（1），pp.33-79.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・ 山本善積・足達正男・河村穆・鈴木力・田尾真一・竹尾久男・鶴田宗之・中村富美子・福谷進・渡辺君枝，2023，『周南市民行財政白書 2023 ―市民主体のまちづくりの前進のために―』，周南市行財政研究会，山口県地方自治研究所

（担当範囲：第3章 財政の評価 3-1 地方財政の仕組みと周南市の行財政改革，pp119-131、3-3 財政指標，pp179-182、第4章 社会保障と福祉をよりよく 4-3 周南市における介護労働者の働き方と課題（鈴木力と共著），pp199-211、4-4 若い世代の定住と自治体施策（鈴木力と共著），pp212-219、あとがき，pp220-221）

<コラム>

- ・ 田尾真一，2025，「減税ポピュリズムへの警鐘」『やまぐちの自治』（148），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2025，「「外国人旅行者向け免税制度の見直し」について」『やまぐちの自治』（147），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2024，「所得税の基礎控除引き上げの是非」『やまぐちの自治』（146），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2024，「「一億円の壁」問題と所得税の公平性」『やまぐちの自治』（145），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2024，「森林環境税をめぐる議論」『やまぐちの自治』（144），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2024，「ふるさと納税を批判的に考える」『やまぐちの自治』（143），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2023，「“Well-being”について考える」『やまぐちの自治』（142），pp.1-2
- ・ 田尾真一，2023，「政府税制調査会の中間答申を受けて」『やまぐちの自治』（141），pp.1-2

① 過去の主要業績

- ・ 諸富徹・野口剛・河音琢郎・藤貴子・川勝健志・門野圭司・水上啓吾・八木信一・吉田健三・田尾真一・篠田剛・片山和希・三宅裕樹・天羽正継，2014，『日本財政の現代史Ⅱ バブルとその崩壊 1986～2000 年』有斐閣
(担当範囲：地方財政：第 8 章 集権と分権の狭間，pp.203-224.)
- ・ 田尾真一，2021，「周南市財政についての一考察 ―新型コロナウイルス感染症緊急対策も踏まえて―」『徳山大学論叢』(93)，pp.225-239.
- ・ 田尾真一，2015，「ドイツにおける州政府の財政規律―安定化評議会による予算監視と財政再建―」『日本地方財政学会研究叢書』(22)，pp.60-81.

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本財政学会・日本地方財政学会・中四国商経学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、経済学・2 単位・1 年・後期、仕事の経済学・2 単位・2 年・前期、暮らしの経済学・2 単位・2 年・後期、地域社会分析法 B・2 単位・3 年・前期、公共経済学・2 単位・3 年・後期

7. 社会貢献活動

香春町，香春町行政改革推進委員会・会長
みやこ町，みやこ町総合計画審議会・会長

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和 7 年度の自己評価

着任初年度であり、右も左も分からない状況であったが、前任校での経験を活かし、講義も含めた学内活動にしっかりと従事することができた。また、周辺自治体とも繋がることができ、「財政・地方財政」という私の専門性を活かした貢献をすることもできたと考える。

今後はさらに教育・研究に励み、大学や地域にしっかりと貢献できるように努力したい。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	准教授	氏名	寺島 正博
-----------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

取得学位：博士（学術）

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GH と省略する）従事者における専門職性、および、無自覚の障害者虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていないとも言えない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今、新聞等が大きく報道しているように、障害者への虐待は重大な人権侵害となる。この障害者虐待に対し、国内外で未だ明らかにされていない無自覚の虐待（障害福祉サービス従事者・養護者・使用者が自覚をせずに障害者へ行う虐待）に着目し、その実態を明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの研究を行っている。

具体的には、障害福祉サービス従事者や市町村虐待防止センター職員等が、無自覚の虐待に対し、被害者（障害者）と加害者（障害福祉サービス従事者（同僚）・養護者・使用者）にどのような意識を持ち、どのような支援を展開し、どのような支援課題を抱えているのか、また、無自覚の虐待の発生要因と個人属性や環境がどのような関係性にあるのかを明らかとし、無自覚の虐待の防止に向けた支援モデルの構築を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・（共著）石崎龍二・寺島正博・廣田久美子「福祉施設における支援機器・介護ロボット・情報システム導入実態と開発ニーズ ―介護イノベーションに向けた包括的実証調査―」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第34巻第1号，2025年.
- ・（共著）寺島正博・石崎龍二・廣田久美子「特別支援学校高等部における情報教育と就職支援の実態に関する調査研究 ―全国質問紙調査の結果から―」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第34巻第1号，2025年.
- ・（共著）寺島正博・廣田久美子・石崎龍二「特例子会社における障害者支援 ICT システムの現状と課題―全国アンケート調査による管理者と一般職員の認識の違いを中心に―」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第33巻第2号，2025年.
- ・（単著）寺島正博「養護者による障害者虐待へのアプローチ：市町村障害者虐待防止センター職員の実践ガイドラインと影響要因」（査読有）『発達障害支援システム学研究』第23巻第1号，2024年，35-44頁.
- ・（共著）寺島正博・廣田久美子・石崎龍二「特例子会社における業務支援のための ICT ツール導入の実績と課題-インタビュー分析から見る障害者雇用と効率化の展望-」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第32巻第2号，2024年，23-29頁.
- ・（共著）石崎龍二・寺島正博・廣田久美子「高齢者通所介護事業所における福祉関連機器・用具の現

状と課題－A 県における質問紙調査によるニーズと課題の分析－」『福岡県立人間社会学部大学紀要』第 32 巻第 2 号，2024 年，71-83 頁。

②その他最近の業績

＜解説集＞

- ・（共著）『2025 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2025 年。
- ・（共著）『2025 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2025 年。
- ・（共著）『2024 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2024 年。
- ・（共著）『2024 精神保健福祉士国家試験過去問解説』中央法規，2024 年。
- ・（共著）『2023 社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2023 年。
- ・（共著）『2023 精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規，2023 年。

③過去の主要業績

- ・（単著）寺島正博「基幹相談支援センター職員における『養護者による障害者虐待』への対応支援に関する研究－虐待対応経験を持つ職員の全国意識調査を基に－」（査読有）『障害理解研究』第 J23 号，2022 年，1-13 頁。
- ・（単著）寺島正博「障害福祉サービス従事者における『養護者による障害者虐待』の支援に関する研究－全国訪問系サービス事業所のアンケート調査を通して－」（査読有）『発達障害者支援システム学研究』第 19 巻第 2 号，2020 年，103 - 113 頁。
- ・（単著）寺島正博『障害者の地域移行への援助－グループホーム従事者の専門職性』文芸社，2012 年。

3. 外部研究資金

2025 年度科学研究費助成事業 基盤研究(C)「無自覚な養護者による障害者虐待の解明と革新的支援策」金額 2,100 千円

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会

日本発達障害学会

日本発達障害支援システム学会

日本障害理解学会

6. 担当授業科目

＜学部＞障害者教育総論・2 単位・1 年・後期、障害者福祉論・2 単位・2 年・前期、精神保健福祉の原理Ⅰ・2 単位・2 年・前期、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2 単位・2 年・通年、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・2 単位・3 年・通年、ソーシャルワーク演習 B・2 単位・2 年生・通年、ソーシャルワーク演習 C・1 単位・3 年・前期、ソーシャルワーク演習 D・1 単位・3 年・後期、ソーシャルワーク実習 A・2 単位・2 年・後期、ソーシャルワーク実習 B・4 単位・3 年・前期、社会福祉学演習・

2 単位・3 年～4 年・後期～前期、卒業論文・6 単位・4 年・通年
＜大学院＞障害者福祉研究 B・2 単位・1・2 年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県障がい者施策審議会 会長
福岡県強度行動障がい者支援協議会 会長
福岡県障がい者自立支援協議会 委員
田川地区障がい者自立支援協議会 会長
田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会 会長
日中サービス支援型共同生活援助評価委員 会長
田川郡地域活動支援センター事業業務委託選考委員会 会長
糸田町公共交通会議 副委員長
直方市障害者施策推進協議会 委員
みやこ町地域福祉総合計画審議会 委員
糸田町地方創生・人口減少対策有識者委員会 委員

8. 学外講義・講演

新宮高校「出前講義」
福岡県立大学主催：日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック研修会大会 公開講座（シンポジウム座長）

9. 附属研究所の活動等

「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発」令和 7 年度研究奨励交付金（COC 研究）研究代表者，567,920 円（令和 7 年度），令和 7 年度～令和 8 年。
令和 7 年度採択附属研究所研究奨励交付金プロジェクト研究 COC 研究（1 年目）「保健福祉分野における業務改善のための情報ネットシステム・モデル開発ー精神科病院における ICT 活用の構造と主観的業務負担感との関連に関する研究」成果発表。

10. 令和 7 年度の自己評価

令和 7 年度は、障害者福祉の実践的課題に焦点を当て、研究と社会貢献の両面において積極的に取り組んだ。研究面では、2025 年度科学研究費助成事業基盤研究（C）「無自覚な養護者による障害者虐待の解明と革新的支援策」を獲得するとともに、附属研究所における研究活動も推進し、障害者虐待防止や保健福祉分野における業務改善に資する知見の蓄積に努めた。社会貢献面では、福岡県障がい者施策審議会会長等として県域の施策推進に携わるとともに、大学の地元である田川地区においても、田川地区障がい者自立支援協議会会長、田川市障がい者福祉基本計画等策定・推進委員会会長、田川郡地域活動支援センター事業業務委託選考委員会会長などを務め、地域福祉の推進に継続的に貢献した。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	准教授	氏名	董 秋艶
--------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2014 年 3 月、九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻博士後期課程満期退学。2015 年 3 月、九州大学より博士（教育学）の学位を取得。九州大学大学院人間環境学研究院の学際企画室テクニカルスタッフ、同研究院教育学部門助教を経て、2019 年 4 月に本学着任。主な研究分野は、教育学・教育社会であり、中でも特に中国の女子教育制度化に交わる日中関係に関心があり、これまで主に当時の日中両国のヒトやモノなどの動きに関する資・史料を駆使し、中国の近代女子教育の制度化過程、その制度化過程をめぐる日中関係史を解明に取り組んできた。現在は、日清戦争後の中国における日本女子教育情報の経路に関する研究を進んでいる。また、中国の近代幼児教育成立に関する日中関係史の研究にも関心がある。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 董秋艶「清末中国の幼児教育制度 ―呉汝綸の日本視察（1902）を手掛かりとして―」福岡県立大学人間社会学部紀要 第 34 巻第 1 号 35－44 頁 2025 年 10 月 1 日

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 董秋艶「清末中国の幼児教育制度 ―呉汝綸の日本視察（1902）を手掛かりに―」アジア教育学会 第 38 回研究例会 2025 年 3 月 24 日

③過去の主要業績

- ・ 董秋艶（2012）「日清戦争後中国における日本の女子教育情報―呉汝綸による日本視察（1902）を通して」『日本の教育史学』教育史学会紀要 第 55 号 72－83 頁
- ・ 董秋艶（2019）「中国における乳幼児教育の現状と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 28 巻第 1 号、111-120 頁
- ・ 董秋艶（2021）「清末中国における日本の女子教育の情報 ―下田歌子の『新撰家政学』（1900）の中国語翻訳書に着目して」『教育基礎学研究』九州大学教育基礎学研究会、第 18 号、2021（令和 3）年 3 月。

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究 C) 研究課題「清末中国における日本の女子教育情報～湯剣訳の『新撰家政学』（1902）に着目して」（22k02316）（令和 3 年度―令和 7 年度）（研究代表者）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

教育史学会、アジア教育学会、九州教育学会、日本保育者養成教育学会

6. 担当授業科目

＜学部＞教育学概論A・2単位・1年・前期、保育学・2単位・2年・前期、生涯教育論・2単位・2年・後期、教育制度論・2単位・3年・後期、幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・3年前期から4年前期、保育・教育実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、幼稚園実習Ⅰ・Ⅱ・4単位・3年・前・後期、その他。＜大学院＞子ども教育制度研究・2単位・1年・前期、子ども教育制度演習・2単位・1年・後期、教育課題研究A・2単位・1年・前期、教育課題演習A・2単位・1年・後期、子ども教育実践実習Ⅱ・2単位・2年、地域教育課題演習・2単位・2年。

7. 社会貢献活動

社会貢献活動として、本年度は福岡県私立幼稚園振興協会福岡部会に参加した。各大学の教員や幼稚園教諭と意見交換を行い、本学およびこどもコースの紹介を行った。また、福岡県福祉労働部子育て支援課保育企画・人材確保係主催の「保育士魅力発信フェア」に参加し、本学およびこどもコースの周知を行った。

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和7年度の自己評価

自己評価として、教育活動および大学運営は順調に進展しており、研究についても着実な前進が認められる。また、社会貢献活動の項で述べたとおり、福岡県私立幼稚園振興協会福岡部会に参加し、各大学の教員や幼稚園教諭との意見交換を通じて、本学およびこどもコースの周知に努めた。さらに、学生の就職支援に資するため、各園の保育者募集情報を収集し、本学へ還元した。加えて、福岡県福祉労働部子育て支援課保育企画・人材確保係主催の「保育士魅力発信フェア」に参加し、本学およびこどもコースの広報活動を行った。

人間社会学部・総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村晋介
------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究：「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観，社会観，就業観，インターネットに対する意識など）の解説を試みています。
- 2.ジェンダー論・結婚観に関する研究：日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 中村晋介「クラブ・ギャル系」女子学生のジェンダー観・性差観『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol. 33-1:17-32, 2024 年 10 月.
- ・ 「女子大学生・専門学校生のファッション選好——2017 年度の調査より」『福岡県立大学人間社会学部紀要』Vol. 32-1:1-20, 2023 年 10 月.
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 中村晋介「女子大学生・専門学校生の恋愛積極性・恋愛観に関する比較研究」『現代の社会病理』No. 34:75-89, 2019 年 10 月.
- ・ 中村晋介「日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？」友枝敏雄ほか編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい:47-55, 2019 年 8 月
- ・ 中村晋介「大学生と恋愛——恋愛に対する積極性の促進要因と阻害養親に着目して」『現代の社会病理』No. 31:95-108, 2016 年 10 月.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会，日本社会病理学会，日本発達心理学会，日本青年心理学会，日本家政学会，日本社会分析学会，西日本社会学会

6. 担当授業科目

プレ・インターンシップ・2 単位・1 年・前期，教養演習・1 単位・1 年・前期，社会調査法・2 単位・1 年・後期，社会学史Ⅰ・2 単位・2 年・前期，社会学史Ⅱ・2 単位・2 年・後期，質的調査法・2 単位・2 年，後期，現代社会論A（ジェンダー・世代）・2 単位・2 年・前期，グローバル社会論・2 単位・2 年・後期，日本事情A・2 単位・留学生，前期，福祉専門職特講・2 単位・3～4 年・後期

7. 社会貢献活動

川崎町子ども・子育て会議 議長
福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
NPO 福祉用具ネット 理事
九州大学社会学同窓会 常任幹事
筑豊市民大学 アドバイザー

8. 学外講義・講演

「人間とは何か——文化人類学への招待」筑豊市民大学，2025 年 6 月 15 日
「占いはなぜ『あたる』のか」門司学園高等学校，2025 年 12 月 2 日

9. 附属研究所の活動等

10. 令和 7 年度の自己評価

研究・教育・社会貢献活動，いずれも例年通りのペースで進めることができた。令和 8 年度から 3 年間の期間で科研費研究（研究代表者：中村晋介）に採択されたことは，これまでの研究が評価された結果だと思われる。筑豊市民大学を通しての地域貢献活動，リカレント教育にも取り組み，高い評価を得た。令和 8 年度以降も地域貢献活動に尽力したい。

人間社会学部／社会福祉コース	職名	准教授	氏名	松岡 佐智
----------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了，博士（保健福祉学）。

私は現在、高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では、自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者等の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ、「高齢者虐待の防止に向けた課題」について研究を進めています。特に、虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の職員に焦点を当て、「施設内虐待防止に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また、社会福祉教育分野では、社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして、「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」、「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して、社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法、及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 松岡佐智（2025）「第1部-第2章第1節 福岡県：特定非営利活動法人地域福祉を支える会そ：よかぜ」、「第II部第4章第4節 保険外相談と社会福祉士の配置について」本郷秀和・梶原浩介・松岡佐智・島崎剛・畑香理・田中将太・鬼崎信好・青柳壮悟・大場敬太『地域包括ケアシステムの推進に伴う介護系NPOの役割とソーシャルワーカー制度外サービスの役割と開発を中心にー 報告書』（科研費報告書），7-8，169-171.
- ・ 松岡佐智（2023）「第11章精神保健福祉」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論 第5版』講談社，165-178.
- ・ 飯干真冬花・本郷秀和・松岡佐智（2023）「感染症流行下の相談援助実習の課題と実習指導者への期待ーA大学における2013-2021年度実習後アンケート調査を通じてー」『福岡県社会福祉士会研究誌』2-12.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・

③過去の主要業績

- ・ 松岡佐智（2021）「施設内虐待の発生要因と予防策に対する介護老人福祉施設職員の認識の比較ー施設長・生活相談員・主任介護職員による自由記述の分析ー」『九州社会福祉学』第17号，15-28
- ・ 松岡佐智・本郷秀和（2020）「介護老人福祉施設における施設内虐待防止に向けた課題ー施設内虐待の要因に対する施設長・生活相談員・主任介護職員の認識の比較ー」『高齢者虐待防止研究』16(1)，55-67.
- ・ 松岡佐智・本郷秀和・畑香理・田中将太（2018）「高齢者虐待における地域包括支援センターと介護支

援専門員の連携の意義と課題 - 地域包括支援センター におけるインタビュー調査を通して - 』『高齢者虐待防止研究』14(1), 36-48.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本高齢者虐待防止学会, 日本地域福祉学会, 日本介護福祉学会、福岡県立大学社会福祉学会 (理事・事務局長)

6. 担当授業科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」(2単位・1年前期), 「ソーシャルワーク演習A」(1単位・1年後期), 「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」(2単位・2年通年), 「ソーシャルワークの理論と方法C」(2単位・2年後期), 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」(1単位・3年通年), 「ソーシャルワーク実習A」(2単位, 2年後期), 「ソーシャルワーク実習B」(4単位, 3年通年), 「ソーシャルワーク演習D」(1単位, 3年後期), 「社会福祉学演習」(4単位, 3年通年), 「福祉専門職特講A」(2単位, 3年後期), 「福祉専門職特講B」(2単位, 4年前期), 「卒業論文」(6単位・4年後期)

7. 社会貢献活動

- ・福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会 委員
- ・直方市高齢者保健福祉協議会 会長
- ・直方市直方市地域福祉計画・直方市地域福祉活動計画策定委員会 委員
- ・嘉麻市緊急通報システム事業業務委託事業者選定委員会 委員長
- ・篠栗町福祉総合計画策定審議会 委員

8. 学外講義・講演

- ・新宮町民生委員、福祉委員合同研修会 講師 「地域福祉に役立つ“自己覚知”」
- ・(公財)福岡県人権啓発情報センター 人権相談従事職員研修 講師「対人援助技法Ⅲ(演習)」

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

福岡県立大学リカレントセミナーの主担当として企画・運営を担い、本学卒業生や福岡県内の福祉従事者を対象としたリカレント教育の充実に寄与しました。特に、関係部署や講師陣との調整を円滑に進め、受講者の学びが最大化されるよう取り組みました。

人間社会学部／人間形成学科・ 心理コース	職名	准教授	氏名	麦島 剛
-------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

【発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究】

ADHD や自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常がもたらす電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安について検討している。具体的には、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害と catecholamine 神経系およびそれ以外の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHD を併発するてんかんモデル動物を用いて、ADHD における衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) ミトコンドリア外膜タンパク質による不安やストレス反応等への関与の解明。4) 高齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、構造化された心理療法（神経フィードバック療法・応用行動分析）の開発の一助となると考えられる。また老年学や教育心理学の立場から総合科学的考察を行っている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 麦島 剛 (2023). 羅針盤としての行動分析学の発展を期して J-ABA ニュース, 110, 11.
- ・ 麦島 剛 (2023). ADHD (注意欠如・多動症) モデル動物を用いた薬物療法・応用行動分析・ニューロフィードバック療法の相乗化. 細胞, 55, 652-656.
- ・ Moridera, A., Fujihara, H., Yoan, C., Mugishima, G. Fujiki, N. (2024). Effects of sleep deprivation on sleep and sleep electroencephalogram in secretin-receptor knockout mice. *Neuroscience Research*, 200, 41-47.
- ・ 麦島 剛 (2024). 神経経済学と行動薬理学. 臨床精神薬理, 27, 1233-1234.
- ・ Nakamoto, Y., Mugishima, G., Takamatsu, Y., Ikeda, K., Yoshii, M. (2025). EL mouse as an animal model for epilepsy, anxiety and Hyperactivity: Involvement of translocator protein 18kD (TSPO). *International Journal of Neuropsychopharmacology*, 28, 157-158.
- ・ 麦島 剛 (2025). 『学習の生理学的基礎』『生物学的制約と進化』吉野俊彦（編）読んでわかる学習心理学 サイエンス社

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 水流百香・榎田佳菜・竹明玲菜・吉田 萌・久保浩明・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島 剛 高確率大報酬条件を含む確率割引における双曲線関数モデルを用いたマウス選択行動の検討. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・久保浩明・水流百香・森寺亜伊子・井上真澄・東華岳・麦島 剛 ADHD モデルマウスの DRL 事態での衝動的反応における脳内自己刺激と餌ペレット強化子の比較検討. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会
- ・ 麦島 剛・久保浩明・永井友幸・水流百香・吉田 萌・竹明玲菜・平田うの・森寺亜伊子・東華岳・井

上真澄・中本百合江・吉井光信 高確率大報酬条件を含む確率割引におけるマウス選択行動の報酬量と報酬確率の感受性. 2023 年 9 月 日本行動分析学会第 41 回年次大会

- ・ 麦島 剛・吉井光信・竹明玲菜・梅原聡吾・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東 華岳・榛葉俊一 ADHD モデル動物 (EL マウス) の脳波 θ/β 比の時間変化および改善薬 methylphenidate 投与の効果. 2023 年 9 月 日本心理学会第 87 回大会
- ・ 竹明玲菜・榛葉俊一・吉井光信・久保浩明・森寺亜伊子・井上真澄・東 華岳・麦島 剛 EL マウスの脳波スペクトルと θ/β 比の ADHD 脳波特性との相似性. 2023 年 9 月 日本心理学会第 87 回大会
- ・ Moridera, A., Shinba, T., Kubo, H., Mugishima, G. D-index in order to prove dissimilarity in ERPs by paired stimuli in ADHD model rats. July 21-26, 2024, 33rd International Congress of Psychology, Prague, Czech Republic.
- ・ 麦島 剛・今尾 佳乃子・端口 弓月・名蔵 央夏・水流 百香・吉田 萌・竹明 玲菜・永井 友幸・森寺 亜伊子・久保 浩明. ADHD モデル EL マウスの僅差の遅延条件を含む遅延割引の双曲線関数による分析と atomoxetine 投与効果. 2024 年 9 月. 日本行動分析学会第 42 回年次大会
- ・ 端口 弓月・今尾 佳乃子・名蔵 央夏・水流 百香・吉田 萌・竹明 玲菜・永井 友幸・森寺 亜伊子・久保 浩明・麦島 剛. モデル動物 EL マウスを用いた僅差の選択を含む遅延割引課題における遅延および報酬量の感受性と atomoxetine 投与効果. 2024 年 9 月. 日本行動分析学会第 42 回年次大会
- ・ 竹明 玲菜・榛葉 俊一・森寺 亜伊子・久保 浩明・東 華岳・井上 真澄・麦島 剛. ADHD モデル動物 EL マウスに対する脳内電気報酬を用いたニューロフィードバック療法の有効性. 2024 年 9 月. 日本心理学会第 88 回大会
- ・ 麦島 剛・竹明玲菜・梅原聡吾・森寺亜伊子・久保浩明・東 華岳・中本百合江・吉井光信・榛葉俊一. EL マウスにおける脳波周波数の ADHD 的特徴の出現と治療薬 methylphenidate による改善. 2025 年 5 月. 第 43 回日本生理心理学会大会
- ・ 竹明 玲菜・榛葉 俊一・森寺 亜伊子・久保 浩明・東 華岳・井上 真澄・麦島 剛. ADHD モデル動物 EL マウスのミスマッチ陰性電位様反応. 2025 年 9 月. 日本心理学会第 89 回大会
- ・ Mugishima, G., Takemyo, R., Umebara, S., Moridera, A., Shinba, T. The effects of methylphenidate on the components of auditory event-related potential in spontaneously hypertensive rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2025 年 10 月. 85th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.

③過去の主要業績

- ・ 麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えた dopamine 系活動亢進によるラットの行動変化. 動物心理学研究, 47, 91-98.
- ・ Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry. 25, 1629-40.
- ・ 麦島 剛 (2009) 第 10 章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.
- ・ 麦島 剛 (2022). 『精神薬理学』大浦賢治(編)実践につながる新しい教養の心理学 Pp.229-241. ミネルヴァ書房

3. 外部研究資金

科学研究費補助金 ADHD オレキシン仮説の構築とそれに基づく心理療法 (NFB) 開発のための動物研究 基盤研究(C) 研究代表者 課題番号 25K06458 獲得金額 6,240 千円【国際性への高評価

による高額支給】

5. 所属学会

日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

日本生理心理学会 評議員

6. 担当授業科目

生理心理学及び神経心理学 2 単位, 2 年後期、学習心理学及び言語の習得 2 単位, 2 年前期、心身科学 2 単位, 2 年前期、加齢基礎論 2 単位, 2 年後期、心理学実験Ⅰ 2 単位, 2 年前期、心理学実験Ⅱ 2 単位, 2 年後期、心理学研究法, 2 単位, 2 年後期、老年心理学 2 単位, 3 年期、演習 2 単位, 3 年前期・3 年後期・4 年前期、卒業論文指導 6 単位, 4 年、神経生理学特論 2 単位, 修士 1 年、老年心理学特論 2 単位, 修士 1 年、特別研究 4 単位, 修士 1 年、特別研究 4 単位, 修士 2 年 One Health 2 単位 県内の大学の全学年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学生活協同組合 理事長
- ・日本生理心理学会 評議員
- ・日本行動分析学会第 40 回年次大会 委員長
- ・公私立大学実験動物施設協議会（公私動協） 代議員

8. 学外講義・講演

九州大学 文学部 心理学講義Ⅵ（神経・生理心理学）

産業医科大学 医学部 医学科 系統解剖学各論

福岡大学薬学部 免疫・分子治療学分野 講演「注意欠如・多動症（ADHD）モデル動物の不注意と衝動性を神経生理学と行動分析学で捉える：薬物療法と心理療法の相乗化のための基礎研究」

9. 附属研究所の活動等

2025・2026 年度 奨励研究交付金 重点領域研究 研究代表者 麦島剛・石崎龍二・芋川浩「神経情報の解析と 3 次元脳オルガノイドの確立を行動神経科学、発生生物学、非線形物理学の 3 アプローチにより実現する挑戦的研究」

10. 今年度の自己評価

学術研究とは問いの深化であり、揺るぎない中心軸の確立である。そのために豊かなアイデアと技術の革新が必須である。また研究者は常に学術的フロンティアに身を置く必要がある。今年度は、ADHD の中枢メカニズムとして未知のシステムを同定した。これは新しい治療法（科学的な心理療法と薬物療法）のための基盤の刷新を意味する。またプラナリアの脳を非侵襲的に保定する電極を開発して脳波の導出に成功した。これにより脳の進化を先カンブリア時代から辿る技術を前進させた。これらの最新研究をゼミ指導と講義に活用した。また社会貢献の一例としては、大学生協を代表して事業連合の各種会議に出席し、当組合と他大学との店長兼任制への移行による困難の克服に尽力した。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	准教授	氏名	鷺野彰子
--------------------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業、ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了、大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了、博士（文学）。2011年より本学に就任。スタンフォード大学人文科学大学院客員研究員（2016年度）。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏活動、また19世紀の演奏様式を研究している。昨今は20世紀初期の演奏会で弾かれた即興の前奏演奏がどのようなものであったかといった研究や、Sonic Visualiser等のソフトを用いて20世紀初期の歴史的録音やピアノロールに遺された演奏を解析して演奏実践を分析する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 鷺野彰子, 2023, 「ヴィルヘルム・バックハウス (Wilhelm Backhaus) の即興的前奏演奏」『音楽表現学』21, 1-20.
- ・ 鷺野彰子, 2023, ‘The Mazurka in Chopin’s Waltz, Op. 42: Investigating the Discrepancies between Rosenthal’s Performances, his Score Notations, and his Explanations as to how the Piece should be Played.’ “The Element of dance in music of the first half of the nineteenth century” The Fryderyk Chopin Institute, 179-203.
- ・ 鷺野彰子, Craig Stuart Sapp, 2024, 「ヨゼフ・ホフマン (1876-1957, Josef Hofmann) のピアノロール編集：デュオ＝アート (No. 6401-6) の編集痕跡の分析」『福岡県立大学紀要』32/2, 1-21.
- ・ 鷺野彰子, 2024, 「特別支援教科書『おんがく☆』（星本）と小学校音楽教科書の表記の差異」『福岡県立大学紀要』32/2, 55-64.
- ・ 鷺野彰子, 櫻井晋伍, 2025 「保育内容「表現」における動画教材製作の教育実践：学生のICT機器の活用力と協働力を育成する授業方法」『福岡県立大学紀要』33/2, 53-66.
- ・ 鷺野彰子, 2025, 「編集された演奏記録の解析：ヨゼフ・ホフマンによるショパン《ワルツ》Op. 42 のピアノロール」『阪大音楽学報』21, 1-15.
- ・ 櫻井晋伍, 鷺野彰子, 2025 「保育内容「表現」における造形・音楽の表現力向上を意図した教育実践：子どもの視点を意識した動画教材製作」『福岡県立大学紀要』34/1, 75-87.
- ・ 鷺野彰子, 2025, 「自動演奏楽器」『音楽史辞典』, 540-541, 2025年12月31日.
- ・ 鷺野彰子, 2026, 「カール・ライネッケはどのように拍を捉えていたか：モーツァルト《ピアノ協奏曲》KV 537 第2楽章の演奏分析」『阪大音楽学報』22, 195-209.

②その他最近の業績

＜学会発表＞

- ・ 【研究発表】鷺野彰子「20世紀前半の即興の前奏演奏実践例とそれを取り巻く要因の関係性」日本音楽表現学会第21回大会, 京都女子大学, 2023年6月18日.
- ・ 【研究発表】鷺野彰子「楽譜に記譜された即興的前奏演奏」日本音楽学会第74回大会, 聖徳大学, 2023年11月4日.

- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「ピアノロールの計量的解析による演奏分析」シンポジウム「音楽家のための Computational Musicology」, 神戸大学, 2023 年 11 月 23 日.
- ・ 【研究発表】 Akiko Washino, Craig Stuart Sapp, Traces of Josef Hofmann Editing His Own Piano-Roll Recording of Chopin's Waltz op. 42 (Duo-Art 6401-6), 3rd Global Piano Roll Meeting, Sydney Conservatory of Music (SCM), University of Sydney, 2024 年 7 月 27 日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「フランシス・プランテ (Francis Planté, 1839-1934) の演奏に具現化されたショパンのテンポ・ルバート」シンポジウム「演奏を読む」, 大阪大学中之島芸術センター, 2024 年 12 月 8 日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「同一演奏家による同一演奏曲の差異をどう評価するか」, 情報処理学会音楽情報科学 (MUS) 研究会, 九州大学, 2025 年 3 月 8 日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「演奏時間とダイナミクスの視点によるテンポ・ルバートの実践分析」, 音学シンポジウム 2025 (第 143 回音楽情報科学・第 156 回音声言語情報処理合同研究発表会), 早稲田大学, 2026 年 6 月 14 日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「歴史的演奏実践研究における史料批判と質的解釈: カール・ライネッケによるモーツァルト《ピアノ協奏曲》KV 537 を例に」, 第 144 回音楽情報科学研究発表会 (SIGMUS 夏のシンポジウム), 慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎, 2025 年 8 月 31 日.
- ・ 【研究発表】 鷺野彰子「フリッツ・フォン・ボーゼによるモーツァルト《アダージョ》KV 540 の左手伴奏部分」日本音楽学会第 76 回大会, 札幌大谷大学, 2025 年 11 月 1 日.
(パネル「前期」テンポ・ルバート再考」内の発表。パネルのメンバーは、鷺野 (コーディネータ、パネリスト)、上田泰史 (パネリスト)、ヘルマン・ゴチェフスキ (パネリスト)、橋本峻平 (パネリスト)、神保夏子 (司会、ディスカッサント))
- ・ 【レクチャー・コンサート】 鷺野彰子 (話), 上田泰史 (話), 七條恵子 (フォルテピアノ演奏), 平井千絵 (フォルテピアノ演奏), 伊東信宏 (司会), 「ルバートの美学 Vol.1: ワルターの復元楽器で楽しむ C. P. E. バッハ、モーツァルト」, 一橋大学, 2025 年 7 月 30 日.
- ・ 【レクチャー・コンサート】 鷺野彰子 (話, ピアノ演奏), 上田泰史 (話), 山名敏之 (ピアノ演奏), 伊東信宏 (司会), 「ルバートの美学 Vol.2: ショパンはピアノに何を語らせたかったのか」, 大阪大学, 2025 年 12 月 12 日.
- ・ 【一般誌論稿・MOOK 記事】 鷺野彰子, 2025, 「ピアノ協奏曲第 2 番」『ショパンとショパン・コンクール』2025 年 9 月, 74-75.
- ・ 【一般誌論稿・MOOK 記事】 鷺野彰子, 2026, 「フォルテピアノ界の大御所: リュビモフの彩り豊かな演奏」『レコード芸術 2026』2026 年 1 月, 38.
- ・ 【一般誌論稿・Web 雑誌】 鷺野彰子, 2025, インタビュー「七條恵子に聞くフォルテピアノとモーツァルト」『レコード芸術 ONLINE』2025 年 4 月号.
- ・ 【一般誌論稿・Web 雑誌】 鷺野彰子, 新譜月評担当『レコード芸術 ONLINE』2024 年 10 月より毎月

③過去の主要業績

- ・ 【演奏】 鷺野彰子「クラヴィコード and/or ピアノ」ザ・フェニックスホール 2009 年 12 月.
- ・ 【論文】 鷺野彰子, 2023, 'The Mazurka in Chopin's Waltz, Op. 42: Investigating the Discrepancies between Rosenthal's Performances, his Score Notations, and his Explanations as to how the Piece should be Played.' "The Element of dance in music of the first half of the nineteenth century" The Fryderyk Chopin Institute, 179-203.

3. 外部研究資金

令和4年度-令和8年度 科学研究費補助金・基盤(B)

「20世紀前半の歴史的演奏とピアノロールの演奏解析によるルバート奏法分析」

(課題番号：22H00629) 研究代表者 14,560,000 円

4. 受賞

5. 所属学会

日本音楽学会

6. 担当授業科目

(学部) 音楽Ⅰ・2単位・1年・通年、音楽Ⅱ・1単位・2年・前期、音楽Ⅲ・1単位・2年・後期、
幼児と表現B・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・表現B・1単位・3年・後期、
演習・2単位・3年・通年、卒業論文・6単位・4年・通年、保育内容演習・2単位・4年・後期、
保育・教育実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期

(大学院) 子ども教育教材研究・M1年・2単位・前期、子ども教育表現研究・M1年・2単位・後期、
教育課題研究B・M1年・2単位・後期、子ども教育実践実習Ⅰ・M1年・2単位・後期、
子ども教育実践実習Ⅱ・M2年・2単位・前期、地域教育課題研究・M2年・2単位・前期、
特別研究Ⅰ・M1年・4単位・通年、特別研究Ⅱ・M2年・4単位・通年

7. 社会貢献活動

福岡県文化芸術振興審議会 委員

直方市文化芸術審議会 委員

北九州市私立幼稚園連盟 分科会助言者(講師)

8. 学外講義・講演

「子どもの歌を歴史的に考える」2025年11月10日、北九州市私立幼稚園(小倉南私立幼稚園協会)、
徳力団地幼稚園。

「歌う活動をどのように展開するか？」2026年2月16日、北九州市私立幼稚園(小倉南私立幼稚園
協会)、徳力団地幼稚園。

「演奏をどのように開始するか：即興の前奏演奏を弾く理由」2025年11月14日、相愛大学(音楽
学・特別授業)。

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

科研費による研究成果の発表として、論文執筆に加え、レクチャー・コンサートの開催や学会でのパ
ネル発表・個人研究発表などを重点的に行った。

人間社会学部／公共社会学科・地域社会コース	職名	講師	氏名	黒川すみれ
-----------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2020年3月お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了。博士（社会科学）。東京大学社会科学研究所特任助教等を経て、2022年4月より本学に着任。

主な研究分野：家族社会学、計量社会学、労働社会学

女性が家族役割を担いながら、どのように職業キャリアを形成していくのかを研究しています。結婚、出産、就業など、人生におけるさまざまな出来事によって生じる地位や役割の移行に焦点をあてるライフコース研究です。マクロな社会変動とミクロな個人生活史との関連に着目した、社会学的研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 黒川すみれ，2025，「女性活躍の課題と実態—女性活躍推進法を手がかりに」『都市計画』74(5): 28-31.
- ・ 黒川すみれ，2024，「日本における女性の職業キャリア研究の動向と課題」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33(1): 73-83.
- ・ 黒川すみれ，2023，「女性のライフコース—結婚と就業」吉武由彩（編）『入門・福祉社会学：現代的課題との関わりで』学文社，71-92.
- ・ 黒川すみれ，2023，「コロナショック後の所得変動」樋口美雄／労働政策研究・研修機構（編）『検証・コロナ期日本の働き方：意識・行動変化と雇用政策の課題』慶応義塾大学出版会，249-266.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 黒川すみれ「戦後日本における女性のライフコースの変容—職業経歴の世代間比較による検討」第98回日本社会学会大会 2025年11月15日
- ・ 百瀬由璃絵・黒川すみれ「デュアルキャリアカップルの二体問題（Two-body problem）」第98回日本社会学会大会 2025年11月15日
- ・ 黒川すみれ「女性のライフコースの世代間比較:系列分析による職業経歴の記述」第35回家族社会学大会 2025年9月6日
- ・ 百瀬由璃絵・黒川すみれ「デュアルキャリアカップルの家庭と仕事：二体問題（Two body problem）の視点から」第78回数理社会学会大会 2025年3月13日
- ・ 堤圭史郎，佐野麻由子，黒川すみれ「「公共」を冠する葛藤と向き合う—福岡県立大学人間社会学部公共社会学科のあゆみ」第97回日本社会学会大会 2024年11月.
- ・ 黒川すみれ，「Rで学ぶ系列分析入門」立教大学社会情報教育研究センター『第13回社会調査フォーラム』2023年12月.
- ・ 黒川すみれ，「夫婦の就業経歴がウェルビーイングに及ぼす影響」第75回数理社会学会大会 2023年8月.

<報告書・書評等>

- ・ 陸麗君・佐野麻由子・章潔・黒川すみれ・佐藤繁美, 2025, 「公共社会学科アクティブ・ラーニングの実践と評価 (2024-2025) —社会調査実習・公共社会学研究を通して」『福岡県立大学人間社会学部紀要』34(1): 121-134.
- ・ 黒川すみれ, 2024, 「樋口美雄・田中慶子・中山真緒 (編)『日本女性のライフコース:平成・令和期の「変化」と「不変」』(書評)『理論と方法』39(2): 239-240.
- ・ 黒川すみれ, 2024, 「室井研二・山下亜紀子 (編)『シリーズ生活構造の社会学 2 社会の変容と暮らしの再生』(書評)」『西日本社会学会年報』22: 81-82.

③過去の主要業績

- ・ 黒川すみれ, 2021, 「コロナショックの所得格差拡大への影響: 社会階層の視点から」樋口美雄/労働政策研究・研修機構 編『コロナ禍における個人と企業の変容:働き方・生活・格差と支援策』慶應義塾大学出版会、261-280.
- ・ 黒川すみれ, 2020, 「女性活躍推進と不本意非正規労働」『東京女子大学社会学年報』第8号, 1-16.
- ・ Kurokawa, Sumire, "Re-Defining Women's Social Status By Optimal Matching of Occupational Career," 19th International Sociological Association World Congress of Sociology, Canada Toronto, Poster, July, 2018.

3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究 (研究代表者) 研究課題名「女性のライフコースの世代間比較: 系列分析による職業経歴と家族経歴の記述から」(課題番号: 25K16794), 交付金額: 4,290 千円, 令和 7 年度~令和 10 年度.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会 (研究活動委員会委員)、日本家族社会学会、数理社会学会 (研究活動委員)、International Sociological Association RC28 (Social Stratification and Mobility)、西日本社会学会、日本社会分析学会

6. 担当授業科目

公共性の社会学・2 単位・1 年・前期、家族社会学 A・2 単位・2 年・前期、家族社会学 B・2 単位・2 年・後期、社会調査実習 I・2 単位・2 年・前期、社会調査実習 II・2 単位・2 年・後期、福祉社会学・2 単位・3 年・前期、社会学の分析法 B・2 単位・3 年・後期、公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期、公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期、卒業論文・6 単位・4 年・通年

7. 社会貢献活動

田川市後藤寺駅前整備基本計画策定会議及び後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会 委員
飯塚市情報公開審査会 委員
飯塚病院倫理委員会 委員

厚生労働省「縦断調査（出生児・成年者）の特別報告に関する研究会」 構成員
飯塚市政務活動費審査会 委員

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和7年度の自己評価

教育面では演習科目で学外実習をおこない、授業の一環として田川市の都市計画に関する検討会議「後藤寺駅前整備基本コンセプト検討部会」に参加した。駅前整備に関するアンケート調査（田川市との連携調査）を実施した学生が、調査結果をもとに、地域住民や行政関係者と意見交換を重ねることにより、地域が抱える課題を明らかにして、自らも当事者として課題に向き合う姿勢を身につけることをサポートできたと考える。このような教育が田川市の都市計画検討のためのデータ提供にもつながり、地域への貢献も果たせたと考える。

人間社会学部 / 人間形成学科・心理コース	職名	講師	氏名	小林 亮太
--------------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2021 年 3 月に広島大学教育学研究科を修了し（博士：心理学）、福岡県立大学人間社会学部の講師として大学教育、研究に従事しています。研究テーマは、大きく感情制御と内受容感覚の 2 つです。まず、感情制御については、普段の生活の中で感じるネガティブな感情（例：不安、怒り）をどうしたら緩和することができるのか？ どういった方略が有効なのか？といったことを検討してきました。今後はこうした感情制御のメリットを追求するとともに、そのデメリット（弊害）の解明や日常応用について研究をしていきたいと考えています。

次に、内受容感覚についてですが、そもそも内受容感覚という用語は、身体内部の反応（例：心臓の鼓動、胃の収縮）に関する感覚を意味します。そしてたとえば、不安なときに心臓がドキドキするように、あるいは怒っているときに腸が煮えくり返ると表現するように、この内受容感覚は感情と密接に結びついています。これまで私はこうした内受容感覚への意識（注意）の向きやすさと感情体験の関連について研究を行ってきました。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 小林亮太・庵野真代・本多樹・中尾敬（2026）. 感情可変性信念は感情の気づきと再評価の関連を調整する: The Implicit Theories of Emotion Scale を用いた検討 福岡県立大学心理臨床研究, 18, 3-22.
- ・ Urano, Y. & Kobayashi, R., (2025). Social media use for emotion regulation: A conceptual replication and extension. Technology, Mind, and Behavior. 6(4). <https://doi.org/10.1037/tmb0000175>
- ・ 小林亮太（2025）. 内受容感覚の多次元モデルの研究動向—3次元モデルの限界と近年の展開— エモーション・スタディーズ, 10, 4-20. https://doi.org/10.20797/ems.10.1_4

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小林亮太・金元琉風（2025）. 感情制御のデメリット — 再評価による不安の低減は準備行動を阻害するか？— 日本感情心理学会第 33 回大会, 2025 年 10 月 25-26 日 ライトキューブ宇都宮
- ・ 小林亮太（2025）. 児童の内受容感覚の敏感さと感情制御の関連 日本心理学会 89 回大会, 2025 年 9 月 5-7 日, 東北学院大学
- ・ Oikawa, M. & Kobayashi, R. (2025). Development of a reappraisal flexibility scale. International Society for the Study of Individual Differences 2025 conference, University of Vienna, July 14-18, 2025.

③過去の主要業績

- ・ 小林亮太（2022）. Topics3 感情制御の伝染（pp.74-75）/ Topics5 安静時脳活動と感情制御（pp.125-126）有光興記（監修）感情制御ハンドブック 北大路書房
- ・ 小林亮太・本多樹・町澤まろ・市川奈穂・中尾敬（2021）日本語版 Body Perception Questionnaire-

Body Awareness (BPQ-BA) 超短縮版の作成 —因子構造, および信頼性, 妥当性の検討— 感情心理学研究, 28, 38-48.

- ・ Kobayashi, R., Shigematsu, J., Miyatani, M., & Nakao, T. (2020). Cognitive reappraisal facilitates decentering: A longitudinal cross-lagged analysis study. *Frontiers in Psychology*, 11:103.

3. 外部研究資金

2025.4-2029.3 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C (25K06734) 対人的情動調整のプロセスにおける出来事への認知的評価と援助希求との関連 (分担者 / 代表: 野崎優樹)
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25K06734/>

4. 受賞

重松潤・橋本淳也・小林亮太 (2025). 日本認知・行動療法学会第 51 回大会最優秀研究報告賞 (2025 年 8 月 24 日, 該当発表: ソクラテス式質問は認知の変容を促すのか? —確信度と「腑に落ちる理解」, 認知の偏りに着目した実験的検討— 日本認知・行動療法学会第 51 回大会, 2025 年 8 月 22-24 日, 大阪国際会議場)

5. 所属学会

日本心理学会, 日本感情心理学会, 日本認知心理学会, 日本社会心理学会, 日本認知・行動療法学会, 九州心理学会

6. 担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期 (共同), 心理実習 I・1 単位・2 年・通年 (共同), 心理学統計法・2 単位・2 年・前期, 心理学実験 I・2 単位・2 年・前期 (共同), 心理学実験 II・2 単位・2 年・後期 (共同), 心理学研究法・2 単位・2 年・後期 (共同), 教育心理学概論・2 単位・2 年・後期, 認知心理学 (知覚・認知心理学)・2 単位・3 年・前期, 心理実習 II・1 単位・3 年・通年 (共同), 演習・2 単位・3 年・通年, 認知心理学特論・大学院・前期, 心理統計法特論・大学院・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和 7 年度の自己評価

2025 年度は主な研究分野にも記載した感情制御, および内受容感覚についての調査・実験を進めました。感情制御のデメリットについては実験室実験を行い, その結果を学会にて報告しました。また, 内受容感覚については研究法の現状と限界をまとめたレビュー論文を執筆しました。

人間社会学部／こどもコース	職名	講師	氏名	櫻井 晋伍
---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業、同大学院美術研究科芸術学専攻美術教育修了、修士（美術）。

水彩画の表現技法を用いた絵画制作研究を行っている。また、幼児の造形教育について、保育現場の協力を得て、製作活動と鑑賞教育に関する調査研究を行っている。

授業では、保育士および幼稚園教諭養成のための造形表現関連科目を担当している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

<論文>

- ・ 櫻井晋伍、鷺野彰子「保育内容『表現』における造形・音楽の表現力向上を意図した教育実践：子どもの視点を意識した動画教材製作」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 34 巻第 1 号，2025 年 10 月
- ・ 櫻井晋伍「保育者養成課程における陶芸作品製作－土粘土の特性に対する体験的理解を意図して－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 33 号，2025 年 2 月
- ・ 鷺野彰子、櫻井晋伍「保育内容『表現』における動画教材製作の教育実践：学生の ICT 機器の活用と協働力を育成する授業方法」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 33 巻第 2 号，2025 年 3 月
- ・ 上田真由美、櫻井晋伍、福田恭介「保育実習時の『保育環境の構造化』・『保育現場における预期せぬ現実』と『ストレス』との関連」福岡県立大学人間社会学部紀要，第 33 巻第 2 号，2025 年 3 月
- ・ 櫻井晋伍「造形表現活動における記録写真と活動報告の力量育成－保育者養成課程の学生を対象にして－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 32 号，2024 年 2 月
- ・ 櫻井晋伍、犬童昭久、王寺直子、栗山裕至、白石恵里、丁子かおる、樋口和美、前村晃「トーランスの創造性テストの再考と試行Ⅳ－大学生対象の調査と分析－」和歌山大学教育学部紀要，教育学，第 74 集，2024 年 2 月

<報告書>

- ・ 櫻井晋伍「土粘土の特性理解を促す陶芸作品製作－上野焼を鑑賞資料に活用して－」令和 5 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2025 年 3 月
- ・ 櫻井晋伍「保育者養成における造形表現活動に関するプレゼンテーション能力育成－地域連携活動を通した学生の学びに着目して－」令和 4 年度研究奨励交付金研究成果報告書，2024 年 3 月

② その他最近の業績

<絵画作品出展>

- ・ 櫻井晋伍「刻」水彩画，第 79 回福岡県美術展覧会，福岡県立美術館 2024 年 9 月

③ 過去の主要業績

- ・ 櫻井晋伍「保育者養成課程における木材を用いた教材製作に関する研究－素材の特性に着目して－」基礎造形（日本基礎造形学会誌），第 31 号，2023 年 2 月
- ・ 櫻井晋伍「幼稚園教育実習の造形活動に関する研究－学生の実践事例を通して－」久留米信愛女学

院短期大学幼児教育学科研究紀要＜信愛保育研究＞，2017 年 10 月

- ・ 櫻井晋伍「保育者養成課程における鑑賞教育に関する考察－日本画の構図と色彩に着目して－」久留米信愛女学院短期大学幼児教育学科研究紀要＜信愛保育研究＞，2017 年 10 月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・ 美術科教育学会
- ・ 日本美術教育学会
- ・ 日本基礎造形学会

6. 担当授業科目

＜学部＞造形Ⅰ・1 単位・1 年前期、教養演習・1 単位・1 年前期、造形Ⅱ・1 単位・1 年後期、幼児と表現 A・1 単位・2 年前期、保育内容の指導法・表現 A・1 単位・2 年後期、保育内容演習・2 単位・4 年後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2 単位・4 年後期、演習・2 単位・3 年通年、卒業論文・6 単位・4 年通年

＜大学院＞子ども造形表現研究・2 単位・1 年前期、子ども造形教材研究・2 単位・1 年後期、教育課題研究 B・2 単位・1 年後期、子ども教育実践実習Ⅰ・1 単位・1 年後期、子ども教育実践実習Ⅱ・1 単位・2 年前期、地域教育課題研究・2 単位・2 年前期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

- ・ 博多高等学校，進路説明会，2026 年 3 月 14 日

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和 7 年度の自己評価

教育活動に関しては、前期・後期それぞれにおいて 2 回ずつ実施した授業アンケートの総合評価平均点を算出した結果、造形表現関連科目は 3.89 点（4.0 満点）であり、学生から高い評価を得ることが出来た。

研究活動については論文 1 件（共著・筆頭）を発表し、学生教育に関する内容を中心として、概ね順調に進めることが出来た。

人間社会学部／人間形成学科・こども コース	職名	講師	氏名	菅原航平
--------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

これまで小学校・幼稚園教諭や保育士の養成に関わり、令和5年度に福岡県立大学に着任しました。

専門は心理学（臨床・発達）、保育学です。主な研究テーマは、インクルーシブな保育（特別支援教育）や保護者支援、保育者の研修、保育評価などです。特に現在関心をもって取り組んでいる研究テーマは、放課後児童クラブでの育成支援の質の向上であり、クラブに通う子どもやその保護者、放課後児童支援員等の皆さんのお役に立てるよう、行政、運営主体、支援員等の方に協力して頂きながら研修や育成支援の質に影響を与える要因、研修の効果についての調査等を進めています。

また、保育者を目指す学生に対して保育現場の実態に即した講義を行うために、保育現場との関係を大切にしながら様々な地域の園と保育の実践研究や園内研修に取り組んでいます。くわえて、公認心理師、臨床心理士としてこれまで自治体の幼児健診・発達相談のお手伝いや、園や学校、大学の相談室での子育て相談・教育相談を通しての社会貢献に取り組んでいます。

学位・資格：臨床心理修士（専門職学位）、公認心理師、臨床心理士

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 永田誠, 菅原航平, 大村綾(2024)ポストコロナ社会における家庭との連携に関する 保育者の意識と保育の変容（査読付き）生活体験学習研究 第24号 pp.39-46
- 菅原航平（2024）知的障害児の心理及び生理、病理に関する研究の動向について-論文タイトルの量的な分析や教職コアカリキュラムにおける到達目標との関連からの考察- 福岡県立大学人間社会学部紀要第32巻第2号 pp.65-69
- 堀内孝一・八田信人・菅原航平・古賀なな子（2024）知的障害特別支援学校における小・中・高等部を通した学びの連続性の構築-育成を目指す資質・能力の明確化とカリキュラム・マネジメントの推進を通して- 福岡県立大学人間社会学部紀要第32巻第2号 pp.105-114
- 菅原航平（2024）放課後児童補助員等に対する研修の実施状況 福岡県立大学人間社会学部紀要第33巻第1号 pp.67-71
- 針金まゆみ・菅原航平（2025）「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と発達心理学との関連：スコーピング・レビュー 別府大学短期大学部紀要第44号 pp.135-144
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・中原雄一・菅原航平・杉野寿子（2025）保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題 福岡県立大学人間社会学部紀要第33巻第2号 pp.113-124
- 菅原航平(2025)知的発達症児に対するインクルーシブな保育 ～こども同士の人間関係などの心理的側面に関する予備的調査～福岡県立大学人間社会学部紀要 第34巻1号 pp.69-73
- 菅原航平(2026)知的発達に遅れのある幼児に対する適応行動の支援～保育施設での知的発達症の認知的な特性を踏まえたコミュニケーションの支援～福岡県立大学人間社会学部紀要 第34巻2号 pp.77-83
- 吉川未桜・田中美樹・吉田麻美・三浦由紀子・菅原航平・杉野寿子(2026)医療絵本の臨床活用に関する一考察：保育学生と看護学生が協同制作した絵本を用いた試み 福岡県立大学人間社会学部紀要第34巻2号 pp.133-146

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 永田誠・菅原航平・大村綾（2023）ポストコロナ社会における「親の保育参加／家庭との連携」に関する考察—保育者対象の質問紙調査の結果から— 日本生活体験学習学会第25回研究大会
- ・ 菅原航平（2024）補助員等に対する研修の実施状況と特別に配慮が必要な子どもへの育成支援 日本学童保育学会第14回研究大会
- ・ 菅原航平・永田誠・大村綾（2025）親の保育参加体験について～全国の保育施設を対象とした調査の結果から～ 日本生活体験学習学会 第26回研究大会
- ・ 菅原航平・田中美樹・三浦由紀子・吉川未桜・吉田麻美・杉野寿子(2026) 学生による発達を踏まえた医療絵本の制作～保育学生と看護学生が協同した医療絵本の制作過程の検討～ 日本発達心理学会第37回大会

③過去の主要業績

- ・ 菅原航平, 泉万里江, 水田茂久, 高木京子（2016）子ども発達支援士の養成～佐賀女子短期大学での取り組みから～佐賀女子短期大学研究紀要第50集 p.225-232
- ・ 菅原航平, 宮地泰枝（2018）保育者による障害児支援におけるアセスメントと行動論的介入～自閉スペクトラム症と知的障害が併存する幼児への食事場面での援助～佐賀女子短期大学研究紀要 52 集 2 号 pp.173-182
- ・ 菅原航平(2022)放課後児童クラブにおける OJT の状況と育成支援の質の関連 学童保育研究 第12巻 pp.51-55

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業、基盤研究 C（研究分担者）、ポストコロナ社会での質の高い保育と＜子育て＞過程での親の「学び」を支える保育参加、4680 千円、研究期間(年度) 2024－2026

4. 受賞

特記事項なし

5. 所属学会

日本睡眠学会、日本心理学会、日本認知・行動療法学会、日本生活体験学習学会（理事）、日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本 LD 学会、日本学童保育学会、日本保育学会、乳幼児教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、こども家庭支援の心理学・2単位・2年・前期、幼児と人間関係・1単位・3年・前期、保育内容の指導法・人間関係・1単位・3年・後期、幼児理解の理論と方法・2単位・3年・後期、演習・2単位・3年・通年、教育相談（幼児教育）・2単位・4年・前期、保育・教職実践演習（幼稚園）・2単位・4年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、子どもの心理研究・2単位・1年次・前期、教育課題研究 A・2単位・1年次・前期、子どもの心理実践研究・2単位・1年次・後期、子ども教育実践実習 I・1単位・1年次・後期

7. 社会貢献活動

田川市子ども・子育て会議 会長

福岡県体験活動効果検証・発信事業検討会議 委員

8. 学外講義・講演

一般社団法人 KiT 研修会 講師

第 65 回全国保育問題研究集会プレ集会 講師

令和 7 年度佐賀県放課後子どもプラン研修会 講師

福岡県立小郡高等学校第 3 回校内職員研修会 講師

令和 7 年度佐賀県放課後児童支援員認定資格研修 講師

佐賀女子高等学校「保育実践からみる乳幼児期における心と言葉の発達について」 講師

第 27 回兵庫県学童保育指導員講座 講師

第 60 回全国学童保育研究集会 講師

令和 7 年度佐賀県幼児教育・保育初任者研修 講師

9. 附属研究所の活動等

療養中の子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト（プロジェクト研究: COC 研究）
研究分担者

10. 令和 7 年度の自己評価

研究活動については、こども家庭庁の行う調査研究事業に委員として参加したほか、附属研究所の COC 研究にも参加して看護学部を含む学内の教員との共同研究に積極的に取り組んだ。教育活動では、効果的な授業を目指してオンデマンド形式の授業実施に取り組み学生からも良好な評価を得た。社会貢献活動については、田川市の子ども・子育て会議会長や福岡県体験活動効果検証・発信事業検討会議委員を務めたほか、公的な研修の講師などに積極的に取り組んだ。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	講師	氏名	畑 香理
-----------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了、博士（保健福祉学）。

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族への相談支援を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。近年、日本の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げており、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族を支援していく役割を担っており、今後ますます医療ソーシャルワーカーの専門的支援が求められると考えます。以上のことから、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践上の課題等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 畑香理「KDB データからみる後期高齢者の生活状況と介護要因の関連-令和 5 年度の福岡県市区町村のデータを用いた分析-」『福岡県立大学人間社会学部紀要』34 (2), 2026 年 3 月.
- ・ 畑香理・河野高志・本郷秀和「福岡県の後期高齢者医療における総医療費に影響を与える要因の検討-国保データベース(KDB)を用いた分析から-」『厚生指標』72 (14), 2025 年 12 月.
- ・ 本郷秀和・梶原浩介・松岡佐智・島崎剛・畑香理・田中将太・鬼崎信好・青柳壮悟・大場敬太『地域包括ケアシステムの推進に伴う介護系 NPO の役割とソーシャルワーカー制度外サービスの役割と開発を中心に-』科学研究費助成事業 基盤研究 C 成果報告書, 2025 年 3 月.
- ・ 本郷秀和・畑香理・梶原浩介「ソーシャルワーカー養成教育を巡る状況① (イタリア編)」『地域ケアリング』26 (8), 2024 年 7 月.
- ・ 本郷秀和・梶原浩介・畑香理・大場敬太「イタリア ボローニャにおける社会的協同組合の状況-地域包括ケアにおける高齢者福祉に関する取り組みを中心に-」『地域ケアリング』26 (4), 2024 年 4 月.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 河野高志・畑香理・本郷秀和「福岡県の後期高齢者医療における総医療費に影響を与える要因-国保データベース (KDB) を用いた分析-」日本社会福祉学会第 73 回秋季大会口頭発表 (会場: 同志社大学), 2025 年 10 月.
- ・ 小嶋秀幹・石崎龍二・村山浩一郎・美谷薫・柴田雅博・畑香理・尾形由紀子・山下清香・小野順子・中本亮「地域包括ケアシステム構築に向けた GIS を活用した地域診断-精神障害者の在宅療養実現を目指して-」令和 5 年附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会口頭発表, 2024 年 2 月.

③過去の主要業績

- ・ 畑香理「第 15 章 社会福祉の实践事例：多職種連携を基調とした医療ソーシャルワーカーの实践事例から」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第 5 版）』講談社，2023 年 2 月．
- ・ 畑香理「大腿骨骨折を経験した高齢者の語りからみる生活課題とストレングスの特徴－入院から退院後の在宅生活を中心に－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1），2021 年 10 月．
- ・ 畑香理・鬼塚香・住友雄資「2020 年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』－コロナ禍における教育実践と今後の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』30（1），2021 年 10 月．

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本保健福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本保健医療社会福祉学会、日本高齢者虐待防止学会、日本地域福祉学会、日本医療ソーシャルワーク学会、福岡県立大学社会福祉学会（理事）

6. 担当授業科目

「ソーシャルワーク演習 B」（2 単位・2 年・通年）、「ソーシャルワーク実習指導 I」（2 単位・2 年・通年）、「保健医療論」（2 単位・2 年・前期）、「ソーシャルワーク実習 A」（2 単位・2 年・後期）、「精神保健福祉演習」（1 単位・2 年・後期）、「社会福祉学演習」（2 単位・3 年・通年）、「ソーシャルワーク実習指導 II」（1 単位・3 年・通年）、「ソーシャルワーク実習 B」（4 単位・3 年・通年）、「医療ソーシャルワーク論」（2 単位・3 年・前期）、「ソーシャルワーク演習 D」（1 単位・3 年・後期）、「精神保健福祉援助実習指導」（3 単位・3～4 年・通年）、「精神保健福祉援助実習」（5 単位・3 年～4 年・通年）、「卒業論文」（6 単位・4 年・通年）、「福祉専門職特講 B」（2 単位・4 年・前期）、「医療ソーシャルワーク研究 A」（2 単位・大学院 1 年・前期）、「医療ソーシャルワーク研究 B」（2 単位・大学院 1 年・後期）

7. 社会貢献活動

田川市国民健康保険運営協議会 副会長

田川市地域包括ケアシステム推進協議会 医療・介護・住まい部会 委員

福岡県介護保険審査会 三者合議体委員

飯塚市指定管理者評価委員会 委員長

飯塚圏域障がい者地域自立支援ネットワーク 委員

日本社会福祉学会 第8期代議員
福岡県立大学社会福祉学会 理事

8. 学外講義・講演

令和7年度福岡県人権相談従事者職員研修（技能向上コース）講師，テーマ「記録表現講座」（会場：福岡県人権啓発情報センター），2025年9月．

9. 附属研究所の活動等

研究推進部兼任研究員、配慮を要する学生支援（学生総合支援センター運営部会関係）

10. 令和7年度の自己評価

教育面では、講義の中にグループディスカッションやプレゼンテーションの機会を多く取り入れ、学生が主体的に学べる環境づくりに努めました。その結果、学生は意欲的に授業へ参加できていたと感じています。研究面では、国保データベース（KDB）を活用した研究を継続し、学会発表や雑誌掲載という形で成果を発信することができました。社会貢献面では、リカレント教育に携わったことで、学生だけでなく福祉専門職の学習支援にも取り組む一年となりました。

人間社会学部／社会福祉学科・社会福祉コース	職名	講師	氏名	宮原 和沙
-----------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程修了・博士（学術・福祉）
- ・資格：社会福祉士，精神保健福祉士，介護福祉士，高等学校教諭専修免許状（福祉）（更新講習未講習），高等学校教諭一種免許状（公民）（更新講習未講習）等．
- ・研究分野：社会福祉学，生命倫理学．
- ・本研究領域では、人間の生命の始まりから終末に至る過程で生じる福祉倫理的課題を対象とする。生殖補助医療、透析医療、緩和ケア・ターミナルケアなどの医療・福祉実践における意思決定支援やソーシャルワーク的アプローチを中心に、生命倫理と福祉実践の接点を多角的に検討する。特に、当事者の尊厳の保障、自己決定の支援、精神障がい者を含む多様な対象者への支援、家族・医療者との協働、他職種・他機関連携、支援者の倫理的判断など、現場で直面する複雑な課題を理論と実践の両面から探究することを目的とする。また、戦後の引揚げ女性が直面した非合法中絶の問題を通して、女性福祉の課題や支援の歴史を考察する研究等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・白山靖彦監修・執筆，志水朱，志水幸，二渡努，小口将典，北村美渚，稲田和也，松本望，五十嵐教行，柳沢志津子，宮原和沙，木村淳也，添田正揮，川島恵美，木村志保，中村裕子，市川哲雄，下山美由紀，季木明德，後藤崇晴，木下一雄，大宮秀淑，長谷川武史，古川奨，種村理太郎，薄井明，山下匡将（2023）『社会福祉士養成 基本テキスト 国試対応 第1巻（第2版）』（分担執筆／「第4章 ソーシャルワークの発展過程 第1節 慈善組織協会（Charity Organization Society：COS），第2節 リッチモンドの活動，第3節 セツルメント，第4節 ケースワークの発展，第5節 ソーシャルワークの形成過程」），日総研出版，pp.56-71.
- ・桃井克将，宮原和沙（2024）「ソーシャルワークを多角的に学ぶアクティブ・ラーニング—巨大紙飛行機づくりから—」，『児童学研究』第48巻，日本家政学会児童部会，2024年3月，pp.49-52.
- ・宮原和沙（2024）「医学史的観点からみる第二次世界大戦後の引き揚げ女性に行われた非合法中絶」，『医学史研究』第105号，2024年3月，pp.51-55.
- ・宮原和沙（2024）「（論文）第二次世界大戦後引揚げ女性に行われた非合法の中絶に関する研究（3） - 第三の引揚げ港に関する女性福祉の観点からの一考察 - 」，『純心福祉文化研究』2023 第17号，2024年3月，pp.1-6. 単著．[査読有]
- ・桃井克将，宮原和沙（2025）「ブラインドウォークを通した福祉住環境の理解（論考）」，『児童学研究』第49号，日本家政学会児童部会，2025年3月，pp.59-61.
- ・桃井克将，宮原和沙（2025）「車いすによるボッチャ体験を通したソーシャルワーク演習の試み（研究ノート）」，『NERC journal』22・23（1），2025年3月，pp.33-38. [査読有]
- ・桃井克将，宮原和沙（2026）「絵本作りを通した児童領域ソーシャルワーク実習指導の紹介（論考）」，『児童学研究』第50号，日本家政学会児童部会，2026年3月，pp.1-2.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 宮原和沙, 桃井克将 (2023)「地域共生社会の時代におけるダブルケアの現状と課題-もう一つのダブルケアについて-」, 第6回徳島県地域包括ケアシステム学会 学術集会, 抄録集, p.22, 示説発表, 徳島大学蔵本キャンパス 大塚講堂.
- ・ 宮原和沙 (2025)「透析医療（腎不全）におけるソーシャルワークの視座」, 第70回日本透析医学会学術集会, ワークショップ, リーガロイヤルホテル大阪, 2025年6月29日（依頼による登壇）
- ・ 宮原和沙, 桃井克将 (2025)「終末期にある透析患者に対する意思決定支援の現状と課題— 医療・ケアチームにおける医療ソーシャルワーカーの役割 —」, 日本社会福祉学会第73回秋季大会, 抄録集, pp.347-348, 示説発表, 同志社大学今出川キャンパス良心館.

③過去の主要業績

- ・ 宮原和沙 (2006)「粕谷甲一のキリスト教福祉思想の一考察」, 長崎純心大学大学院人間文化研究科『人間文化研究第4号』, pp.29-41. [査読有]
- ・ 宮原和沙 (2007)「『ヒト胚の倫理的身分』についての福祉哲学的考察」, 長崎純心大学大学院人間文化研究科『人間文化研究第6号』, pp.9-28. [査読有]
- ・ 宮原和沙 (2018)「単身がん患者の自己決定支援における医療ソーシャルワーカーの役割」, 長崎純心福祉文化研究（第14・15合併号）, pp.15-24. [査読有]

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本精神保健福祉学会, 中国・四国学校保健学会, 福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

「ソーシャルワークの理論と方法 E」(2単位・3年・前期), 「社会福祉学演習」(2単位・3年・通年), 「精神保健福祉援助演習」(4単位・3～4年・通年), 「精神保健福祉援助実習指導」(3単位・3～4年・通年), 「精神保健福祉援助実習」(5単位・3～4年・通年), 「福祉専門職特講 B」(2単位・4年・前期), 卒業論文 (6単位・4年通年).

7. 社会貢献活動

- ・ 行橋市総合計画審議会委員

8. 学外講義・講演

- ・ 「誰かの『死にたい』という気持ちを支えるということ —精神保健福祉士(MHSW)の立場から—」, 2025年度兵庫県社会福祉士会 西はりまブロック交流会 プレミアムフライデー (リアルタイム・オ

ンライン形式 ZOOM), 2026 年 1 月 30 日.

・「根拠に基づく医療ソーシャルワークの展開過程ー透析患者とその家族への支援を通してー」, 2025 年度兵庫県社会福祉士会 西はりまブロック交流会 プレミアムフライデー (リアルタイム・オンライン形式 ZOOM), 2026 年 2 月 27 日.

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

教育においては、演習だけでなく座学の授業においても、学生が受け身にならず能動的に学修できるよう、グループワーク等のアクティブ・ラーニング (Active Learning) を積極的に取り入れた。アクティブ・ラーニングを実施する際には、学生の主体的な参加を促すため、興味を引く内容とするとともに、その活動を行う意図や意味付けを丁寧に説明した。また、学生が自分の言葉で具体的に表現できるよう、課題設定や発問にも工夫を加えた。

さらに、学生には積極的に声をかけ、話しやすい雰囲気づくりに努めた。授業内容に関するだけでなく、大学生活に関するさまざまな相談にも応じ、学生の学修および生活面のサポートを行った。

人間社会学部／社会福祉学科・福祉コース	職名	助教	氏名	岡本 浩美
---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は本学の社会福祉学科・人間社会科学研究科【修士（社会福祉）】を卒業し、障がいがある方のスポーツ支援や不登校・ひきこもりに関する支援や大学生のボランティア活動のコーディネートに携わってきました。これらの経験をもとに、「不登校・ひきこもり児童生徒に対する大学生ボランティアの有用性の検討」、「こども家庭福祉を進めるための社会資源や専門的支援の活用方法における課題」、「障がいがある方のスポーツ支援」をテーマに研究を深めたいと考えております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 奥村 賢一・原田 直樹・河野 高志・寺田 千栄子・岡本 浩美（2024）「令和5年度 文部科学省委託調査 スクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究」調査研究報告書.
- ・ 岡本 浩美・奥村 賢一・河野 高志・原田 直樹・寺田 千栄子（2025）「スクールソーシャルワーカーが行う不登校の未然防止活動に関する考察—全国調査の結果に基づく実態分析から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第33巻第2号

②その他最近の業績

<学会発表>

・

③過去の主要業績

- ・ 松浦賢長・原田直樹・小嶋秀幹, 増満誠, 梶原由紀子・大場綾沙美・岡本 浩美（2017）.
「子供の支援者を目指す援助力養成ボランティア・ラダーの開発～援助力養成プログラムの実質化の推進～」『平成 27-28 年度 研究奨励交付金研究成果報告書』, 14-15
- ・ 原田直樹・本郷秀和・小嶋秀幹・奥村賢一・小山憲一郎・増満誠・梶原由紀子・仲村彩・岡本 浩美（2017）「不登校支援プロセスにおいて, 学校が大学生ボランティアに求める役割と大学生の学びに関する調査研究」『平成 27-28 年度 研究奨励交付金研究成果報告書』, 24-25
- ・ 原田直樹・岡本浩美・大場綾沙美・長谷川智子・梶原由紀子・田原千晶・松浦賢長（2018）
「不登校児童生徒への児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—」『平成 26 年度～平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—研究成果報告書』

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会

日本保健福祉学会

九州思春期研究会

福岡県立大学社会福祉学会

日本看護福祉学会

6. 担当授業科目

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・2単位・2年・通年

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・1単位・3年・通年

教養演習・1単位・1年・前期

ソーシャルワーク演習D・1単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

ファミリーサポートセンター会員養成講習会「こどもの権利と社会的養護」

初級パラスポーツ指導員養成講習会

中学校での不登校支援の研修会

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

福祉コースとしての主な担当は、ソーシャルワーク実習に関することです。令和7年度は、実習支援システムを導入したため、これまでと異なる業務が多く戸惑う一年でした。しかし、学生の皆さんの実習中の様子をこれまでより把握することができ、実習中の指導内容をより深めることができたと感じております。

人間社会学部／人間形成学科・心理コース	職名	助教	氏名	古賀なな子
---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2018年3月九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻修了（臨床心理修士（専門職））。

2021年3月同大学院人間環境学府臨床心理学指導・研究コース博士後期課程を単位取得退学。

2023年4月より福岡県立大学に着任いたしました。これまで主に臨床心理学、特別支援教育を中心に学び、臨床では精神科クリニック、小学校、放課後等デイサービス、就労継続支援A型事業所、大学附属の相談機関などで、臨床心理士・公認心理師として勤務してきました。“人が人と繋がって共により良く生きること”や“その人やコミュニティがもつ力を活かすこと”に関心をもち、人間性心理学といわれる分野を中心に学んでいます。研究では主に、人と接する場面に不安を感じやすい方が、どのような経緯で支援に繋がるのか、社会資源や人をどのように捉えているのかについて調査を行っています。また、すべての人が平等に尊重される共生社会の実現を目指し、多様な教育的・福祉的ニーズをもっている子ども達・ご家庭等への臨床心理学的支援について日々考えています（特別支援教育、社会的養育など）。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 深澤美華恵・下川佳純・岩本一蔵・古賀なな子(2026) 病弱教育における教員のメンタルヘルスリテラシー—教員養成段階の実態調査から—。福岡教育大学特別支援教育センター研究紀要，第18号，印刷中。
- ・ 並木崇浩・山根倫也・白崎愛里・新村信貴・古賀なな子・田中将司(2025) 人間性心理学と私たちのこれまでとこれから。人間性心理学研究，第43巻第2号，241 - 248。
- ・ 古賀なな子(2024) 人間性心理学の立場からみたインクルーシブ教育をめぐる理念への一考察。福岡県立大学心理臨床研究，第16巻，27 - 34。
- ・ 新村信貴・古賀なな子(2023) ファミリー・グループにおける経年参加児の体験とその内在的な仕組みに関する一考察—日常の支えに焦点を当てて—。九州大学総合臨床心理研究，第15巻，49 - 55。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ PCT学派における<CI.との共同作業>と「自分学派」について考える試み—「他療法」「他学派」の若手との対話—。日本心理臨床学会第44回大会（自主シンポジウム指定討論者）
- ・ 若手が考える人間性心理学研究のあり方—これからの担い手が抱く危機感と展望—。日本心理臨床学会第42回大会（自主シンポジウム話題提供者）

③過去の主要業績

- ・ 古賀なな子(2022) 社交不安症者がセルフヘルプ・グループへ継続参加に至る心理的過程。人間性心理学研究，第39巻第2号，155 - 167。
- ・ 古賀なな子(2021) 社交不安症者の人的資源に着目した臨床心理学的支援に関する文献研究。九州大学心理学研究，第23巻，45 - 52。
- ・ 古賀なな子(2019) 社交不安傾向と学齢期の養育態度の認知に関する研究。九州大学総合臨床心理研究，第10巻

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本心理臨床学会, 日本人間性心理学会, 九州臨床心理学会, 日本特殊教育学会, 日本育療学会

6. 担当授業科目

学部

教養演習・1単位・1年・前期

福祉心理学・2単位・1年・後期

心理学研究法・2単位・2年・後期（分担）

病弱者の心理・生理・病理・1単位・2年・後期（分担） ※2026年度～

大学院

臨床心理基礎実習 A・1単位・1年・前期（共同）

臨床心理基礎実習 B・1単位・1年・通年（共同）

臨床心理実習 I（心理実践実習 A）・10単位・1～2年・通年（共同）

心理実践実習 B・2単位・1～2年・通年（共同）

7. 社会貢献活動

一般社団法人 特別養子縁組家庭支援団体 Origin 理事

九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター心理教育相談部門 面接指導員

日本人間性心理学会第44回大会準備副委員長（2025年8月開催）

8. 学外講義・講演

- ・令和7年度福岡県若者自立相談支援機関連携会議「社交不安症とその周辺にあるこころの状態について」令和7年8月8日
- ・令和7年度養子縁組あっせん機関等交流促進研修（講義補助）令和7年9月19日
- ・豊岡短期大学こども家庭ソーシャルワーカー指定研修（講義補助）令和8年1月24日
- ・令和7年度宗像市就労支援部会職員向け研修「利用者とのコミュニケーションと信頼関係の構築」令和8年1月27日
- ・福岡市養子縁組里親更新研修「大人になった養子の声に耳を傾ける」令和8年1月30日
- ・合同会社 D&I ライフ（就労継続支援 A 型・B 型事業所）利用者向け研修「ストレスとの付き合い方について考える」令和8年3月7日

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学大学院心理教育相談室 主任 兼 相談室委員

お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）

10. 令和7年度の自己評価

福祉心理学では、出来る限り双方向的なコミュニケーションが出来るよう工夫し、一人ひとりの関心ごとに寄り添うことで、主体的な学びの促進を試みた。

大学院教育では、主に大学院附属の心理教育相談室にて地域の方のご相談を受けながら、院生の各実習（相談員としての事例担当、相談室運営、カンファレンスなど）をサポートすることができた。

人間社会学部学部／総合人間社会コース	職名	助教	氏名	二見妙子
--------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学研究を土台としたインクルーシブ教育（保育）研究に励んでいます。1970年代に日本各地およびイタリア国で展開された障害児教育運動がその後の障害児教育制度や社会文化に与えた影響に興味を持ち、調査活動を展開しております。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 1. 「イタリアにインクルーシブ教育制度を生み出した教育運動—1970年代の AIAS の活動を中心に」（査読有り）『公教育計画研究』公教育計画学会 八月書館 2026 年中に出版
- ・ 2. 「インクルーシブ教育（保育）の内容や方法に関する一考察—イタリアボローニャ市 AEMOCON の思想と実践から」共著（金子珠世・二見妙子）査読有り『公教育計画研究 15』2024 年 6 月 25 日公教育計画学会編八月書館。
- ・ 3. 「豊中市の教職員の意見表明権獲得のプロセスに関する研究——学閥弱体化／管理職権威形骸化／職場の民主化／障害児教育等の推進」単著令和 5 年 10 月『戦後日本の教職員組合と社会・文化（その 5）令和 4－8 年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（A）一般冷戦体制下の日本における教育運動の構造と機能に関する研究第二次報告書研究課題 22H00082』
- 4. 「Dialoghi sui processi inclusivi: il movimento educativo degli anni Settanta in Giappone, l'esperienza di Toyonaka（国際的な視点とモデル／インクルーシブ・プロセスに関する対話：日本における 1970 年代の教育運動、豊中の経験）（査読有り）」共著令和 5 年 9 月 L'integrazione scolastica e sociale, n3-2023 共著（二見妙子 アントネッムーラ、イラリア・タトゥッリ、アンティコ・ルイジ・ズルル）
- 5. 「Family association in Italy: between roots and perspectives for inclusion」（査読有り）共著（二見妙子 アントネッムーラ。イラリア・タトゥッリ。アンティコ・ルイジ・ズルル）令和 5 年 9 月『公教育計画研究 14』
- 6. 『卒業論文集 2021 年度』（編二見妙子、阿久根桃香、瀬本紗来、立花淳乃、的場芽生、三好穂高、保武ひかり 2022 年 3 月 1 日、植木印刷）。
- 7. 『イタリアのインクルーシブ教育に関する調査報告 1—令和 3 年度～令和 5 年度日本学術振興会科学研究費補助金若手研究「イタリア 1971 年 11 8 号法制定のために教育運動が果たした役割（課題番号 21K13617）研究成果第 1 次報告書』単著（2022 年 3 月 31 日植木印刷）。
- 8. 『卒業論文集 2022 年度』（編集二見妙子、藤本実桜、高島優奈、森淵優花、森賀那奈、角田綾夏、山田美央、2023 年 3 月 1 日、植木印刷）。
- 9. 『2025 年特別支援教育授業作品集—インクルーシブ教育ってどんな感じ』（編集二見妙子、作者 2025 年度子どもコース 2 年生）（2026 年 1 月 31 日、植木印刷）。

② その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ インクルーシブ教育・保育の内容や方法に関する一考察」2023 年度 障害学研究会九州沖縄部会 沖縄研究集会 2024 年 3 月 6 日（水）— 3 月 7 日（木）なは市民協働プラザ 2F 会議室
- ・ 「旧特殊教育研究所におけるインクルーシブ教育研究—1970 年代を中心に」2024 年度障害学研究会九州沖縄部会 熊本研究集会 2025 年 3 月 22 日 23 日（熊本学園大学）。
「イタリアにインクルーシブ教育制度を生み出した教育運動—1970 年代の AIAS の活動を中心に」
- ・ 2025 年度障害学研究会九州沖縄部会 熊本集会 2026 年 3 月 1 日、2 日（熊本学園大学）

③過去の主要業績

- ・ 『インクルーシブ教育の源流—1970 年代の豊中市における原学級保障運動』（単：現代書館;2017 年 4 月 15 日出版）。
- ・ 『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』（2012 年：第 6 章、明石書店）。
- ・ 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970 年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」（熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文 2016 年 1 月）。

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業、若手研究、「イタリア 1971 年 118 号法制定のために教育運動が果たした役割」、4,420,000 円、2021 年～2023 年
- ・ 科学研究費助成事業基盤研究(A) 22H00082 （共：代表廣田照幸）冷戦体制下の日本における教育労働運動の構造と機能に関する研究、41860000 円、2022 年～2027 年

4. 受賞

なし

5. 所属学会

障害学会、社会福祉学会、公教育計画学会、子どもアドボカシー学会（一般会員）

6. 担当授業科目

特別支援教育・2 年・1 単位・前期。

特別な支援を必要とする子どもの理解・2 年 3 年・1 単位・後期

障害児保育・2 年・2 単位・後期。

教養演習・1 年・2 単位・前期

障害児教育総論 1 年、I 単位、後期（分担）

7. 社会貢献活動

家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第 3 者委員会評価委員。

障害児を普通学校へ全国連絡会会員。

田川郡香春町子ども食堂「キッチン小春ちゃん」実行委員。

社団法人子ども情報研究センター会員

8. 学外講義・講演

「インクルーシブ教育について考えるー1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動」福岡県弁護士会インクルーシブ勉強会講演 2025年2月13日。

「障害者の権利に関する条約とインクルーシブ教育」第50回佐賀県算数数学研究大会講 2024年8月31日。

「インクルーシブを教育をすすめる発達観と存在感の関係」第51回九州地区数学教育研究大会熊本大会 2025年8月19日」

9. 附属研究所の活動等

2024年度、奨励研究に応募し「旧特殊教育研究所におけるインクルーシブ教育研究」について調査活動と資料分析に取り組んだ。報告書提出。

10. 令和7年度の自己評価

研究を発展させるため、私費年休でイタリアに45日間滞在し、現地研究者と交流及び調査活動を展開した。その結果、今まで得られなかった貴重な資料を入手できた。その結果を学会に提出し、年報に研究ノートとして掲載されることになった。研究面で大変充実した一年間であった。

人間社会学部／公共社会学科・ 地域社会コース	職名	助手	氏名	佐藤繁美
---------------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大原孫三郎における地域社会構想の研究
 石井十次、岡山孤児院における地域社会構想の研究
 地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 佐野麻由子, 佐藤繁美, 藤澤健一「福岡県立大学中高教職課程における教育方法の改善 —「田川飛翔塾」への参加は学生をどのように変える」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』, 第 33 巻第 2 号, pp. 137-149, 2025 年 3 月.
- ・ 田代英美, 佐藤繁美「戦後昭和期における友愛社の事業理念Ⅰ—戦後昭和期の友愛社事業の概況—」, 『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅳ-I, pp3-29, 2025 年 3 月.
- ・ 田代英美, 佐藤繁美「戦後昭和期における友愛社の事業理念Ⅱ—昭和 20 年代～30 年代—」, 『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅳ-I, pp31-64, 2025 年 3 月.
- ・ 田代英美, 佐藤繁美「戦後昭和期における友愛社の事業理念Ⅲ—昭和 40 年代—」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅳ-I, pp65-104, 2025 年 3 月. 他

②その他最近の業績

〈学会発表〉

・

③過去の主要業績

・

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(基盤研究(C))31 年度～6 年度 交付金額 4,420 千円
 研究課題、「自立的地域社会」の構想と事業展開
 —大原孫三郎・石井十次の理念の継承と再構成— (研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会分析学会

6. 担当授業科目

社会調査実習Ⅰ（補助） 2単位・2年・実習・前期

社会調査実習Ⅱ（補助） 2単位・2年・実習・後期

データ処理とデータ解析Ⅰ（補助） 1単位・3年・演習・前期

プログラミング概論（補助） 1単位・2年・演習・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

令和7年度研究奨励交付金（横断型教育プログラム開発研究）

10. 令和7年度の自己評価

科学研究費助成事業(基盤研究(C))31年度～6年度の報告書作成、同事業終了。

その他特記事項なし

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	石田 智恵美
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。また、看護学生の既存の素朴概念に着目し、誤った知識を組み換えるための方略について研究を行っている。卒後教育の一環として、臨床の看護師を対象とした研究指導や、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 石田智恵美 中本亮 看護学生の素朴概念に関する研究 日本教育工学会 2024 年春季全国大会 2023 年 3 月 熊本大学

③過去の主要業績

- ・ 石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第 10 号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp. 77-97. 2004.
- ・ 石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第 6 号 pp. 23-48. 2006.
- ・ 石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究— 一会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第 3 巻 第 2 号 pp. 37-53. 2007.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業 基盤研究 C 23K09862 素朴概念が看護の知識獲得に与える影響に関する研究 2023 年～2025 年

4. 受賞

5. 所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教授学習心理学会，日本赤十字看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

国際看護論・1単位・2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，看護研究・2単位・3年・前期，看護教育学・1単位・3年・前期，教師論・2単位・3年・前期，看護管理論・1単位・4年・後期，統合実践演習・1単位・4年・通年，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護教育学特論・2単位・1年・前期，看護教育学演習・2単位・1年・後期，看護教育学・2単位・1年・後期，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

・嘉麻赤十字病院 研究指導 5月～3月まで1回/月 及び，院内研究発表会の講評

8. 学外講義・講演

認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」，「看護組織管理論」

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

大学院の「看護教育学特論」で，看護学生の誤った知識を組み換えるための授業の組み立てと方略を示し，「看護教育学演習」では，特論で得た授業内容を踏まえ知識を組み換える模擬授業を学生が実施するという新たな試みを行った。お互いの模擬授業の後ディスカッションすることで，他者に理解してもらうための授業目標の絞り込みや，学習者が迷いやすい事柄を推測して授業に組み入れることなど，実感してもらう演習となった。これらの結果は，今年度実施している科研（基盤C）への示唆へとつながっている。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上千代美
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究および親の養育レジリエンス醸成の解明：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P（positive parenting program）という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽し くなった。」「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- Egami, C., Tanaka, M., Shiota, N., & Yamashita, Y. (2025). Association between parenting resilience and parenting and family adjustment of mothers of children with autism spectrum disorder. *International Journal of Developmental Disabilities*, 1-11.
- 塩田昇, 江上千代美. (2024). 発達障がい児の親と定型発達児の親の 3 次元型睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較. 福岡県立大学看護学研究紀要, 21, 27-34.
- 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. (2022). 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 77-87.

②その他最近の業績

<学会発表>

- Tanaka M, Nagasaka M, Egami C, Matuyama M, Nozue A (2024).Effect of patterns of RR intervals during sleep onset on sleep parameters and subjective evaluation of sleep in perimenopausal women. 第 101 回日本生理学会（北九州）
- 田中美智子, 江上千代美, 松山美幸, 野末明希, 津田智子, 有松操, 長坂猛(2023).働く更年期女性の睡眠と QOL の関係.第 21 回日本看護技術学会学術集会（熊本）
- 江上千代美, 塩田昇.(2023).発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 第 82 回日本公衆衛生学会. つくば(Web)

③過去の主要業績

- Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Mastuishi T.(2009). Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. *Brain & Development*, vol.31(10).
- Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi T .(2015).Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children. *Brain & Development* vol.37(9).

- ・ Okabe R, Okamura H, Egami C, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Iemura A, Nagamitsu S, Furusho J, Matsuishi T, Yamashita Y.(2015). Increased cortisol awakening response after completing the summer treatment program in children with ADHD. Brain & Development 39(7), 583-592.

3. 外部研究資金

- ・ 基盤研究 (C) 発達障害のある子どもの保護者が直面する負の連鎖を断ち切る・養育レジリエンスの醸成-, 令和 6 年度～令和 9 年度 (研究代表者: 江上千代美) 2,730 千円
- ・ 基盤研究 (C) QOL 向上を目指した睡眠調節機構を基盤とした睡眠パターンの分類化と支援の構築
研究代表者 田中美智子 4,680 千円 (研究分担者: 江上千代美)
- ・ 基盤研究 (C) 親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか, 令和 4 年度～令和 7 年度 研究代表者加藤則子 4,030 千円 (研究分担者: 江上千代美)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員, 日本看護研究学会会員, 日本看護技術学会会員, 日本看護科学学会, 日本生理学会会員, 日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

<学部>

「生態機能看護学Ⅰ」(2 単位・1 年・前期)、「生態機能看護学Ⅱ」(2 単位・1 年・後期)、「生態機能看護学Ⅲ」(1 単位・4 年・後期)、「生態病態看護学実験」(1 単位・2 年・前期)、「健康科学」(1 単位・2 年・後期)、「専門看護学ゼミ」(2 単位・3 年・通年)、「卒業研究」(2 単位・4 年・通年)

<大学院>

「実験看護学特論」(2 単位・1～2 年・前期)、「実験看護学演習」(2 単位・1～2 年・後期)、「看護研究法」(2 単位・1 年・前期)、ウィメンズヘルスト論 (1 単位・1 年・前期)、ウィメンズヘルス演習 (1 単位・1 年・前期)、課題研究 (4 単位・1～2 年・通年)、特別研究 (4 単位・1～2 年・通年)

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市指定管理者選定委員会
- ・ 飯塚市指定管理者選定委員会等

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県基本的生活習慣習得事業 (小竹町、北九州市、田川市、中間市、久留米市)
- ・ あさくら前向き子育て応援事業

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

本年度は、大学院授業および研究指導の比重が高く、教育面に注力した一年であった。研究活動については継続的に取り組んでいるが、さらなる発展が課題である。今後は教育・研究の両立をより一層推進したい。

看護学部／看護学科・保健師コース	職名	教授	氏名	尾形由起子
------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

超高齢多死社会において、住み慣れた地域で高齢者が生活を継続するための公衆衛生看護活動に関する研究および実践活動を行っている。具体的には、①住み慣れた地域で暮らし続けるため当事者である住民自身が自分の思いを表出する場を作り、自らの力で地域を創っていくことを支援すること②地域包括ケアシステム構築のための多職種協働し研修のあり方を検討すること③医療依存度の高い人々が終末期を迎えるにあたり当事者の意志決定支援(ACP)とは何か考えることを主な研究テーマとしている。多職種と共にこのようなテーマを実践的に活動し、住み慣れた地域で介護が必要になっても、当事者の願いを尊重し安心して暮らし続けることができるよう、看護職(病院看護師、訪問看護師、保健師)や多職種の方々と研鑽している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2026 年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2025.2
- ・ 尾形由起子, 杉本由利子, 廣木里香, 健康づくり推進員の終末期までの在宅療養に対する意志決定の認識に関する因子分析, 福岡県立大学看護学部紀要第 23 巻, 令和 8 年 3 月
- ・ 中村美穂子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 岩崎玲奈, 終末期がん患者の退院支援における退院調整看護師と病棟看護師との連携促進因子の明確化, 日本在宅ケア学会誌 29 (1), 令和 7 年 5 月
- ・ 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛直美, 尾形由起子, A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題, 福岡県立大学看護学紀要, 19 巻, 2023

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 小野順子, 濱野強, 尾形由起子, コロナ禍はバイスタンダーによる院外心停止傷病者への心肺蘇生に影響を及ぼしたか, 第 84 回日本公衆衛生学会学術集会, 鈴岡, 令和 7 年 10 月
- ・ 守真奈美 坪根尚美 児玉三千恵 加藤千鈴, 尾形由起子, 市町村及び保健所の中堅期保健師の人材育成に係る取組について, 第 14 回日本公衆衛生看護学会, 金沢, 令和 7 年 12 月
 - ・ 山口のり子, 尾形由起子, 小野順子, 中堅期保健師のキャリアの形成と育成支援に向けた現任教育の実践, 第 14 回日本公衆衛生看護学会, 金沢, 令和 7 年 12 月
 - ・ 小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 中村美穂子, 石崎龍二, 糖尿病性腎症の動向と地域差, 第 14 回日本公衆衛生看護学会, 金沢, 令和 7 年 12 月
- 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 山下清香, 生活習慣病重症化による CKD の地域格差とリスクの検討, 第 83 回日本公衆衛生学会学術集会, 北海道, 令和 6 年
- 小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 中村美穂子, 石崎龍二, 精神障がい者の地域包括ケアシステム構築に向けた GIS 活用した地域診断, 第 83 回日本公衆衛生学会学術集会, 北海道, 令和 6 年
- Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita , Sukimoto Yuriko, Rika Hiroki, A study on clarify the relation with perceptions regarding home care decision-making until the end-of-life of community residents.end-of-life care, decision-making, community, support, attachment , 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023

② 過去の主要業績

- ・ 尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2026 年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2026.2
- ・ 尾形由起子, 杉本由利子, 廣木里香, 健康づくり推進員の終末期までの在宅療養に対する意志決定の認識に関する因子分析, 福岡県立大学看護学部紀要第 23 巻, 令和 8 年 3 月
- ・ 尾形由起子, 岡田麻里, 榎直美, 野口忍, 山下清香, 松尾和枝, 眞崎直子, 三徳和子, 終末期がん療養者の満足な在宅看取りを行った配偶者の介護体験, 地域看護学会誌, 20(2), 2017

3. 外部研究資金

- ・ 尾形由起子 (研究分担者, 榎直美), 退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2022 -2025 (2026 期間延長)
- ・ 尾形由起子 (研究代表者, 榎直美), 過疎地における認知症高齢者の家族介護者を支援する協同的ケアモデルの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2023-2026
- ・ 尾形由起子 (研究代表者, 岡田麻里), 質の高い地域看取りを推進する多職種チーム・デスカンファレンス実践ガイドライン開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2025-2027
- ・ 尾形由起子 (研究代表者, 小野順子), 地理情報システムを活用した地域診断に基づく PDCA サイクルの実践に関する研究, 文科省科学研究 (基盤 C) 2022-2025
- ・ 尾形由起子 (研究代表者, 中村美穂子), 終末期がん患者の「帰りたい」希望を支える退院支援教育プログラムの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2025-2027

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本地域看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本学校保健学会, 日本看護技術学会, 日本死の臨床研究会

6. 担当授業科目

【看護学部】

公衆衛生看護学Ⅰ(2単位)2年後期, 家族看護論(1単位)2年前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ(1単位)3年後期, 公衆衛生看護学Ⅱ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護技術論Ⅰ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護技術論Ⅱ(2単位)4年前期, 公衆衛生看護学Ⅲ(1単位)4年後期, 公衆衛生管理論(2単位)4年生後期, 組織協働活動論(2単位)4年後期, 公衆衛生看護学実習Ⅰ(1単位)4年前期, 公衆衛生看護学実習Ⅱ(4単位)4年後期,

【看護学研究科】

地域看護学特別研究(2単位)修士1年前期, 地域看護学特別演習(2単位)修士1年後期, 看護研究法(2単位)修士1年前期, 看護政策論(2単位)修士1年前期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県地域在宅推進協議会委員（H20 年度～現在に至る）
- ・福岡県訪問看護連携強化事業（委託事業代表者）（平成 28 年度～令和 3 年 3 月）
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会（平成 26 年度～現在に至る）
- ・香春町地域福祉計画策定委員（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- ・みやこ町健康づくり推進委員会（委員長）（平成 27 年度～現在に至る）
- ・東峰村地域福祉計画及び東峰村地域福祉活動計画策定委員会（委員長）
- ・北九州市人権施策審議会委員（平成 27 年～現在に至る）
- ・日本公衆衛生看護学会 理事および査読委員
- ・日本地域看護学会 評議委員および査読委員
- ・日本在宅ケア学会 査読委員および座長
- ・日本看護研究学会 評議員
- ・日本看護科学学会 代議員
- ・田川市立病院評価委員会 委員

8. 学外講義・講演

- ・築上医師会在宅医療多職種研修会 講師
- ・ケアカフェ田川研修会 座長
- ・勇美記念財団公募助成事業「一人になったらどうする？在宅フォーラム座長

9. 附属研究所の活動等

附属研究所所長業務

公開講座Ⅱの企画・運営

尾形由起子，コミュニティにおけるアドバンスケアプランニング，シンポジウム，2020

10. 令和 7 年度の自己評価

公衆衛生看護においては、カリキュラムや体制が整ってきたが、3 年前より行っている国保連合会協定に基づいた KDB システムデータを活用した研究は始まったばかりである。附属研究所長として推進しており、5 つの研究に取り組み専門分野を生かした研究成果を出そうとされている。次年度には、さらに現場向けの国保連合会と協議しながら、地域住民の生活改善が図られる方向性を見据えた研究ができるよう検討しなければならないと考えている。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	杉浦和子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

助産師としての臨床が長く、妊娠期から産褥育児期までの女性に出会い、2000 例を超える分娩に携わらせていただきました。また婦人科疾患においては思春期から老年期までの女性から多く学ばせていただきました。それらの経験と共に研究力向上を目指し、大学院に進み、博士号を取得しました。

これまでの研究は、主に女性および女性を支える方々の意思決定支援、女性の加齢とともに変化する女性ホルモン（エストロゲン）に着目して取り組んできました。また医療安全に向けた専門職連携では硬膜外麻酔分娩に関する研究も取り組んでおります。中でも、女性ホルモン剤と血栓症について日本人女性について初めて公表した疫学的知見は、Asia & Oceanic Federation of Obstetrics & Gynaecology (AOFOG)において、Reproductive Endocrinology & Infertility (生殖内分泌・不妊不育症) 分野の最優秀論文の著者として国際的に評価 (Y. S. Chang Endowment Award) いただきました。経口避妊薬 (OC: oral contraceptives) と保険適用の経口避妊薬 (LEP: Low dose estrogen progestin) である OC/LEP のガイドラインにおいては、エビデンスとして複数の国際論文が評価され引用いただけました。これらの礎は調査協力いただきました方々、多くの先生方により研究指導いただき、産婦人科のみならず国民の皆様に貢献できました。これを礎に、さらなる精進を重ねてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

1. 杉浦和子「性教育の理解をすすめるために～学校・家庭・地域の理解を得る性教育」思春期学44 (1) 2025
2. 杉浦和子「思春期の悩みの向き合い方とインターネット」からだの悩み・性の悩み-効果的な支援に向けて 思春期学42 (1) 2024
3. Kobayashi T, Sugiura K*, Ojima T, Hirai K, Morishita E. Peripartum management of hereditary thrombophilia: results of primary surveillance in Japan. Int J Hematol 2022; 116(3): 364-371. doi: 10.1007/s12185-022-03354-4. (*:co-first author) Impact factor (IF):2.324
4. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. The epidemiological characteristics of thromboembolism related to oral contraceptives in Japan-Results of a national survey. J Obstet Gynecol Res 47(1); 2021: 198-207. doi: 10.1111/jog.14452. IF:1.697
5. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. National survey of confirmed thromboembolism related to female hormones in Japan. J Obstet Gynaecol Res 2020 May 25; 46(7): 1173-1182. doi:10.1111/jog.14303. IF:1.697
6. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (5) 女性ホルモン剤と血栓症のリスク因子, 血液型別リスクおよび予後 全国疫学調査結果から②. 助産雑誌 75(12): 962-967, 2021
7. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (4) 女性ホルモン剤と血栓症発症に関する知見 全国疫学調査結果から①. 助産雑誌 75(11): 872-876, 2021
8. 杉浦和子: 5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症 (3) 女性ホルモン剤の服用と血栓症発症率の関係. 助産雑誌 75(10): 790-794, 2021

9. 杉浦和子：5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症（2）ピルの種類と血栓症の歴史．助産雑誌 75(9)：700-703, 2021
10. 杉浦和子：5つのテーマで学ぶ 女性ホルモン剤と血栓症（1）女性のライフサイクルと女性ホルモンの変化．助産雑誌 75(8)：620-623, 2021

②その他最近の業績

＜学会発表＞

1. 小林隆夫，森下英理子，津田博子，杉浦和子，平井久也，尾島俊之：遺伝性血栓性素因患者の妊娠分娩管理に関する全国調査研究および診療ガイドラインの策定
2020.2.22. 第14回日本血栓止血学会 SSC シンポジウム．血栓性素因部会，静脈血栓症/肺塞栓症部会「血栓性素因を再考する」．
2. 小林隆夫，森下英理子，津田博子，杉浦和子，平井久也，尾島俊之：遺伝性血栓性素因患者の妊娠分娩管理に関する全国調査研究および標準周産期管理 2020.6.19. (Web 開催) 第42回日本血栓止血学会「第9回プロテインS研究会シンポジウム」
3. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T: Stroke related to female hormones increases with age in Japan. 2020.11.7-9 (Online Conference e-poster presentation The European Stroke Organization and The World Stroke Organization (WSO)Conference (ESO-WSO 2020) Vienna
4. 杉浦和子：わが国における女性ホルモン剤使用と血栓症-2つの調査結果による新しい知見
2020.10.10. (Web 開催) 第61回日本母性衛生学会総会・学術集会「スポンサードセミナー3」
5. 杉浦和子，松浦賢長：年代別にみた月経時における鎮痛薬使用と経口避妊薬（ピル）使用願望との関連 2021.9.27. (WEB開催)

② 過去の主要業績

1. Sugiura K, Ojima T, Tetsumei U, Kobayashi T. The incidence and prognosis of thromboembolism associated with oral contraceptives: age-dependent difference in Japanese population. J Obstet Gynaecol Res 2018 Sep;44(9):1766-1772. doi:10.1111/jog.13706. (A0FOG: Y.S Chang Endowment Award 2019) IF:1.697
2. Kobayashi T, Sugiura K, Ojima T. Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives in Japanese compared to Western women. J Obstet Gynaecol Res 2017 Mar;43(5): 789-797. doi: 10.1111/j. Obstet Gynaecol Res 2017.04. IF:1.697
3. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. Risks of thromboembolism associated with hormonal contraceptives related to body mass index and aging in Japanese women. Thromb Res 2016 Jan; 137:11-16. doi: 10.1016/j.thromres.2015.11.038. IF:10.407
4. Sugiura K, Kobayashi T, Ojima T. Thromboembolism as the adverse event of combined oral contraceptives in Japan. Thromb Res 2015 Dec;136(6):1110-1115. doi: 10.1016/j.thromres.2015.09.011. (博士論文) IF:10.407

3. 外部研究資金

文部科学省科学研究費補助金（若手研究） 課題番号：19K19683「月経困難症疑いの30代女性を対象とした受診行動支援のためのAIプログラム開発研究」2019年～2023年

文部科学省科学研究費補助金（基盤研究C） 課題番号：23K10112 「硬膜外麻酔分娩における専門職連携に向けたシミュレーションプログラムの開発研究」 研究代表者 2023年～2026年

4. 受賞

2019年 Asia & Oceanic Federation of Obstetrics & Gynecology (AOFOG) Y.S Chang
Endowment Award

2018年 蘆哲司賞

2018年 Asian-Pacific Society on Thrombosis and Hemostasis (APSTH2018) Poster Award

2013年～毎年 広域社団法人地域医療振興協会より感謝状授与

5. 所属学会

日本母性衛生学会，日本看護倫理学会，日本助産学会，日本公衆衛生学会，東海公衆衛生学会，
日本疫学会，なごや看護学会，日本保健福祉学会，日本思春期学会（幹事），日本産科麻酔学会

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学・2単位・2年・後期，女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期，女性看護学演習Ⅱ・
1単位・3～4年・後期～前期，女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

<大学院>

ウイメンズヘルズ特論・1単位・1年・前期，ウイメンズヘルズ演習・1単位・1年・後期，基礎助産学特論・2単位・1年・前期，基礎助産学演習・2単位・1年・通年，助産学特論・2単位・1年・前期，助産学演習・2単位・1年・後期，コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期，コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期，ホリスティック助産学特論・1単位・1年・前期，ホリスティック助産学演習・2単位・1年・後期，マネジメント助産学特論・2単位・2年・前期，助産実践Ⅰ（妊娠期）・2単位・1年・前期，助産学実践Ⅱ（分娩期）・4単位・1年・通年，助産学実践Ⅲ（産褥期）・2単位・1年・後期，助産学実習Ⅰ（外来ケア実習）・1単位・1年・前期，助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）・8単位・1～2年・後期，助産学実習Ⅲ（助産所実習・継続ケア実習）・2単位・2年・前期，助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）・1単位・2年・前期，助産学実習Ⅴ（マザークラス実習）・2単位・2年・後期，助産学課題研究・4単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・広域社団法人地域医療振興協会から感染症週報の情報を提供
- ・日本助産学会査読委員

8. 学外講義・講演

日本思春期学会：新たな道へ 思春期学研究認定者へのチャレンジ

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 今年度の自己評価

教育については、新カリキュラムの開始に伴い、人員確保や実習施設の整備等において多くの課題が生じる中、学生の理解度や学習状況を踏まえた指導体制の構築に努めた。一方で、教育体制の整備と学生への十分な支援を両立することには難しさがあり、今後の課題も残された。研究については、専門分野に関する研究を継続・推進するための時間確保が課題となった。また、社会貢献活動についても、教育・研究・大学運営との両立を図りながら活動時間を確保することが課題であった。今後は、教育の質の向上を図るとともに、研究活動の推進と社会貢献活動にも継続して取り組み、専門性を生かした貢献に努めたい。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	田吹香子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護学部・人間社会学部共通英語授業、看護学部の英語授業、看護学研究科の「英語文献購読特論」を担当。学生がいる教室は「パワースポット」だと信じている猫好き英語教員（犬も鳥も、生き物全般好き）。主にアメリカ文学（ポストモダン文学）、英語文学、効果的な英語教育方法・英語教育と文学の関係を研究。学術修士。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 「スピーキング・リスニングの授業におけるペア活動と学生の学習態度への効果」『人と文化と言語 XVI 号』（2025）
- ・ 「学生のスピーキング活動の動機づけになるものは何か—音読活動から話す意欲獲得への移行について—」『人と文化と言語 XV 号』（2024）
- ・ 「教養英語の授業の可能性についての考察—代名詞の解釈をめぐる学生の自発的好奇心—」『人と文化と言語 XIV 号』（2023）

② その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 「スピーキング・リスニングの授業におけるペア活動と学生の学習態度への効果」日本人類言語学会第 25 回学術大会（2025）
- ・ 「学生のスピーキング活動の動機づけになるものは何か—音読活動から話す意欲獲得への移行について—」日本人類言語学会第 24 回学術大会（2024）
- ・ 「教養英語の授業の可能性についての考察—代名詞の解釈をめぐる学生の自発的好奇心—」日本人類言語学会第 23 回学術大会（2023）

③ 過去の主要業績

- ・ 「潰えゆく兵士の夢—『カチアートを追跡して』に見られる対抗文化的意識の挑戦と失敗」『九州英文学研究』第 27 号
- ・ 「語りの闇を超えて—*The Things They Carried*における語り手の苦悩と希望」『九州アメリカ文学』No. 51
- ・ 「権力の生産・管理構造の外へ—*The Nuclear Age* (1985)における抵抗者たち」『九州アメリカ文学』No. 50

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本英文学会、日本英文学会九州支部、日本アメリカ文学会、日本アメリカ文学会九州支部（監査）、日本人類言語学会（理事、事務局長、学術大会実行委員長）

6. 担当授業科目

リーディング・ライティング 初級（1）・1単位・1年・前期、スピーキング・リスニング 初級（1）・1単位・1年・前期、総合英語 中級（1）（Dクラス、Dクラス）・1単位・2年・前期、リーディングⅢ・1単位・4年・前期、リーディングⅢ・1単位・4年・前期、リーディング・ライティング初級（2）・1単位・1年・後期、スピーキング・リスニング 初級（2）・1単位・1年・後期、総合英語 中級（2）（Dクラス、Eクラス）・1単位・2年・後期、英語文献講読特論・2単位・大学院1年・前期

7. 社会貢献活動

・日本人類言語学会 理事・事務局長・学術大会実行委員長

8. 学外講義・講演

・日本アメリカ文学会九州支部 監査

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

学部の英語の授業はさらに「進化」させる必要がありますが、学生のやる気やパワーに助けられ充実したものになりました。大学院の英語文献購読特論は、自身は英語の構造や内容は分かるけれど看護の分野には疎いので、院生の経験と高度な知識を「足して」ディスカッションをしながら専門的な論文のアブストラクトを多数読解することができ、エキサイティングでした。「もう少し」なのは研究です。英語教育だけでなく、頭の中にあるアメリカ文学の研究アイデアを形にしていきます。只今進行中。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	波止 千恵
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、脳外科、外科病棟、循環器病棟での臨床経験後教員となり、その後3年間在宅介護支援センターの管理者として地域福祉、高齢者福祉に携わる。

熊本大学大学院 保健学教育部保健学専攻博士後期課程単位取得後退学

主な研究分野は訪問看護師の実践能力向上に関する研究

在宅酸素療法が必要な慢性閉塞性肺疾患（Chronic Obstructive Pulmonary Disease :COPD）患者が急性増悪を起こさず在宅療養を継続するための訪問看護の効果について研究しています。訪問する看護師の方が呼吸器疾患の療養者や家族の方に質の高い看護が提供できるための支援を目指しています。

2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正で、在宅看護論が「地域・在宅看護論」と名称変更されました。本学では1年次から段階的に「地域・在宅看護実習」を行い、看護師が病院だけでなく、地域の多様な場で活動し地域で暮らす人々の健康と暮らしを守る看護師の役割や活動について学び実践できることを目指しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 地域包括ケアを構築するための公衆衛生看護学 共著 クオリティケア 2026年4月7日
- ・ 第3章 第4節 家族支援-家族をアセスメントする力をつける必要性と意義-p107-115

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes.
Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. The 16 th EAFONS 2023.Tokyo.

③過去の主要業績

- ・ 波止千恵,前田ひとみ（2020）. 在宅酸素療法を行っている COPD 患者の外来看護介入の効果 個別指導と訪問指導の比較, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌,29（2） p 276-281.
山崎律子、波止千恵、他（2017）. 医療機器を使用した在宅看護論演習の成果～酸素濃縮器と人工呼吸器を使用した体験型演習での学びを通して～純真学園大学雑誌号 7号 p55－62
長弘千恵、前野有佳里、波止千恵、Bevan宏美（2010）. 日本介護保険の現状と課題-介護予防の視点から-, Korean Journal of Research in Gerontology (韓国老年学研究)、vol19、37-50.

3. 外部研究資金

- ・ (研究代表者) 基盤研究 (C) COPD 患者のセルフマネジメント教育支援のための訪問看護プロトコル開発 交付金額：247 万 令和5年～令和8年度延長

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会会員、日本看護研究学会会員、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会員、
日本地域看護学会会員、日本看護学教育学会会員

6. 担当授業科目

(学部)

暮らしと保健福祉・看護：2単位・1年次・後期、チーム医療論：1単位・1年次・後期、家族看護学：1単位・2年次・前期、地域・在宅看護論：2単位・2年次・後期、地域・在宅看護論演習：2単位・3年次通年、在宅看護支援実習：3年次後期2単位、専門看護学ゼミ：2単位・3年次通年、地域包括支援実習：1単位・4年次・通年、卒業研究：2単位・4年次通年

(大学院)

在宅看護学特論、在宅看護学演習

7. 社会貢献活動

- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会専門部会部会員 医療・介護・住まい部会
- ・田川市地域包括ケアシステム推進協議会専門部会部会員 認知症支援部会
- ・ケアカフェ田川 (在宅医療多職種研修会：田川市と共同開催)：年間3回
- ・田川地区在宅医療・介護連携推進事業、成果指標・社会人調査WG 入退院時連携支援小委員会委員・オブザーバー

8. 学外講義・講演

- ・令和7年度公開講座Ⅳ「認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり」講師
R7年11月15日開催

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

・2022(令和4)年度の看護基礎教育カリキュラム改正で、地域の多様な場で活動し地域で暮らす人々の健康と暮らしを守る看護師の役割や活動を学ぶため新カリキュラムで1年次から4年次と毎年段階的に実習を行ない、暮らしの中の看護職の役割や地域包括ケアシステムでの多職種連携・協働について理解できるように実習内容の構築や実習施設との調整を行った。2025年度は完成年度を迎え地域包括支援実習にて地域看護学の視点での看護活動の理解が深まった。

看護学部 看護学科	職名	教授	氏名	福田和美
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として集中治療室、外科病棟、呼吸器内科病棟での臨床経験のあと、佐賀大学大学院医学研究科看護学専攻（看護学修士）に進学し、手術を受けた乳がん患者の看護を行う看護師の共感に関する研究を行いました。その後大学教員になり、九州大学大学院医学系学府保健学専攻に進学し、術後せん妄患者の家族への看護に関する研究を行い、博士課程を修了しました（看護学博士）。現在は、術後せん妄の予防的ケアも含めたうえでの患者や家族の看護に関する研究を継続して行っています。また、成人看護学におけるシミュレーション教育に関する研究も行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村田和子, 廣瀬理絵, 福田和美: 看護基礎教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討, 福岡県立大学看護学紀要, 第 23 巻, p37-45, 2026.
- ・ 山口馨子, 御手洗みどり, 笹山万紗代, 福田和美: 看護実践能力を見座した周術期看護演習の実践報告～術後患者の持続点滴・ドレーン・創傷処置に焦点を当てて～, 福岡県立大学看護学紀要, 第 23 巻, p11-18, 2026.
- ・ 福田和美, 中尾久子: 術後せん妄リスクの高い高齢者の家族と看護に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 22 巻, p 25-33, 2025.
- ・ 村田和子, 福田和美: 成人看護学演習における OSCE の現状と課題, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 21 巻, p17-25, 2023.
- ・ 高木美歩, 福田和美: 精神科訪問看護利用者が希望を語ることにつながった看護師の関り, 日本地域看護学会誌, 26 巻 1 号, p84-91, 2023.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 福田和美, 中尾久子: 術後せん妄ケアにおける看護師の家族への情報提供と家族のケア協力の実態第 51 回日本看護研究学会学術集会（金沢）, 2025.
- ・ 廣瀬理絵, 村田和子, 福田和美: 基礎看護教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討第 51 回日本看護研究学会学術集会（金沢）, 2025.
- ・ Kazumi Fukuda, Kazuko Murata, Hisako Nakao: Actual conditions of patient family participation in postoperative delirium care before and after COVID-19. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025.
- ・ Kazuko Murata, Kazumi Fukuda, Hisako Nakao: Awareness of nurses on patient family participation in postoperative delirium care. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025.
- ・ Keiko Yamaguchi, Kazumi Fukuda: Comparison of the motivations to learn by nursing students using different learning methods in the observation of postoperative patients. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2025.

③過去の主要業績

- ・ 福田和美,中尾久子, 村田和子:術後早期の看護ケアを行う看護師による家族に対する情報共有に関連したケア, The Journal of Nursing Investigation, 第20巻1号, p33-43, 2022.
- ・ 福田和美, 中尾久子:術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験, The Journal of Nursing Investigation, 第13巻1,2号, p 20-27, 2015.

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業(基金分) 基盤研究(C) 令和6年～8年, 交付金額 3,250 千円, 研究課題:虐待防止を目指した介護職の心理的安全性を高めるプログラムの構築(研究分担者)
- ・ 在宅医療助成 勇美記念財団 助成 令和7年度, 交付金額 229 千円, 研究課題:COVID-19 感染拡大後に加速する治験手法 DCT～在宅治験における訪問看護師業務の実態と教育の検討(研究分担者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア学会、日本がん看護学会、日本看護医療学会、日本老年看護学会、Sigma Theta Tau International、日本地域看護学会

6. 担当授業科目

<学部>

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期、健康レベルと看護・1単位・1年・後期、看護倫理学・1単位・2年・前期、成人老年看護学Ⅰ(急性期)・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ(慢性期)・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅲ(終末期)・2単位・2年・後期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、看護研究・2単位・2年・後期、卒業研究・1単位・4年・通年

<大学院>

成人看護学特論・2単位・1年・前期、成人看護学演習・2単位・1年・後期、看護研究法・2単位・1年・前期、ウイメンズヘルスト論・1単位・1年前・前期、ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期、特別研究・1～2年・8単位・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会 看護研究倫理審査委員会 委員長
- ・ 日本看護協会 第56回日本看護学会学術集会 抄録選考委員
- ・ The Journal of Nursing Investigation 査読委員
- ・ 済生会福岡総合病院 特定行為研修管理委員会 外部委員

8. 学外講義・講演

- ・飯塚市立病院 看護過程研修会 講師
- ・飯塚市立病院 接遇研修会 講師

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

研究に関しては、これまでの研究成果を学会で発表するとともに、論文化することができた。教育に関しては、新カリキュラムが完成年度を迎えたことから、授業内容をブラッシュアップし、そのコンセプトに沿った授業を実施することができた。社会活動に関しては、継続して看護現場や看護教育に貢献できる活動を行うことができた。今後も、研究・教育・社会貢献のバランスを取りながら、これらの活動を継続していきたい。

看護学部看護学科	職名	教授	氏名	松浦賢長
----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。保健学博士（東京大学）

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に 10 年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室（マルコム・ポッツ教授）に助手として勤務し，平成 15 年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系学校保健領域（養護教諭養成課程を含む）教授を経て，看護学部教授。また，本学の附属図書館長を平成 20 年度から 21 年度まで兼務。平成 22 年度～23 年度には，本学の 4 つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成 24 年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成 25 年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：全国学会レベルでは，日本小児保健学会が 10 年に一度行う幼児健康度調査（令和 3 年度）の委員長を務めた。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子 21）については，第 1 回中間評価時（2005 年），第 2 回中間評価時（2009 年），最終評価時（2014 年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し、健やか親子 21（第 2 次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。また，わが国の乳幼児健診の標準化についてグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。現在は，成育医療基本法に基づく成育医療等基本方針の指標モニタリング研究に関わっている（山縣班）。また，思春期健診に向けた研究班に従事している（永光班）。県レベルにおいては，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県教育委員，福岡県性暴力対策会議座長，福岡市こども子育て審議会委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成 25 年度（12 月 1 日）には，第 26 回日本保健福祉学会学術集会を主催。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。平成 30 年度健やか親子 21 全国大会(津市)にて，厚生労働大臣表彰を受けた。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会（会員数約 2,000 名）の理事長および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子 21 の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の施策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。日本版 **Bright Futures** 作成を目標とする研究班に分担研究者として従事した（岡班、永光班）。また，平成 20 年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育 GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成 22 年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007 年）、久留米市の思春期問題調査（2014 年）を担当した。平成 23 年度（8 月 26 日～28 日）には，第 30 回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，

全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し、わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。また、日本思春期学会（現在、理事長）の性教育認定講師養成プログラムの委員長を務めている。国レベルでは、カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない、厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また、新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し、全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ、脳科学・進化心理学の成果を利用し、性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは、福岡県教育委員会の性教育関連事業の委員長等を務めている。現在は特別支援学校の性教育（性暴力被害防止教育）に取り組む。2026年11月には日本学校保健学会学術大会を福岡市にて主宰する。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ Shin T., Matsuura K.: A perspective on the declining birthrate in Japan. J Kyushu Society of Adolescentology, 1: 22-26, 2024.
- ・ 安藤朗子, 原田直樹, 近藤洋子, 加藤則子, 堤ちはる, 阿部百合子, 大屋晴子, 松浦賢長. 乳幼児の発達とそれに関連する社会的要因の検討. 日本児童学会：児童研究 VOL.102 14-23, 2023.
- ・ 松浦賢長. 思春期学を学問とするために. 思春期学, 2023 ; VOL.41 NO1:73-74

3. 外部研究資金

- ・ こども家庭行政推進調査事業費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価、およびモニタリングに関する研究」班：30万円、（主任研究者：国立成育医療研究センター 山縣然太郎）。分担研究者。
- ・ こども家庭科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソーシャルの観点（身体的・精神的・社会的な観点からの切れ目のない支援の推進のための研究」班：50万円、（主任研究者：福岡大学永光信一郎教授）。分担研究者。
- ・ 福岡県教育委員会不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業教育支援センターの総合的拠点機能形成に向けた調査研究事業：筑前町・小竹町・糸田町・福智町。1,000万円。責任者。

5. 所属学会

日本思春期学会（理事長）、日本学校保健学会（九州沖縄地区代表理事）、日本保健福祉学会（理事）、日本健康学会、日本看護科学学会、日本災害看護学会、日本公衆衛生学会、日本小児保健協会（幼児健康度調査委員長 R6 まで）、日本母性衛生学会、日本健康教育学会、日本民族衛生学会、日本性感染症学会、日本性科学学会、九州学校保健学会（評議員）、東海学校保健学会、九州思春期研究会

6. 担当授業科目

<学部>

公衆衛生学、保健統計学、学校保健学、性教育学、教育方法論、健康教育論、養護実習（教育実習）、養護実習事前事後指導、教職実践演習、不登校ひきこもり援助論、子供学習支援論、教育と社会・地域、看護倫理学

<大学院>

看護研究法、ヘルスプロモーション科学、ヘルスプロモーション看護学特別研究、思春期ヘルスプロ

10. 令和7年度の自己評価

本年度は、教育・研究活動を基盤としつつ、学内外における要職を通じて組織運営および分野の発展を牽引した。専門領域における研究の推進と人材育成に加え、社会的要請に応じた取組を通じて学術的・社会的意義の高い貢献を果たした。今後はこれらの成果を踏まえ、教育研究の更なる高度化と社会への発信強化に努めたい。

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	村方多鶴子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院で勤務後、教育の分野（高等学校衛生看護科・専攻科、医療技術短大、看護学部など）で長年働いてきました。その後、精神科を専門とする訪問看護ステーションにて看護師として勤務後、再び教育・研究の場に戻り、令和3年度に本学に着任しました。

研究分野としては、精神障害をもつ母親の子育てに関する研究などを行っていましたが、訪問看護ステーション勤務後は主に、精神科訪問看護ステーションにおける新任スタッフ育成に関する研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・
- ・

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- 満島 杏子、加藤 法子、村方 多鶴子、永嶋 由理子（2024）：中小規模病院で働く看護職の職業的アイデンティティに達成動機、ワーク・エンゲイジメントが及ぼす影響. 第44回日本看護科学学会学術集
- 満島 杏子、加藤 法子、村方 多鶴子（2025）：離職を考えた中小規模病院看護職の現状とワーク・エンゲイジメントとの関連. 第35回日本看護学教育学
- ・

② 過去の主要業績

- ・
- ・

3. 外部研究資金

2024年度 基盤研究(C)（一般）、交付金額1,600千円、研究課題：新任訪問看護師育成プログラムの開発 ～精神科訪問看護に特化したプログラム～（研究代表者）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本社会精神医学会、
日本精神障害者リハビリテーション学会、日本在宅看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉看護倫理学・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習・2
単位・3年・前期、地域・在宅看護論演習・2単位・3年・前期、精神看護学実習・2単位・3年
後期、精神看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

課題研究・4単位・2年・通年、特別研究・8単位・1年・通年、精神看護学特論・2単位・1年・
前期、精神看護学演習・単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

福岡県覚醒剤・麻薬禍対策協議会委員

福岡県准看護師試験委員会委員

常盤高等学校進路説明会

新宮高等学校大学入試・入学説明会

全国訪問看護事業協会：精神科訪問看護基本療養費算定要件となる研修会ファシリテーター

8. 学外講義・講演

- ・福岡県消防学校：消防職員専攻教育救急科講義：精神障がい
- ・麻生看護大学校非常勤講師

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和7年度の自己評価

担当授業科目では、精神看護学を希望する大学院生が5名となり、講義や研究指導の時間が必要になった。院生の授業アンケートによると満足する内容とはなっていないので、次年度に向けて内容や方法を検討する必要がある。研究では科研費を獲得後予定のインタビューを行うに至らず、研究が進んでいない。院生の指導を行ううでも、次年度は計画的に研究を行い、学会発表を行う予定である。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	加藤法子
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学院を卒業後、看護師として大学病院の血液内科・麻酔科病棟で勤務を経て大学教育に携わることとなりました。平成 15 年 4 月より本学に着任し、主に基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、基礎看護・看護技術・看護教育、ヘルスケアをキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発やヘルスケア向上を目指した研究に取り組んでいます。現在は主に、吸引技術に関する基礎的研究や教育方法に関する研究、成人女性の生理的むくみに関する基礎研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 加藤法子、2017 年・2022 年度科学研究費助成事業、基盤研究（C）経験値に基づいた吸引技術教育の検討（研究代表者）、研究成果報告書、2023.

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 加藤法子、中島紀江、橋口暢子：着圧ストッキングの着用が座位姿勢に伴う下肢のむくみに及ぼす生理的・心理的影響、日本看護研究学会第 30 回九州・沖縄地方会学術集会、福岡、2025.
- ・ 加藤法子、中島紀江、橋口暢子：成人女性の下肢のむくみに対する着圧ストッキングの着用効果に関する検討、第 44 回日本看護科学学会学術集会、熊本、2024.
- ・ 満島杏子、加藤法子、村方多鶴子、永嶋由理子：中小規模の看護職の職業的アイデンティティに達成動機、ワークエンゲイジメントが及ぼす影響、第 44 回日本看護科学学会学術集会、熊本、2024.

③ 過去の主要業績

- ・ 渕野由夏、永嶋由理子、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美、宮崎千尋：基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討、福岡県立大学看護学研究紀要、17、2020.
- ・ 加藤法子：高齢者の栄養管理、三原博光、松本百合美編著、豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援、関西学院大学出版会、2013.
- ・ 加藤法子、渕野由夏、永嶋由理子：高齢在宅酸素療法患者の自己効力感に影響を及ぼす要因の検討、福岡県立大学看護学研究要、4(2)、64-68.2007.

3. 外部研究資金

加藤法子（研究代表者）科学研究費助成事業、基盤研究（C）、成人女性の下肢のむくみ発生予防・軽減に向けた弾性ストッキング着用プログラムの開発、交付金額 4,550 千円、2024 - 2028 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本産業衛生学会 日本看護教育学会

6. 担当授業科目

<学部>

基礎看護学概論・2単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護理論・2単位・1年・前期、基礎看護学特論・2単位・1年・前期、特別研究1～2年・8単位・通年

7. 社会貢献活動

日本看護研究学会第30回九州沖縄地方会、実行委員

8. 学外講義・講演

出前講義：看護の「技」について、福岡県立香椎高等学校、7月25日。

出前講義：看護の「技」について、福岡県立香住丘高等学校、12月2日。

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

学部教育では、前年度の振り返りや学生の反応・授業評価を踏まえ、授業内容・方法の見直しに継続的に取り組んだ。また、他科目担当教員と連携し、科目間のつながりを意識した体系的な教育の充実を図った。さらに、アクティブラーニングやDX教育を導入し、主体的学習や思考力・問題解決力・コミュニケーション力・ICT活用力の向上に一定程度寄与できたと考える。大学院教育では、看護理論、基礎看護学特論、特別研究（研究補助教員）を担当し、大学院生との議論を通して関連分野の知見の深化にもつながった。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

違法薬物、市販薬などの薬物乱用問題や依存（嗜癖）問題、インターネット依存やゲーム依存などの行為依存を主な研究対象にしています。どの依存症でも、陥りやすい人には共通点があります。家庭で両親から怒鳴りつけられていたり、家族や身近な人が依存症で苦しんでいたりと、ACEs（子供時代の逆境的体験）を抱えているケースが多いです。さらに現代社会では、依存から抜け出しにくい環境になっています。家庭環境に問題があるだけでなく、学校や職場での不安やストレスから逃げるためにその環境から飛び出して、同じ背景を抱えた人たちが集まり、新たな関係依存（共依存）が生まれやすいこともあります。依存した結果より、その原因に目を向ける支援が大切です。お気軽にメールでご連絡ください。

(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 四戸智昭著. 「第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー」. 『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方 2025 年度版』. 福岡県立大学教養演習テキスト出版会. 2026 年 4 月.

② その他最近の業績

<エッセイ>

- 四戸智昭. 「世代間連鎖する家族問題」. 西日本新聞朝刊.opinion. 2024 年 2 月 4 日
- 四戸智昭. 「依存するのは自己治療的行動だ」. 週刊 SPA. 扶桑社. 通巻 3811. 2024 年 4 月 2 日号
- 四戸智昭. 「ひきこもりが消えた世界」. 『KHJ 福岡楠の会だより』. 271 号. KHJ 福岡楠の会. 2025 年 1 月
- 四戸智昭. 「不登校・ひきこもり・発達障害が消えた世界」. 河合塾みらいぶっく. 2025 年 9 月
- 四戸智昭. 「砂と銀河とダイアログとーあるがままを受け入れる、ネガティブケイパビリティー」. 『KHJ 福岡楠の会だより』. KHJ 福岡楠の会. 2026 年 1 月

③ 過去の主要業績

- 四戸智昭著. (単著). 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- 丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. ” 第 14 章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”. 『21 世紀の心の処方学ー医学・看護学・心理学からの提言と実践ー』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.
- 西日本新聞朝刊連載、家族百景Ⅱ、四戸智昭、「不登校・ひきこもり考ー親子の視点から」 2013 年 8 月 13 日～12 月 24 日 (全 19 回)

3. 外部研究資金

科学研究費補助金 (基盤研究 C) R7～R9 「不登校・ひきこもり当事者と家族の「生きづらさ」を受容する支援教育プログラムの開発 (研究代表者 四戸智昭)

4. 受賞

5. 所属学会

日本嗜癮行動学会（学会誌編集委員）、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会、日本家族と子どもセラピスト学会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癮・2単位・1年・後期、不登校ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、看護学研究・2単位・3年・後期、家族看護学・1単位・3年・前期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情Ⅱ・留学生・前期、日本事情Ⅰ・留学生・後期、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院嗜癮行動学特論・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会・委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長
- ・北九州市依存症対策連携会議・委員
- ・福岡県薬物再乱用対策推進会議・委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡市学校カウンセリング研究会、講演「引きこもりや不登校等の生徒の支援について」、2025年7月
- ・水俣市介護DX研究会、講演「はじめての生成AI」、2025年10月
- ・水俣市教育委員会、講演「不登校児童生徒の支援」、2025年10月

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度は、特に嗜癮行動学に関連する情報を新聞や雑誌を通じて発信することができました。また、福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会、田川市いじめ問題対策委員会、北九州市依存症対策連携会議、福岡県薬物再乱用対策推進会議の委員を務め、多くの重要な役割を担いました。さらに、福岡市内の小中学校教員が子どもの発達支援や合理的配慮について研修・研究する福岡市学校カウンセリング研究会や水俣市教育委員会などでの講演活動を通じて、地域社会への貢献も果たしました。来年度は、社会貢献を通じて得た情報やスキルをさらに授業の展開に活かしていきたいと考えています。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	田中美樹
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として小児専門病院で臨床経験を積んだ後、グリフィス大学〈オーストラリア〉保健科学学部卒業（学士）、名古屋大学大学院医学系研究科博士前期課程修了（修士）、西南学院大学大学院人間科学研究科博士後期課程（単位取得後退学）へ進みました。

入院中の子どもの生活を支える保育士と看護師の協働や、療養中の子どもの“こころの準備”を支える絵本プロジェクトなど、「子どもの最善の利益」を目指した研究に取り組んでいます。また、日本で生活する外国籍の子どもに関する研究も進めていきたいと考えています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、菅原航平、三浦由紀子、杉野寿子「医療絵本の臨床活用に関する一考察：保育学生と看護学生が協同制作した絵本を用いた試み」人間社会学部紀要第 34 巻第 2 号.2026 年 3 月
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 3 報－協働のためのコンピテンシー」福岡県立大学看護学部紀要第 22 巻. 2025 年 3 月
- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、菅原航平、杉野寿子「保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題」人間社会学部紀要第 33 巻第 2 号. 2025 年 3 月
- ・ 松尾ひとみ編集、小神野雅子、田中美樹、濱田裕子、平田美佳、藤田紋佳、本田真也、吉川未桜「子どもの生活機能の発達とからだの仕組み・看護形態機能学の視点から」第 2 章「食べる」担当. 株式会社金芳堂（京都市）. 2024 年 3 月 31 日
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 1 報－業務内容の現状分析－」福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻.2023 年.pp9-20
- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博「入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 2 報－協働の現状と課題－」福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻 2023 年.pp21-32
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博「新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感」福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻 2 号. 2023 年.pp85-93

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 菅原航平、田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、菅原航平、三浦由紀子、杉野寿子「学生による発達を踏まえた医療絵本の制作：保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の制作過程の検討」日本発達心理学会第 37 回大会ポスター発表, 2026 年 3 月
- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、古野憲司「療養中のこどもの”こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」第 33 回日本外来小児科学会. 岐阜. 2024 年 9 月.
- ・ 吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して・保育園年長クラスの子どものための演習参加の試み・. 第 23 回九州・沖縄小児看護教育研究会.2023 年 8

月 19 日．鹿児島市

③過去の主要業績

- ・ 田中美樹、野村さちい、伊藤舞美、原田香奈、児玉和彦 教育セミナー「やってみたくなる！出来る気がする！プレパレーション」第 31 回日本外来小児科学会．2022 年．福岡
- ・ 杉野寿子、吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、池田孝博、中原雄一「入院中の子どもの権利と家族の QOL に関する課題」福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻第 1 号．2022 年．pp71-79
- ・ 田中美樹、吉川未桜、尾形由起子、櫛直美、吉田麻美．小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み．福岡県立大学看護学部紀要 19 巻.2022 年．pp107-114

3. 外部研究資金

2024 年度 基盤研究(C) 研究分担者「親ががんと診断された子どものためのプレパレーションツール開発」

4. 受賞

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会

6. 担当授業科目

《看護学部》

「人間のライフステージと看護」・1 単位・1 年・後期

「看護倫理学」・1 単位・2 年・前期、「小児看護学」・2 単位・2 年・後期

「小児看護学演習」・2 単位・3 年・前期、「小児看護学実習」・2 単位・3 年・後期

「専門看護学ゼミ」・2 単位・3 年・通年

「卒業研究」・2 単位・4 年通年

《人間社会学部》

「子どもの健康と安全」・1 単位・2 年・前期

7. 社会貢献活動

- ・ 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会委員（2024～2026 年度）
- ・ 福岡市障がい者スポーツ協会ボランティアメンバー

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県 消防職員専科教育第 42 回救急科講義「小児・新生児」
- ・ 北九州市社会福祉研修所 令和 7 年度保健衛生・安全対策研修「保健計画の作成と活用・事故防止および健康管理」
- ・ 2025 年度田川市子育て支援センター子育て中の母親向けセミナー「こんなときどうするの？～」

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金（COC 研究）（新規）「療養中のこどもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」

10. 今年度の自己評価

授業・演習に関しては、学生の知識および技術習得において、楽しく段階を踏んで学べるよう授業設計を行った。その一環として地域の子どもたちが参加する演習を継続することができた。引き続き、学生が学びやすい授業ができるよう取り組んでいきたい。

研究に関しては、令和7年度は第一著者として論文投稿ができなかったため、研究の時間も確保していきたい。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	富崎ゆかり
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院およびがん専門病院で臨床経験を積んだ後、愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻へ進学し、がん治療に続発するリンパ浮腫を発症した患者の援助方法について研究を行いました（看護学修士）。その後、高知県立大学大学院健康生活科学研究科へ進学し、がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラム開発に取り組みました（看護学博士）。博士課程在学中に大学教員となり、現在に至ります。

がん治療後の後遺症であるリンパ浮腫に関する研究や、患者教育、エンドオブライフケアに関する研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ セルフモニタリング ケアの基盤をつくるがん看護実践を支えるキーワード 70、75-77、南江堂、2026
- ・ 【がん看護キーワード 15 ～がん看護実践の基本～】がん看護実践の基本概念と方法 セルフモニタリング、がん看護、29 巻 3 号、273-276、2024
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 大西ゆかり（2010）：慢性の経過をたどる患者のセルフマネジメントの概念分析 リンパ浮腫のあるがん患者への活用，高知女子大学看護学会誌，35(1)，27 - 53.
- ・ 大西ゆかり，藤田佐和（2013）：がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラムの開発過程，高知女子大学看護学会誌，38(2)、50-61.
- ・ 大西ゆかり，藤田佐和（2013）：がんサバイバーのためのリンパ浮腫セルフマネジメントプログラムの開発と短期的評価，日本がん看護学会誌，30(1)，82-92.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、高知女子大学看護学会、日本リンパ浮腫治療学会

6. 担当授業科目

＜学部＞

成人老年看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅲ・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究2単位・4年・通年

＜大学院＞

成人看護学特論・2単位・1年前期、成人看護学演習・2単位・1年後期

7. 社会貢献活動

日本がん看護学会誌 査読委員

第40回日本がん看護学会学術集会 査読委員

高知女子大学看護学会誌 査読委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

演習では担当グループの学生が事例患者に応じた看護過程の展開及び演習での課題が達成できるよう丁寧な指導を心がけた。実習では対象理解を深めるための助言や多忙な指導者に代わって学生とともに看護援助を実施することにより、実習目標の達成に尽力した。

社会貢献活動として、上記学会誌の査読を担当した。日本がん看護学会の特別関心活動グループにおいてコアメンバーとして学術集会でグループの紹介を行った。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	中井裕子
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

桜美林大学大学院国際研究科博士前期課程修了、修士（老年学）。成人老年看護学の教育に携わっています。主な研究分野は高齢者看護、周術期看護、看護教育です。主な研究テーマは高齢者を対象とした急性期・周術期看護、新卒看護師のリアリティショックを緩和する授業方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 長聡子，増満誠，石橋曜子，平塚淳子，中井裕子，日高艶子，松浦賢長．エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力ー看護師が体験した職場風土や組織体制ー．日本看護科学学会第43回学術集会（山口）2023.
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 中井裕子，榎本麻里，三枝香代子，堀之内若名．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報）．千葉県立衛生短期大学紀要 2009；27(1・2)：143-151.
- ・ 中井裕子，堀之内若名，三枝香代子，榎本麻里．成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討．千葉県立衛生短期大学紀要 2008；26(2)：105-112.
- ・ 大谷則子，堀之内若名，中井裕子，榎本麻里．手術室見学実習における学び一二つの実習形態の比較検討による考察一．OPE NURSING 2006；21(6)：98-108.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本老年社会科学学会

6. 担当授業科目

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、成人看護学演習・2単位・院1年・前期

7. 社会貢献活動

田川市高齢者保健福祉計画評価委員会委員（副委員長）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

令和4年度新カリキュラムの学生が4年次を迎え、担当する演習と実習はそれに対応するよう見直しを行い実施した。新カリキュラム導入年であった前年度の課題を見直し、より効果的な講義・演習・実習となるよう取り組んだ。今後新たな研究テーマを探索し、取り組むことが課題である。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	原田 直樹
-----------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害者福祉の現場を経験した後、福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し、不登校・ひきこもりの子どもと家族、学校の支援に従事しました。その後 2010 年より看護学部の養護教諭サブコース担当教員として着任しました。

主な研究分野は、①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究、②不登校・ひきこもりの子どもの家族支援に関する研究、③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。学校保健福祉の視点から、個人因と環境因との関係性に焦点を当て、子どもの保健福祉の向上を目的とした研究と教育に取り組んでいます。

社会福祉士、精神保健福祉士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 原田直樹. 先生のための不登校対応サポートブック. 東京：中央法規出版株式会社. 2025.
- ・ 原田直樹. 不登校児童生徒を取り巻く環境と思春期の悩み. 思春期学 2024 ; 42(1) : 107-113.
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 田原千晶, 増満誠, 松浦 賢長. 元不登校児童生徒とその保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究. 福岡県立大学看護学部紀要 2022 ; 19 : 1-12.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 原田直樹：性教育委員会企画 不登校児童生徒と性教育～学びの機会について～. 第 44 回日本思春期学会学術集会（旭川）. 2025. 8. 31
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 松浦賢長：一般演題発表 不登校の子どもを抱える家庭の家族機能に関する研究. 第 71 回 九州学校保健学会（福岡）, 2024. 8. 18
- ・ 原田直樹：シンポジウム こころ×いのち×こども～それぞれの「ま」の解釈と演出～不登校支援の現場から. 第 37 回日本看護福祉学会学術大会（福岡）. 2024. 7. 6
- ・ 原田直樹：ワークショップ 思春期の悩みの向き合い方とインターネット-不登校児童生徒を取り巻く環境と思春期の悩み. 第 42 回日本思春期学会学術集会（東京）. 2023. 8. 26

③過去の主要業績

- ・ 原田直樹, 野見山晴佳, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. 中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要 2012 ; 10 (1) : 1-12.
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. 不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究-家庭支援へ向けての考察-. 福岡県立大学看護学部紀要 2011. ; 8 (1) : 11-18.
- ・ 原田直樹, 松浦賢長. 学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究. 日本保健福祉学会誌 2010 ; 16 (2) : 13-22.

3. 外部研究資金

- ・ 日本学術振興会科学研究費（基盤研究C）「HSCを有する不登校児童生徒への教育・支援方法の検討に関する研究」（令和4年度～令和8年度）：研究代表者
- ・ 日本学術振興会科学研究費（基盤研究B）「エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発」（令和5年度～令和8年度）：分担研究

4. 受賞

- ・ 平成27年度福岡県立大学ベストティーチャー賞．2016年3月．福岡県立大学
- ・ 第30回日本保健福祉学会学術集会 優秀学会発表賞．2018年10月．日本保健福祉学会

5. 所属学会

日本思春期学会（常務理事・幹事長）、日本保健福祉学会（幹事長）、日本小児保健協会（幼児健康度調査委員会委員長）、日本学校ソーシャルワーク学会、日本学校保健学会、日本看護科学学会 等

6. 担当授業科目

《学部》

「不登校・ひきこもり援助論」（2単位・1年・前期）、「公衆衛生学」（2単位・1年・後期）、「暮らしと保健福祉・看護」（2単位・1年・後期）、「教育と社会・地域」（1単位・1年・後期）、「子供学習支援論」（1単位・1年・後期）、「保健統計学」（2単位・2年・前期）、「養護概説」（2単位・2年・後期）、「教育方法論」（1単位・2年・後期）、「健康科学」（2単位・2年・後期）、「災害看護学」（1単位・2年・後期）、「専門看護学ゼミ」（2単位・3年・通年）、「学校保健学」（1単位・3年・前期）、「健康教育論」（2単位・3年・前期）、「性教育学」（2単位・3年・前期）、「卒業研究」（2単位・4年・通年）、「養護実習事前事後指導」（1単位・4年・前期）、「養護実習」（1単位・4年・前期）、「教職実践演習」（養護教諭）（2単位・4年・後期）

《大学院》

「思春期ヘルスプロモーション特論」（2単位・大学院1年・前期）、「思春期ヘルスプロモーション演習」（2単位・大学院1年・後期）、「データ解析演習」（2単位・大学院1年・後期）

7. 社会貢献活動

日本思春期学会常務理事・幹事長、日本保健福祉学会幹事長、九州思春期研究会理事、福岡県不登校児童生徒支援会議委員、田川市立田川東中学校学校運営協議会委員、田川市立鎮西小学校学校評議員・学校関係者評価委員、福智町立赤池中学校区学校運営協議会委員、嘉麻市教育委員会点検評価委員、赤村子ども・子育て会議会長、特定非営利活動法人ひこうせん理事長 他

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県体育研究所 養護教諭継続研修「不登校児童生徒の理解と支援」講師
- ・ 福岡県立大学 公開講座「別室登校について考えるー別室登校の概要ー」講師
- ・ 田川市役所 田川市職員協働力向上研修「傾聴のスキルー傾聴が必要な人への対応のあり方ー」講師
- ・ 水俣市社会福祉協議会 水俣市ひきこもり地域支援セミナー「「学校へ行けない」から始まる支援を考える 子ども・若者の生きづらさに寄り添う地域の役割」講師

- ・ 日本思春期学会 性教育認定講師講習会「思春期保健と国の政策・施策」講師
- ・ 中央法規出版 オンラインセミナー「別室登校と校内教育支援センターの役割と運営」講師
- ・ 中央法規出版 オンラインセミナー「不登校の理解と支援に向けて」講師
- ・ 北九州市民カレッジ こどもまんなかの社会って何だろう?「子ども・親・学校・地域～不登校の子ども背景にあるもの～」
- ・ ファミリーサポートセンター会員養成講習会「子どもの発達」(複数)
- ・ 教育委員会及び学校での不登校支援の研修会 (複数)
- ・ 小学校での児童対象の薬物乱用防止教室 (複数) 他

9. 附属研究所の活動等

附属研究所運営部会 (社会貢献・ボランティア支援センター長として参画)

10. 令和7年度の自己評価

毎回の授業においては双方向性・応答性のある授業づくりを心掛け、事前・事後学習の提出物や毎回の授業時のレスポンスカードを活用して、学生の学びの充実に向けた工夫と改善に取り組んだ。特に授業の改善については、学期の途中であっても柔軟に対応することを心掛け、学びの成果に対して、学生からも一定の満足度を得ることができたと考える。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	三浦 由紀子
-----------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院小児科病棟に勤務後、大学院へ進学し、修了後は高度急性期病院および民間病院において、看護実践を基盤に、教育担当部門や看護管理者として経験を積んできました。2009年に日本看護協会小児看護専門看護師、2020年に認定看護管理者資格を取得しています。令和2年度より大学教育に携わり、令和5年度より福岡県立大学看護学部に着任しました。現在は学部で「医療安全」「看護管理論」「統合実習」等を、大学院で「看護管理学」「看護心理マネジメント特論・演習」を担当しています。臨床現場で培った実践知と組織マネジメントの経験を教育に還元し、実践力・判断力・協働力を備えた看護職者の育成に取り組んでいます。

主な研究テーマは、看護チームにおける心理的安全性と、それを高める看護管理者の関わりです。スタッフ一人ひとりが安心して意見を述べ、主体的に行動できる組織づくりを通して、看護の質向上につながる研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

〈著書〉

- ・ 三浦由紀子：特集 外来で使用されるこどもの薬の知識と与薬の工夫【知っておきたい薬剤の基礎知識】③経口によるこどもの服薬—発達特性を踏まえた適切な剤形選択と看護実践、『小児看護』49巻3号，pp.279-288，へるす出版，2026年3月
- ・ 中野綾美（編著），石浦光世，佐東美緒，萩原綾子，染谷奈々子，濱田米紀，有田直子，幸松美智子，高谷恭子，加藤依子，三浦由紀子：『ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2) 小児看護技術』第10章コラム，p.264，メディカ出版，2025年

〈論文〉

- ・ 吉川未桜，田中美樹，吉田麻美，三浦由紀子，菅原航平，杉野寿子：医療絵本の臨床活用に関する一考察—保育学生と看護学生が協同制作した絵本を用いた試み，『福岡県立大学人間社会学部紀要』34巻2号，2026年3月
- ・ 田之頭恵里，高谷恭子，池添志乃，三浦由紀子，中野綾美：在宅療養中の子どもと親へのエンドオブライフケアにおける看護実践，『高知県立大学看護学会誌』51巻1号，pp.2-13，2025年12月．
- ・ 岩崎順子，中村由美子，嶋岡暢希，高谷恭子，田村恵美，源田美香，三浦由紀子，有田直子，佐東美緒，田之頭恵里，池添志乃，畦地博子，森下安子，中野綾美：小児のエンドオブライフに関わる看護師のコミュニケーションスキル，『高知女子大学学会誌』49巻2号，pp.79-90，2024年6月

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 菅原航平，田中美樹，三浦由紀子，吉川美桜，吉田麻美，杉野寿子：学生による発達を踏まえた医療絵本の作成—保育学生と看護学生が協働した医療絵本の制作過程の検討，日本発達心理学会第37回大会，2026年3月（ポスター発表）

- ・ 中村由美子，岩崎順子，嶋岡暢希，高谷恭子，田村恵美，源田美香，三浦由紀子，有田直子，佐東美緒，田之頭恵里，池添志乃，畦地博子，森下安子，野嶋佐由美，中野綾美：共分散構造分析を用いた看護師の心理的 well-being の構造，日本看護科学学会第 43 回学術集会，2023 年 12 月

② 過去の主要業績

- ・ 高谷恭子，中野綾美，星川理恵，益守かつき，佐東美緒，有田直子，田村恵美，清水称喜，関根光枝，三浦由紀子，首藤ひとみ，池添志乃，野嶋佐由美：子どもの看取りの選択肢として臓器提供に直面する家族を支えるケアガイドラインの開発，『高知女子大学看護学会誌』40 巻 2 号，pp.92-104，2015 年
- ・ 三浦由紀子，中野綾美：幼児期にある気管支喘息の子どもをもつ親が用いる症状マネジメントの方略，『高知女子大学看護学会誌』33 巻 1 号，pp.64-73，2008 年
- ・ 三浦由紀子，中野綾美：幼児期にある気管支喘息の子どもをもつ親の「子どもの症状」の体験，『高知女子大学看護学会誌』34 巻 1 号，pp.109-116，2009 年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本看護科学学会 ・ 日本小児看護学会 ・ 高知県立大学看護学会 ・ 日本高度実践看護学会
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会

6. 担当授業科目

医療安全（1 単位・2 年・前期）、専門看護ゼミ（2 単位・3～4 年・通年）、看護管理論（1 単位・4 年・後期）、卒業研究（2 単位・4 年・後期）、統合実践演習（1 単位・4 年・通年）、基礎看護学実習Ⅱ（2 単位・2～4 年・通年）、統合実習・3 単位・4 年・通年

〈大学院〉

看護心理マネジメント特論（2 単位・修士 1 年・前期）、看護心理マネジメント演習（2 単位・修士 1 年・後期）、看護管理学（2 単位・修士 1 年・後期）

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護協会代議員
- ・ 第 23 回日本小児がん看護学会学術集会看護一般口演座長
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会副事務局長

- ・ 地方独立行政法人川崎町立病院評価委員
- ・ 田川市住宅政策審議会委員

8. 学外講義・講演

- ・ 飯塚市立病院 ラダーレベルⅢ「問題解決過程Ⅱ」 講師
- ・ 飯塚市立病院 ラダーレベルⅤ 「問題解決技法の理解と展開」 講師
- ・ 令和7年度 養護教諭スキルアップ研修会講座Ⅰ「チームでつないでいくコミュニケーション能力の強化をはかる ～チームをつなぐ関係調整力～」 講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ 令和7年度 附属研究所研究奨励交付金 COC 研究（2年目）療養中の子どもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト

10. 令和7年度の自己評価

教育面では、学部教育において体験型学習や事例分析を取り入れ、学生が主体的に学び、実践にかなげられる授業づくりに努めた。大学院では、新たに担当した「看護心理マネジメント特論」「看護心理マネジメント演習」において、心理学的視点や組織マネジメント論を基盤に、理論と実践を往還できる教育を推進した。研究面では、小児看護領域の著書・論文発表に加え、医療絵本プロジェクトや看護チームの心理的安全性に関する研究を継続した。社会貢献では、病院職員研修や養護教諭研修の講師、各種委員活動を通じ、地域医療への貢献と看護人材の育成に努めた。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	山下清香
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2002 年まで福岡県の保健師として勤務しました。兵庫県立看護大学大学院修士課程修了後、2004 年福岡県立大学看護学部に着任し、地域看護学及び公衆衛生看護学の教育研究に携わっています。

行政保健師の活動、保健師教育を主な研究分野とし、現在、住民参加を促進する行政保健師の技術向上めざす教育プログラムの開発に取り組んでいます。住民との協働による健康な地域づくりを推進する保健師の技術を明らかにし、効果的な基礎教育及び現任教育プログラムを開発したいと考えています。広島大学大学院医歯学保健学研究科博士後期課程満期退学。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 尾形由起子, 中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 杉本由利子, 廣木里香. 健康づくり推進員の終末期までの在宅療養に対する意思決定の認識に関する因子分析. 福岡県立大学看護学研究紀要, 23 巻 2026 年 3 月
- ・ 中村美穂子, 岡田麻里, 岩崎玲奈, 山下清香, 小野順子, 尾形由起子. 終末期がん患者の退院支援における退院調整看護師と病棟看護師との連携促進因子の明確化. 日本在宅ケア学会誌, 29 巻 1 号, 2025 年 9 月
- ・ 中村 美穂子, 山下 清香, 小野 順子, 吉田 麻美, 大塚 文, 岩崎 玲奈, 尾形 由起子. 入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴. 福岡県立大学看護学研究紀要, 21 巻 2024 年 3 月
- ・ 山下 清香, 中谷 久恵, 尾形 由起子, 小野 順子, 中山 貴美子, 山口 のり子. 地域保健活動への住民参加を促進する行政保健師の技術. 日本地域看護学会誌, 26 巻 1 号, 2023 年 4 月

②その他最近の業績

<学会発表>

小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 中村美穂子. 糖尿病性腎症の動向と地域差. 第 14 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2025 年 12 月

小野順子, 尾形由起子, 石崎龍二, 山下清香, 中村美穂子, 畑香理. 精神障がい者の地域包括ケアシステム構築に向けた GIS 活用した地域診断. 第 83 回日本公衆衛生学会総会抄録集 2024 年 10 月

- ・ 古賀 未那子, 山下清香, 小野順子, 中村美穂子, 尾形由起子. 乳幼児の子育て期における父親への集団支援のあり方の検討 ～父親へのフォーカスグループインタビューを通して～. 第 13 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2025 年 1 月
- ・ 山口 忍, 大木 幸子, 加藤 欣子, 福本 久美子, 齋藤 泰子, 山下 清香, 尾形 由起子. 水俣病の歴史に学ぶ公衆衛生看護の役割と責任 会員間で語り合おう. 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2024 年 1 月

③過去の主要業績

- ・ 杉本 由利子, 山下 清香, 小野 順子, 香月 眞美, 山口 のり子, 尾形 由起子. 市町村保健師の発達障害児に対する連携技術の構成概念の検討. 日本地域看護学会誌 24 巻 2 号 2021 年 8 月
- ・ 檜橋 明子, 中村 美穂子, 小野 順子, 山下 清香, 手島 聖子, 尾形 由起子. 保健師の実践能力に対する公衆衛生看護学実習の効果 学生の自己評価に着目して. 福岡県立大学看護学研究紀要 18 巻

2021年3月

- ・ 山下 清香, 尾形 由起子, 小野 順子, 手島 聖子, 檜橋 明子, 迫山 博美. 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について 高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から. 福岡県立大学看護学研究紀要 13 巻 2016 年 3 月)

3. 外部研究資金

- ・ 科学研究費助成事業 (基金分) (基盤研究(C))2023 年度～2025 年度. 研究課題 退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発 (研究代表者, 尾形由起子), 分担研究者

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本在宅ケア学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ (2 単位, 2 年前期), 専門看護学ゼミ (2 単位, 3 年通年), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ (2 単位, 3 年通年), 卒業研究 (2 単位, 4 年通年), ハイリスク支援論 (2 単位, 4 年通年), 公衆衛生看護学Ⅱ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅰ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ (1 単位, 4 年前期), 組織協働活動論 (2 単位, 4 年後期), 公衆衛生看護学Ⅲ (1 単位, 4 年後期), 公衆衛生看護管理論 (2 単位, 4 年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ (4 単位, 4 年後期), 看護政策論 (2 単位, 通年, 大学院), ヘルスプロモーション看護学特別研究 (8 単位, 大学院)

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
- ・ 田川市「田川市地域包括ケアシステム推進協議会 保健 (予防)・生活支援部会」委員
- ・ 飯塚市「飯塚市健康づくり・食育推進協議会」副委員長
- ・ 桂川町「健康づくり推進協議会」委員
- ・ 川崎町健幸長寿のまちづくり事業 (運動・スポーツ習慣化促進事業) 実行委員会委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

- ・令和6年度附属研究所研究奨励交付金事業(2年目):生活習慣病の重症化による慢性腎臓病(CKD)のリスクアセスメント.

10. 今年度の自己評価

教育については、新規科目(ハイリスク支援論)を科目責任者として担当しました。新たな科目の実施によって、保健師に必要な技術習得のための教育に対する視野を広げる機会となりました。また、テキストの改訂版の執筆を通して習得させるべき技術とそのための教育の在り方を考え直すことができました。研究として教育評価の実施に発展させたいと考えています。研究については、住民参加を促進する保健師の技術に関する研究は論文投稿に向けて執筆を継続中です。また KDB データを基にした CKD のリスクアセスメントの研究に参加しました。社会貢献については、管理期保健師を対象としたリカレント研修及び新任期保健師の交流会を開催しました。保健師の質向上を推進する教育、研究に今後も努力していきたいと思っています。

看護学部 看護学科	職名	准教授	氏名	山田美幸
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院にて脳神経外科・眼科、皮膚科、血液・消化器内科に勤務した後、大学の教員になりました。その間、看護学修士を修得し、熊本大学大学院 保健学教育部保健学専攻博士後期課程を単位取得後退学しました。教員としてはこれまで「基礎看護学」を担当して来ましたが、令和5年度福岡県立大学に着任し、主として「看護の統合と実践」の科目を担当しています。新カリキュラムになり、これまで得た経験を3・4年生の教育にどのように繋いで深化させていくか、常に問いながら教育をしていきたいと考えています。

研究については、これまでに「特別養護老人ホームのターミナルケア」「子どもの入院に付き添い家族」「新卒看護師の離職防止に向けた支援」「独居高齢者の介護予防」「看護学生のリフレクション」

「児童虐待防止の支援策」に関する研究に取り組んできました。現在は「介護施設における心理的安全性」に関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 金谷史哉，福田和美，山田美幸（2025）：クリティカルケア領域の終末期における看護師の代理意思決定支援実践に関するスコーピングレビュー，第21回日本クリティカルケア看護学会学術集会（東京）
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）基盤研究（C）令和6年～9年，交付金額3250千円，研究課題：虐待防止を目指した介護職員の心理的安全性を高めるプログラムの構築（研究代表者）

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、クリティカルケア学会

6. 担当授業科目

対人関係と看護・1単位・1年・前期、看護倫理学・1単位・2年・前期、看護研究・2単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、臨床看護学特別研究・1～2年・8単位・通年（研究指導補助教員）

7. 社会貢献活動

田川市行政不服審査会委員

インターネットジャーナル「看護科学研究」査読委員

8. 学外講義・講演

福岡県立新宮高等学校出前講義（令和7年10月23日）

福岡県立朝倉高等学校出前講義（令和7年11月13日）

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

新カリキュラムになって初めて「統合実践演習」と「統合実習」を開講した。「統合実践演習」では未習得の「採血」の看護技術の演習を行い、「統合実習」では「看護管理」の内容を追加したことによって、卒業時の到達目標の達成と看護実践を「全体」として捉える力を養うことに繋がった。さらに、出前講義や査読委員を行うことによって、社会貢献に寄与できたと考える。研究については、外部研究資金を獲得していたが進行が遅れたため、計画管理を徹底し成果の発表につなげたいと考える。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	吉田 静
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了、修士（看護学）。2021年3月、国際医療福祉大学大学院博士課程修了、博士（助産学）。

現在、子どもの喪失経験を持つ者の悲嘆過程と提供されるケアや支援、また医療者の支援を主な研究分野としている。特に、子どもの喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 清水夏子, 石村美由紀, 道園亜希. (2023). 学内における女性看護学実習に関する実践報告～妊娠期から子育て期にわたる母子との関わり～, 福岡県立大学看護学研究紀要, 21, 35-42.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者へ望む支援. 日本助産学会誌, 36 (2), 212-242.
- ・ 吉田静. (2021). 子どもを喪失した父親が看護者に求めるケアに関する研究. 国際医療福祉大学大学院博士論文, A4 版, 全 134 頁.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 鳥越郁代, 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 荒木智子. (2023). 帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラムの検討-オンライン帝王切開準備クラスの評価から-. 第64回母性衛生学術集会, 大阪.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 分娩取扱を中止した施設の推移とその背景. 第 63 回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・ 香野友美花, 吉田静. (2022). 二分脊椎児を出産した母親の体験 - 母子愛着の視点から - (第 1 報). 第 63 回母性衛生学術集会, 兵庫.
- ・ 吉田静, 佐藤香代. (2022). 子どもを喪失した父親の体験と看護者に求めるケア. 第 36 回日本助産学会学術集会, 大阪 (オンライン).

③過去の主要業績

- ・ <教材開発>
 - ・ 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践. 2012 年.

- ・吉田静，佐藤香代．わが国における「おむつ」の起源．（2012）．第53回母性衛生学術集会，福岡．
- ・吉田静．（2009）．子どもを喪失した父親の体験．福岡県立大学大学院修士論文，A4版全68頁．

3．外部研究資金

鳥越郁代，吉田静，安河内静子，荒木智子，水迫友和，田中友和子．文部科学省研究費補助金基盤研究C．オンラインと対面のハイブリッド型帝王切開出産準備教育プログラムの開発と効果検証．495万円．令和6年～令和10年．

4．受賞

5．所属学会

日本助産学会，日本母性衛生学会，日本死の臨床研究会，日本ウーマンズヘルス学会

6．担当授業科目

<学部>

人間のライフステージと看護・1単位・1年・後期，リプロダクティブヘルス看護学・2単位・2年・後期，リプロダクティブヘルス看護学演習・2単位・3年・前期，リプロダクティブヘルス看護学実習・2単位・3年・後期～前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

助産学特論Ⅱ・2単位・1年・通年，助産学演習Ⅰ・1単位・1年・通年，助産診断後術学特論Ⅰ（妊娠期）・2単位・1年・前期，助産診断技術学特論Ⅱ（分娩期）・2単位・1年・通年，助産診断技術学特論Ⅲ（産褥・新生児期）・2単位・1年・通年，助産診断技術学特論Ⅳ（ハイリスクケア）・2単位・2年・通年，助産診断技術学演習Ⅰ（妊娠期）・1単位・1年・通年，助産診断技術学演習Ⅱ（分娩期）・2単位・1年・通年，助産診断技術学演習Ⅲ（産褥・新生児期）・1単位・1年・通年，地域助産学特論・2単位・1年・通年，課題研究（助産コース）・4単位・1～2年・通年，助産学実習Ⅰ（周産期ケア実習）・8単位・1年・後期，助産学実習Ⅱ（継続ケア実習）・2単位・1年・通年，助産学実習Ⅲ（ハイリスクケア実習）・1単位・2年・前期

7．社会貢献活動

- ・福岡県助産師会 教育セミナー「助産師とグリーフケア」（2025.4-2026.3）
- ・福岡県助産師会 国際助産師の日講演会（2025.11.30）
- ・福岡市委託事業「働くママとパパのマタニティスクール」（2025.4-2026.3）

8. 学外講義・講演

- ・第14回高知周産期 こころの研究会「子どもを亡くした父親の語り」(2025.3.30)
- ・福岡ファッションビル入試説明会(2025.8.30)
- ・帝王切開で出産する女性のための出産準備教育プログラム(2026.3.15)

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

(看護) 新カリキュラムにおける看護教育を実践し、従来の周産期を中心とした「母性看護学」から人間の生涯にわたる性の健康を学ぶ「リプロダクティブヘルス看護学」に変更して演習や実習を組み立てた。妊産婦、新生児だけでなく婦人科女性にも携わることから、婦人科疾患に関する学習やロールプレイで学びを深めた上で実習に臨んだ結果、女性の「性」だけでなくライフステージや社会的役割など多角的な視点から「健康」について学びを深めることができた。

(助産) 分娩介助を通して受け持ち母子の妊娠・分娩・産褥期、新生児期の学びを深めるだけでなく、母子の個性やニーズに沿った健康教育を入院中(退院時教育)、2週間健診、1か月健診時に実践した。健康教育の回数を重ねる中で学生の教育内容にも深まりがみられたが、真のニーズを捉えることが難しい様子であった。次年度は講義や演習で助産計画を立案するだけでなく計画に沿ったロールプレイの実践と計画の修正を重ねた上で実習に臨むことができる教育を行う。

看護学部／看護科	職名	講師	氏名	於久比呂美
----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年より福岡県立大学看護学部に所属。2011年福岡県立大学看護学研究科修了。現在は基礎看護学の教育に携わっています。主に1・2年生に関わるため、看護への興味・関心を引き出し、学習への動機づけを高める支援を心掛けています。

【看護師の自己成長に関する研究】

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

【看護技術に関する研究】

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本健康医学会、日本看護福祉学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護学概論・2単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

福岡県立嘉穂高等学校 出前講義「看護の技」

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 令和7年度の自己評価

主に携わった基礎看護学に関する講義・演習において、看護に必要な基礎的知識を基盤に、理論的・倫理的に思考し、科学的根拠をもって看護実践ができる基礎的能力を育むこと、さらに柔軟な思考をもって看護を創造し、提供できる力を養えるよう関わってきました。このことは、低学年における講義・演習教育の充実につながったと考えます。今後は、各学年で修得した学びが確実に積み重なってレベルアップできるよう教育の取り組みを検討していきたいと思います。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小野順子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡市で保健師として勤務し、公衆衛生看護活動（保健師）に従事する。その後、大学教員として保健師養成に従事し、2010年に福岡県立大学看護学部に着任。公衆衛生看護学分野で、地域診断に基づくPDCA展開、介護予防、在宅医療の推進、保健師教育に関する研究を行っている。九州大学大学院人間環境学府を修了（人間環境学修士）。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ <著書>
- ・ 尾形由起子, 山下清香, 小野順子編「地域包括ケアを構築する為の公衆衛生看護学（改訂版）クオリティケア, 2026
- ・ <論文>
- ・ 尾形由起子, 中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 杉本由利子, 廣木里香, 「健康づくり推進員の終末期までの在宅療養に対する意思決定の認識に関する因子分析」福岡県立大学看護研究紀要, 第23巻, pp1-9, 2026
- ・ 中村 美穂子, 岡田 麻里, 岩崎 玲奈, 山下 清香, 小野 順子, 尾形 由起子「終末期がん患者の退院支援における退院調整看護師と病棟看護師との連携促進因子の明確化」, 日本在宅ケア学会誌, 29巻1号, pp123-131, 2025
- ・ 中村美穂子, 山下清香, 小野順子, 吉田麻美, 大塚文, 岩崎玲奈「入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴」, 『福岡県立大学看護学紀要』, 21巻, pp.1-8, 福岡県立大学, 2024.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 中村美穂子, 糖尿病性腎症の動向と地域差, 第14回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2025年12月石川県
 - ・ 小野順子, 濱野強, 尾形由起子, コロナ禍はバイスタンダーによる院外心停止傷病者への心肺蘇生に影響を及ぼしたか, 第85回日本公衆衛生学会総会, 2025年10月静岡
- Junko Ono, Yukiko Ogata, Naomi Ichiki, Kiyoka Yamashita, Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023.

③過去の主要業績

- ・ 尾形由紀子, 山下清香, 櫛直美, 江上千代美, 岡田麻里, 小野順子, 香月眞美, 迫山博美, 高原洋城, 中村美穂子, 檜橋明子, 山口のり子, 地域包括ケアをすすめる公衆衛生看護学 演習・実習, 2019年9月, クオリティケア, p37-53, 62-68, 77-84, 85-93

3. 外部研究資金

- ・科研費，基盤研究（C），研究代表者，地理情報システムを活用した地域診断に基づく PDCA サイクルの実践に関する研究，3,770 千円，2022 - 2026 年度
- ・科研費，基盤研究（C），研究分担者，2030 年の生活実態に基づく救急医療の地域格差の解明と生活圏を踏まえた適正配置の提案，4,160 千円，2024 - 2026 年度
- ・科研費，基盤研究（C），研究分担者，退職期にある住民主体の看取り・看取られ力量形成プログラム開発，2,340 千円，2023 - 2025 年度

4. 受賞

特になし

5. 所属学会

日本公衆衛生看護学会，日本公衆衛生学会，地域看護学会，日本在宅ケア学会，看護研究学会

6. 担当授業科目

【学部】

公衆衛生看護学Ⅰ（2 単位，2 年前期），専門看護学ゼミ（2 単位，3 年通年），公衆衛生看護アシスタント論Ⅰ（1 単位，3 年後期），卒業研究（2 単位，4 年通年），公衆衛生看護アシスタント論Ⅱ（2 単位，4 年前期）公衆衛生看護技術論Ⅰ（2 単位，4 年前期），公衆衛生看護学Ⅱ（2 単位，4 年前期），公衆衛生看護技術論Ⅱ（2 単位，4 年前期），ハイリスク支援論（2 単位，4 年通年），公衆衛生看護学実習Ⅰ（1 単位，4 年前期），公衆衛生看護学Ⅲ（1 単位，4 年後期），組織協働活動論（2 単位，4 年後期），公衆衛生看護管理論（2 単位，4 年後期），公衆衛生看護学実習Ⅱ（4 単位，4 年後期），地域包括支援実習（1 単位，4 年前期）

【大学院】 地域看護学特論（2 単位，1 年前期）、地域看護学演習（2 単位，1 年後期）

7. 社会貢献活動

- ・福岡県田川保健所感染症の審査に関する協議会委員（2017 年 4 月～現在）
- ・田川市男女共同参画審議会委員（2019 年 4 月～現在）
- ・福岡県看護協会 看護の進路進学支援委員会委員（2024 年 5 月～現在）

8. 学外講義・講演

- ・福岡市，令和 7 年度福岡市地域包括支援センター介護予防研修講師，2025 年 8 月 29 日
- ・福岡県田川保健福祉事務所，令和 7 年度生活習慣病対策に係る従事者研修会講師，2026 年 3 月 6 日

9. 附属研究所の活動等

・R7 年度附属研究所重点領域研究「生活習慣病の重症化による慢性腎臓病（CKD）のリスクアセスメント」研究メンバー

・福岡県立大学・福岡県国民健康保険団体連合会共同研究事業「生活習慣病の重症化による CKD（慢性腎臓病）の地域格差とリスクの検討」-地域包括ケアシステム構築に向けた GIS の活用-研究報告

10. 令和7年度の自己評価

令和7年度は、公衆衛生看護学分野において、根拠に基づく政策の意思決定につながる地域診断、生活習慣病の重症化予防に関する研究を継続し、学会発表や論文・著書の公表を通して研究成果の発信に努めた。また、自治体の保健福祉職を対象とした研修講師の依頼を受け、研究成果を地域の保健医療実践へ還元することができた。

教育面では、保健師養成・保健師就職支援に注力し、公衆衛生看護を担う人材育成に取り組んだ。保健師としての実践力を修得できるよう講義・演習・実習の学習プロセスを工夫し、段階的に学びを深め、技術が習得できるよう学習プログラムの構成を行っている。次年度は、学生からのコメントへの対応として、効率的な技術習得を目指し、授業内容を工夫すると共に主体的な学びを支援し、地域の健康課題を科学的に分析・実践へつなげる能力の育成に努める。

今後は、地域包括ケアシステムや生活習慣病対策に関する研究をさらに発展させるとともに、研究成果を教育内容へ反映し、地域社会への貢献と教育研究の質の向上に取り組んでいきたい。

看護学部／看護学科・養護教諭サブコース	職名	講師	氏名	梶原 由紀子
---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻 修了（修士：看護学）

看護師として、重心障害児（者）病棟、消化器内科・小児科、大学保健室、高等学校で養護助教諭として勤務しました。児童生徒が心身共に健康で安全に学校生活を送ることができ、発達段階に応じた自己管理能力を身に付けるための支援として、また、現場の養護教諭先生方を支援するために研究に取り組む所存です。

【養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発】

養護教諭の危機管理力の研修開発に関して取り組んでいます。昨今、重度の障害がありつつも医療施設ではなく地域で暮らす子供が増えてきているとともに、地域の学校に通学する子供たちも増加しています。学校においては、子供たちの安全安心のために緊急時には専門的な対応が求められ、保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えます。また、感染症対策等の学校保健に関する組織活動の推進を考える上では、養護教諭と教職員との情報共有が必須となる一方で、内部組織だけでなく外部組織や保護者との連携も欠かせず、養護教諭がコーディネートを担うこともあり協働する力が不可欠であると考えています。このような点を踏まえ、現在、養護教諭の危機対応力向上や協働力の促進に関する研修プログラム開発に関する研究を行っています。

【特別支援学校養護教諭の特定行為におけるリスク認識に関する研究】

制度の改正に伴い教員を含む介護職員等が限定された特定行為を実施できるようになり、特別支援学校では、看護師と連携しながら教員が医療的ケアを実施しています。このような特別支援学校の養護教諭における特定行為に関する専門的な対応や事故やリスクに関する現状について調査研究を行いました。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- Kencho Matsuura, Naoki Harada, Yukiko Kajiwara, Hiromi Okamoto, Keitaro Tsuda, Midori Taguchi (2025). Investigative Research for Developing the Comprehensive Hub Function of Education Support Centers in Fukuoka Prefecture, Japan - Early Detection and Early Support of Students with School Non-Attendance-, 九州思春期研究会雑誌, 第2巻, 1-8.
- Kencho Matsuura, Naoki Harada, Yukiko Kajiwara (2025). Challenges in addressing sexual individuality and diversity in “Health” classes, 九州思春期研究会雑誌, 第2巻, 9-15.
- 梶原由紀子 (2024). 九州思春期研究会研究大会・ポストコングレス講演報告 『スマホ失明』と失明の「不確実性」、九州思春期研究会雑誌創刊号、Vol. 1. 27-32.

② その他最近の業績

<学会発表>

- 梶原由紀子、松浦賢長、原田直樹：全国の養護教諭育成指標養護教諭からみた養護教諭に求められる「協働力」に関する計量テキスト分析 日本学校保健学会第71回学術大会（千葉）2025年

③過去の主要業績

- ・ 梶原由紀子、原田直樹、田原千晶、松浦賢長（2022）．養護教諭の危機対応に関する研修についての調査研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻57-68.
- ・ 原田直樹、梶原由紀子、田原千晶、増満誠、松浦賢長（2022）．元不登校児童生徒その保護者の不登校をめぐる意識差と家族機能についての研究、福岡県立大学看護学部研究紀要、第19巻1-12
- ・ 著者
 - ・ 松浦賢長、原田直樹、榊原秀也、渡辺多恵子、梶原由紀子（他62名）（2021）；思春期学 基本用語集、学校保健に関する用語【医療的ケア、学校環境衛生、学校保健、学校保健安全法、健康観察、健康診断、健康相談、保健室、保健指導】について担当、講談社.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究C 2022年度～2025年度）養護教諭の協働力を促進するための研修プログラム開発 156万円（研究代表者 梶原由紀子）

5. 所属学会

日本思春期学会（理事）、日本保健福祉学会（幹事）、日本学校保健学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本公衆衛生学会、日本LD学会、日本学校救急看護学会（評議員）、日本災害看護学会、日本健康運動看護学会、九州学校保健学会、九州思春期研究会（理事）

6. 担当授業科目

不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期，教育と社会・地域・1単位・1年・後期，子ども学習支援論・1単位・1年・後期，公衆衛生学・2単位・1年・後期，暮らしと保健福祉・看護・2単位・1年・後期，保健統計学・2単位・2年・前期，養護概説・2単位・2年・後期，教育方法論・1単位・看護2年・後期，健康科学・2単位・2年・後期，学校保健学・1単位・3年・前期，健康教育論，2単位・3年・前期，性教育学・2単位・看護3年／人社3年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期，養護実習・4単位・4年・前期，統合実習・4単位・4年・前期，教職実践演習（養護教諭）・2単位・4年・後期，卒業研究・2単位・4年・通年，

7. 社会貢献活動

- ・ 日本思春期学会，理事
- ・ 九州思春期研究会，理事
- ・ 日本学校救急看護学会，評議員
- ・ 福岡県教育委員会 筑豊地区教育相談ネットワーク会議，委員
- ・ 田川市防災会議専門委員
- ・ 福岡県立西田川高等学校学校運営協議会委員
- ・ 令和7年度児童生徒を取り巻く生活環境改善事業連絡会議 アドバイザー
- ・ 令和7年度福岡県若年教員研修（養護教諭）実施協議会 委員
- ・ 日本赤十字社 赤十字救急法指導員
- ・ あすの筑豊を考える新30人委員会 嘉飯地区ブロック長
- ・ 学生防犯サークルオリオンズ（コーディネーター）

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

10. 令和7年度の自己評価

2025年度は、学生教育（授業、実習、採用試験対策、アドバイザー学生支援、就職支援）や社会貢献活動、科研の調査研究活動の総括等を実践することができました。授業においては、アクティブラーニングを取り入れた授業方法も積極的活用していましたが、養護教諭免許取得希望者の増加に伴い講義の受講者数が増えたことで、演習等で課題が残る授業もあったことから、引き続き授業実践についてもFD等で研鑽を重ね、学生が主体的に考えることができる授業実践に努めていく所存です。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会学的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 岩崎玲奈・村田節子・榎直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者に対する療養上の意思決定支援について——急性期病院に勤務する看護師への実態調査より」、『日本がん看護学会誌』、第39巻、2025年。
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 小出昭太郎・田村誠、「1991年英国 NHS 改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・ 小出昭太郎・田村誠、「イギリス NHS 成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・ 小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、日本看護研究学会、東北哲学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期、情報処理演習Ⅰ・1単位・1年・前期、情報処理演習Ⅱ・1単位・1年・前期、保健医療福祉の法と制度・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、看護研究・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論・2単位・4年・後期、日本事情 B・2単位・留学生・前期

<大学院>

データ解析特論・2単位・修士1年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

2024年度から担当することになった「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」（各半分弱）について、2024年度の経験をふまえた改善にエフォートを要しました。また学内運営業務にエフォートを要しました。

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	塩田 昇
-----------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

集中治療室にて看護師として6年間勤務した。その後、専門学校および大学において18年間教育・研究に従事し、平成29年に福岡県立大学に着任した。

研究テーマは、発達障がいのある子どもとその保護者における睡眠問題について、質問紙調査および生体指標を用いて明らかにする。また、冷えについて調査しメカニズムと看護介入について明らかにすることである。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

Egami C、Tanaka M、Shiota N、Yamashita Y. Association between parenting resilience and parenting and family adjustment of mothers of children with autism spectrum disorder , International Journal of Developmental Disabilities,1-11.

・ 塩田昇, 江上千代美. 発達障がい児の親と定型発達児の親の3次元睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較, 福岡県立大学看護学研究紀要 21 巻, 27-34(2024).

・ 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか, 福岡県立大学看護学研究紀要 19 巻, 77-87(2022).

② その他最近の業績

〈学会発表〉

・ 発達障がいのある子どもの親へのトリプルPによる支援がストレスに及ぼす影響. 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. 第42日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.

・ 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響—POMS、唾液コルチゾール—. 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. 第42回日本看護科学学会学術集会. オンデマンド. 2022.

・ 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 江上千代美, 塩田昇. 第81回日本公衆衛生学. オンデマンド. 2022.

② 過去の主要業績

・ Shiota N, Narikiyo K, Masuda A, Aou S. Water spray-induced grooming is negatively correlated with depressive behavior in the forced swimming test in rats. J Physiol Sci. vol66 no3, p265-73. 2016.

・ 塩田昇. セルフケア行動の神経行動学的・神経化学的研究. 九州工業大学大学院博士論文. 2016.

3. 外部研究資金

・ 科学研究費助成事業（基金分）（若手 平成29年度～令和4年度 交付金額4,160千円）

研究課題, 継続的なトリプルP介入による睡眠の質, 量の改善とメラトニン分泌・代謝に関する研究（研究代表者：塩田昇）

- ・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究 C 令和4年度～7年度）親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか（研究分担者：塩田昇）
- ・科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究 C 令和18年度～令和5年度）発達障害の診断前の児の親の養育レジリエンス向上-基本的生活習慣の習得を目指して-（研究分担者：塩田昇）

4. 受賞

2025.3 福岡県立大学 ベストティーチャー賞受賞

5. 所属学会

日本看護学教育学会会員, 日本看護研究学会会員, 日本看護技術学会会員, 日本看護科学学会, 日本生理学会会員, 日本心身医学会会員, 日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年次・後期, 生態病態看護学実験・1単位・2年次・前期, 統合実習・2単位・4年次・通年, 看護倫理学・2単位・2年次・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 卒業研究・2単位・4年次・通年

7. 社会貢献活動

子育て支援活動：久留米市・香春町
田川市男女共同参画センター運営委員
ゆめっせフェスタ 2025 実行委員会委員

8. 学外講義・講演

- ・九州国際大学附属高校高校説明会

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 令和7年度の自己評価

本年度は、授業の工夫に努めるとともに、ベストティーチャーとして公開授業を実施した。
また、実習指導にも積極的に関わり、学生の学修支援に取り組んだ。研究については、発達障がい児の保護者支援や睡眠に関する研究を継続した。学内の活動においては、コアカリ対応等に携わり、教育体制の整備に貢献した。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	手島 聖子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、4カ月児の養育者と1歳6カ月児の養育者を対象に調査を実施してきました。近年は、被養育体験を基礎に形成された内的ワーキングモデルがどのようにして養育者に世代間伝達されるのか、養育者の成育歴における被虐待歴や親から愛されなかった思い、親との対立、厳格な親に育てられたなど環境要因が養育者自身の育児にどのような影響を与えられるのかについて検討しています。児童虐待予防における保健師の実践活動に活かせるよう研究を進めていきたいと考えています。

教育においては、在宅および地域で生活する人々を意識した教育が求められています。1年次からの関連する科目において、地域に暮らす人々の理解とそこで行われる看護について、学生とともに学びを深めていきたいと考えます。また、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・協働していくために、地域看護学の視点や方法論を取り入れ、地域の特性と健康課題をアセスメントする力を養うとともに、地域での活動の幅を広げていけるような学生の看護師教育に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通した子育て支援と児童虐待の予防について. (財) 安田生命社会事業団 2001 年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・ 手島聖子. 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・ 手島聖子. (2007). 乳幼児健康診査を通した育児ストレス調査：育児ストレス尺度の信頼性と交差妥当性の検討, 家庭教育研究所紀要, 29, 77-83.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本地域看護学会、日本心理学会、日本発達心理学会、日本公衆衛生看護学会、日本子ども虐待防止学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、家族看護学・1単位・2年・前期、地域・在宅看護論・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、地域・在宅看護論演習・2単位・3年・通年、在宅看護支援実習・2単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

- ・学校法人嶋田学園飯塚高等学校（出前講義・2025.7.14）
- ・会場進路相談会「長崎会場（看護・医療・心理・福祉系）」（2025.7.7）

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

教育活動では、新カリキュラムで開始となった1年次の「暮らしを知る実習」、2年次の「暮らしの中の看護を知る実習」の科目責任者として、学生への教育に携わった。今後も学生が1年次から地域看護への学びを深め、対象を「患者」ではなく「生活者」として捉えることができ、心理的安全性を高められるよう、低学年から地域看護学の要素を段階的に積み重ねていく教育の充実に努めていきたいと考える。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	野田 優子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として大学病院で臨床経験を積んだ後、九州大学医学系学府保健学専攻看護学分野修士課程（看護学修士）へ進学しました。臨床研究を通じて、すべての子どもたちとその家族が、健やかで笑顔で過ごせる社会の実現を目指して、小児がん領域における抗がん薬曝露研究や、小児がんを経験した患児のライフコース研究にも取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 野田優子, 2025, 「入院中の小児がん患児に対する家族による付き添い支援の現状」『子ども社会研究』31: 127-141.
- ・ Noda Yuko, Koga Yuhki, Yamamura Kenichiro, Miyata Junko, Hamada Yuko, Ohga Shouichi, 2024, “Cyclophosphamide exposure factors in family caregivers for pediatric cancer patients,” *International Journal of Hygiene and Environmental Health* 260: 114402.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 古賀友紀・野田優子「よりよい職場環境構築のための抗がん薬曝露対策社会に向けた取り組み」日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2026 シンポジウム, 2026 年 3 月 7 日, 福岡国際会議場
- ・ 野田優子「サイレントリスクに声を—小児がんと抗がん薬曝露の現状とこれから—」第 67 回日本小児血液・がん学会学術集会 ランチョンセミナー（企業共催）, 2025 年 11 月 19 日, 福岡国際会議場
- ・ 野田優子「小児がん領域における抗がん薬曝露の現状—患児の治療を支える人々の安全を守るために—」第 67 回日本小児血液・がん学会学術集会・第 23 回日本小児がん看護学会学術集会 合同シンポジウム, 2025 年, 11 月 20 日, 福岡国際会議場
- ・ Noda Yuko, Koga Yuhki, Hamada Yuko, Yamamura Kenichiro, Miyata Junko, Ohga Shouichi, Exploratory study on factors associated with anticancer drug exposure of family caregivers of pediatric patients with cancer, International Society of Paediatric Oncology Asia, June 2024. June 22-25, Yokohama, Japan.
- ・ 野田優子「こどものがん薬物療法における曝露対策—こどもの生活場面に着目した手引き—」第 22 回日本小児がん看護学会, 2024 年（於 京都市）
- ・ 野田優子「小児領域の抗がん剤曝露対策の在り方—曝露対策の慣習や当たり前を見直す—」第 21 回小児がん看護学会学術集会, 2023 年（於 札幌市）
- ・ Noda Yuko, Koga Yuhki, Miyazono Mami, Ohga Shouichi, 2018, Survey of anticancer drug exposure family-caregivers and medical staff in a pediatric center. The 50th Congress of International Society of Paediatric Oncology. 2018. Nov 16-19, Kyoto, Japan.

③過去の主要業績

- ・ Noda Yuko, Koga Yuhki, Tamaki Ueda, Hamada Yuko, Ohga Shouichi, 2021, High risk of hazardous drug exposure in caregivers of pediatric cancer patients, *Pediatric Blood & Cancer*, 68(6): e29019.

- ・ 野田優子・古賀友紀・濱田裕子・大賀正一, 2019, 「小児がん患者付き添い家族における抗がん剤曝露の現状」『日本小児血液・がん学会雑誌』, 56(3): 319-324.
- ・ 野田優子・古賀友紀・太田百絵・宮園真美・大賀正一, 2018, 「小児がん患者の家族に対する抗がん剤曝露の実態調査」『癌と化学療法』, 45(6): 945-948.

3. 外部研究資金

- 研究代表者: 科学研究費助成事業 (基盤 C) 小児がん患児と家族における抗がん剤曝露リスク評価システムの構築 (研究期間; 2024 年~2028 年, 交付額; 4,550 千円)
- 研究分担者: 科学研究費助成事業 (基盤 B) 抗がん剤曝露研究~こどもの闘病と家族の付き添いを医療者が多職種で支える~ (研究期間: 2025 年 4 月~2030 年 3 月)

4. 受賞

5. 所属学会

小児がん看護学会、小児看護学会、子ども社会学会

6. 担当授業科目

小児看護学・2単位・2年・後期、小児看護学演習・2単位・3年・前期、小児看護学実習・2単位・3年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・4年・通年、子どもの健康と安全・1単位・2年・前期

7. 社会貢献活動

- 第 67 回日本小児血液・がん学会学術集会/ 第 23 回日本小児がん看護学会学術集会 local committee メンバー
- NPO 法人福岡ファミリーハウス 理事

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和 7 年度の自己評価

本年度は、教育面では、小児看護学演習および実習の担当者として、学生が主体的に学びを深められるようシミュレーション演習を取り入れ、状況に応じて判断し行動する力の育成を図った。研究面では、小児がん患児および家族における抗がん剤曝露に関する研究を進め、学会シンポジウムやランチョンセミナーにおいて講演を行い、研究成果の社会実装に取り組んだ。また、学会の Local Committee メンバーとして大会運営に携わり、学術集会の円滑な実施に貢献した。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	藤野 靖博
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

北里大学看護学部で学士（看護学）取得、北里大学病院で5年間看護師として心臓血管センター、神経内科で勤務し、退職後に北里大学大学院看護学研究科で修士（看護学）を取得した。

現在は、デジタル技術の看護教育へ適用について検討している。得られた知見を時代のニーズに合わせて、看護基礎教育に活かしていきたいと考える。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 藤野靖博、山口馨子、松山美幸、梶原由紀子：看護教育におけるデジタル・トランスフォーメーションの具体的な教育手法の検討。福岡県立大学研究奨励交付金報告書，2023.
- ・
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

③過去の主要業績

- ・ 藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響。日本人間工学学会看護人間工学部会誌（8），15-20. 2007.
- ・ 矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩。日本臨床社。2007.
- ・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、看護人間工学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、看護過程・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、看護情報学・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4

年・通年、基礎看護学特論・2単位・大学院1～2年・前期、基礎看護学演習・2単位・大学院1～2年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

既存の知識に照らして推論・判断、そして実践ができる学生を育てるために、学生がなぜそのような行動・言動をするのかを意識に上らせ言語化できるように発問しながら講義・演習・実習指導をするように心がけ、一定程度の効果が得られている。またデジタル技術を授業の中に積極的に取り入れることで、時代のニーズに応えられる学生を育てる一助を担うことが出来ている。学部入学試験部会では、入試業務が円滑に回るような役割を微力ながら果たしているのではないかと考える。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	宮本 いずみ
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業後、産業医科大学病院で看護師として勤務しました。九州大学大学院医学系学府保健学専攻看護学分野修士課程修了（看護学修士）。山口大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了し、保健学博士を取得した。2010 年より看護基礎教育に携わっています。現在、手術シミュレーションによる手術室看護師の看護教育に関する研究、手術患者の褥瘡予防に関する研究を企業、病院と共同で行っています。開発した「手術室看護師の看護実践能力評価尺度」の使用許諾についてはメール（E-mail：miyamoto@fukuoka-pu.ac.jp）にてご連絡ください。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

【論文】

- ・ 宮本いずみ, 高橋優菜 (2026). 終末期がん患者とその家族の満足度向上に関わる看護実践の文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 23, 47-55.
- ・ 宮本いずみ, 中村海帆 (2025). 小学校から大学までの家庭と学校における性教育の実態と課題に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 22, 47-54.
- ・ 宮本いずみ (2023). 手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築. 山口大学大学院, 博士論文.
- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美 (2023). 手術室看護師が認識している看護実践能力を高める効果的な継続教育の探求：テキストマイニングを用いた自由回答文の解析, 山口医学, 72 (1), 29-38.

【著書】

- ・ 宮本いずみ (2025). 手術看護業務基準 改訂第 2 版 第 6 章 周術期継続看護基準, 日本手術看護学会, 67-75.
- ・ 宮本いずみ編 亀田典宏 (2026). 側臥位で手術を受ける患者における術前の皮膚状態と術後皮膚損傷：前向きコホート研究, AORN Journal 日本語版, 3(2), 2-12, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 佐藤健斗 (2025). 患者体位に関する最新のエビデンス, AORN Journal 日本語版, 3(2), 12-14, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 貝沼純 (2025). 手術部位感染を減らすために変化を起こす, AORN Journal 日本語版, 3(2), 14-16, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 村上香織 (2024). 褥瘡リスクの高い手術患者にエビデンスに基づいた褥瘡予防のケアバンドルを用いた評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), 2, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 亀田典宏 (2025). 周術期看護実践ガイドライン：褥瘡予防 Recommendation 3. 体圧分散マットレスの選定 Guidelines for Perioperative Practice : Pressure Injury Prevention, AORN eGUIDELINES 日本語版, 2(2), 18-23, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 佐藤健斗 (2025). 周術期看護実践ガイドライン：褥瘡予防 Recommendation 7. 術後評価 Guidelines for Perioperative Practice : Pressure Injury Prevention , AORN eGUIDELINES 日本語版, 2(2), 24-26, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 亀田典宏 (2025). 周術期看護実践ガイドライン：褥瘡予防 Recommendation 8. 小児患者 Guidelines for Perioperative Practice : Pressure Injury Prevention , AORN

eGUIDELINES 日本語版, 2(2), 27-28, Wiley.

- ・ 宮本いずみ編 村上千織 (2024). 褥瘡リスクの高い手術患者にエビデンスに基づいた褥瘡予防のケアバンドルを用いた評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), 2, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 貝沼純 (2024). 手術部位感染 (SSI) を減らすための周術期担当者と感染予防担当者との関係の最適化, AORN Journal 日本語版, 1(3), 3-8, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 佐藤明日美 (2024). 周術期看護師の QSEN コンピテンシーに対する認識, AORN Journal 日本語版, 1(3), 9-15, Wiley.
- ・ 宮本いずみ編 村上千織 (2024). 製造業者の添付文書とスポルディング分類を用いた周術期における超音波プローブの消毒方法の評価, AORN Journal 日本語版, 1(3), p16-22, Wiley.
- ・ 前田晃史, 宮本いずみ (2024). 【転載】すぐ実践に生かせる! 器械器具・薬剤の準備のプロを目指せ! 白内障手術, メディカ出版, 眼科ケア, 26 (1), 74-78.

②その他最近の業績

<学会発表>

.

③過去の主要業績

- ・ 前田晃史, 宮本いずみ, 八田圭司, 池田知香 (2022). ベッド上で『JRC 蘇生ガイドライン 2015』推奨の背板と標準的な背板を用いた胸骨圧迫の質の比較, 日本臨床救急医学会誌, 25 (5), 789-796.
- ・ 宮本いずみ, 山勢博彰, 田戸朝美 (2022). 手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発, 日本クリティカルケア看護学会誌, 17, 80-88.
- ・ 宮本いずみ『まるごと やりなおしのフィジカルアセスメント チャートとイラストで見てわかる』第4章 胸腔鏡, 腹腔鏡術後患者の看護におけるフィジカルアセスメント, メディカ出版, 2015.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金 基盤研究 (C), 研究課題「手術患者の褥瘡発生予測スケールの開発」, 交付金額 4,680 千円, 2025～2028 年度 (研究代表者)

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護教育学会, 日本手術看護学会, 日本クリティカルケア看護学会, 日本救急看護学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ・2単位・3年生・前期 (演習補助), 統合実践演習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

日本手術医学会会誌 編集委員 査読委員

日本手術看護学会誌 査読委員

日本看護学会誌 査読委員

8. 学外講義・講演

2025 年 7 月 29 日 八幡中央高校 模擬授業 講義：「看護の技：生きている証をみつけよう」

2025 年 9 月 26 日 南筑高校 入試説明会

2026 年 3 月 6 日 東筑紫学園高等学校 入試説明会

2026 年 3 月 13 日 育徳館高等学校 入試説明会

2025 年 8 月 19 日 福岡県看護協会「令和 7 年度看護基礎教育と臨床をつなぐ情報交換会」講師

2026 年 2 月 6 日、2 月 13 日 社会保険田川病院 看護研究発表会 講評

2026 年 3 月 15 日 熊本県手術看護認定看護師会主催研修会「手術室新人教育を語り合うー施設を超えた学びー」講師

9. 附属研究所の活動等

令和 6 年度研究奨励交付金 若手研究，研究課題「術中体位における体圧可視化システムの予備的検討」交付金額 199 千円（研究代表者）

10. 今年度の自己評価

フィジカルアセスメントの横断教育においては、「暮らしを知る実習」にて対象の理解および対人関係能力の育成を目的とした指導を行い、「フィジカルアセスメント論」では、看護実践能力向上を目的に技術練習および OSCE を実施しました。小児看護学演習では 2 年次のフィジカルアセスメントを基礎として小児患者のバイタルサイン測定、身体計測等の演習に取り組みました。研究では卒業論文を論文化し公表しました。また、科研費を獲得し、ミズホ株式会社から研究機器の無償提供を受けて田川市立病院をフィールドとして研究に取り組んでいます。

看護学部／看護学科	職名	講師	氏名	村田和子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護基礎教育終了後、総合病院、大学病院で看護師として ICU, CCU, 心臓外科病棟で勤務しました。その後、大学院修士課程を修了（看護学修士）し、総合病院で院内教育、新人教育などの現任教育に携わりました。看護師のキャリア形成や循環器疾患を抱える患者の看護に興味をもっています。現在は成人老年看護学の教育に携わり、シミュレーション教育を取り入れながら演習を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村田和子, 廣瀬理絵, 大場美緒, 福田和美 (2026) : 看護基礎教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 23 巻
- ・ 村田和子, 福田和美 (2024) : 成人看護学演習における OSCE の現状と課題, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 21 巻

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 廣瀬理絵, 村田和子, 福田和美 : 看護基礎教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討. 第 51 回日本看護研究学会学術集会, 石川, 2025.
- ・ 福田和美, 村田和子, 中尾久子 : 術後せん妄ケアにおける看護師の家族への情報提供と家族のケア協力の実態. 第 51 回日本看護研究学会学術集会, 2025.
- ・ Kazuko Murata, Kazumi Fukuda, Hisako Nakao : Awareness of Nurses on Patient Family Participation in Postoperative Delirium Care. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2025.
- ・ Kazumi Fukuda, Kazuko Murata, Hisako Nakao : Actual Conditions of Patient Family Participation in Postoperative Delirium Care Before and After the COVID-19. 15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2025.

③過去の主要業績

- ・ 小田正枝, 下舞紀美代, 安藤敬子, 中西順子, 村田和子, 古川秀敏, 古庄夏香他, 『大特集 看護計画まで見せます！実習でよく挙げる看護診断ベスト 10』, プチナース, 第 18 巻, 第 13 号, 2009, 照林社
- ・ 宇井進, 中川晋, 樺山幸彦, 廣谷隆, 田畑稔, 安藤恵美子, 川渕いづみ, 相良恭子, 星まき子, 菊川智恵, 伊勢田礼子, 村田和子, 中島千夏代, 立石由紀子, 『心疾患テクニカルチェッククリニカルパスにみるナーシングケア』, 第 I 章(4)「大動脈弁膜症」, 第 I 章(8)「心不全」, 第 I 章(9)「感染性心内膜炎」, 第 III 章(3)「IABP」を担当, メディカ出版

3. 外部研究資金

・科学研究費助成事業（基金分）基盤研究（C）令和2年～6年，研究課題：情報提供を基盤とした術後せん妄に対する看護師と家族の協働的ケアプログラムの開発（研究分担者）

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・2単位・1年・前期、成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

講義では、学生が疾患や患者のイメージができるような事例をもとに授業を行い、演習ではシミュレーション教育をとり入れ、学生の理解と思考力の向上に繋がったと考える。実習では学生に既習の知識を想起してもらい、根拠に基づいたアセスメントや看護援助が行えるよう丁寧な指導とサポートを心がけた。図書館運営部会ではラーニングコモンズの整備等の役割を担い、学部の小部会では国試対策担当として年間を通じた学生支援を行うことができた。

看護学部	職名	講師	氏名	安永薫梨
------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004 年 3 月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004 年 4 月より本学に着任。

現在、研究に関しては「統合失調症患者の暴力防止に向けたディエスカレーションにおける精神科看護の高度実践看護師の実践」について取り組んでいます。

教育に関しては、学生が自分自身の内と外の安全感を確かめながら、自己理解、他者理解を深めると共に、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデルを、精神疾患を持つ患者に対し、展開できるよう講義、演習、実習を行っています。

今後も、さらに精神疾患を持つ患者の力動的な理解を深め、患者が本当に求めているものは何か、を探索し、患者が望む生活の実現に向け、教育、研究、実践に取り組んでいきたいと思っております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 安永薫梨(2025). 精神科看護師の心的安全空間生成に関する尺度開発に向けた因子分析.福岡県立大学看護学研究紀要,第 22 巻,p1-11.
- ・ 川野雅資,安永薫梨,他(2022). 精神科看護ポケットガイド,p16-19,東京：中央法規.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 安永薫梨(2024).精神科看護師による患者の暴力防止に向けた支援に関する文献検討.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回 p157.
- ・ 安永薫梨, 宇佐美しおり(2023)精神科看護師の不安と心的安全空間生成との関連に関する文献検討.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 33 回 p126.
- ・ 松橋美奈, 宇佐美しおり, 石飛マリコ, 遠藤恵美, 森本早弥果, 安永薫梨, 山岡由実(2023) 高度実践看護を推進する科学的臨床事例研究.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 33 回,p65.
- ・ 安永薫梨.(2022).精神科看護師の不安に関するセルフケアについての文献検討. PAS セルフケアセラピー看護学会第 5 回大会抄録集,p20.
- ・ 安永薫梨(2024).精神科看護師による患者の暴力防止に向けた支援に関する文献検討.日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集 34 回 p157.

③過去の主要業績

- ・ 安永薫梨.(2015).「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー. 日本精神保健看護学会誌, 24(1),1-11.
- ・ 安永薫梨.(2011). 精神疾患をもつ患者が看護師への暴力を思いとどまったその思いと試み.日本精神保健看護学会誌.20(2),21-27.
- ・ 安永薫梨.(2006). 精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制, 日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会、日本専門看護師協議会、日本こころの安全とケア学会

6. 担当授業科目

<学部>

環境への適応と看護・1単位・1年・後期、医療安全・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習・2単位・3年前期、精神看護学実習・2単位・3年後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

精神看護学特論・2単位・1年・前期、精神看護学演習・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

今年度の自己評価については概ね良好である。なぜなら、教育に関しては、精神看護学演習に電子カルテ教材を用いたシミュレーション教育を導入し、精神看護学実習での看護技術習得向上につなげることができた。研究に関しては、①ディエスカレーションに関する文献レビュー、②統合失調症患者の暴力防止に向けたディエスカレーションにおける精神科看護の高度実践看護師の実践に関するデータ収集と質的分析を行うことができた。

看護学部	職名	助教	氏名	猪狩 崇
------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2016年に着任し、2018年度までヘルスプロモーション看護論、2019年からは地域・在宅看護論に属してとくに地域・在宅看護や地域包括ケアシステムにかかわる研究を進めています。大学院では理論看護学を専攻し、理論看護学（看護学概論）に属します。また近代看護成立史にも興味があり、F.ナイチンゲールや、ドイツの看護史が近代看護の成立にあたって果たした役割について研究を進めています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 御手洗みどり、猪狩崇、吹上大祐：DPATにおける看護師の活動へ期待と課題の文献検討、福岡県立大学看護学部紀要 第23巻 共著、2026.3月
- ・ 猪狩崇：「もう一人の父」フリートナー牧師とF.ナイチンゲール（以下F.N.）—‘A new art and science’の背後にひそむF.N.の認識とは—ナイチンゲール研究 No.13（ナイチンゲール生誕200年記念号）、ナイチンゲール研究学会 2026年4月時点 刊行準備中（アクセプトは2023年9月22日）
- ・ 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫛直美、尾形由起子：A県における訪問看護ステーションのBCP策定における現状と課題、福岡県立大学看護学部研究紀要 第20巻 共著、2023.3月

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 猪狩崇 ナイチンゲール看護論の人間観を伝える看護対象論教育の試み2
「ナースが視る自然と生命」教育、ナイチンゲール研究学会第45回学術懇談会 2024.10.5
- ・ 猪狩崇 ナイチンゲール看護論の人間観を伝える看護対象論教育の試み ナイチンゲール研究学会第44回学術懇談会 2024.10.6
- ・ 猪狩崇 F.ナイチンゲールの‘もう一人の父’T.フリートナー牧師が果たした役割 ナイチンゲール研究学会第43回学術懇談会 2023.10.1

③過去の主要業績

- ・ 猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形由起子：地域包括支援ケアシステム構築へ向けて人的ネットワーク形成・運営に関する一考察；福岡県立大学看護学部研究紀要 16号, 161-128, 2019.3.31（H30年度研究）。
- ・ 猪狩 崇、石崎 龍二、櫛 直美、柴田 雅博、小野 順子、檜橋 明子、杉本 みぎわ、尾形 由起子：地域包括ケアシステム構築に向けた地域医療情報連携ネットワークシステム導入に関する一考察；福岡県立大学看護学部研究紀要 15号, 83-90, 2018.3.31（H29年度研究）。
- ・ 猪狩 崇：対応困難な事例にしないための対象理解の構造；看護科学研究第8号, p.25-40, 看護科学研究学会. 2013.

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長 研究分担者 猪狩 崇：科研費 基盤研究 B（一般）エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージの開発；16380,000 円、令和 4 年度－令和 8 年度

4. 受賞

なし

5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、日本看護歴史学会、宮崎県立看護大学看護学研究会

6. 担当授業科目

地域・在宅看護論 2 単位 2 年、家族看護学 単位 1 年、チーム医療論 1 単位 1 年、地域・在宅看護論演習 1 単位 3 年、在宅看護学実習 2 単位 3 年、暮らしを知る実習 1 単位 1 年、暮らしの中の看護を知る実習 1 単位 2 年、専門看護学ゼミ 2 単位 3 年、卒業研究ゼミ 2 単位 4 年

7. 社会貢献活動

添田町協議体アドバイザー

添田町地域包括支援センター運営協議会会長

添田町社会福祉等総合施設計画策定委員会アドバイザー

8. 学外講義・講演

「高齢者集いの場ガイド」基調講演 講師 2025 年 2 月 21 日 添田町社会福祉協議会

9. 附属研究所の活動等

2025 公開講座Ⅳ「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」講師（共同）

10. 令和 7 年度の自己評価

令和 7 年度は 10 月に学会発表が 1 件、共著（筆頭ではない）の論文発表 1 本でしたが、令和 8 年度は 8 月に学会発表（単独）1 件エントリー済み、10 月にももう一件発表予定です。また 6 月末と 8 月末までに単著と共著の論文を 1 本ずつ、計 2 本以上投稿、刊行予定です。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	植田 愛
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学看護学部を卒業後、総合病院の精神科で看護師として勤務しました。その後、福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を終了し大学教員として9年間勤務しています。2024年にレジリエンストレーナーの資格を取得し、現在は大学生ケアラーへの支援の充実化に向けて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 井手裕子, 坂部滯, 坂本未穂, 水原美地, 橋本真弥, 石井奈央, 安藤愛: 新型コロナウイルス感染症流行下の看護学各論代替実習における看護学生の学びに関する文献研究. 西南女学院大学紀要, 27, 105-117, 2023
- .
- .

②その他最近の業績

<学会発表>

- 松枝美智子, 光永憲香, 脇崎裕子, 植田愛, 倉持裕子, 増満誠, 高野歩, 中本亮, 池田智, 児玉裕子, 安保寛明: COVID-19に罹患した利用者をケアした経験を持つ訪問看護師のMoral Injuryに繋がる状況. 第44回日本看護科学学会学術集会(熊本). 2024年12月
- 増満誠, 植田愛, 森雄太, 木村涼平, 中本亮, 上田智之, 緒方浩志. がん看護専門病院に勤務経験のある精神看護専門看護師の看護場面における沈黙の意味解釈と活用技法. 第45回日本看護科学学会学術集会(新潟). 2025年12月
- .

③過去の主要業績

- 安藤愛, 後藤有紀, 前田由紀子: 精神科における長期入院患者のストレングスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究. 西南女学院大学紀要, 26, 15-23, 2022
- 中本亮, 安藤愛, 宮崎初, 坂部滯: 被害妄想に対する介入に関する文献レビュー. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 35-43, 2022
- .

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業, 基盤研究(B), エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発, 令和4-7年度, 分担研究者(研究代表者: 松浦賢長)

科学研究費助成事業, 基盤研究(C), 日本版Moral Injury尺度の作成と信頼性・妥当性の検証, 令和4~8年度, 分担研究者(研究代表者: 松枝美智子)

科学学研究費助成事業, 基盤研究(C), 高度実践看護師のわざとしての沈黙活用技法の検討と教育プログラム開発, 令和6~9年度, 分担研究者(研究代表者: 増満誠)

4. 受賞

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護福祉学会、日本ポジティブ教育協会

6. 担当授業科目

教養演習・2単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、環境への適応と看護・1単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期、災害看護学・1単位・2年・後期、精神看護学・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、精神看護学演習・2単位・3年・前期、精神看護学実習・2単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

フードバンク活動、子ども食堂におけるボランティア活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

今年度は、グループワークや演習内容を見直し効果的な課題内容について試行錯誤しました。今後とも学年に応じた教授方法を見直し、学習効果をどのように図っていくのか検討していきたいと思います。また、レジリエンストレーナーとして次年度は、精神看護学演習だけでなく担当科目の中で意識的にレジリエンスを高めるための個別的な教授を行うとともに社会貢献にも力を入れていきたいと考えています。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	江崎 千尋
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師として循環器内科・心臓血管外科病棟で勤務した後、2016年度より本学へ着任する。

主な研究として、看護職を目指す学生の主体的学習活動について検討を行っている。特に主体的学習活動に関する内的要因と考えられている学習意欲と自己効力感に着目し、これら三者の関連性や影響を検討することで、学生の主体的学習活動につながる学習支援に役立てたいと考えている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・
- ・
- ・

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・
- ・
- ・

② 過去の主要業績

- ・ 江崎千尋，中本 亮，井田 真実：実習指導者の「研修転移」を目指した研修プログラムの開発に向けた文献研究．福岡県立大学看護学研究紀要，20，2023.
- ・ 宮崎千尋，永嶋由理子：看護職を目指す学生の主体的学習活動と学習意欲および自己効力感の検討ー公立大学と私立大学の比較ー．福岡県立大学看護学研究紀要，16，2019.
- ・ 於久比呂美，永嶋由理子，宮崎千尋，藤野靖博，渕野由夏，加藤法子，津田智子：病室環境が生体反応にもたらす影響への検討．福岡県立大学看護学研究紀要，10（1），39-46，2012.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護研究学会，日本看護科学学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、基礎看護技術論・2単位・1年・後期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期、看護過程・1単位・2年・前期、暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

今年度は演習科目において、学生の思考を引き出すための工夫や指導を意識して授業展開を行いました。また、今年度は新しく担当する実習があり、学生と共に多くのことを学ぶことができた一年でした。初心を忘れずに、個々の学生のレディネスに合わせた効果的な教育が行えるよう日々精進していきたいと思います。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	笹山 万紗代
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として手術室・SICUでの臨床経験を経て2017年より本学に着任し、成人老年看護学に関わっています。演習ではシミュレーション教育を取り入れ、学生が患者をイメージできるように関わり、看護技術の習得・アセスメント能力の向上を目指しています。

手術室における新人看護師教育について研究し、2022年に修士（看護学）を取得しました。新人看護師の離職予防・早期の職場定着に向けた看護基礎教育や新人看護師教育について研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 山口馨子, 御手洗みどり, 笹山万紗代, 福田和美: 看護実践能力の育成を目指した周術期看護演習の実践報告, 福岡県立大学看護学研究紀要 第23巻, 2026
- ・ 笹山万紗代, 山口馨子, 大場美緒, 御手洗みどり: 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要 第22巻, 2025

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 御手洗みどり, 山口馨子, 大場美緒, 笹山万紗代: 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討, 日本看護研究学会第51回学術集会, 金沢市, 2025

5. 所属学会

日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本手術看護学会

6. 担当授業科目

成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、統合実践演習・1単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

10. 令和7年度の自己評価

担当した演習科目では、グループワークやシミュレーション教育を取り入れることで、単にテクニカルスキルを習得するのではなく、患者の状態アセスメントや状況に応じた対応を学生自身が考えるよう工夫しました。学生は患者のアセスメントや看護実践について口頭発表やレポート記述、シミュレーション実践できており、看護実践能力育成の一助となったと考えます。

また、担当した周術期看護演習の実践報告の投稿や、周術期看護演習の文献検討を学会発表しました。今後も研究活動を継続することで、演習のブラッシュアップや自身の看護基礎教育や新人看護師教育の研究につなげていきたいと考えています。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	清水 夏子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。近年は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を経て、2023年度からは、東洋（漢方）医学に関する基礎看護教育の実態調査を現在まで継続的に実施しており、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を実践している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 吉田静, 安河内静子, 佐藤繭子, 清水夏子, 石村美由紀, 道園亜希：学内における女性看護学実習に関する実践報告. 福岡県立大学看護学研究紀要. 21. 2024. 3

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 清水夏子. (2023). 看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性-看護大学生に対するアンケート調査結果より-. シンポジウム「漢方でさらに深める看護の魅力～教育から実践まで～」. 第73回日本東洋医学会学術総会. 福岡

③過去の主要業績

- ・ 安酸史子編集. 清水夏子, 他. 経験型実習教育. pp240-252. 東京. 医学書院. 2015.
- ・ 清水夏子, 石田智恵美：看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと「東洋医学概論」の受講意欲に関する調査研究. 福岡県立大学看護学研究紀要. 14 (1). 2017.
- ・ 清水夏子. (2018). 漢方教育導入から9年 - 福岡県立大学における東洋医学概論のあゆみ -. 共催セミナー(招聘講演). 第28回日本看護学教育学会学術集会. 神奈川.

3. 外部研究資金

[研究種別・研究期間・交付金額] 基盤研究（C）一般, 令和5年～令和9年度, 3,300千円

[研究課題] 東洋（漢方）医学に関する基礎看護教育の実態調査と現役看護師に対する教育効果の検討

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本東洋医学会, 日本看護研究学会

6. 担当授業科目

暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1～4年・通年, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年, リプロダクティブヘルス看護学実習・2単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年, 教養演習・1単位・1～4年・前期, 東洋医学概論・1単位・2年・前期, ケアリング論・2単位・3年・前期, フィジカルアセスメント論・2～4年・2単位・前期, リプロダクティブヘルス看護学演習・2単位・3年・前期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）により、2021年度から「東洋（漢方）医学に関する基礎看護教育の実態調査と現役看護師に対する教育効果の検討」と題して、全国の看護系大学を対象に教育実績の調査および現役看護師を対象に看護における臨床現場での実態や困りごとの調査を実践することができた。また演習・実習教育において特記すべきこととして、本学の新カリキュラムである「リプロダクティブヘルス看護学」教育を実践し、年齢を超えた性と生殖について、他人ごとではなく自身のこととして、心理的・身体的・社会的側面で『リプロ』的視点をもって学生と共に考えることができた。また1, 2学年の各種実習での指導を担当したこと、3学年の学生全員と年間を通して各論実習（リプロ実習）で関わることができたこと、ゼミや就職活動等の学生指導を実践できたことから4学年の学生と関わり、各学年の積み上げ学習を通しての学生ひとりひとりの成長を知ることができたのは、非常に有意義であった。学生の学びや意見、実習指導を通して今後の看護教育としての示唆を得たことは自分自身の気づきとして大きかった。さらに実習施設の臨床現場においても、看護管理者や実習指導者とリプロダクティブヘルスの捉え方、看護の在り方、教育について、振り返り、検討することができた。以上のことから、基礎看護教育としての教授方法、学生の学び、今後の教育課題について、より明確になった。次年度の自己の課題として、引き続きブラッシュアップしていきたいと考えている。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	新 友子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

助産師（アドバンス助産師）、看護師、保健師、公認心理士。修士。現在挙児希望と産痛の関連や少子化問題、無痛分娩の流行などから女性にとって最大の苦痛である出産の痛みとケアの在り方について研究している。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ A Perspective on the Declining Birthrate in Japan（日本の少子化についての考察）九州思春期研究会雑誌, 2024（松浦賢長先生との共著）
- ・ The trends of painless delivery in JAPAN（我が国における無痛分娩の流行）九州思春期研究会雑誌, 2026 発表予定（松浦賢長先生との共著）
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ ケアリングアイランド大学コンソーシアム第113回看護師国家試験学習支援ツール作成
- ・ （公社）全国助産師教育協議会第108回助産師国家試験問題の検討（杉浦,石田）
- ・

② 過去の主要業績

- ・ なし
- ・
- ・

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

九州思春期研究会,公益社団法人日本アロマ環境協会,日本思春期学会,母性衛生学会,日本看護研究学会,一般社団法人日本公認心理師協会

6. 担当授業科目

リプロダクティブヘルス看護学（2年次後期、1単位）、専門看護学ゼミ（3年通年、2単位）、リプロダクティブヘルス看護学演習（3年次前期、2単位）、リプロダクティブヘルス看護学実習（3年次、2単位、後期）、卒業研究（4年次、通年2単位）、助産学実習Ⅰ（大学院、通年、カリキュラムにより異なる）助産学実習Ⅱ（大学院、通年、カリキュラムにより異なる）

7. 社会貢献活動

看護専門学校での母性看護学の授業・講義を担当。

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和7年度の自己評価

当学以外においても看護専門学校で母性看護学の授業を担当し、教育活動に意欲的に取り組んできた。修士課程においては看護学領域の研究を継続的に進め、現在は学会発表に向けて成果を整理している。また、研究成果の発信として、総説ではあるが英語論文の投稿を行い、学術的発信にも取り組んでいる。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	田原千晶
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

<自己紹介>

看護師として小児病棟や GCU で勤務後、平成 29 年に本学に着任した。基礎看護・小児看護・在宅看護・学校保健等の科目の授業補助を行い、令和 5 年度に看護学修士課程を修了し、現在は、地域・在宅看護に所属している。

<主な研究分野>

疾患や障害を持った子ども達が安心して在宅生活を継続することができるよう、訪問看護師における子どもの知識や技術の向上を目指した研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ なし

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 田原千晶, 松浦賢長, 原田直樹. 訪問看護師における「子どもの発育に関する知識」と訪問看護の経験との関連. 第 15 回 日本在宅看護学術集会. ポスター発表.

③過去の主要業績

- ・ なし

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本看護協会、日本在宅看護学会、日本保健福祉学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1単位・1年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年, 暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期, 災害看護学・1単位・2年・後期, 地域・在宅看護論・2単位・2年・後期, 在宅看護支援実習・2単位・3年・通年, 地域・在宅看護論演習・2単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・子ども食堂におけるボランティア
- ・放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担製作者（2025 年）

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

10. 令和7年度の自己評価

助教2年目の年であり、1年の流れを予測しつつ講義、演習、実習に取り組めた。研究に関しては、修士論文の発表を行い、次年度は論文投稿を行う予定である。また、外部研究資金の獲得に挑戦し、訪問看護に関する研究を深めていきたいと考えている。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	中村 美穂子
-----------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了、修士（看護学）。看護師として呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、がんを患い、がんによる症状や治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす方、残された時間や最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者・家族の想いに触れてきた。しかし現実はそのほとんどが病院での看取りとなり、患者・家族の願いを叶え最期まで暮らしの中で生きることを支えるためには、患者・家族の意向を中心に据えた退院支援技術を、看護職が身に着けることの必要性を感じている。がん、非がんに関わらず、院内外の看護職及び多職種による退院支援や意思決定支援における連携の促進をテーマに、地域包括ケアシステムの視点もあわせ探究していきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 〈著書〉
尾形由起子,山下清香,小野順子編,中村美穂子.「第 3 章ライフステージにおける公衆衛生看護技術 第 2 節個別支援の教育－健康相談・家庭訪問－」,地域包括ケアを構築するための公衆衛生看護学 改訂版,クオリティケア,2026.
- ・ 〈論文〉
中村美穂子,岡田麻里,岩崎玲奈,山下清香,小野順子,尾形由起子.「終末期がん患者の退院支援における退院調整看護師と病棟看護師との連携促進因子の明確化」,日本在宅ケア学会誌,21-1,123-131,2025.
- ・ 尾形由起子,中村美穂子,山下清香,小野順子,杉本由利子,廣木里香.「健康づくり推進員の終末期までの在宅療養に対する意思決定の認識に関する因子分析」,福岡県立大学看護学紀要,23,1-9,2025.
- ・ 中村美穂子,山下清香,小野順子,吉田麻美,大塚文,岩崎玲奈.「入院早期から退院調整を開始している退院調整実施者の特徴」,福岡県立大学看護学紀要,21,1-8,2023.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 小野順子,尾形由起子,山下清香,中村美穂子.「糖尿病成人症の動向と地域差」,第 14 回日本公衆衛生看護学会,2025,仙台.
- ・ 尾形由起子,小野順子,中村美穂子,石崎龍二.「生活習慣病重症化による CKD の地域格差とリスクの検討」,第 83 回日本公衆衛生看護学会総会,2024.札幌.

③過去の主要業績

- ・ 〈論文〉
平塚淳子,猪狩崇,中村美穂子,小野順子,吉川美桜,吉田麻美,田中美樹,山下清香,櫛直美,尾形由起子.「A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題」,福岡県立大学看護学部紀要,20,41-47,2022.
- ・ 〈論文〉
山口のり子,福岡洋子,中村美穂子,猪狩崇,尾形由起子.「官民学協働による地域住民を含めた『ケア・カ

フェ』実践報告」,福岡県立大学看護学部紀要,18,21-26,2020.

・ 〈学会発表〉

中村美穂子,山下清香,小野順子,尾形由起子.「退院調整看護師の認識による連携の促進因子」,第48回日本看護研究学会学術集会,2022.松山.

3. 外部研究資金

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) (一般),「終末期がん患者の『帰りたい』希望を支える退院支援教育プログラムの開発」,研究代表者,2025年度～2027年度(予定),210万円.

4. 受賞

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、日本在宅ケア学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ(2単位,2年前期),専門看護学ゼミ(2単位,3年通年),公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ(2単位,3年通年),卒業研究(2単位,4年通年),ハイリスク支援論(2単位,4年通年) 公衆衛生看護学Ⅱ(2単位,4年前期),公衆衛生看護技術論Ⅰ(2単位,4年前期),公衆衛生看護技術論Ⅱ(2単位,4年前期),公衆衛生アセスメント論Ⅱ(2単位,4年前期),公衆衛生看護学実習Ⅰ(1単位,4年前期),公衆衛生看護学Ⅲ(1単位,4年後期),公衆衛生看護管理論(2単位,4年後期),組織協働活動論(2単位,4年後期),公衆衛生看護学実習Ⅱ(4単位,4年後期)、統合実習(2単位,4年前期)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

保健師教育において、疾病だけでなく対象者の価値観や生活史を捉えた対象理解・アセスメントと共に、介護や育児などのライフイベントの中で人々が健やかに暮らすことができる支援技術の習得に繋がるよう、現場の保健師をゲストに招き共に演習内容を工夫した。また、地域や地域住民の暮らしに関する質的・量的を用いて地域診断を行い健康課題を抽出する思考について、データ収集や地区踏査、実習内容を結び付け学ぶことができるよう教育に取り組んだ。

研究では、日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)の研究費を獲得することができ、看護師の退院支援技術の明確化に向けインタビューを行い、研究遂行に努めた。次年度以降も教育の質向上と共に研究の遂行に努めていく。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	平塚淳子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

病院の看護師として勤務した後、平成 27 年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了し、平成 29 年より看護学部に着任いたしました。主な研究分野は、健康管理行動に関する研究、リスクマネジメントに関する研究、在宅看護についてです。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 石橋曜子, 長聡子, 平塚淳子, 増満誠, 日高艶子, 松浦賢長. COVID-19 関連病棟に勤務した看護師の思いと看護実践. (2026) 日本感染看護学会誌. 19 (1) 1-6
- ・ 平塚淳子, 猪狩崇, 中村美穂子, 小野順子, 吉川未桜, 吉田麻美, 田中美樹, 山下清香, 櫛 直美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. (2023) 福岡県立大学看護学研究紀要. 20. 41-47
- ・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 太田友子, 平塚淳子, 吉田公美, 清永麻子, 堅山悦子, 永田千鶴. 介護事業所での看取り教育プログラムの評価 ～看取りの実践ガイドを使用して～. (2026) 第 38 回日本看護研究学会. 地方会学術集会.
- ・ Junko hiratsuka, Takashi igari, Chie namitomi. A study of the nutritional status of older people living in hilly and mountainous areas and attending exercise classes. (2023). The16 th EAFONS (2023.) .
- ・ Junko Hiratsuka, Toyohiko Kodama, Satoko Cho, Tsuyako Hidaka, Yoko Ishibashi, Makoto masumitsu, Kencho Matsuura. Factors affecting the crisis faced by ward nurses during the COVID-19 pandemic: A review of studies outsides of Japan. (2023). The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science
Takashi Igari, Makoto masumitsu, Junko Hiratsuka, Shinobu Makiuchi, Toyohiko Kodama, Satoko Cho Yoko Ishibashi, Naoki Harada, Tsuyako Hidaka, Kencho Matsuura. Literature Review on the Ongoing Crises Faced by Nurses at Home and Abroad in the Period Leading up to the Fifth Wave of COVID-19 in Japan, (2023) The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science.
長聡子, 増満誠, 石橋曜子, 平塚淳子, 中井裕子, 日高艶子, 松浦賢長. エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力ー看護師が体験した職場風土や組織体制ー. (2023) 第 43 回日本看護科学学会学術集会.

② 過去の主要業績

- ・ 吉川未桜, 吉田麻美 平塚淳子 中村美穂子 大場美緒 小野順子. 猪狩 崇 山下清香 田中美樹 櫛 直美 尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. (2022)

福岡県立大学看護学研究紀要 19, 45-55

- ・ 平塚淳子. 医療安全風土と医療エラーに関する海外文献レビュー. (2019) . 福岡県立大学看護学研究紀要. 16, 103-109.
- ・ 平塚淳子. 倫理的風土と職務満足に関する海外文献レビュー (2018) 福岡県立大学看護学研究紀要. 15, 91-96.

3. 外部研究資金

研究代表者 松浦賢長. 分担研究者. 平塚淳子. 基盤研究B. エssenシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発. 16,380 千円 . 2022 年～2027 年

4. 受賞

5. 所属学会

日本在宅ケア学会 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本保健福祉学会

6. 担当授業科目

暮らしを知る実習・1 単位・1 年, 暮らしの中の看護を知る実習・1 単位・2 年, 地域・在宅看護論・2 単位・2 年・後期, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 地域・在宅看護論演習・2 単位・3 年・前期, 在宅看護支援実習・2 単位・3 年・後期, 地域包括支援実習・1 単位・4 年

7. 社会貢献活動

第 2 回、第 3 回介護事業所看取りの学習会ファシリテーター.

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和 7 年度の自己評価

今年度は、地域における介護事業所の看取りの学習会の運営、グループワークのファシリテータを務めた。これにより、地域での看取りを促進するための課題の一部を理解することができた。その課題を解決するために、どのようなことを教育に落とし込めばよいか考えることができた。

看護学部	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009 年福岡県立大学大学院修士課程修了（看護学）後、同年にがん看護専門看護師を取得しました。その後 5 年間、筑豊地域にある医療機関において、がん看護専門看護師として「がん」と共に生きる人、「老い」を生きる人を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの実践と看護師を対象とした看護倫理教育に携わりました。2015 年度より本学へ着任し、現在、看護師や学生を対象とした看護倫理教育に取り組んでいます。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 宮内信治, 蔡小瑛, 張曉春, 前田樹海, 小西恵美子, 廣瀬理絵 (2024). 看護倫理における対話の有用性: emic (当事者の視点) と etic (観察者の視点) をめぐって, 日本看護倫理学会誌, 16 巻, 1 号 p. 67-70.
- ・ 村田和子, 廣瀬理絵, 大場美緒, 福田和美(2026). 看護基礎教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 23 巻, p. 37-45.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 宮内信治, 小西恵美子, 高橋梢子, 蔡小瑛, 廣瀬理絵, 小野美喜, 山下早苗, 前田樹海(2024). 実習中の暴力に対する看護学生の対応例: イラン, 中国, 日本, 日本看護倫理学会第 17 回年次大会.
- ・ 村田和子, 廣瀬理絵, 福田和美(2024). 基礎看護教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討, 日本看護研究学会第 51 回学術集会, 石川.
- ・ 廣瀬理絵, 宮内信治, 小西恵美子, 山下早苗(2025). 臨床実習における看護学生の葛藤 - 看護倫理の視点 -, 日本看護倫理学会第 18 回年次大会, 神戸.

② 過去の主要業績

- ・ 廣瀬理絵 (2015). 「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」, Oncology NURSE, 8 (6) p98-104.
- ・ 廣瀬理絵, 渡邊智子 (2017).がん看護専門看護師が行う高齢がん患者の意思決定支援, 日本看護科学学会第 37 回学術集会, 仙台.
- ・ 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. (2022). 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 77-87.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護倫理学会（代議員）、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、
日本がん看護学会、日本緩和医療学会、日本 CNS 看護学会、日本看護老年学会
日本臨床倫理学会、

6. 担当授業科目

対人関係と看護・1 単位・1 年・前期、健康レベルと看護・1 単位・1 年・後期、基礎看護学実習Ⅱ・
2 単位・2 年・通年、看護倫理学・1 単位・2 年・前期、フィジカルアセスメント論・2 単位・2 年・
前期、成人老年看護学Ⅱ・2 単位・2 年・後期、成人老年看護学Ⅲ・2 単位・2 年・後期、専門看護学
ゼミ・1 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年、地域包括支援実習・1 単位・4 年・前
期、暮らしを知る実習・1 単位・1 年・後期

7. 社会貢献活動

介護認定審査委員（2 回/月）

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2025 年）

日本看護倫理学会 第 19 回年次大会企画委員

日本看護倫理学会 第 19 回年次大会査読委員

8. 学外講義・講演

特定行為研修 講師

9. 附属研究所の活動等

10. 今年度の自己評価

看護倫理教育において、事例・視聴覚教材を用い、また、個人・グループワークなどを取り入れ、
学習方法を工夫したことが、学生の思考と学びを深めたと考える。今後、看護倫理に対する学修内容
を 1 年次から 4 年次へと効果的に積み上げ、学生が対象者にとって倫理的判断・行動・倫理的なあり
方ができるように検討を続けたい。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	松山美幸
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

清潔援助（入浴・清拭・部分浴等）や褥瘡法といった看護技術を行った際の生理学的効果の解明を主な研究分野としている。現在は月経関連片頭痛とその症状を緩和するケアについての研究に取り組んでいる。また、睡眠と自律神経の関係性に関する研究、薬害被害者講演を受講した看護学生の学びに関する研究を学内外の教員と共同で行っている。保有学位は修士（看護学）。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

・

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 田中 美智子，江上 千代美，松山 美幸，野末 明希，長坂 猛. 女子大学生におけるこころの健康、健康関連 QOL と睡眠状態. 日本看護科学学会，2025.
- ・ 江上 千代美，田中 美智子，松山 美幸. 自閉スペクトラム症のある子どもの親の養育レジリエンスの向上 Stepping Stones Triple P (SSTP) を活用. 日本看護科学学会，2025.
- ・ 野末 明希，長坂 猛，江上 千代美，松山 美幸，田中 美智子. 脳波、マット型睡眠計及び睡眠日誌他による睡眠評価. 野末 明希，長坂 猛，江上 千代美，松山 美幸，田中 美智子. 日本看護技術学会，2024

② 過去の主要業績

・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

6. 担当授業科目

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年前期、生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年後期、フィジカルアセスメント論・1単位・2年前期、基礎看護実習Ⅰ・1単位・1年前期、生態・病態看護学実験・1単位・2年前期、基礎看護実習Ⅱ・2単位・2年通年、専門看護学ゼミ・1単位・3年通年、暮らしを知る実習・1単位・1年後期、卒業研究・1単位・4年生通年、生態機能看護学Ⅲ・1単位・4年後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

教育においては生態機能看護学Ⅰ、Ⅱにて、ヒト身体における「よく、うまく、たくましく生きていく」しくみをゴードンの機能的健康パターンに沿って授業を行った。授業では事例等を用いたアクティブラーニングを取り入れることで、学生のこれまでの「生活の中での経験」について、学修した内容を用い、根拠を持って説明する力を育む授業内容とした。研究については睡眠と月経随伴症状に関する研究を進めている。

看護学部	職名	助教	氏名	村上 香織
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として主に手術室、救急外来に勤務しながら、2011年に手術看護認定看護師の資格を取得し、院内外での勉強会・セミナー、看護雑誌・専門誌の執筆などを行ってきました。2019年、法政大学大学院 政策創造研究科(政策学修士)に進学し、手術室における看護師の人材育成に関する研究を行いました。2023年4月、福岡県立大学に着任し、臨床看護技術にかかわる演習、実習科目を担当しております。

今後は、手術室における人材育成の研究を継続しながら、手術体位を起因とする末梢神経損傷に関する研究も進めてまいります。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 村上香織. 褥瘡リスクの高い手術患者におけるエビデンスに基づいた褥瘡予防策のケアバンドルを用いた評価. ミルズしげ子監修. AORN Journal 日本語版 2024 ; 1(3) : 2.
- ・ 村上香織. 製造業者の添付文書とスポルディング分類を用いた周術期における超音波プローブの消毒方法の評価. ミルズしげ子監修. AORN Journal 日本語版 2024 ; 1(3) : 16-22.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 術中看護記録はどうして大切? -. Ope Nursing 2023 ; 38(1) : 71-75.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 基本の記録方法を知ろう -. Ope Nursing 2023 ; 38(2) : 73-77.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 「何を書けばいい?と迷っているあなたへ」 -. Ope Nursing 2023 ; 38(3) : 60-63.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 看護がみえる手術看護記録とは? -. Ope Nursing 2023 ; 38(4) : 78-81.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 記録に個別性を取り入れよう 手術体位編 -. Ope Nursing 2023 ; 38(5) : 86-92.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 記録に個別性を取り入れよう 体温管理編 -. Ope Nursing 2023 ; 38(6) : 76-79.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - その記録、正しく伝わりますか? -. Ope Nursing 2023 ; 38(7) : 78-82.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 術前訪問・術後訪問を記録に残すことの意味 -. Ope Nursing 2023 ; 38(8) : 64-70.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 緊急時の術中看護記録何が大切になる -. Ope Nursing 2023 ; 38(9) : 68-71.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 急変時の記録 大量出血の事例 -. Ope Nursing 2023 ; 38(10) : 68-71.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 急変時の記録 アナフィラキシーの事例 -. Ope Nursing 2023 ; 38(11) : 74-77.
- ・ 村上香織. 「基本のき」からやさしく学べる術中看護記録の書き方レッスン - 手術室看護師だからこそ残せる記録 -. Ope Nursing 2023 ; 38(12) : 58-61.

- ・ 村上香織. 手術室における看護管理のワンポイントアドバイス 厳しくも温かいスタッフの成長を願う看護管理者を目指して. 手術看護エキスパート 2023 ; 17(1) : 75-78.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 村上香織(2024) : 手術看護認定看護師が認識する手術体位による末梢神経損傷発生の現状と課題について, 第 38 回日本手術看護学会年次大会 (札幌)

③過去の主要業績

- ・ 小澤聡貴, 村上香織編著, 個別性による困難事例を最速解決! オペナースのための手術体位 Q&A52. 第 1 版 大阪: メディカ出版. 2022.
- ・ 村上香織. 脊椎手術の特殊性と外回り・器械出しのコツ - 体位固定時の皮膚損傷・神経障害の予防 -. 手術看護エキスパート 2022 ; 16(2) : 51-55.
- ・ 村上香織, 小澤聡貴. ガッテン! 体位固定!. Ope Nursing 2019 ; 34 (1~12).

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本手術看護学会、日本看護科学学会

6. 担当授業科目

看護過程・1単位・2~4年・前期、
 シンプトンマネジメント論・1単位・2~4年・後期、基礎看護技術論・2単位・1~4年・後期、
 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1~4年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2~4年・通年、
 暮らしの中の看護を知る実習・1単位・2年・前期、暮らしを知る実習・1単位・1年・後期、
 専門看護学ゼミ・2単位・3~4年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

令和 7 年度 日本手術看護学会 九州地区研修会「器械出し看護のプロになる! ~テクニカルスキルとノンテクニカルスキルの活用で患者の安全を支えよう~」 2026 年 2 月 28 日 ファシリテーター
 (グループワーク進行・討議支援)

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

臨床での経験を活かし患者を生活者としてとらえ、対象者にとって何を優先し大切にすべきか、自身が提供する看護技術に対し根拠と責任をもって臨む必要があることを演習や実習を通して伝えることを心がけてきました。看護師として臨床に出てからも様々なことに対処できるよう、学生が自ら考えを導き出せるようにかかわることを継続してまいります。

看護学部／看護学科	職名	助教	氏名	山口馨子
-----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として総合病院の一般病棟、看護専門学校の特任教員の経験を経て、福岡県立大学大学院看護学研究科（看護学修士）で、術後患者の観察に関するシミュレーション学習前後の眼球運動の変化について研究に取り組みました。現在は、シミュレーション教育や術後患者の観察に関する研究を継続しています。また、成人老年看護学演習でシミュレーション教育に携わり、学生と共に看護を考え看護実践につなげ、より良い看護を目指しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 山口馨子、御手洗みどり、笹山万紗代、福田和美．看護実践能力の育成を目指した周術期看護演習の実践報告～術後患者の持続点滴・ドレーン・創傷管理に焦点を当てて～．福岡県立大学看護学研究紀要 第23巻 2026：11-18.
- 笹山万紗代、山口馨子、大場美緒、御手洗みどり．周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討．福岡県立大学看護学研究紀要 第22巻 2025：35-45.
- 共に学ぶ・共に育豊かな看護教育を創る授業デザイン・授業リフレクションの実際 講義・演習編 メヂカルフレンド社 編集 目黒悟、永井睦子．第2章-1 基礎看護学 山口馨子．2023：18-38.

②その他最近の業績

<学会発表>

- 山口馨子、福田和美．クリティカルケア看護実習における学生の学びの特徴と課題に関する文献検討．日本看護研究学会 第51回学術集会、金沢、2025.
- 笹山万紗代、山口馨子、大場美緒、御手洗みどり．周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討．日本看護研究学会 第51回学術集会、金沢、2025.
- Keiko Yamaguchi, Kazumi Fukuda. Comparison of learning motivation between simulation learning and DVD viewing learning in a post-operative patient observation situation for nursing students. 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS) , Seoul, Korea, 2025.

③過去の主要業績

- 山口馨子、福田和美、江上千代美．術後患者の呼吸状態の観察場面における看護学生のシミュレーション学習前後の眼球運動の変化．日本看護研究学会 第49回学術集会、オンライン開催、2023年
- 山口馨子、福田和美．看護場面における眼球運動計測機器を用いた観察に関する文献検討．日本看護研究学会 第48回学術集会、オンライン開催、2022.
- 村田和子、笹山万紗代、福田和美、大場美緒、政時和美、山口馨子、中井裕子、古庄夏香．成人急性看護学実習におけるシミュレーション教育を取り入れたハイブリッド型学内実習の実践報告．福岡県立大学研究紀要 第19巻 2022：99-105.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・通年、成人老年看護学Ⅰ（急性期）・2単位・2年・後期、成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）・2単位・2年・後期、セルフケア支援演習・1単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・1単位・3年・前期、成人老年急性期看護学実習3単位・3年・後期、成人老年慢性期看護学実習3単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

成人老年看護学Ⅰ、Ⅱにおいて、臨床の事例を交えて学生が臨床をイメージしながら患者の看護を考える講義展開を意識しました。演習においては、看護実践につながるよう、より具体的に臨床の場面を想定し、患者の状況や状態に応じた看護技術の習得を目指しました。実習では、臨床の看護師と連携し、患者に寄り添い生活者として捉えた看護実践を指導しました。学生の授業後の感想から演習で学んだ看護技術を活かして援助できた、と意見がありました。今年度の研究はシミュレーション教育や周術期看護学演習に関して取り組みました。今後研究で得られた知見をいかし、看護学生が講義、演習、実習とつながりをもって看護を学べるように工夫を重ねていきたいと思っています。

看護学部／看護学	職名	助教	氏名	吉田麻美
----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

小児科病棟・NICU・障害児訪問保育現場での訪問看護で、退院を見据えた関わりや在宅生活支援に携わってきました。子どもやその家族が、住み慣れた地域であたりまえに日常生活を送り社会参加できるための支援、保育士と看護師の協働に関する研究、絵本プロジェクト研究を行っています。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、三浦由紀子、菅原航平、杉野寿子：医療絵本の臨床活用に関する一考察：保育学生と看護学生が協同作成した絵本を用いた試み．福岡県立大学人間社会学部紀要第 34 巻第 2 号．2026 年 3 月．
- ・ 福岡県立大学附属研究所絵本プロジェクト．編集）田中美樹、三浦由紀子、吉田麻美、杉野寿子、菅原航平、吉川未桜：エコー検査ってなあに？．初版：2026 年 3 月．
- ・ 福岡県立大学附属研究所絵本プロジェクト．編集）田中美樹、三浦由紀子、吉田麻美、杉野寿子、菅原航平、吉川未桜．おくすりどうぞ．初版：2026 年 3 月．

吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、菅原航平、杉野寿子：保育学生と看護学生が協同制作した医療絵本の評価と課題．福岡県立大学人間社会学部紀要第 33 巻第 2 号．2025 年 3 月．

田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 3 報－協働のためのコンピテンシー－．福岡県立大学看護学部紀要第 22 巻．2025 年 3 月．

福岡県立大学付属研究所絵本プロジェクト．編集）田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、池田孝博、杉野寿子、中原雄一：MRI ってなあに？．初版：2024 年 3 月．

福岡県立大学付属研究所絵本プロジェクト．編集）田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、池田孝博、杉野寿子、中原雄一：がんばれ！！てんてきマン．初版：2024 年 3 月．

田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 1 報－業務内容の現状分析－．福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻．2023 年 3 月．

吉川未桜、田中美樹、吉田麻美、中原雄一、杉野寿子、池田孝博：入院中の子どもを支える保育士と看護師の専門性を活かした協働 第 2 報－協働の現状と課題－．福岡県立大学看護学部紀要第 20 巻．2023 年 3 月．

田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、中原雄一、池田孝博：新型コロナウイルス感染症拡大による入院中の子どもを支える上での看護師と保育士の困難感．福岡県立大学人間社会学部紀要第 31 巻第 2 号．2023 年 3 月．

② その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 菅原航平、田中美樹、三浦由紀子、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子：学生による発達を踏まえた医療絵本の作成 保育学生と看護学生が協同した医療絵本の制作過程の検討．一般社団法人日本発達心理

学会第 37 回大会，福岡，2026 年 3 月 4 日．

- ・ 田中美樹、吉川未桜、吉田麻美、杉野寿子、古野憲司：療養中のこどもの”こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト，第 33 回日本外来小児科学会，岐阜，2024 年 9 月．
吉川未桜、吉田麻美、田中美樹：小児のフィジカルアセスメント技術の段階的習得を目指して－保育園年長クラスの子どもたちの演習参加の試み－，第 23 回九州・沖縄小児看護教育研究会，鹿児島，2023 年 8 月 19 日．

③過去の主要業績

- ・
- ・
- ・

3．外部研究資金

4．受賞

5．所属学会

九州・沖縄小児看護教育研究会

6．担当授業科目

教養演習・1 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・通年、子どもの健康と安全・1 単位・2 年・前期、暮らしの中の看護を知る実習、1 単位・2 年・前期、小児看護学・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、小児看護学演習・2 単位・3 年・前期、小児看護学実習・2 単位・3 年・後期、卒業研究・2 単位・4 年・通年

7．社会貢献活動

- ・健康教育（おおきくなる自分の「いのち」）田川市立幼稚園，2025 年 1 月 28 日．

8．学外講義・講演

9．附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・2024 年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金（COC 研究）「療養中のこどもの“こころの準備”を支えるための絵本プロジェクト」
- ・2023 年度福岡県立大学附属研究所研究奨励交付金（重点領域研究）「子どもの最善の利益のための看護師と保育士の協働と連携に関する研究」

10. 今年度の自己評価

子どもの発達段階や特徴が理解しやすいよう写真や動画を用いての講義や机上での学びが実習での実践と結び付けられるように関わることができた。また、保育と看護の連携・協働に関する実践研究として、保育と看護の学生と一緒に新たな医療絵本の協同制作に取り組むことができた。来年度は、講義や演習で事例を用いながら様々な状況にある子どもに応じた看護を学べるよう取り組んでいきたい。研究に関しては、絵本の作成と医療施設への配布を目標に、医療における子どもの心の準備を支えるツールを作成していきたい。

看護学部／看護学科	職名	助手	氏名	石田 祐子
-----------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2022年度より本学に着任し、2026年3月人間総合科学大学大学院人間総合科学研究科【修士（心身健康科学）】を修了、現在は基礎看護に携わっております。研究では看護師の離職要因の一つであるバーンアウトに関する研究をおこなっています。これまでの臨床経験と研究で得た知見を活かし、看護師が心身ともに健康を保ちながら長期的に働き続けられるよう、地域医療の持続性に貢献したいと考えています。また、バーンアウト予防やウェルビーイングの向上は、地域医療の活性化だけでなく、学生が卒業後も安心して就業できる環境づくりにもつながると考えており、これらの課題についてさらに研究を深めていきたいと思っております。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 看護師のバーンアウト予防への取り組みに関する文献研究－国内と海外を比較して－ 第42回日本心身健康科学学会学術集会 人間総合科学大学大学院研究発表会合同大会（ポスター発表）

③過去の主要業績

・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護学会、日本ストレス学会、認知神経学会、看護経済・政策研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護学概論（補助）・2単位・1年・前期、基礎看護学実習Ⅰ（補助）・1単位・1年・前期、フィジカルアセスメント論（補助）・1単位・2年・前期、看護過程（補助）・1単位・2年・後期、基礎看護学実習Ⅱ（補助）・2単位・2年・前期、基礎看護技術論（補助）・2単位・1年・後期、シンプトンマネジメント論（補助）・1単位・2年・後期、精神看護学実習（補助）・2単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

放送大学看護師国家試験学習支援ツール分担制作者（2025年）

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

教育においては、補助担当科目に入りながら、学生の多角的な視点を引き出せるような授業方法などを学び、今後に活かしたいと考えます。研究において積極的に活動や発表など実施していきたいと思っています。

看護学部	職名	助手	氏名	大場 美緒
------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

産業医科大学産業保健学部看護学科卒業（学士）。熊本大学医療技術短期大学部助産学特別専攻過程終了。助産師として産婦人科病棟、看護師として内科病棟で勤務後、看護小規模多機能型居宅介護事業所に勤務。2018年に本学に着任し、主に成人老年看護学に携わっている。

臨床では、神経難病や脳梗塞後の麻痺などで介助が必要となった患者が、住み慣れた自宅に戻ることの困難さを感じていた。そのため、慢性疾患患者が在宅復帰する際に必要となる支援や他職種との連携について探求していきたいと考えている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 村田和子、廣瀬理絵、大場美緒、福田和美. 看護基礎教育におけるエンドオブライフケア実習に関する文献検討、福岡県立大学看護学部研究紀要、23、2026.
- ・ 笹山万紗代、山口馨子、大場美緒、御手洗みどり. 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討、福岡県立大学看護学部研究紀要、22、2025.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 御手洗みどり、山口馨子、大場美緒、笹山万紗代. 周術期看護演習の現状と課題に関する文献検討、第51回日本看護研究学会学術集会、2025.

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2～4年・通年、フィジカルアセスメント論・2単位・2～4年・前期、セルフケア支援演習・2単位・3年・前期、クリティカルケア・周術期看護演習・2単位・3年・前期、リプロダクティブヘルス看護学演習・2単位・3年・前期、成人老年慢性期看護学実習・3単位・3年・後期、成人老年急性期看護学実習・3単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

主に成人・老年看護学の演習や実習に関わらせていただいているが、今年度はフィジカルアセスメント論の演習補助も担当した。普段は専門科目の指導補助を行っているため、必要な知識と基礎看護技術の再確認を行い、基本に忠実な指導を心掛けた。また、技術テストに向けた学生の自己練習など、授業時間以外の学習も指導した。

基盤教育センター	職名	教授	氏名	芋川 浩
----------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪大学 大学院・医学研究科を修了後(医科学修士)、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程に進学・修了した(理学博士)。その後、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、英国 University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005 年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリや、再生の王様であるプラナリアなどを用いて解析を進めている。

ヒトなどは、手足や臓器・器官を失うと、再生させることはできないが、イモリという有尾両生類は、手足や水晶体、網膜などを失っても、完全にもとに再生することができる。近年のめざましい生命科学の進歩により、四肢形成に関わる主要な遺伝子群もわかっており、実は、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子群を利用して手足を形成していることが分かっている。では、同じ遺伝子群を持っているのに、なぜイモリは再生できて、ヒトは再生できないのか？その難問を解明しようと研究を進めている。

ノーベル賞に輝いた iPS 細胞を使ってさえも 3 次元の機能的な臓器・器官の形成に世界でまだ誰も成功していない。このような夢の再生医療の実現を再生の王様であるプラナリアやイモリから理解したいと考え、世界で 2 例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。これは、日本初のイモリ培養細胞株の樹立である。このイモリの細胞株を使って、現在試験管内での 3 次元組織構築、オルガノイド作成に挑んでいる。

また、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、ヨーグルトやニンニク、長ネギ、わさび、ポッカレモンなどで興味深い結果も得て、科学研究費・基盤研究 C で再生医療以外の研究も進め、興味深い結果を得ている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- ・ 芋川浩, 丸山愛絵. ハチミツレモンの抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 23 : 19-27, 2026
- ・ 芋川浩, 赤星優梨子. ハチミツの殺菌抗菌効果の解析その 2. 福岡県立大学看護学研究紀要 22 : 13-24, 2025
- ・ 芋川浩, 岡本七海. カボスの殺菌・抗菌効果の解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 21 : 9-16, 2024
- ・ 芋川浩, 上鶴紗也. レモンとポッカレモンの殺菌・抗菌効果の比較解析. 福岡県立大学看護学研究紀要 20 : 1-8, 2023

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 芋川 浩. ハチミツレモンの殺菌抗菌効果の解析.

第 51 回日本看護研究学会 学術集会 金沢市 2025.

- ・ 芋川 浩. ハチミツの殺菌抗菌効果の解析 その 2.

第 50 回日本看護研究学会 学術集会 奈良市 2024.

- ・ 芋川 浩. 柑橘類の殺菌抗菌効果の解析.

第 49 回日本看護研究学会 学術集会 仮想空間オンライン開催 2023.

② 過去の主要業績

- ・ 芋川 浩 (単著)『ライフサイエンス 生命の神秘 (改訂)』木星舎, 全 143 ページ, 2022 年

- ・ Y. Imokawa, J. P. Brookes.

Selective Activation of Thrombin Is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration.

Current Biology, 13, 877–881 (2003)

- ・ Y. Imokawa & K. Yoshizato.

Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds.

Proc. Natl. Acad. Sci. USA 94, 9159–9164 (1997).

3. 外部研究資金

芋川 浩 (単独研究) 科学研究費補助金 基盤研究(C)

「大災害時で使える新しい殺菌消毒法の開発」

課題番号 23K10320, 356.5 万円, 2023～2026 年度

4. 受賞

5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、教養演習・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験 A・2単位・2年生・前期、生態病態看護学実験 B・2単位・2年生・前期、グローバル社会論・2単位・2年生、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情 A(日本科学事情 I&II)・2単位・交換留学生・後期

7. 社会貢献活動

①宗像市・福津市による青少年育成事業の委員として、

海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導・教育している

②聖マリア学院大学・非常勤講師 (科目名：生物学)

③ 麻生看護大学校・非常勤講師 (科目名：異文化の理解と交流)

8. 学外講義・講演

- ① 2025/06/09 (13.00-18.30) 入試説明会 (電気ビルみらいホール)
- ② 2025/09/18 (15.00-18.30) 入試説明会 (ソラリア西鉄ホテル)

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

10. 令和7年度の自己評価

受講者数の非常に多い「生物学(233名)」「One Health(303名)」などにおいても、Moodle(e-learning)を用いた事前・事後学習および、オンラインでの小テスト等を工夫することで、学修内容の向上や能動的学習の充実につながったと考えている。今後も、大人数での講義でも学習効果をあげられるようにさらに検討改善を進めたい。

社会貢献活動としては、宗像市・福津市による青少年育成事業の委員として、海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等を対象に指導・教育している。

看護実践教育センター	職名	助教	氏名	佐多愛子
------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師免許取得後、複数の医療機関で18年間勤務する中で、「糖尿病看護認定看護師」として糖尿病をもつ人やその人を取り巻く人々(医療従事者含)の教育・看護に従事しています。福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程修了(看護学修士)後、成人学習者を中心としたセルフマネジメント教育、リカレント教育などを行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・

②その他最近の業績

<学会発表>

・

③過去の主要業績

・

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本糖尿病学会、日本糖尿病教育・看護学会、日本看護科学学会、日本フットケア・足病医学会、国際ケアリング学会

6. 担当授業科目

看護師特定行為研修における共通科目全般：臨床病態生理学、臨床推論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、疾病・臨床病態概論、医療安全学/特定行為実践

特定行為研修における区分別科目(本学で実施している区分及びパッケージ研修) 全般：呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連、ろう孔管理関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、血糖コントロールに係る薬剤投与関連

生態機能看護学Ⅰ：栄養-代謝「血糖コントロール」

7. 社会貢献活動

日本糖尿病教育・看護学会評議員、特別委員会

筑豊糖尿病療養指導士としてウォークラリー大会や地域の健康相談等のサポート

リカレント教育：糖尿病看護実践力開発研究会事務局・第12回糖尿病看護実践力セミナー開催
糖尿病看護認定看護師並びに特定行為研修修了生のフォローアップ研修開催

8. 学外講義・講演

看護師得意行為研修における区分別科目臨地実習全般

鹿児島県看護協会主催：糖尿病重症化予防「フットケア」研修 講師

9. 附属研究所の活動等

公開講座Ⅴ「健診ひろめ隊養成講座」を3回開催

10. 令和7年度の自己評価

教育やセンター事業が中心となり、研究活動が不十分です。大学教員として研修活動も充実させたいと考えています。

看護実践教育センター	職名	助手	氏名	深津紘一
------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

高齢者・認知症分野

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・

②その他最近の業績

<学会発表>

・

③過去の主要業績

- ・ 「留守番ができますか？」への答えは MMSE, NPI の成績と関連する (2021)
- ・ 認知症外来ってなに・認知症医療センターの取り組みと支援 3 認知症 (もの忘れ) 外来における予診の手法について (2022)
- ・ 認知症高齢者の避難所版ファーストスクリーニングの開発 (2022)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本看護協会

日本老年看護学会

日本認知症ケア学会

6. 担当授業科目

特定行為研修カリキュラム内容の授業補助

7. 社会貢献活動

福岡県オレンジ・チューター

若年性認知症自立支援ネットワーク会議 役員

地域包括支援センター、医療、介護者向け講演・助言

看護師・介護職・地域住民への講演、研修、啓発活動

地域ケア会議への参加

非常勤講師としての講義

8. 学外講義・講演

おばせ看護学校 非常勤講師

川崎町認知症講演「認知症への備え」

川崎町認知症講演「精神疾患と認知症について」

エーザイ主催講演「MCIについて」

福岡県立大学 市民大学講演「認知症について」

福岡県立大学 健康ひろめ隊 講演「認知の衰え防止に繋げよう」

嘉麻市認知症サポーターフォローアップ講座

大任町中学生認知症サポーター養成講座

9. 附属研究所の活動等

10. 令和7年度の自己評価

自己評価：4（5段階中）

令和7年度7月に着任し、臨床現場から大学教育へと活動の基盤を移した初年度であった。着任後は看護実践教育センターの教員としての役割や学内業務の流れを理解することに努めるとともに、担当科目や演習、学生対応等を通じて教育活動に必要な知識・姿勢を学びながら実践した。研究面では具体的な成果の公表には至っていないが自身の臨床経験を基盤とした研究テーマの整理や文献検討に取り組んだ。社会貢献面においても認知症看護認定看護師として、福岡県委託のオレンジ・チューター活動、地域の会議への出席、看護学校の非常勤講師など専門性を活かした活動を実施した。本年度は移行期であったが、教育・研究・社会貢献に継続的に取り組むための基盤を築く一年となった。